

仙台市文化財調査報告書第 444 集

# 仙 台 城 跡

(仮称)公園センター建設に係る追廻地区第4次～第6次発掘調査報告書

2016年3月

仙台市教育委員会





仙台城跡と追廻地区（北東から）

平成25年度調査時撮影



平成24年度 第4次調査 調査区全景（南から）



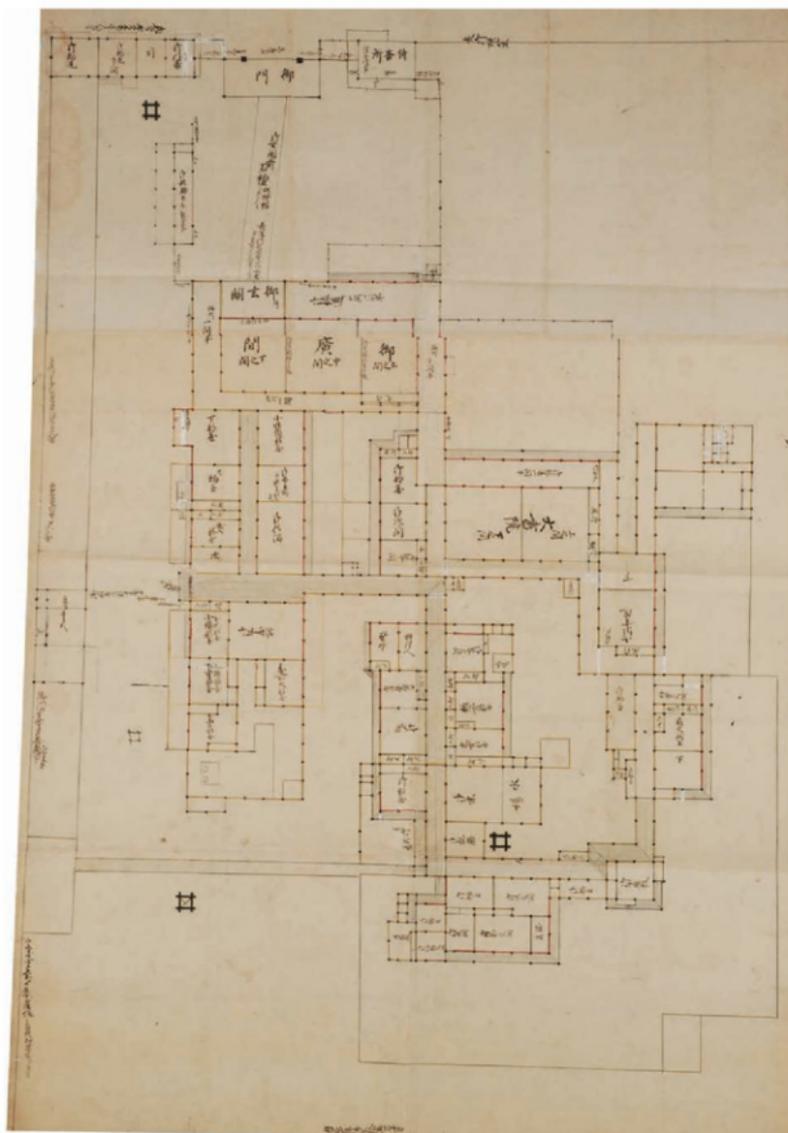


平成25年度 第5次調査 調査区全景(北から)



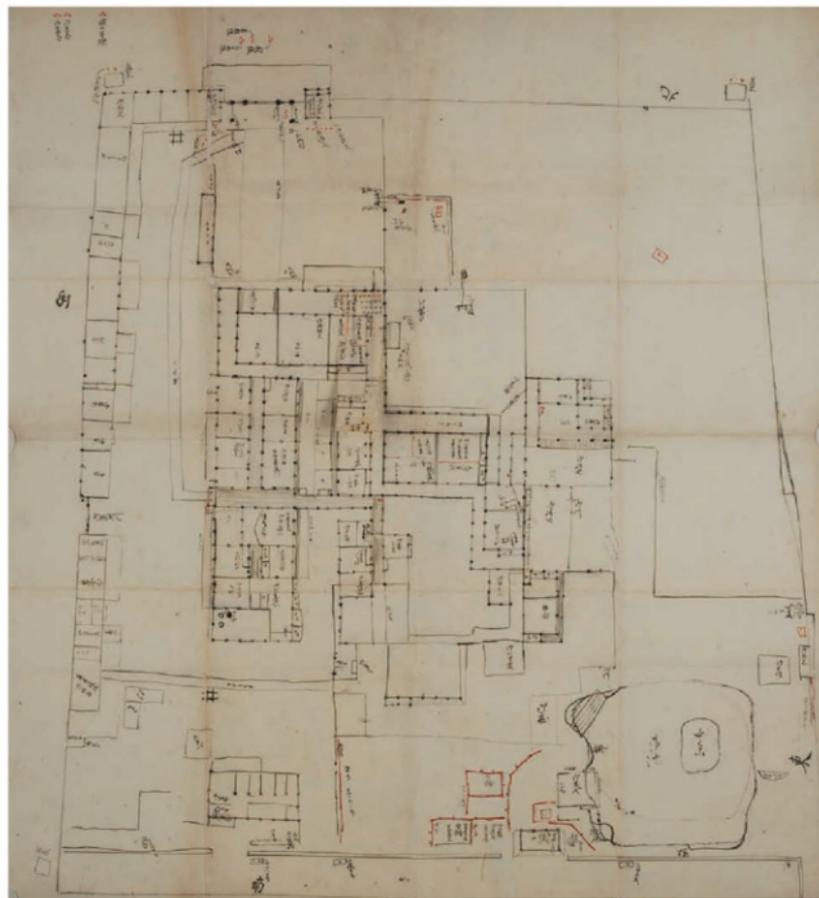
平成26年度 第6次調査 調査区全景(北から)





『仙台御屋敷敷御作事之御絵図』





仮称『御成絵図』

仙台市博物館所蔵



## 序 文

仙台城は初代仙台藩主 伊達政宗が築いた近世を代表する城であり、現在、東北の中心都市となった本市は、今日まで、仙台城とその城下町を基礎に発展してきました。よって仙台市民の誰もが市のシンボルと考える仙台城は、その歴史的価値のみならず、本市の今後のさらなる発展を考える上では無くてはならない存在となっています。

そのような中、仙台城跡を市民の憩いの場とすることを目的として始まった青葉山公園整備事業に伴い、本丸の東側に位置する追廻地区において、発掘調査の必要性が出てまいりました。追廻地区は仙台城築城当初から整備されたと考えられる地区で、北側の家臣屋敷と共に、南側には馬場などの施設が置かれていたことが多くの絵図からわかります。特に追廻地区の北端にあったとされる、白石城主である片倉家の仙台屋敷については、仙台市が所蔵する二つの屋敷絵図からその規模の大きさや格式の高さをうかがうことができます。

このたびの発掘調査は、この片倉屋敷があった地区において、追廻地区における最初の整備として、公園の管理やガイダンス機能も備える、(仮称)公園センターの建設が予定されたことから実施したものです。調査では文献でしか知り得なかった屋敷の実態が明らかになりました。

最後となりましたが、調査ならびに報告書の刊行に際し、ご指導やご協力を賜りました方々に深く感謝しますと共に、本報告書が研究者のみならず、市民の皆様にも広く活用されることで文化財保護の一助となれば幸いです。

平成 28 年 3 月

仙台市教育委員会  
教育長 大越 裕光

# 例 言

1. 本書は青葉山公園に係る（仮称）公園センターの建設に先立ち、平成24年度から平成26年度に実施した仙台城跡追廻地区第4次～第6次発掘調査の成果を記録した調査報告書である。
2. 発掘調査の成果は既に各年度内に実施した報道発表や遺跡見学会資料、各種刊行物などに公表されているが、本書の内容はこれらの全てに優先するものである。
3. 発掘調査と報告書作成作業は仙台市教育委員会の監理のもと、テイケイトレード株式会社が担当した。
4. 出土遺物の整理や各種図面の作成、本書の作成作業は、仙台市文化財課調査指導係 佐藤淳と、テイケイトレード株式会社 森元彦・奥富雅之・大口和樹が行った。
5. 本書の編集は佐藤と森が行った。また原稿等の執筆は下記のとおりに分担した。  
佐藤 淳 第1章、第5章、第6章第1節～第3節  
森 元彦 第2章、第3章第1節～第3節  
大口 和樹 第3章第4節、第6章第4節
6. 第4章 自然科学分析にある出土木製品の樹種同定は株式会社バリノ・サーヴェイに依頼した。
7. 陶磁器等の産地や年代の鑑定は文化財課 佐藤洋が行った。
8. 石製品及び石器の石材鑑定は有限会社考古石材研究所に依頼した。
9. 本書では、仙台市博物館所蔵の片倉屋敷に関わる二枚の絵図のうち、『片倉家仙台屋敷御家作之絵図』（片倉家資料197）については、絵図裏書にある『仙台御屋敷御家作之御絵図』とし、また『片倉家仙台屋敷図』（片倉家資料196）については、本来絵図名が定かではなく、上記絵図との混同を避けるため、仮称『御成絵図』の名称を使用した。
10. 調査にあたり、加藤和雄 菅野正道 日下和寿 松本秀明 水野沙織 仙台市建設局百年の杜推進部公園課の方々から御教示・御協力をいただいた。また、報告書に掲載した資料については、白石市教育委員会 仙台市博物館 仙台市歴史民俗資料館 東北歴史博物館 宮城県図書館 渡邊慎也 の各機関や個人から掲載へのご協力をいただいた。（五十音順・敬称略）
11. 発掘調査や報告書作成時の図面・写真・出土遺物などの資料や諸記録は仙台市教育委員会が保管している。

# 凡 例

- 第2図で使用した地形図は、国土地理院発行の1:50,000地形図「仙台」の一部を修正して使用した。
- 第9図と第10図は建設局作成の現況平面図(青葉追廻地区)を一部加工したものを使用した。
- 遺構等の土層注記に記載した土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」(2006年版)に基づいた。
- 調査の際の平面座標基準は、世界測地系平面直角座標第X系に準拠し、標高値はT.P.(東京湾平均海面)を用いた。
- 本書に掲載した遺構図版縮尺は、遺構配置図および礎石建物跡などの全体図が1:100、1:200、個別遺構平面図・断面図が1:30、1:60、1:80、1:100、基本土層図が1:60として掲載した。
- 本書に掲載した遺物図版縮尺は、瓦・大型木製品1:5、陶磁器類・土器類・石製品・小中型木製品1:3、土製品・金属製品1:2、石器2:3、銭貨1:1を原則とし掲載した。
- 検出遺構については以下の略号を使用し、遺構種別毎に連番とした。  
 SA: 跡跡 SB: 礎石建物跡・掘立柱建物跡 SD: 溝跡 SE: 井戸跡 SK: 土坑 P: ビット  
 SX: 性格不明遺構(石敷遺構・石組遺構・焼面遺構を含む)
- 土層名については基本層をローマ数字、遺構内堆積層をアラビア数字で表記し、細分層についてはその後にアルファベットの小文字を付し区別した。
- 遺構観察表及び一覧表に記載した規模の( )は残存値を示し、平面形状の( )は推定形状を示す。
- 遺構図版で出土位置を示したドットについては、次のとおりである。  
 ▲: 瓦 ■: 陶器 □: 磁器 ●: 土師質土器 ★: 石製品 ☆: 金属製品
- 遺物の登録は種別ごとにを行い、本書に掲載した遺物には以下の略号を使用した。  
 A: 縄文土器 B: 弥生土器 C: 土師器(ロクロ不使用) D: 土師器(ロクロ使用) E: 須恵器  
 F: 軒丸瓦・丸瓦 G: 軒平瓦・平瓦 H: その他の瓦 I: 陶器・瓦質土器・土師質土器・軟質施軸陶器 J: 磁器 K: 石器・石製品 L: 木製品 N: 金属製品 O: 自然遺物 P: 土製品  
 X: その他の遺物
- 遺物注記表内の法量で〈 〉で示した数値は推定復元値を示し、( )は残存値を示した。
- 遺構図版に使用した各種トーンは下記の内容を表現したものである。



- 遺物図版に使用した各種トーンは下記の内容を表現したものである。



# 目 次

巻頭写真図版

序文

例言

凡例

目次

図版目次

表目次

写真図版目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項と関係委員会による指導・助言	2
(1) 調査要項	2
(2) 仙台城跡調査指導委員会による指導	3
(3) 青葉山公園に係る仙台城跡整備委員会による指導	3
第2章 仙台城跡と調査の概要	5
第1節 遺跡の地理的・歴史的環境	5
第2節 追廻地区の概要	8
第3節 これまでの発掘調査	12
第4節 調査の方法と経過	14
(1) 調査の方法	14
(2) 調査の経過	15
第3章 検出遺構と出土遺物	17
第1節 基本層序	17
第2節 II層の状況	18
第3節 検出遺構	27
(1) 石敷遺構	27
(2) 礎石建物跡	32
(3) 掘立柱建物跡	39
(4) 塼跡	43
(5) 井戸跡	53
(6) 溝跡	59
(7) 性格不明遺構	69
(8) 鍛冶か跡ほか	80
(9) 土坑	82
(10) ビット	101
(11) 整地土(Ⅲe・Ⅲf・Ⅳ層整地土)	102
(12) 試掘調査	103

第4節 出土遺物 .....	127	
(1) 近世の遺物 .....	127	
(2) 中世以前の遺物 .....	131	
(3) 近世以降の遺物 .....	131	
第4章 自然科学分析 .....	181	
第5章 絵図・文献からみた仙台片倉屋敷 .....	189	
第1節 仙台片倉屋敷と屋敷地について .....	189	
(1) 仙台片倉屋敷について .....	189	
(2) 屋敷地の変遷について .....	189	
第2節 屋敷絵図について .....	193	
(1) 『仙台御屋敷御作事之御絵図』について .....	193	
(2) 仮称『御成絵図』について .....	202	
(3) 二つの屋敷絵図の製作年代と性格について .....	207	
(4) 個人所蔵の屋敷絵図について .....	209	
(5) 『慶応元年仙台北城下図屏風』に描かれた片倉屋敷について .....	210	
第3節 『片倉代々記』・『治家記録』にみる片倉屋敷 .....	211	
(1) 「御成」記事について .....	211	
(2) 記事にみる屋敷の「部屋」について .....	211	
第6章 検出遺構と出土遺物のまとめ .....	213	
第1節 検出遺構について .....	213	
(1) 石敷遺構について .....	213	(5) 溝跡について .....
(2) 建物跡について .....	214	(6) 土坑群について .....
(3) 塀跡について .....	215	(7) 石組遺構について .....
(4) 井戸跡について .....	216	(8) その他の遺構について .....
第2節 遺構の変遷について .....	220	
第3節 「屋敷絵図」との関係について .....	222	
第4節 出土遺物について .....	226	
(1) 陶磁器について .....	226	(3) 瓦について .....
(2) 土師質土器について .....	231	(4) その他の遺物について .....
(3) 瓦について .....	233	
(4) その他の遺物について .....	235	
参考・引用文献 .....	236	
写真図版 .....	237	
報告書抄録 .....		

# 図 版 目 次

第 1 図	仙台城跡の位置	5	第 37 図	4 号堀跡	47
第 2 図	周辺の遺跡	6	第 38 図	5 号堀跡	48
第 3 図	仙台城跡と史跡指定地の範囲	7	第 39 図	6 号堀跡	49
第 4 図	『奥州仙台城絵図』正保 2 年	9	第 40 図	7 号堀跡	50
第 5 図	『仙台城下絵図』寛政元年	9	第 41 図	8 号堀跡	52
第 6 図	地図に見る近代の追廻地区	10	第 42 図	1 号井戸跡	54
第 7 図	航空写真に見る戦中・戦後の追廻地区	11	第 43 図	2 号井戸跡	55
第 8 図	絵葉書に見る戦前の追廻地区	11	第 44 図	3 号井戸跡	56
第 9 図	追廻地区における調査位置	13	第 45 図	4 号井戸跡 (1)	57
第 10 図	グリッド設定図	16	第 46 図	4 号井戸跡 (2)	58
第 11 図	基本層序模式	18	第 47 図	5 号井戸跡	59
第 12 図	II 層検出範囲	18	第 48 図	1 号溝跡	60
第 13 図	基本層序	19・20	第 49 図	2 号溝跡	61
第 14 図	遺構配置図 (調査区全体)	21・22	第 50 図	9 号溝跡	62
第 15 図	遺構配置図 (北半部)	23・24	第 51 図	21 号溝跡	62
第 16 図	遺構配置図 (南半部)	25・26	第 52 図	22 号溝跡	63
第 17 図	石敷遺構 (全体)	28	第 53 図	37 号溝跡	64
第 18 図	石敷遺構 (北部)	29	第 54 図	47 号溝跡	65
第 19 図	石敷遺構 (中央部)	30	第 55 図	48 号溝跡	66
第 20 図	石敷遺構 (南部)	31	第 56 図	51 号溝跡	67
第 21 図	1 号礎石建物跡 (1)	33	第 57 図	52・57 号溝跡	68
第 22 図	1 号礎石建物跡 (2)	34	第 58 図	1 号石組遺構 (1)	69
第 23 図	2 号礎石建物跡	35	第 59 図	1 号石組遺構 (2)	70
第 24 図	6 号礎石建物跡	36	第 60 図	2 号石敷遺構	71
第 25 図	7 号礎石建物跡	37	第 61 図	3 号石組遺構 (1)	72
第 26 図	10 号礎石建物跡	38	第 62 図	3 号石組遺構 (2)	73
第 27 図	11 号礎石建物跡 (1)	38	第 63 図	4・5 号石組遺構	75
第 28 図	11 号礎石建物跡 (2)	39	第 64 図	6 号石組遺構	76
第 29 図	3 号掘立柱建物跡	40	第 65 図	7 号性格不明遺構	77
第 30 図	5 号掘立柱建物跡	41	第 66 図	8 号石組遺構・9 号焼而遺構	78
第 31 図	9 号掘立柱建物跡	42	第 67 図	10 号性格不明遺構 (1)	79
第 32 図	1 号堀跡 (1)	43	第 68 図	10 号性格不明遺構 (2)	80
第 33 図	1 号堀跡 (2)	44	第 69 図	焼而 7～12・14～16 1 号鍛冶が跡	81
第 34 図	2 号堀跡 (1)	45			81
第 35 図	2 号堀跡 (2)	46	第 70 図	25 号土坑	82
第 36 図	3 号堀跡	46	第 71 図	36 号土坑	83

第72図	54号土坑	84	第111図	出土遺物	磁器(2)	147
第73図	74号土坑(1)	84	第112図	出土遺物	磁器(3)	148
第74図	74号土坑(2)	85	第113図	出土遺物	磁器(4)	149
第75図	77号土坑	86	第114図	出土遺物	磁器(5)	150
第76図	81・83・84号土坑(1)	87	第115図	出土遺物	磁器(6)	151
第77図	81・83・84号土坑(2)	88	第116図	出土遺物	磁器(7)	152
第78図	85・92号土坑	89	第117図	出土遺物	磁器(8)	153
第79図	113号土坑(1)	90	第118図	出土遺物	瓦質土器・土師質土器(1)……	154
第80図	113号土坑(2)	91	第119図	出土遺物	土師質土器(2)	155
第81図	163・178号土坑	91	第120図	出土遺物	土師質土器(3)	156
第82図	183・186号土坑(1)	92	第121図	出土遺物	土師質土器(4)	157
第83図	183・186号土坑(2)	93	第122図	出土遺物	軟質施釉陶器	158
第84図	189号土坑	94	第123図	出土遺物	軒丸瓦(1)	159
第85図	199・200号土坑	95	第124図	出土遺物	軒丸瓦(2)	160
第86図	214号土坑	96	第125図	出土遺物	丸瓦(1)	161
第87図	228号土坑	96	第126図	出土遺物	丸瓦(2)	162
第88図	383号土坑	97	第127図	出土遺物	軒平瓦	163
第89図	424号土坑	98	第128図	出土遺物	平瓦(1)	164
第90図	426・428号土坑	99	第129図	出土遺物	平瓦(2)	165
第91図	489・543号土坑	100	第130図	出土遺物	平瓦(3)・伏間瓦・炭斗瓦	166
第92図	1484・1485号ピット	101	第131図	出土遺物	輪違い・面戸瓦	167
第93図	1584・1585号ピット	102	第132図	出土遺物	鬼瓦・椀瓦・塀瓦・その他	168
第94図	1号試掘区	104	第133図	出土遺物	石製品	169
第95図	2号試掘区	105	第134図	出土遺物	木製品(1)	170
第96図	出土遺物	陶器(1)	第135図	出土遺物	木製品(2)	171
第97図	出土遺物	陶器(2)	第136図	出土遺物	金属製品(1)	172
第98図	出土遺物	陶器(3)	第137図	出土遺物	金属製品(2)・土製品(1)	173
第99図	出土遺物	陶器(4)	第138図	出土遺物	土製品(2)・その他の遺物	174
第100図	出土遺物	陶器(5)	第139図	資料(1)	184	
第101図	出土遺物	陶器(6)	第140図	資料(2)	185	
第102図	出土遺物	陶器(7)	第141図	顕微鏡写真(1)	186	
第103図	出土遺物	陶器(8)	第142図	顕微鏡写真(2)	187	
第104図	出土遺物	陶器(9)	第143図	絵図に見る近世の追継(1)	191	
第105図	出土遺物	陶器(10)	第144図	絵図に見る近世の追継(2)	192	
第106図	出土遺物	陶器(11)				
第107図	出土遺物	陶器(12)				
第108図	出土遺物	陶器(13)				
第109図	出土遺物	陶器(14)				
第110図	出土遺物	磁器(1)				

第145図	『仙台御屋敷御作事之御絵図』……………	194
第146図	『仙台御屋敷御作事之御絵図』模式図 ……………	195
第147図	『仙台御屋敷御作事之御絵図』にみられ る建具……………	200
第148図	『仙台御屋敷御作事之御絵図』裏書 ……………	202
第149図	仮称『御成絵図』……………	203
第150図	仮称『御成絵図』模式図……………	205・206
第151図	『仙台御屋敷御作事之御絵図』・仮称『御 成絵図』合成図……………	208
第152図	個人所蔵の片倉屋敷絵図……………	209

第153図	『仙台下図屏風』片倉屋敷部分 ……	210
第154図	片倉屋敷西側・正面の石敷き想定範囲 ……………	213
第155図	礎石建物跡模式図……………	214
第156図	掘立柱建物跡模式図……………	215
第157図	検出遺構方向別分類図……………	221
第158図	片倉屋敷の想定位置……………	223・224
第159図	出土陶磁器 時期別産地・器種比率 ……………	229
第160図	陶磁器 主要器種 時期別産地比率……………	230
第161図	土師質土器皿の法量分布……………	232
第162図	底部調整の類型比率……………	232

## 目 次

第1表	検出遺構一覧表……………	27
第2表	1号礎石建物跡 礎石一覧表……………	33
第3表	2号礎石建物跡 礎石跡一覧表……………	35
第4表	6号礎石建物跡 礎石跡一覧表……………	36
第5表	7号礎石建物跡 礎石跡一覧表……………	37
第6表	10号礎石建物跡 礎石一覧表……………	37
第7表	11号礎石建物跡 礎石跡一覧表……………	39
第8表	3号掘立柱建物跡 柱穴一覧表……………	40
第9表	5号掘立柱建物跡 柱穴一覧表……………	41
第10表	9号掘立柱建物跡 柱穴一覧表……………	42
第11表	4号塀跡 柱穴一覧表……………	48
第12表	6号塀跡 礎石跡一覧表……………	50
第13表	7号塀跡 柱穴一覧表……………	51
第14表	8号塀跡 柱穴一覧表……………	53
第15表	焼面一覧表……………	81
第16表	1号試掘区 遺構一覧表……………	104
第17表	2号試掘区 遺構一覧表……………	105
第18表	溝跡観察表……………	106
第19表	土坑観察表(1)……………	107
第20表	土坑観察表(2)……………	108
第21表	土坑観察表(3)……………	109
第22表	土坑観察表(4)……………	110
第23表	土坑観察表(5)……………	111
第24表	土坑観察表(6)……………	112

第25表	土坑観察表(7)……………	113
第26表	土坑観察表(8)……………	114
第27表	土坑観察表(9)……………	115
第28表	土坑観察表(10)……………	116
第29表	ビット観察表(1)……………	117
第30表	ビット観察表(2)……………	118
第31表	ビット観察表(3)……………	119
第32表	ビット観察表(4)……………	120
第33表	ビット観察表(5)……………	121
第34表	ビット観察表(6)……………	122
第35表	ビット観察表(7)……………	123
第36表	ビット観察表(8)……………	124
第37表	ビット観察表(9)……………	125
第38表	ビット観察表(10)……………	126
第39表	出土遺物集計表(1)……………	175
第40表	出土遺物集計表(2)……………	176
第41表	出土遺物集計表(3)……………	177
第42表	出土遺物集計表(4)……………	178
第43表	出土遺物集計表(5)……………	179
第44表	樹種同定結果……………	181
第45表	建物・部屋 一覧(1)……………	197
第46表	建物・部屋 一覧(2)……………	198
第47表	建物・部屋 一覧(3)……………	199
第48表	屋敷関連記事 一覧……………	212

# 写真図版目次

写真図版1	仙台城跡と追廻地区……………239	写真図版31	1号性格不明遺構(石組遺構)…269
写真図版2	第4次調査 全景……………240	写真図版32	2号性格不明遺構(石敷遺構)…270
写真図版3	第5次調査 全景……………241	写真図版33	3号性格不明遺構(石組遺構)…271
写真図版4	第6次調査 全景……………242	写真図版34	4号性格不明遺構(石組遺構)・5号 性格不明遺構(石組遺構)…272
写真図版5	第4次調査 石敷遺構……………243	写真図版35	5号性格不明遺構(石組遺構)・6号 性格不明遺構(石組遺構)…273
写真図版6	第5次調査・第6次調査 石敷遺構 ……………244	写真図版36	7号性格不明遺構・8号性格不明遺構 (石組遺構)…274
写真図版7	1号礎石建物跡……………245	写真図版37	9号性格不明遺構・10号性格不明遺構 ……………275
写真図版8	2号礎石建物跡・6号礎石建物跡 ……………246	写真図版38	1号鍛冶跡・焼面7~12・14~16 ……………276
写真図版9	6号礎石建物跡・7号礎石建物跡 ……………247	写真図版39	25号土坑・36号土坑・54号土坑 ……………277
写真図版10	10号礎石建物跡・11号礎石建物跡 ……………248	写真図版40	74号土坑・77号土坑……………278
写真図版11	3号掘立柱建物跡……………249	写真図版41	77号土坑・81号土坑……………279
写真図版12	5号掘立柱建物跡……………250	写真図版42	83号土坑・84号土坑・85号土坑・ 92号土坑……………280
写真図版13	9号掘立柱建物跡……………251	写真図版43	113号土坑・163号土坑……………281
写真図版14	1号崩跡……………252	写真図版44	178号土坑・183号土坑・186号土坑 ……………282
写真図版15	2号崩跡……………253	写真図版45	189号土坑……………283
写真図版16	3号崩跡・4号崩跡……………254	写真図版46	199号土坑・200号土坑・214号土 坑・228号土坑……………284
写真図版17	4号崩跡・5号崩跡……………255	写真図版47	383号土坑……………285
写真図版18	6号崩跡・7号崩跡……………256	写真図版48	424号土坑・426号土坑・428号土 坑・489号土坑……………286
写真図版19	7号崩跡……………257	写真図版49	543号土坑・P 1584・P 1585 ……………287
写真図版20	8号崩跡……………258	写真図版50	1号試掘区……………288
写真図版21	1号井戸跡(1)……………259	写真図版51	2号試掘区……………289
写真図版22	1号井戸跡(2)……………260	写真図版52	陶器(1)……………290
写真図版23	2号井戸跡……………261	写真図版53	陶器(2)……………291
写真図版24	3号井戸跡・4号井戸跡……………262	写真図版54	陶器(3)……………292
写真図版25	4号井戸跡……………263	写真図版55	陶器(4)……………293
写真図版26	4号井戸跡・5号井戸跡……………264		
写真図版27	1号溝跡・2号溝跡・9号溝跡…265		
写真図版28	21号溝跡・22号溝跡・37号溝跡 ……………266		
写真図版29	47号溝跡・48号溝跡……………267		
写真図版30	51号溝跡・52号溝跡・57号溝跡 ……………268		

写真図版 56	陶器 (5) .....	294	写真図版 70	軒丸瓦 (2)・丸瓦 (1) .....	308
写真図版 57	陶器 (6) .....	295	写真図版 71	丸瓦 (2) .....	309
写真図版 58	陶器 (7) .....	296	写真図版 72	丸瓦 (3)・軒平瓦 (1) .....	310
写真図版 59	陶器 (8) .....	297	写真図版 73	軒平瓦 (2)・平瓦 (1) .....	311
写真図版 60	陶器 (9) .....	298	写真図版 74	平瓦 (2) .....	312
写真図版 61	磁器 (1) .....	299	写真図版 75	平瓦 (3) .....	313
写真図版 62	磁器 (2) .....	300	写真図版 76	平瓦 (4) .....	314
写真図版 63	磁器 (3) .....	301	写真図版 77	伏間瓦・熨斗瓦・輪違い (1) .....	315
写真図版 64	磁器 (4) .....	302	写真図版 78	輪違い (2)・面戸瓦・鬼瓦・棟瓦・ 崩瓦・その他 .....	316
写真図版 65	磁器 (5) .....	303	写真図版 79	石製品・木製品 (1) .....	317
写真図版 66	磁器 (6)・瓦質土器 .....	304	写真図版 80	木製品 (2) .....	318
写真図版 67	土師質土器 (1) .....	305	写真図版 81	金属製品 (1) .....	319
写真図版 68	土師質土器 (2)・軟質施釉陶器 .....	306	写真図版 82	金属製品 (2)・土製品 .....	320
写真図版 69	軒丸瓦 (1) .....	307	写真図版 83	その他の遺物 .....	321

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

今回調査した追廻地区は、仙台城跡を中心とした青葉山公園整備の対象地区となっている。平成9年に作成された「青葉山公園計画調査報告書」では、計画の主な事業であった本丸北壁の石垣修復工事と共に、追廻地区整備の一つとして、「公園センター」を建設する内容も含まれている。平成15年に仙台城跡が史跡指定を受けた際、追廻地区は申請から除外されたが、当地区は仙台城の一部との認識から、「将来は史跡指定を目指すことが望ましい地区」との意見が文化庁の文化財調査官より出されている。また平成15年の史跡指定を受け、平成17年の「青葉山公園整備基本計画報告書」では、整備内容がより史跡の保存を重視した内容に変更され、追廻地区においても一部で変更が行われた。

(仮称)公園センターの建設予定地には、かつて白石城主の片倉家の仙台屋敷があり、その南側の地区全体には侍屋敷の他、馬場や藩の馬事に関わる施設が数多く存在したことが多くの絵図などから分かっている。埋蔵文化財包蔵地である追廻地区の整備計画には日本庭園に伴う小川や池の整備を行う他、現在は埋没している堀跡の復元整備も含まれており、これらの整備内容は地区全域に及ぶものであった。このことから、平成19年1月11日付建百青158号「青葉山公園整備計画と埋蔵文化財のかかわりについて」との協議書が建設局青葉山公園整備室から仙台市教育委員会を経由して宮城県教育委員会に提出された。協議の結果、遺構保護の観点から事前に試掘調査を実施する必要性が確認されたことを受け、平成19年1月24日付建百青第165号で埋蔵文化財発掘の通知が提出された。調査は追廻地区における遺構の状況把握を目的とし、今後複数年にわたり地区内において広範囲にわたる試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は3年次にわたり実施し、第1次調査は平成18年度内の平成19年3月1日から3月31日に地区北東部の3か所で実施し、本地区では初めて近世の土坑、小穴、礎群を確認した。第2次調査は平成19年10月9日から12月27日に地区内広範囲にわたる7か所で実施し、建物跡や溝跡の他、石組遺構、石敷遺構、整地土などを確認した。特に片倉屋敷敷地内では、池を護岸した可能性のある石組みを確認し、これが屋敷の遺構の一部と推定された。第3次調査は平成20年8月25日から10月22日まで広瀬川に面した護岸石垣の南端の確認を目的に実施した。調査では石垣は確認できなかったが、何らかの屋敷等に伴う井戸跡、石組溝跡、石組遺構、石敷遺構など、石を多用した数多くの遺構を確認したことで、追廻地区のほぼ全域に近世の家臣屋敷や馬事関係の施設を想定できる遺構が良好に遺存することが明らかとなった。

(仮称)公園センターの建設は当地区における最初の整備として計画されており、文化財課と青葉山公園整備室は試掘調査の結果を基に、施設建設の必要性を確認した上で、遺構の保存協議を行った。文化財課からは遺構は地区全体に遺存しており、将来的に史跡を目指すためにも遺構を保存する必要があること、遺構の無い場所を見つけてそこへの施設の移動は難しいとの考えが提示され、また建設局側からは、整備計画全体や、今後開通見込みの地下鉄東西線との関係のみた場合、施設の位置を大幅に変えることは困難との考えが示された。これらの協議内容を踏まえ、本地区は仙台城の一部として重臣の屋敷の存在が想定されることで、歴史的価値が極めて高く、将来的には史跡指定を検討する地区との考えから、(仮称)公園センターの建設にあたっては、計画通りの場所で盛土を行い、施設が遺構面に影響を与えない工法で建設する方向で協議を行った。またこれ以後に行われる整備事業にも同様の工法を適用させることで、将来的にも遺構の保存を前提に整備を進めることが確認された。これらの方針については、平成24年度の「青葉山公園に係る仙台城跡整備委員会」ならびに「仙台城跡調査指導委員会」の場において報告しており、追廻地区においては、「将来的に史跡指定を目指し、遺構を保存しながら整備を行っていくべき」との指導助言を受けている。

調査実施前の平成24年3月に出された「青葉山公園整備基本計画」では、(仮称)公園センターの規模縮小や内容の見直しが行われ、施設内容の詳細は未決定のままであったが、建設局側から具体的な建設予定位置と3,500㎡の建物面積が提示された。これを受け本課では、調査を3か年で実施する計画を立て、平成24年6月18日より、第4次調査として、センター予定地の北側を中心に1,500㎡程度を対象とした遺構確認調査を開始した。調査では全体に数時期にわたる数多くの近世遺構が確認され、また続く平成25年度実施の第5次調査や平成26年度実施の第6次調査においても、同様の状況が確認された。この内容を受け、両委員会や宮城県文化財保護課の指導により、同地区内において施設を別の場所へ建設することも視野に入れ、これまで調査を行っていない予定地南側地区の2か所で試掘調査を実施した。

## 第2節 調査要項と関係委員会による指導・助言

### (1) 調査要項

遺跡名	仙台城跡(宮城県遺跡番号01033)
所在地	仙台市青葉区川内追廻地内
調査名	平成24年度：仙台城跡追廻地区第4次発掘調査 平成25年度：仙台城跡追廻地区第5次発掘調査 平成26年度：仙台城跡追廻地区第6次発掘調査 平成27年度：仙台城跡追廻地区第4次～第6次発掘調査報告書作成刊行
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会生涯学習部文化財課仙台城史跡調査室・調査指導係 主 査 佐藤 淳 文化財教諭 佐藤 洋平(平成24年度～平成25年度) 文化財教諭 千葉 昂太(平成26年度) 主 事 高橋 純平(平成27年度)

### 調査組織

テイケイトレード株式会社

平成24年度：主任調査員 奥富 雅之

調査員 森本 崇

計測員 中山 茂

計測補助員 高橋 尚敏

平成25年度：主任調査員 森 元彦

調査員 奥富 雅之

調査補助員 森本 崇

計測員 中山 茂

計測補助員 高橋 尚敏

平成26年度：主任調査員 森 元彦

調査員 鈴木 憲夫

計測員 中山 茂

計測補助員 仲島 道史

平成 27 年度：主任調査員	森 元彦
調査補助員	高橋 尚敏（平成 27 年 6 月 3 日～7 月 13 日） 奥富 雅之（平成 27 年 7 月 14 日～12 月 18 日） 大口 和樹（平成 28 年 1 月 5 日～3 月 31 日）
計測員	中山 茂
調査期間	平成 24 年度 野外調査：平成 24 年 6 月 18 日～平成 25 年 1 月 8 日 基礎整理：平成 25 年 1 月 7 日～平成 25 年 3 月 15 日 平成 25 年度 野外調査：平成 25 年 6 月 24 日～平成 25 年 11 月 29 日 基礎整理：平成 25 年 12 月 2 日～平成 26 年 3 月 14 日 平成 26 年度 野外調査：平成 26 年 6 月 16 日～平成 26 年 11 月 13 日 基礎整理：平成 26 年 11 月 17 日～平成 27 年 1 月 30 日 平成 27 年度 整理報告書作成：平成 27 年 6 月 3 日～平成 28 年 3 月 31 日
調査面積	対象面積：3,500㎡ 調査面積：3,786㎡（本調査区 3,593㎡ 拡張トレンチ 91㎡ 試掘区 102㎡） ※平成 24 年度 1,080㎡、平成 25 年度 1,523㎡、平成 26 年度 1,183㎡

## （2）仙台城跡調査指導委員会による指導

今回の発掘調査を実施するにあたっては、発掘調査ならびに整理・報告書作成作業を適正に行なうために、下記の体制（所属・役職名は平成 27 年 1 月時点）による「仙台城跡調査指導委員会」の助言と指導を受けた。

- 委員長 岡田 清一（東北福祉大学教授 中世史）
- 副委員長 平川 新（宮城学院女子大学学長 近世史）
- 委員 岡崎 修子（仙台ひと・まち交流財団 仙台市柏木市民センター館長 地域史）
- 北野 博司（東北芸術工科大学教授 考古学）
- 西 和夫（神奈川大学名誉教授 建築史）
- 藤澤 敦（東北大学埋蔵文化財調査室特任准教授 考古学）

〈委員会の開催日と報告内容〉

- 第 27 回 平成 24 年 10 月 31 日 「仙台城跡追廻地区の遺構確認調査の状況について」
- 第 28 回 平成 25 年 2 月 15 日 「仙台城跡追廻地区の遺構確認調査のその後の状況について」
- 第 30 回 平成 25 年 10 月 22 日 「仙台城跡追廻地区の発掘調査について」
- 第 31 回 平成 26 年 8 月 28 日 「仙台城跡追廻地区の発掘調査について」
- 第 32 回 平成 27 年 1 月 28 日 「仙台城跡追廻地区の発掘調査成果について」

なお、平成 25 年 7 月 1 日開催の第 29 回委員会の前には、故西委員による仙台市博物館所蔵の片倉家仙台屋敷関係絵図に関する調査を実施し、助言を受けた。助言内容については、第 30 回委員会で報告すると共に、本報告書第 5 章第 3 節の中で引用させていただいた。

## （3）青葉山公園に係る仙台城跡整備委員会による指導

今回の発掘調査と今後、当地区での整備事業を実施するにあたっては、作業を適正に行なうために、下記の体制による「青葉山公園に係る仙台城跡整備委員会」の助言と指導を受けた。

- 委員長 入間田宣夫（東北大学名誉教授 歴史学）  
副委員長 黒田 乃生（筑波大学准教授 世界遺産・文化的景観）  
委員 鶴飼 幸子（前仙台市博物館市史編さん室長 近世史）  
北野 博司（東北芸術工科大学教授 考古学）  
田中 哲雄（日本城郭研究センター名誉館長 史跡整備）  
森 富二夫（仙台商工会議所中小企業支援部長 経済界）※平成25年度まで  
今野 薫（仙台商工会議所理事・事務局長兼総務管理部長 経済界）※平成26年度から  
横山 英子（株式会社横山芳夫建築設計監理事務所 市民代表）  
脇坂 隆一（国土交通省東北地方整備局建設部都市調整官 都市整備）

〈委員会の開催日と報告内容〉

- 第9回 平成24年11月28日 「仙名城跡追廻地区の遺構確認調査の状況について」  
第10回 平成25年3月15日 「仙名城跡追廻地区の遺構確認調査の状況について」  
第11回 平成25年9月3日 「仙名城跡追廻地区の遺構確認調査の状況について」  
第14回 平成27年3月19日 「仙名城跡追廻地区の遺構確認調査について」

なお、宮城県教育委員会文化財保護課からは、これまでの試掘調査・遺構確認調査・追加試掘調査の成果と、青葉山公園と史跡仙名城跡の位置的関係及び周辺施設等との関係を勘案し、計画位置に（仮称）公園センターを建設することはやむを得ないとしながらも、将来の史跡指定の妨げにならないように遺構を保存し、建設規模・建設位置・周辺環境等に十分に配慮するよう指導を得た。

## 第2章 仙台城跡と調査の概要

### 第1節 遺跡の地理的・歴史的環境

#### 〔地理的環境〕

今回の調査地は、JR 仙台駅から西へ約 2kmほどにある広瀬川西側の仙台市青葉区川内追廻地区内に所在する。この地区は仙台城跡の追廻地区とされ、国指定史跡「仙台城跡」の史跡指定地の東側に隣接している。

仙台城跡は、現在残る仙台城を描いた絵図としては最も古い『奥州仙台城絵図』に「山城」とあるように、青葉山丘陵東端とその麓の河岸段丘部分を中心に城域が形成されている。青葉山丘陵は東流する広瀬川に向かって迫り出し、仙台城本丸の東側と南側は広瀬川とその支流である竜の口沢の浸食により高さ 70 m 程の断崖を形成している。また本丸は青葉山段丘上(標高 115 ~ 117 m)に立地し、その北西側麓部の仙台上町段丘上(標高 60 ~ 80 m)には二の丸、北側麓部の仙台下町段丘上(標高約 40 m)に三の丸、そして追廻地区は、長沼を隔てた東側にあり、三の丸と同じ下町段丘上に立地している。

現在の追廻地区の面積は約 14ha で、南北の長さは約 900 m、東西の幅が約 100 ~ 200 m の南北方向に細長い平坦地であり、南方及び東方に向かって僅かに傾斜している。調査地の標高は約 32 ~ 33 m である。

近世期における追廻地区は、大手通り沿いに上級家臣の屋敷地があり、その南側には馬場、厩など、仙台藩の馬事に関わる役人の屋敷などが配されており、近代に入ると追廻地区全体が陸軍の施設として練兵場や、地区南側の河川部分が埋め立てられ、射撃場などとして使用されている。

#### 〔歴史的環境〕

仙台城は初代仙台藩主 伊達政宗によって造営された城である。仙台城の築城以前には国分氏の居城である「千代城」が存在していたとされ、近年の発掘調査によりその一端が明らかとなっている。

仙台城は、慶長 5(1600)年 12 月に仙台城普請の縄張りが開始され、慶長 7(1602)年頃に一応の完成をみたとされる。本丸御殿の大広間は慶長 15(1638)年に完成したとされており、このころまで普請が行われていたとされる。築城当初の仙台城は山上の本丸と、麓の蔵屋敷(現在の三の丸)を中心に構成されていたが、寛永 13(1636)年、



第1図 仙台城跡の位置

政宗が死去すると、2代藩主 忠宗により二の丸の造営が計画され、寛永15(1638)年、幕府の許可を得て普請が開始された。二の丸は本丸の北側に築かれ、普請には政宗の晩年の居城である若林城から多くの建物が移築されたことが記録に残っている。完成後は、幕末に至るまでこの二の丸が藩政の中心となる。

追廻地区は北側が家臣屋敷、南側が馬場や厩などとして使用されていたことが数多く残る絵図などからわかっており、今回の調査地も、近世初期から幕末まで武家屋敷として使用されていたとされる地区である。現在、地区の北側には大手通りが東西に走っているが、研究者の中では仙台城築城当初の登城路は現在みられる場所ではなく、広瀬川対岸の花壇から橋を渡り、追廻地区内を通して賢門から本丸へ至るルートをかつての登城路とする考えも示されており、ここからも追廻地区の重要性をうかがうことができる。

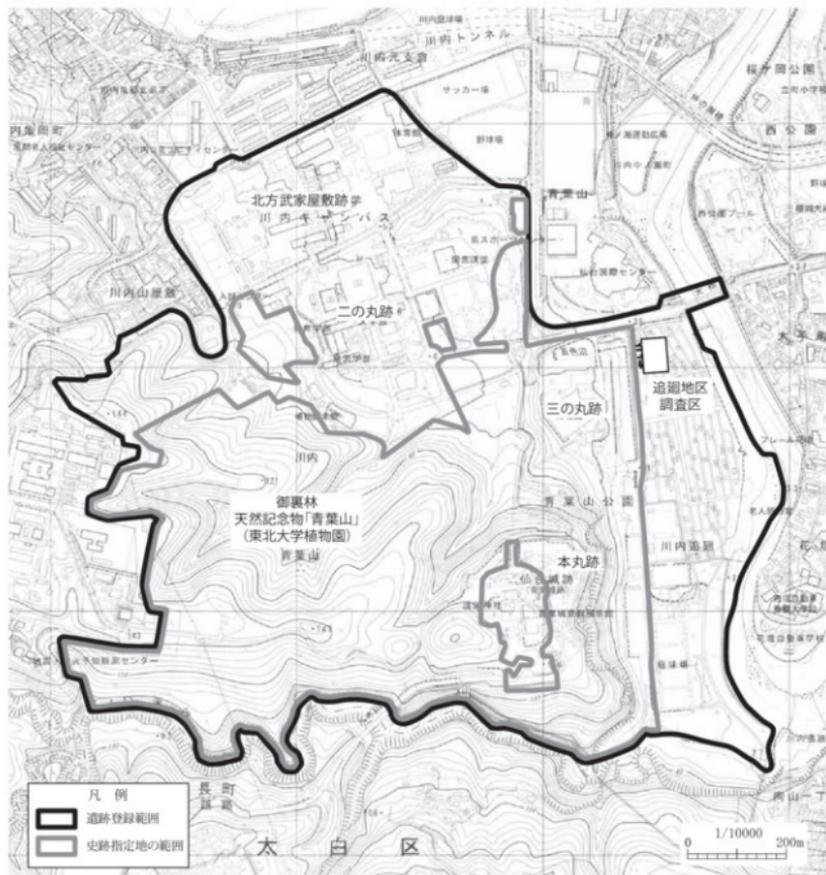
明治維新後、東北鎮台が二の丸に本営を築くと、追廻地区は軍の練兵場や射撃場として使用されることとなる。これらの施設は仙台鎮台、陸軍第二師団となってからも続き、1945年の陸軍解体まで存在した。

終戦後は、満州からの引揚者や空襲により家を失った人々の受け入れ先として、地区内に住宅が建設され、最盛期には約600世帯が居住したが、その後、仙台市による青葉山公園整備計画が推し進められ、現在は地区全体を公園や緑地として整備活用することが計画されている。



No.	遺跡名	種別	年代	No.	遺跡名	種別	年代
1	櫓門跡	城郭跡	中世・近世	15	宗廟寺棟ノ基跡	櫓ノ基跡	古蹟後
2	川内B遺跡	屋敷跡・包含地	縄文・近世	16	浅ヶ崎櫓ノ基跡	櫓ノ基跡	古蹟後～奈良
3	川内A遺跡	包含地・屋敷跡	縄文・近世	17	二ツ宮櫓ノ基跡	櫓ノ基跡	古蹟後～奈良
4	川内C遺跡	包含地・屋敷跡	縄文・近世	18	八木山堀町遺跡	築布跡	縄文・奈良・平安
5	櫻ヶ岡公園遺跡	屋敷跡	近世	19	藤橋園遺跡	集落跡・屋敷跡・包含地	縄文・古蹟・平安～近世
6	藤ヶ家伊達家墓所	墓所	近世	20	若林城跡	城郭跡・古蹟・集落跡	古蹟～近世
7	大船八幡神社			21	湯小倉遺跡	堀郭跡・集落跡	縄文～近世
8	田中櫓跡	城郭跡	中世	22	船形奉迎基平跡	基平跡	奈良・平安
9	高川堀跡	城郭跡	中世	23	四ノ丁遺跡	集落跡・宮跡?	縄文・弥生・平安
10	陸奥国分寺跡	寺院跡	奈良・平安	24	二ツ宮奉迎跡	集落跡	縄文・平安
11	陸奥国分寺跡	寺院跡	奈良・平安	25	宮沢遺跡	集落跡・水田跡・包含地	縄文～近世
12	浅ヶ崎城跡	城郭跡	中世	26	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡・包含地	縄文～平安
13	愛宕山櫓ノ基跡	櫓ノ基跡	古蹟後	27	神野城跡	城郭跡	中世
14	大年寺山櫓ノ基跡	櫓ノ基跡	古蹟後				

第2図 周辺の遺跡



第3図 仙台城跡と史跡指定地の範囲

## 第2節 追廻地区の概要

追廻地区は仙台城跡の東側に位置し、広瀬川との間に挟まれた青葉区川内追廻に所在する。地区の北部から中央部には最近まで終戦後にできた戦災者や引揚者のための住宅地となっていたが、青葉山公園整備事業に伴い、現在はほぼ全域が更地となっている。また現在の追廻地区は広瀬川と竜ノ口沢谷の沢が合流する地点が南端となっているが、近世には広瀬川が本丸東側の崖裾まで蛇行して流れていた。現在、市営のテニスコートなどがある南側については近世には河川や河原であり、追廻の範囲には含まれていなかったと考えられる。さらに現在、河岸段丘上に立地する平坦な追廻地区と広瀬川との境の崖地部分には、護岸石垣と呼ばれる石垣が確認でき、石垣は大橋の北側から約260mの長さがあり、地区内の最も高い場所では4.5mもの高さがある。

### [近世の追廻]

追廻は仙台三馬場の一つとされ、鞍馬場と表馬場があり、藩主も度々追廻を訪れていたことが『治家記録』などからわかる。城下絵図からは、馬場に隣接して藩宮の厩舎があり、そこには数百頭の馬が飼育されていたとされる。

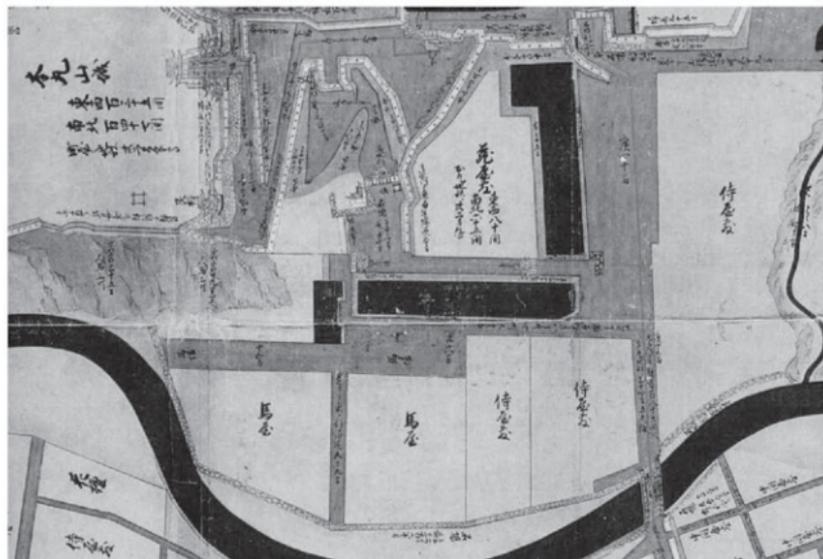
仙台北城下や仙台北城を描いた最も古い絵図とされる正保2年(1645)の『奥州仙台北城絵図』(正保絵図)(第4図)には、後の城下絵図に見られるような詳細な区割りには描かれていないものの、追廻地区の北側に「侍屋敷」とした二つの区画があり、その南側には現在の長沼の堀に沿って「馬場」が南北に配置され、馬場の東側には「馬屋」とした大きな二つの区画が描かれている。このことから、本地区では17世紀の早い段階から北側には大身の侍屋敷、南側には馬事に関わる施設や屋敷が存在していたことが考えられる。今回調査した地点は、このうちの北側の「侍屋敷」の区画にほぼ相当している。

絵図では、長沼の南端にある巽門から沢門へ至る登城路を挟んだ南側に「コ」の字形の堀が配置され枳形を形成しているのがわかる。これにより堀の東側が追廻に張り出す配置となっているが、現在、この堀は埋められており、みることはできない。また長沼に沿って南北に通る道が幅広く描かれており、この様子は後の絵図にもみられることから、当時の道幅は現在ある道路より幅が広がった可能性が高い。

現在も残る護岸石垣は、正保絵図をはじめ、後の多くの城下絵図にも確認でき、かつてこの石垣の普請には幕府の許可が必要であったとされることから、石垣に囲まれた追廻は仙台北城内と認識されていたと考えられている。幾つかの絵図中には片倉屋敷の東側や地区南側では石垣が切れており、ここには川へ通じる道があったことがわかる。また正保絵図では石垣が南側で大きく西へ曲がり、本丸崖裾まで延びていたことがわかるが、この追廻地区の南側を区切る石垣は、明治に入ると練兵場の造成工事に伴い大規模に埋められ、現在は見るることができない。

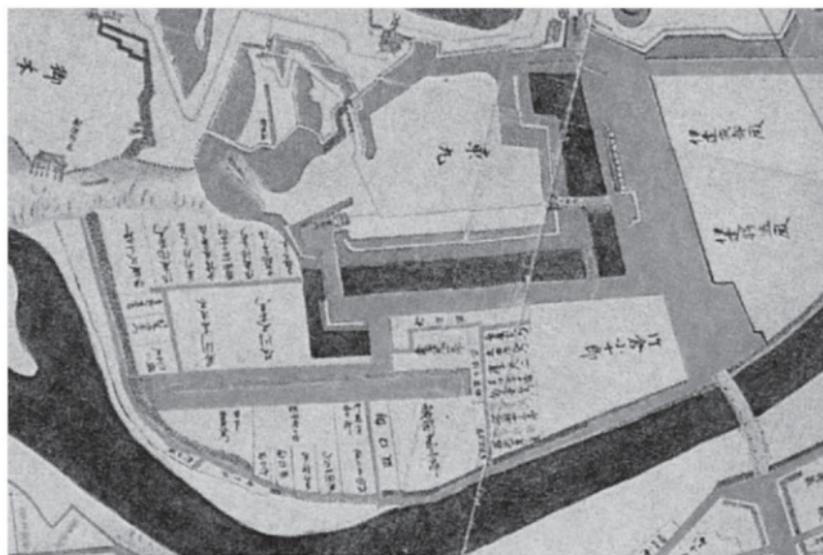
近世初期、広瀬川を挟んだ東側の「花壇」には、伊達政宗が造営した「飯屋」(花壇屋敷)があったとされ、『封内風土記』によれば、追廻との間の川には長さ百間ばかりの廊下橋の花壇橋が架けられていたとされる。この橋は寛永14年(1637)に流失し、その後、再び架けられることは無かった。現在、かつての仙台北城本丸への登城路は、大手門のあった場所から中門を通る経路とされている。近年の研究では、築城当初の本丸への登城路は、花壇からこの花壇橋を渡り、追廻の中を通過して巽門から登る経路であった可能性が高いとの考えが示されている。これによると、正保絵図などで追廻の中を南北に延びる幅広い道は、花壇橋へと繋がる道とされており、以上の考えに立てば、追廻が仙台北城の単なる一地区ではなく、かつては城の正面に位置した極めて重要な地区であったということになる。

時代は下るが、寛政元年(1789)の『仙台北城下絵図』(第5図)には、地区北端には「片倉小十郎」とあり、同じく正保絵図には侍屋敷であった南側の隣接地は、別の絵図では「馬方衆」と書かれた9区画の小さな屋敷地となっている。正保絵図では馬屋としかなかった南側の大きな区画部分は、大小複数の区画になり、そこには「御馬屋」「御口取」など、馬事に関わる施設や、諸役の屋敷が建ち並んでいたことがわかる。また、地区を南北に縦断する幅の



第4図 『奥州仙台城絵図』 正保2年(1645)

仙台市博物館所蔵



第5図 『仙台下絵図』 寛政元年(1789)

仙台市博物館所蔵

広い馬場は、中央に土手らしきものを設け、さらに、正保絵図には記載の無かった馬場の西側には崖地近くまで多くの区画が認められる。さらに南東側の護岸石垣の外側には石垣に沿って通路が廻り、その川側には「御口取」とあるように、護岸石垣の外側にまで関係する施設や屋敷が配置されている。これらの状況からは、時代が下ると、地区内では個々の屋敷替えに止まらず、施設や区画の改修や拡張など、地区全体が整備されていった状況がうかがえる。

#### [近現代の追廻]

明治13年(1880)の『宮城県仙台区全図』(第6図)や、明治15年(1882)の『仙台区及近傍村落之図』によると、追廻地区は近世からの区画こそほぼそのままであるが、片倉屋敷地については屋敷の建物は解体され、既にその姿を変えているように見受けられる。南側の多くの屋敷地についても道沿いに小規模な建物が見られるのみで、この時期に近世から残る建物や施設がどの程度あったのかは不明である。

これと前後するように、明治4年(1871)に仙台城二の丸に東北鎮台が置かれる。東北鎮台は明治6年(1873)に仙台鎮台に改称され、明治21年(1888)に陸軍第二師団となり、昭和20年(1945)の終戦まで同地にあった。これに伴い、明治20年(1887)の『仙台測図』には、地区の南側の河原が大規模に埋め立てられ、既に地区全体が「練兵場」となっていたことがわかる。長沼南側の堀は次第に形状を変えていき、明治26年(1893)の『仙台市測量全図』には当初とは全く異なる姿となり、この頃には堀の管理が十分行われていなかった状況がわかる。その後、明治34年以降の絵図では堀は完全に姿を消し、これとほぼ時期を同じくして、長沼沿いには南へ延びる新たな道路が確認でき、これより先の明治33年(1900)の『最新実測仙台市街全図』には、地区南側の旧河原部分に「陸軍射撃場」の文字がみえることから、地区全体を通ず道路建設に伴い、障害となった堀が埋められたことも考えられる。昭和20年に米軍により撮影された航空写真(第7図)には地区の全体をうかがうことができるが、射撃場の区画以外、目立った建造物等は確認できない。また戦前に練兵場を撮影した写真(第8図)にも、地面や草が生い茂った様子しか確認できない。

軍施設以外の建造物として、大正10年(1921)、地区内に仙台愛宕下水力発電所へと導水するための隧道が建設された。現在も護岸石垣の一部を壊して設置した取水口が残り、第3次調査では径2m以上あるコンクリート管の一部を確認している。

終戦後、満州などからの引揚者や、仙台空襲により住む場所を失った人々を受け入れるため、住宅営団が国有地であった同地に仮設住宅を建設し、昭和21年(1946)に入居が始まった。昭和22年に米軍により撮影された航



『宮城県仙台区全図』明治13年

源道慎也氏所蔵



『最新版市外町村及番地入 仙台市全図』大正元年

仙台市博物館所蔵

#### 第6図 地図に見る近代の追廻地区

空写真（第7図）には、約300棟の建物が整然と並ぶ様子が確認でき、昭和50年代には約600世帯の人々が地区内に暮らしていた。



米軍撮影 昭和20年  
仙台市博物館所蔵

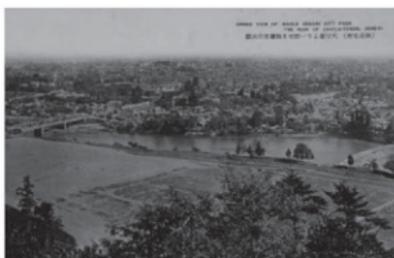


米軍撮影 昭和22年  
国土地理院所蔵

第7図 航空写真に見る戦中・戦後の追廻地区



絵葉書 戦前「御本丸全景」  
仙台市歴史民俗資料館所蔵



絵葉書「(仙台名所) 天主台より一眸せる仙台市の大観」  
仙台市歴史民俗資料館所蔵

第8図 絵葉書に見る戦前の追廻地区

### 第3節 これまでの発掘調査

平成17年に出された「青葉山公園整備基本計画」により、追廻地区内でも本格的な公園整備が実施されることとなり、これに伴い同地区内に所在する遺構の確認調査が急務となった。

調査対象面積は約14haで、平成18年度と19年度に地区の南部を除く範囲で実施した第1次・第2次調査では、近世遺構の遺存状況を確認すること目的とし、また平成20年度に実施した第3次調査では主に広瀬川護岸石垣の確認を目的として調査を実施した。さらに平成22年にはそれまで調査が行われなかった地区南部において、遺構の有無を確認するための試掘調査を実施した。

#### [第1次調査]

平成19年3月1日～3月30日に実施し、試掘トレンチを地区北部の広瀬川沿いに3か所設定した。調査面積は183㎡である。主な検出遺構は礎群、土坑、ピットで、3Tから検出した3基のピットの底面からは柱を受ける底石が検出されたことで、建物の存在が確認された。

#### [第2次調査]

平成19年10月9日～12月27日に実施し、試掘トレンチを地区北部と中部の7か所に設定した。調査面積は367㎡である。主な検出遺構は池跡、建物跡、溝跡、石組遺構、石敷遺構、土坑などがある。今回の第4次～6次調査区の東側に設定した2Tでは、池跡の一部とみられる2段の石組みを検出しており、片倉屋敷を描いた絵図に見られる屋敷南東側の池との関係が問題となった。

#### [第3次調査]

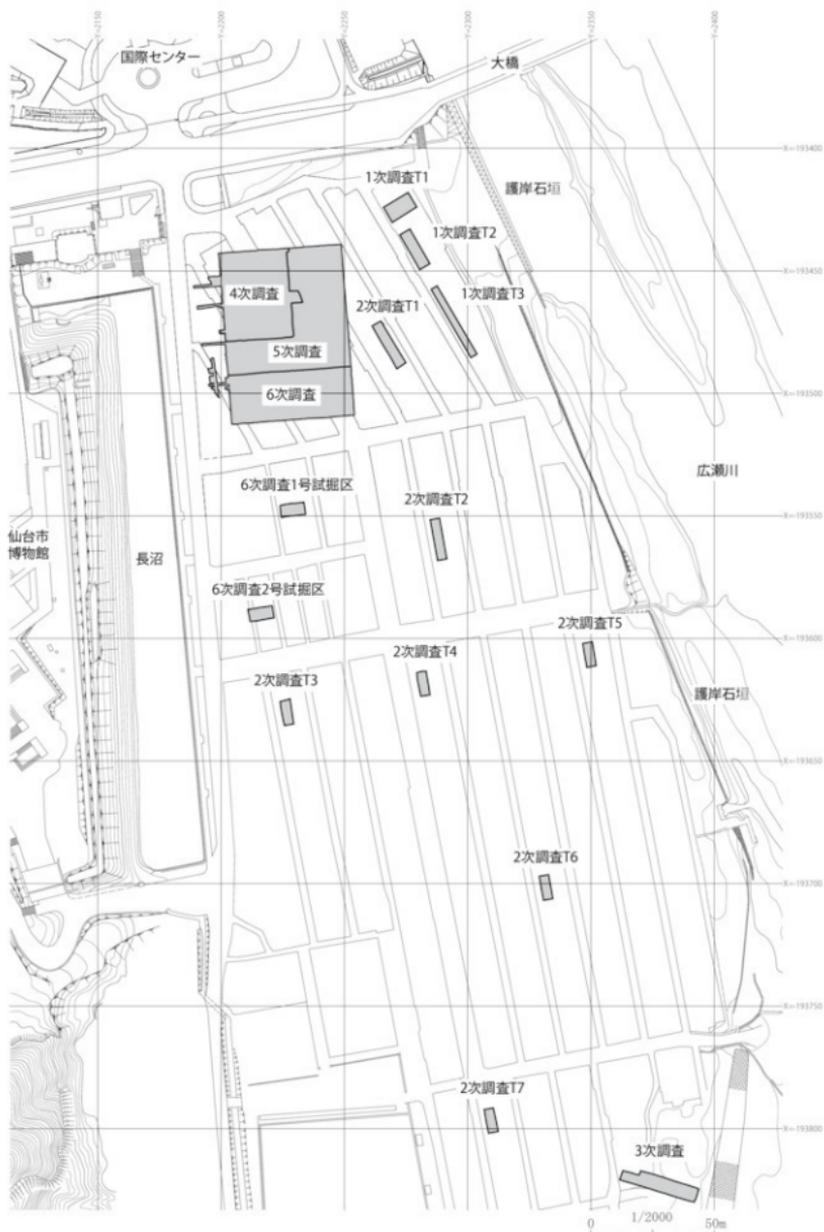
平成20年8月25日～10月22日に実施し、近代に埋められたとみられる護岸石垣の位置を絵図から推定し、これに直交するように試掘トレンチ1か所を設定した。調査面積は177㎡である。調査では複数の確認面から石敷遺構、石組遺構、井戸跡、溝跡、土坑など数多くの近世遺構を確認したにもかかわらず、護岸石垣は確認できなかった。石垣はトレンチの東西何れかに存在するとみられるが、解体されほとんど遺存しない可能性もある。その他には近代に造られた「元仙台愛宕下発電導水トンネル」の跡を確認した。

以上の3次に及ぶ遺構確認調査により、地区の南部を除く追廻地区内のほぼ全域に、近世遺構が良好に遺存していることが確認された。

#### [南部での確認調査]

平成22年5月には、追廻地区南部における公園関係施設建設を検討する必要性から、テニスコート周辺での試掘調査を実施し、また、同年8月には本丸東側草地の崩落防止工事に伴う盛土・植栽等の整備の必要性から、旧バレーコートでの試掘調査を実施した。両試掘地とも、広瀬川護岸石垣の推定位置より南側に位置しており、近世には広瀬川の河道や河原であったとされる地区である。

調査の結果、広瀬川に近いテニスコート周辺の2つの試掘区では遺構は確認されなかった。また旧バレーコートの6つの試掘区でも遺構は確認されず、背後の崖からの崩落土や谷から流入した土砂が堆積する状況が確認できた。これら試掘調査から、追廻地区の中でも城下絵図などにみられる北部の姿と、近代に大規模に造成された南側とでは、様相が大きく異なることが明らかとなった。



第9図 追廻地区における調査位置

## 第4節 調査の方法と経過

### (1) 調査の方法

#### [野外調査]

3年次にわたる今回の調査を開始するにあたり、調査区の設定および遺構の計測には、国家座標に基づく既知点(3級基準点 QE405603 標高 34.833 m) を利用し、測量作業に必要な基準点を新設した。

調査で使用した3級基準点は、平成23年に発生した東北地方太平洋沖地震の前に整備したものであり、地震に伴う地殻変動でずれた基準点の位置を修正する必要が生じたため、国土地理院が提供する補正ソフトウェア「PatchJD」を使用し、位置の補正および修正を行った。また、追廻地区北西部に原点(X: -193400, Y: 2180)を設定し、地区全体を網羅するグリッドを設定した。グリッドの単位は5mとし、グリッドの名称は原点を起点として南北方向をX(X1~)、東西方向をY(Y1~)と表記し、それぞれ東と南へ向かうにしたがい数値が増すようにした。

各次の調査については、表土および盛土層を重機で掘削し、発生した排土は調査終了後の埋戻しの必要性から調査地内に仮置きした。引き続き人力による視乱埋土の除去や成形作業を行った後、各遺構確認面の精査を行った。遺構の範囲が確定したものについては合成繊維製ロープを貼り、種別ごとに遺構番号を付した。

各遺構における平面図や遺物出土地点の計測には主にトータルステーションを使用した他、石敷遺構や石組みを伴う遺構についてはデジタルカメラを用いた写真実測も併用し、CADソフト(Padras-T3D)及びグラフィックソフト(Adobe-Illustrator)で作図・編集を行った。また土層断面図については主に手実測で行った他、写真実測も併用した。遺構などの写真撮影はデジタルカメラ(1000万画素以上)、35mmカラーボジ・モノクロフィルムの3種類で行い、遺構確認終了時点にはラジコンヘリコプターを使用した空中撮影を行っている。

今回の発掘調査では遺構を保存する必要性から、遺構の掘り込みは最小限度にとどめており、視乱の壁面などで確認した多数の遺構についても極力記録し、遺構の把握に努めた。出土遺物については、出土日順に番号を付し、グリッド別、層別別、遺構別、遺構堆積層別に取り上げを行い種別ごとに登録した。

各次の調査では遺構を保存する目的から、調査区の埋戻しは石敷遺構や露使用の遺構を中心に、厚さ3mmの不織布を敷き、竹串で固定した後に山砂により埋戻した。山砂は遺構面が良好に残存する場所では10cm程度の厚さとし、その他の掘り込み部分や視乱では同じレベルまで中に充填した。その後は掘削土で埋戻し、転圧等は行っていない。

調査終了時点では、調査区内にあった電柱はそのまま残置し、またかつて道路際に埋設していたアスベスト管については、安全面を考慮して調査中は撤去せずそのまま埋戻し、その位置をプラスチック杭で明示した。

#### [整理・報告書作成作業]

基礎整理作業は各次調査終了後に実施した。遺物については水洗、ネーミング、一部接合、計数・計量、登録に加え陶磁器鑑定等各作業を行い、遺構図については、CADソフトで作図した調査時データをグラフィックソフトで編集し、遺構配置図や区配図の他、個別の遺構図を作成した。

平成27年度は報告書作成業務として、遺物関係では接合、復元、実測作業等を行い、図面関係では各種遺構図版の作成に加え、様々な挿図の作成、さらに写真図版の作成等に加え、これらを合わせた編集作業を行った。報告書の作成にあたっては、各素材を画像編集ソフト(Adobe-Photoshop)、表計算ソフト(Microsoft-Excel)、ワープロソフト(Microsoft-Word)で作成し、最終的にはDTPソフト(Adobe-Indesign)上で編集を行った。

#### [普及啓発活動]

今回の仙台城跡追廻地区の発掘調査においては、発掘調査や報告書作成のほかに、市民を対象とした様々な普

及啓発活動を実施した。今回の調査では平成24年度と25年度に報道発表会と遺跡見学会を開催しており、平成24年12月9日に開催した第4次調査の遺跡見学会には悪天候の中、50名ほどの一般市民の方々が来場し、さらに平成25年11月17日に開催した第5次調査の遺跡見学会には150名の多くの方々が来場した。

また、追廻地区の調査成果については、平成24年度と25年度に開催された宮城県考古学会主催の「宮城県遺跡調査成果報告会」において資料報告を行ったほか、調査期間中には市民を対象とした各種講座において、片倉屋敷について紹介している。

## (2) 調査の経過

### [平成24年度 第4次調査]

- 6月 野外調査の準備を開始した。18日から調査区の設定と現場事務所の設置、資機材の搬入を開始した。30日に追廻地区仮設水道管敷設工事に伴い作業を一時中断した。
- 7月 19日から重機による表土掘削を開始し、24日から攪乱の掘削を開始した。27日に重機による表土掘削が終了し、人力による作業に移行した。
- 8月 24日にⅡ層検出状況の写真撮影を行った。25日からⅡ層の掘削を行い、下層よりⅢ層石敷遺構を検出した。31日にはⅢ層石敷遺構が2面あることを確認した。
- 9月 11日～12日に調査区西側の状況を確認するため拡張トレンチ1と拡張トレンチ2の調査を開始した。13日に拡張トレンチ1でⅢ層石敷遺構の西側の端部、拡張トレンチ2でSA2を検出した。
- 10月 15日から重機により調査区東側の拡張を開始した。拡張した面積は500㎡である。25日にラジコンヘリコプターによる空撮を実施し、30日から遺構の掘り込み調査を開始した。
- 11月 15日から攪乱壁面を利用し土層の記録を開始した。26日からSA2の範囲を確認するため、拡張トレンチ3の調査を開始した。
- 12月 7日に遺跡見学会の報道発表を行った。9日に遺跡見学会を開催した。10日に不織布による養生と山砂を用いての埋戻しを開始した。
- 1月 8日に重機による埋戻しが完了し、すべての作業が終了した。

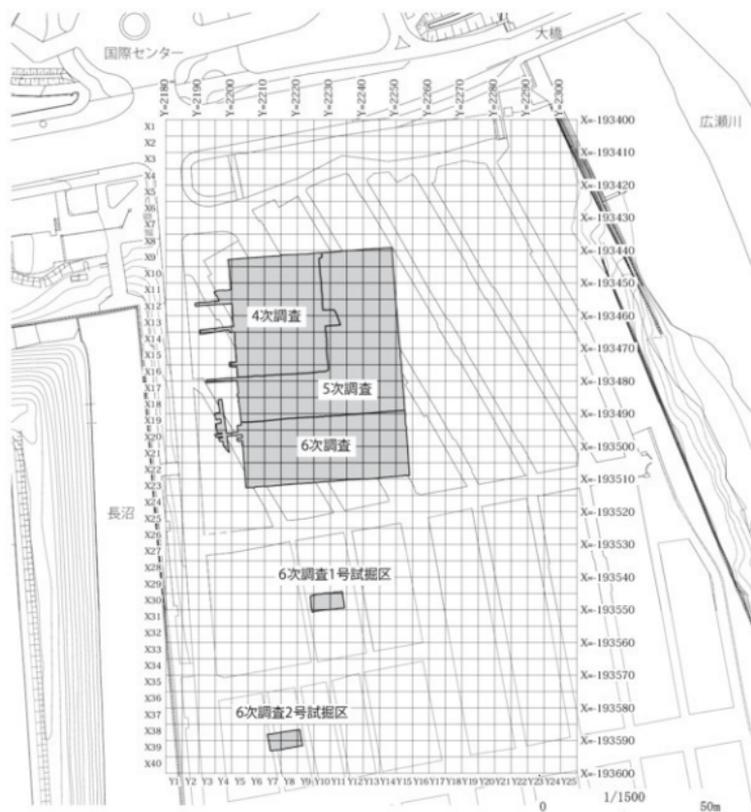
### [平成25年度 第5次調査]

- 6月 24日に野外調査の準備を開始した。調査区の設定と現場事務所の設置、ネットフェンスの設置を行った。25日には資機材の搬入、水道・電気工事、調査区の草刈りを行った。
- 7月 1日から重機による表土掘削を開始し、9日から遺構確認と並行して攪乱の掘削を開始した。
- 8月 遺構の検出作業と攪乱の掘削を並行して行った。
- 9月 17日から遺構の検出作業と並行して遺構の掘り込み調査を開始した。30日に遺構検出作業が終了した。
- 10月 4日にラジコンヘリコプターによる空撮を実施した。9日から4次調査区から続くSA2を検出するため拡張トレンチ4の調査を開始した。30日にNTTにより、調査区内に設置してあった電線の一部を撤去した。
- 11月 17日に遺跡見学会を開催した。19日に不織布による養生と山砂を用いての埋戻しを開始した。29日に人力による埋戻し作業が終了した。
- 12月 4日から重機による埋戻しを開始し、10日に完了した。

### [平成26年度 第6次調査]

- 6月 25日から野外調査の準備を開始した。調査区の設定と現場事務所の設置、ネットフェンスの設置を行った。23日から重機による表土掘削を開始し、30日から人力による攪乱の掘削を開始した。
- 7月 1日から攪乱の掘削と並行して遺構検出作業を開始した。重機による表土掘削は14日に終了した。

- 8月4日に擾乱の掘削が終了した。II層の分布範囲を確認し、5日に全景撮影と石敷遺構の検出作業を開始した。  
 12日に石敷遺構検出状況の写真撮影を行う。
- 9月4日にSA2の延長部分を確認するため、拡張トレンチ5の調査を開始した。17日に遺構検出作業が終了し  
 18日にラジコンヘリコプターによる空撮を実施した。26日に本調査区南側の遺構の分布状況を確認するた  
 め2か所の試掘区を設定し、調査を開始した。
- 10月3日に1号試掘区、15日に2号試掘区の調査が終了した。
- 11月11月7日に人力による埋戻し作業を開始し、13日に終了した。17日からは重機による埋戻しを開始した。  
 19日に調査区の埋戻しが完了し、3年にわたる全調査が終了した。



第10図 グリッド設定図

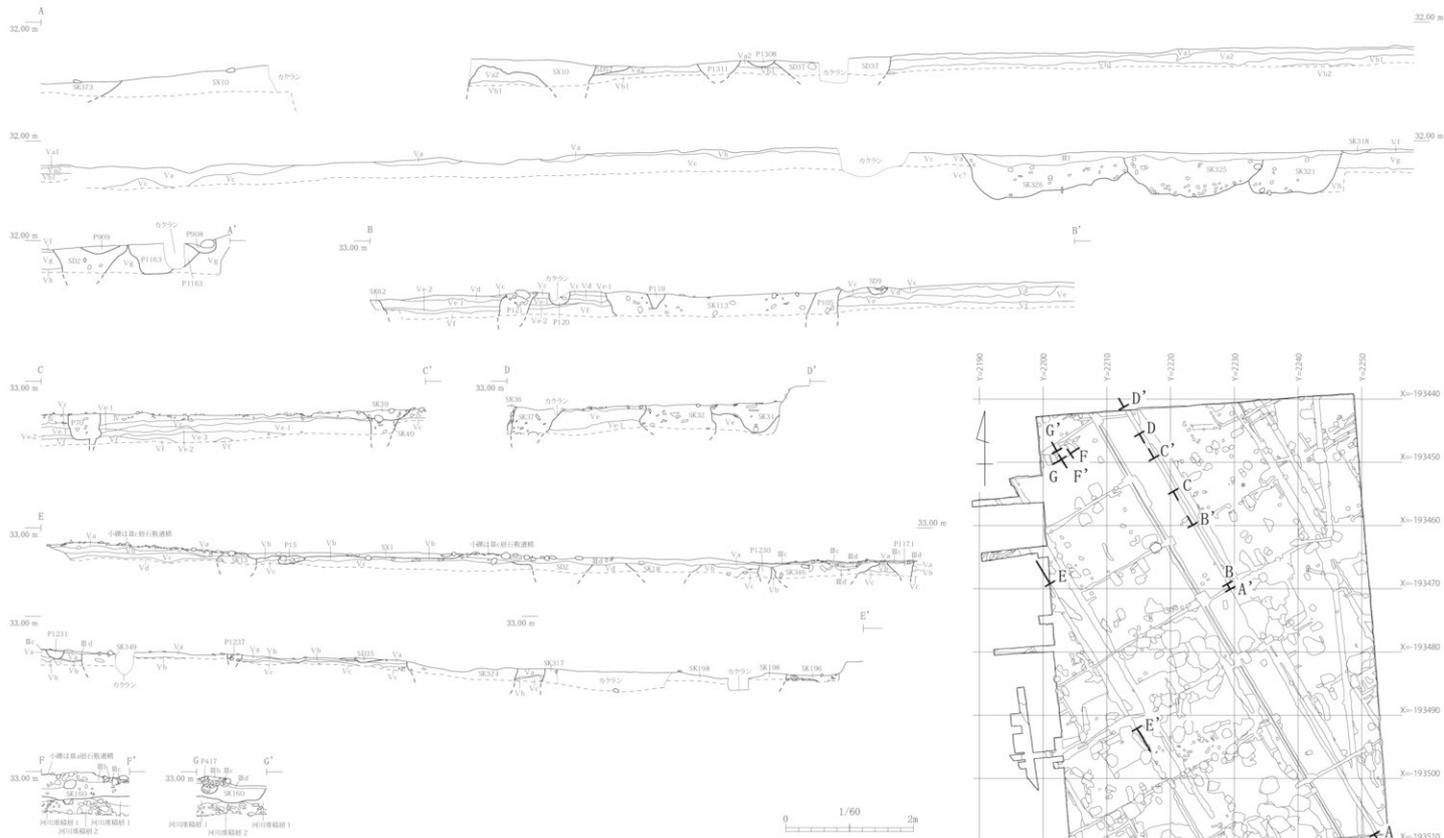
## 第3章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 基本層序

今回の3年次にわたる調査で確認した基本層は、最初の調査である第4次調査において設定した基本層序に準じている。層はⅠ～Ⅴ層に大別し、細部の特徴により17層に細分した。Ⅰ～Ⅳ層が盛土及び整地土で、近世に属するのはⅢa層～Ⅳ層である。細分を行ったのはⅢ層とⅤ層で、Ⅲ層は片倉屋敷などに関わる石敷遺構や整地土とみられるもので、6層に細分している。Ⅴ層は自然堆積層で全地区を通して9層に細分し、色調の違いによりさらに枝番号を付している。また、6次調査の期間中に実施した本調査区南側の試掘調査についても、この基本層序に準じて分層を行っている。

- Ⅰ層 褐灰色砂質シルト。現代の表土層で、追廻住宅に関わる盛土層や攪乱である。
- Ⅱ層 にぶい黄褐色砂質土。近代の陸軍練兵場に関わる整地土で、調査区の西側で検出している。きめの揃った黄褐色の砂層で、層厚は3cm以下である。
- Ⅲa層 円礫層（石敷き）。西側に敷設された2面ある石敷遺構のうち、新しい時期のものである。調査区北西部にのみ遺存していた。
- Ⅲb層 褐色シルト。Ⅲa層石敷遺構に伴う整地土である。分布範囲はⅢa層とほぼ同一で、Ⅲb層単独で確認された範囲はほとんど無い。層厚は10～30cmである。
- Ⅲc層 円礫層（石敷き）。西側に敷設された2面ある石敷遺構のうち、古い時期のものである。南へ行くほど遺存状況は悪くなるものの、第4次～第6次の全ての調査区にわたって確認されている。
- Ⅲd層 褐色・黒褐色シルト。Ⅲc層石敷遺構に伴う整地土である。層厚は10～30cmである。
- Ⅲe層 暗褐色砂質シルト。調査区北側で検出した整地土である。炭化物および焼土を多量に含む。遺存状態は非常に悪く、鳥状の狭い範囲で確認されたのみである。層厚は5～10cmである。
- Ⅲf層 にぶい黄褐色シルト。調査区の東側全域に敷設されていたと考えられる整地土である。表土および攪乱による削平が著しいため確認できた分布範囲は限定される。Ⅲe層より色調が明るく、炭化物を僅かに含む。層厚は10～40cm程である。
- Ⅳ層 オリーブ褐色砂礫層。近世に属する整地土とみられ、大型の礫を含む砂礫を主体とする。調査区の北側で確認している。層厚は20～30cmである。
- Ⅴa層 にぶい黄褐色シルトの自然堆積層である。調査区のほぼ全域と試掘区において確認していることから、追廻地区に遺存する自然堆積層の最上層に位置づけられる。層厚は10～30cmである。
- Ⅴb層 黒褐色粘土質シルト。調査区全域と試掘区において確認した自然堆積層である。Ⅴa-1層に比べると、色調が暗い。層厚は調査区北側が厚く約25～40cmで、南側は10～15cmである。
- Ⅴc層 黄褐色シルトの自然堆積層である。層厚は15～30cmである。
- Ⅴd層 灰白色の自然堆積層である。粒子が細かく、見た目は灰白色火山灰に類似する。層厚は10～15cmである。
- Ⅴe層 黄褐色シルトの自然堆積層である。鉄分を多く含む。層厚は10～30cmである。
- Ⅴf層 にぶい黄褐色粘土質シルトの自然堆積層である。層厚は20～30cmである。
- Ⅴg層 黒褐色粘土の自然堆積層である。Ⅴf層に比べ色調が暗く、粘性が非常に強い。層厚は30～40cmである。
- Ⅴh層 にぶい黄褐色シルトの自然堆積層である。砂粒をやや多く含み、一部にややグライ化している。層厚は20cm以上である。





第13図 基本層序







### 第3節 検出遺構

仙台城跡追廻地区第4次～第6次発掘調査は、平成24年から平成26年の3ヶ年にわたり調査を行ってきた。調査は各次調査の本調査区と拡張トレンチ調査に加え、第6次調査では試掘調査があり、調査総面積は3,786㎡である。

今回検出した遺構の総数は2,235で、その内訳は、石敷遺構2面、礎石建物跡6棟、掘立柱建物跡3棟、崩跡8基、井戸跡5基、溝跡61条、性格不明遺構（石組遺構他）10基、焼面遺構19基、鍛冶炉1基、土坑538基、ピット1,582基と様々な種別がある。

検出した遺構のほぼ全てが近世に属するとみられる遺構であるが、中には調査区の西側に遺存していた、陸軍練兵場に伴うⅡ層整地土や、近世以前の可能性のある溝跡なども僅かだが検出している。

遺構の遺存状況は全体的に不良で、これは練兵場の造成や現代の攪乱によるものであり、これらにより、近世の遺構確認面である整地土を大きく削平している。この状況は調査区の南東部が特に顕著であり、このため近世の整地土である基本層Ⅲ層～Ⅳ層は調査区北東部分を中心に限定的な範囲に限られ、掘り込み層位を確認できた遺構も僅かである。

遺構の分布状況を見ると、削平の影響も加わり、大型や広範囲の遺構は西側に集中する傾向がある。Ⅲ層石敷遺構は調査区の西端の全域で検出しており、他の数多くの近世遺構を被覆している。石敷遺構の下部には大小様々な規模の土坑が存在し、重複関係も複雑な状況が確認でき、土坑群の中には幕末の片倉屋敷の火災処理に伴うとみられるごみ穴が多数含まれていると推測される。また調査区東側を中心に建物跡や崩跡など、何らかの屋敷に関わる遺構についても、遺存状況が悪く、広く展開するものは無い。

今回の調査では、確認した遺構を保存する目的から、掘り込み調査は最小限に止めており、そのため数多く存在する攪乱については全て掘削した後、壁面を利用して遺構の形状や断面、埋土の状況等の確認を行い、可能な限り記録をとった。そのため、以下の記載内容については、掘り込み調査を行った遺構を中心としており、その他の数多くの遺構については、主として規模や埋土状況等について一覧表に掲載した。

遺構種別	単位	数量	備考	遺構種別	単位	数量	備考
石敷遺構	面	2	Ⅲ a 層・Ⅲ c 層	性格不明遺構	基	10	石敷遺構 1 石組遺構 6 焼面遺構 1 性格不明遺構 2
礎石建物跡	棟	6		鍛冶炉跡・焼面遺構	基	19	鍛冶炉 1 焼面遺構 19
掘立柱建物跡	棟	3		土坑	基	538	
崩跡	基	8		ピット	基	1582	
井戸跡	基	5		整地土	面	5	Ⅲ b・Ⅲ d・Ⅲ e・Ⅲ f・Ⅳ 層
溝跡	条	61					

※ 試掘区を除く

第1表 検出遺構一覧表

#### (1) 石敷遺構

石敷遺構は今回の調査で検出した最大の面積を有する遺構であり、場所により残存状況は様々であるが、調査区西側のほぼ全域で検出した。東側を除く三方が調査区外へ延びる。本遺構はⅢ a 層石敷遺構とⅢ c 層石敷遺構の新旧二枚の石敷きが、僅かな間層（Ⅲ b 層整地土）を挟んでそれぞれ敷設されている。

Ⅱ層を除いた石敷遺構上面で確認した遺構は皆無で、主要な遺構との重複関係をみると、SB1・2・9・10、SA1・2、SE1、SD2・7、そして大型の土坑群など様々な遺構が石敷き及びそれに伴う整地土層に覆われており、これらは全て本遺構より古い時期であることが判明した。また石敷きは礎石建物跡であるSB1・10は、残存する礎石を据

えた掘り方の上面全体を覆っており、礎石を残置したまま石敷きを敷設したことが窺われる。

より広範囲にみられるⅢc層石敷遺構の規模は、確認した範囲で南北方向70m以上、東西方向の最も幅の広い部分で13.6mあり、総面積は257.7㎡である。石敷き上面には仙台城大手筋に面した北側から南側、また西の長沼側から東の広瀬川に向かい、緩やかな傾斜となっている。

### Ⅲa層石敷遺構

【位置と重複関係】調査区の北西部、X9～12・Y4～7グリッドにかけて検出した上位の石敷遺構である。北と西側が調査区外へ延び、南側が削平されているため明確な規模と範囲を捉えることができなかった。西側については拡張トレンチ1での範囲確認により、Y4グリッドまで延びるのを確認している。X13グリッド以南については陸軍練兵場造成や後の住宅建設等により壊されたとみられるが、本来の範囲はⅢc層石敷遺構の範囲と重なるように南方向に延びていたと考えられる。本遺構と重複する主な遺構としてはSD7・20、SX5があり、いずれも本遺構より古い。また、重複関係はみられないものの、本遺構がSA2の延長線上に位置しており、石敷きの下部にSA2が存在する可能性が高い。

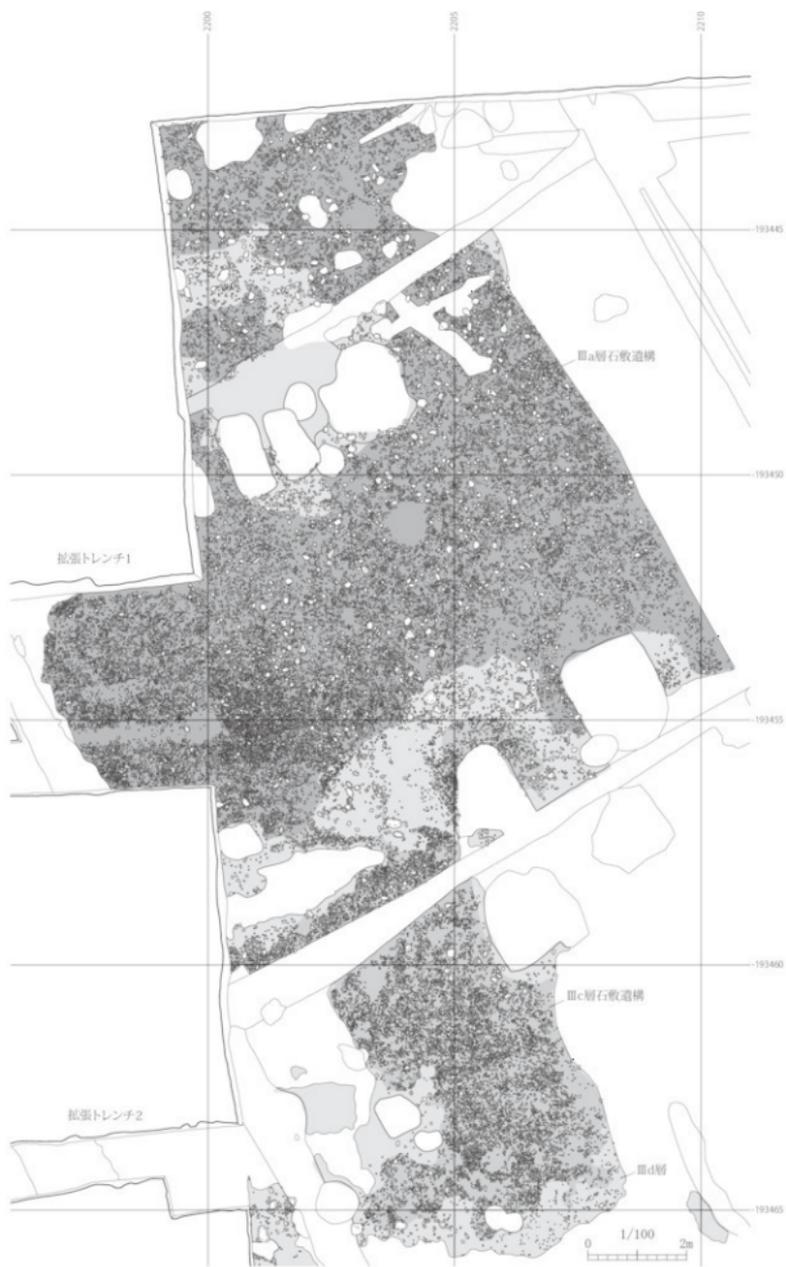
【規模と構造】確認した範囲の規模は、南北15m以上、東西13.6m以上、面積は88.3㎡である。また、北端と南端の標高差は最大で15cm、西端と東端の標高差は30cmで、北から南および西から東に向かって標高が下がっている。石敷きの構造は、10～20cmの厚さでⅢb層が盛土、整地された後に径が1～5cm大の円礫を敷き詰めている。Ⅲb層は場所により色調や混入物に僅かな違いがみられるものの、粘土質シルトブロックを含む砂質土を主体とする。Ⅲb層の遺存する範囲は石敷き部分とほぼ同一である。

【石敷きの状況】石敷き上面が全体的に削平され、各所で後世に攪拌を受けているとみられることから、遺存状態は良好ではないが、X11～12・Y5グリッド付近は比較的良好に石敷きが残存し、粒径の揃った円礫が密な状態で検出された。場所によっては円礫と共に瓦片が混入するが、これが意図的に混ぜられたものかは不明である。

【出土遺物】掘り込みは行っていないが、石敷き中から瓦115点、陶器9点、磁器13点、瓦質土器1点、金属製品5点が出土した。



第17図 石敷遺構(全体)



第18図 石敷遺構（北部）



第19図 石敷遺構（中央部）



第20図 石敷遺構(南部)

### Ⅲc 層石敷遺構

[位置と重複関係] 調査区西部、X9～22・Y4～7グリッドにかけて検出した下位の石敷遺構である。北側および南側は調査区外へ延びる。数か所で拡張トレンチを設定し、西側への広がりを確認したところ、トレンチ4では本調査区から約3m西側まで広がることを確認した。しかしこの部分での石敷きは乱れた状態で、これが本来の敷設範囲を示しているかは不明である。遺構との重複関係では、上面にのるものは無く、全ての遺構を被覆する状況が確認できた。

[規模と構造] 規模は南北70m以上、東西15m以上、確認面積は257.7㎡で、北端と南端の標高差は最大で95cm、西端と東端の標高差は35cmで、北から南および西から東に向かって傾斜している。石敷きの構造は、Ⅲa層石敷遺構と同様に、10～20cmの厚さでⅢd層を盛土、整地した後に、径が1～5cm大の円礫を敷き詰めている。また、Ⅲa層石敷遺構でみられた瓦片の混入は少ない。石敷きに伴うⅢd層は褐色～黒褐色を呈するシルトを主体とし、黄褐色のブロックが混じる。整地土自体が薄いため、敷設範囲はⅢc層石敷きとほぼ同一であるが、石敷きが失われた箇所において残存する箇所もあり、また下部に重複する遺構内にレンズ状に落ち込んでいる状況も認められた。

[石敷きの状況] 残存が良好なのはⅢa層石敷きに被覆された北側のみであるが、ここでは石敷き上面を確認していないことから状況は不明である。Ⅲa層に被覆されない多くの箇所では、上面はⅡ層が直接にのり、この層の敷設の際に大きく削平され、また後世の攪拌により広く乱されている。Ⅲa層で確認した礫が丁寧に敷かれたような状況を見せる箇所は全く無く、礫はまばらで攪拌により土壌の混入が著しい箇所もあり遺存状態は不良である。そのような中でもX18～19・Y5～6の範囲では礫の残存量からみて比較的良好な状態を見せ、Ⅲa層石敷きと比較すると混入物は少ない。

[出土遺物] 掘り込みは行っていないが、瓦6点、陶器2点、磁器2点が出土した。

## (2) 礎石建物跡

調査区の全域で9棟の建物跡を検出した。その中で柱基礎に礎石を使用したと考えられる礎石建物跡は6棟ある。礎石建物跡を構成する礎石跡は全般的に遺存状態が不良で、建物跡の全容が確認できたものは無い。中でも礎石が遺存していたのはSB1・10の2棟のみであり、SB2・6・7・11は礎石自体は失われていたものの、基礎掘り方内に充填された根固石が遺存していることでこれを確認した。

### 1号礎石建物跡(SB1)

[位置と重複関係] 調査区の北西部、X13～14・Y5で検出した。西側が調査区外へ延び、上面の一部がⅢa層石敷遺構に被覆されているため、建物全体の形状や棟方向は不明である。確認面はV層で、西側に近接するSA2と重複するとみられるが、新旧関係は不明である。また東側約4mにはSB2が位置し、本遺構の北辺に沿って東西方向に延びるSD1はこの建物の雨落ち溝となる可能性が高い。一部の礎石が石敷遺構の表面に露出しているが、個々の掘り方は石敷遺構に被覆されており、また建物範囲全体にも石敷きが確認できる状況からみて、建物が解体された後に石が敷かれ、礎石は除去や再利用されずにそのまま残置されたと考えられる。

[規模と構造] 柱列は南北方向に3列、東西方向に4列確認した他、その東側と南側にも単体で数石が確認できる。最も残存状況が良好な南北列の東側は3間の柱間があり、礎石2から礎石10までの3間分の長さは3.05mで、これを三等分している。また東西列北側の礎石1と礎石2の柱間や北東側の柱間も約1mと、これらは6尺5寸程度の半間を基準に礎石を配置している可能性が高い。方向は南北列でN-2°-Wである。

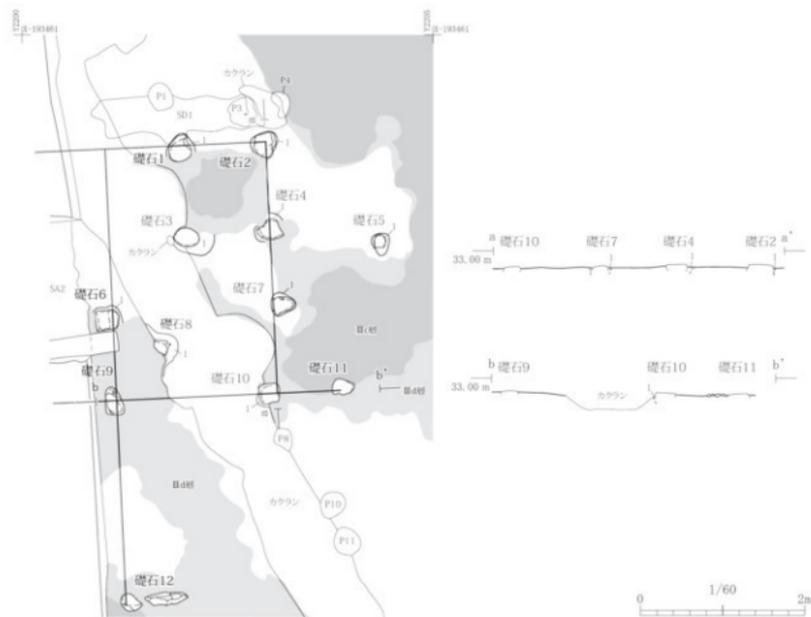
[礎石] 建物構成する可能性のある礎石は12石検出された。各礎石は径20～30cmと小型の円礫で、わりと偏平な自然礫を用い、平坦面を上に向けて設置されている。断面観察から掘り方は礎石の大きさより僅かに広く掘ら

れる程度で、かつ浅いものである。掘り方理土はブロック土を含む砂質シルトを主体とし、根固石は全く確認されなかった。また礎石5・7・8は柱筋からずれることから、原位置を保っていないとみられる。

[出土遺物] 出土していない。

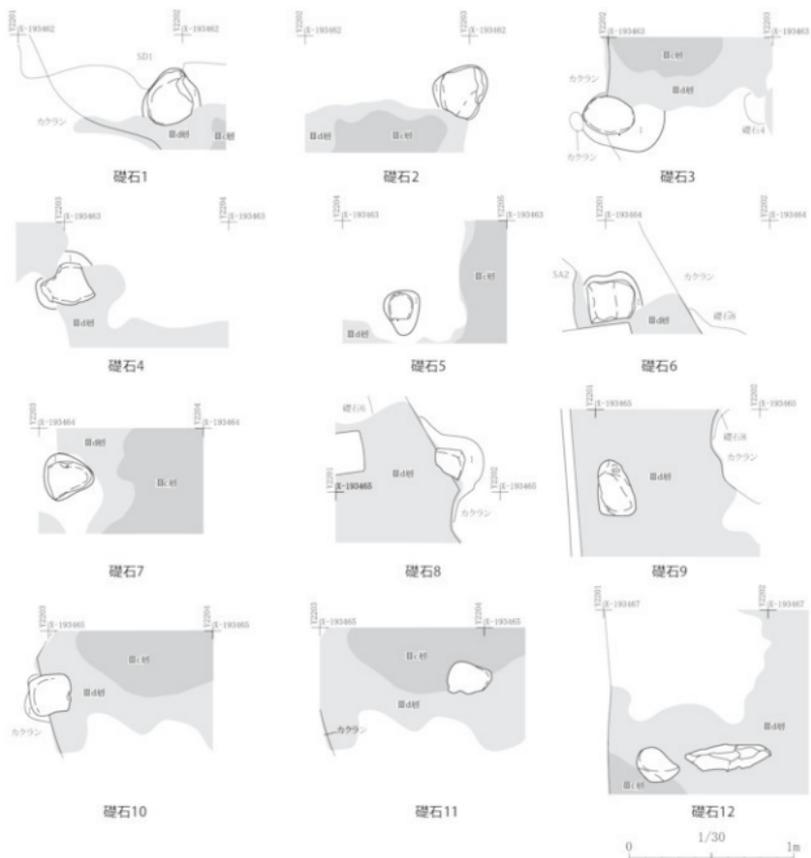
遺構	礎石長軸	礎石短軸	掘り方平面形状	深さ	備考
礎石1	0.37m	(0.30m)	(楕円形)	—	南側がⅡd層に被覆されている。
礎石2	0.32m	(0.31m)	(楕円形)	—	南側がⅡd層に被覆されている。
礎石3	0.50m	(0.31m)	(楕円形)	—	北側がⅡd層に被覆されている。
礎石4	0.39m	(0.29m)	(楕円形)	—	北西側と南東側がⅡd層に被覆されている。
礎石5	0.26m	0.23m	(不整形門形)	—	—
礎石6	(0.32m)	(0.28m)	(不整形門形)	—	西側と南側がⅡd層に被覆されている。
礎石7	(0.67m)	(0.29m)	(不整形門形)	—	—
礎石8	0.32m	0.29m	(不整形門形)	—	西側がⅡd層に被覆されている。
礎石9	(0.34m)	(0.22m)	—	—	Ⅱd層に被覆されているため、掘り方は不明。
礎石10	(0.28m)	(0.27m)	(不整形門形)	—	東側がⅡd層に被覆されている。
礎石11	(0.34m)	(0.22m)	—	—	Ⅱc・Ⅱd層に被覆されているため、掘り方は不明。
礎石12	(0.26m)	(0.21m)	—	—	Ⅱc・Ⅱd層に被覆されているため、掘り方は不明。

第2表 1号礎石建物跡 礎石一覧表



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SB1礎石1・2、5~8、10	I	2.5Y5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の灰褐色シルトブロック・径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量、径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	掘り方理土
SB1礎石3・4	I	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の灰白色シルトブロック・径2cm以内の灰褐色砂質シルトブロックを多量、径1cm以内の黄褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の円礫を微量含む	掘り方理土

第21図 1号礎石建物跡(1)



第22図 1号礎石建物跡(2)

## 2号礎石建物跡(SB2)

[位置と重複関係] 調査区北西部、X13・Y6・7で検出した。確認面はV層で、SD12、SK20・77・78・83を壊して構築され、また西端に位置するP4がⅢc層石敷遺構に被覆されている。

[規模と構造] 4基の礎石跡で構成され、1列のみの確認であるが、3間分の確認長は5.7mである。方向はN-86°-Eで、ここから仮の南北軸は西に4°傾く配置となる。本遺構は掘り込みを行っておらず、平面確認のみである。

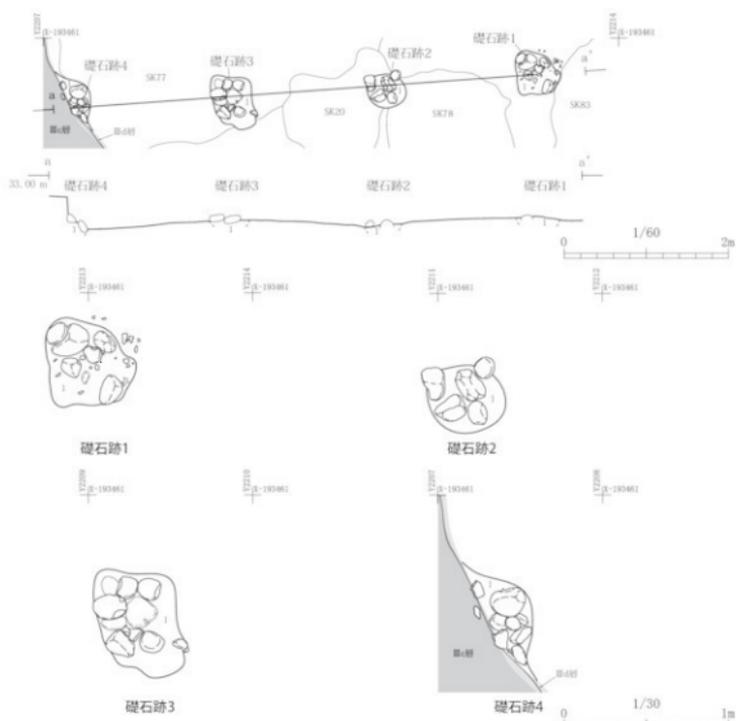
[礎石跡] 礎石跡は4基確認し、礎石自体は全て失われていたが、個々の礎石跡には根固石が充填されていた。掘り方の平面形は楕円形または隅丸方形で、径は約40～80cm、各柱間は全て1.9m程度であるが、礎石が残存しないことから、詳細は不明である。

礎石跡には黄色ブロックを含む砂質シルト土と共に、径が50cm以内の掘り方規模からするとやや大きめの根固石もみられ、これらは全て自然礫で掘り方内全体に充填されている。礎石跡4は西側がⅢc層石敷遺構に被覆されているため全容は不明である。

[出土遺物] 出土していない。

遺構	礎石長軸	礎石短軸	掘り方平面形状	深さ	備考
礎石跡1	0.53m	0.51m	不整楕円方形	—	南側がⅢd層に被覆されている。
礎石跡2	0.45m	0.41m	楕円形	—	
礎石跡3	0.64m	0.50m	不整楕円長方形	—	
礎石跡4	(0.84m)	(0.30m)	(楕円形)	—	

第3表 2号礎石建物跡 礎石跡一覧表



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK2 礎石跡1~4	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径2m以内の黄褐色砂質シルト・ブロックを少量、径2cm以内の炭化物を微量、径30cm以内の円礫を含む(礎石跡3・4には瓦片を含む)	掘り方埋土。

第23図 2号礎石建物跡

## 6号礎石建物跡 (SB6)

[位置と重複関係] 調査区東部、X14～15・Y13 で検出した。確認面はⅢf層とV層で、主要な遺構との重複関係は無いが、北側にSD2が近接し、南側約3mにSA4が直角関係で位置する。本遺構は礎石跡2基のみの確認であり、建物としての展開は認められなかったが、礎石立ちであることと柱間の関係から建物跡とした。

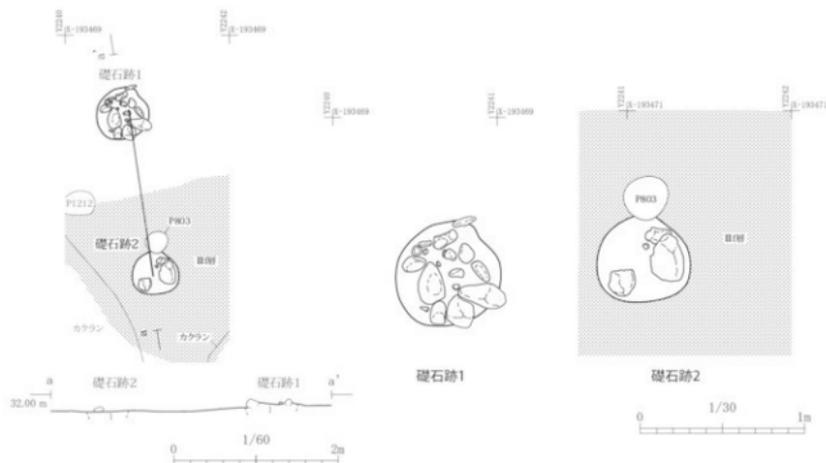
[規模と構造] 2基の礎石跡で構成され、柱間は1.95mである。方向はN-8°-Wである。掘り込みを行っておらず、平面確認のみである。

[礎石跡] 礎石跡は2基確認した。掘り方の平面形はほぼ円形で、径は約50～60cmである。礎石跡1・2ともに根固石がまばらに入れられており、礎石跡1に比べて礎石跡2の根固石は遺存状態が悪いこともあってか、全体に少ない。掘り方埋土はブロック土を含む砂質シルトを主体とする。

[出土遺物] 出土していない。

遺構	礎石長軸	礎石短軸	掘り方平面形状	深さ	備考
礎石跡1	0.64m	0.61m	不規則形 (円形)	—	
礎石跡2	0.53m	0.52m	—	—	

第4表 6号礎石建物跡 礎石跡一覧表



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SB6礎石跡1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径30cm以内の円錐・径5cm以内の灰褐色シルトブロックを多量、径2cm以内の炭化物を少量、径5cm以内の白色粒子を微量含む	掘り方埋土
SB6礎石跡2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径30cm以内の円錐・径2cm以内の炭化物を少量、径3cm以内の近い黄褐色砂質シルトブロックを微量含む	掘り方埋土

第24図 6号礎石建物跡

## 7号礎石建物跡 (SB7)

[位置と重複関係] 調査区東部、X11・Y14 で検出した。確認面はⅢf層で、石組溝跡のSD21を壊している。これもまたSB6同様に建物としての展開は認められなかったが、礎石立ちであることと柱間の関係から建物跡とした。

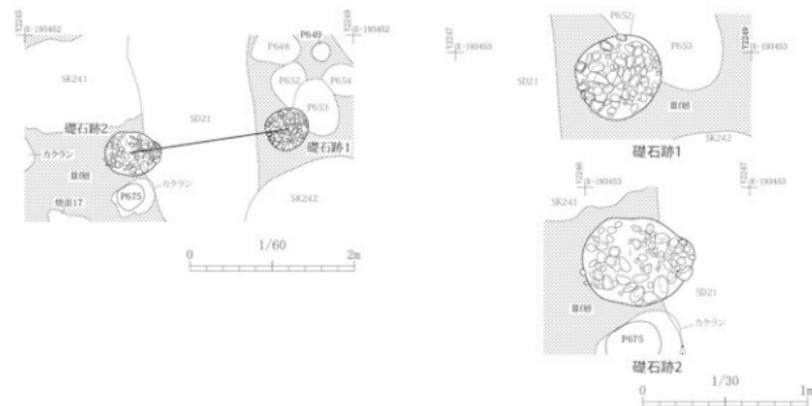
[規模と構造] 2基の礎石跡で構成され、柱間は1.95mである。方向はN-81°-Eで、これを基準とした南北軸は西に9°傾く配置となる。掘り込みを行っておらず、平面確認のみである。

[礎石跡] 礎石跡は2基確認した。掘り方の平面形は円形や楕円形で、径は約50～60cmである。根固石は径4～15cmの礫が密に充填されており、SB2やSB6の根固石と比較すると、小型の礫が主体である。また礎石跡2の中心部分是小礫がややまばらな状態であり、平面での確認はできなかったが、ここに礎石が据えられていた可能性がある。掘り方の埋土は灰褐色を呈する粘土質シルトを主体とする。

[出土遺物] 出土していない。

遺構	礎石長軸	礎石短軸	掘り方平面形状	深さ	備考
礎石跡1	0.51m	0.50m	円形	—	
礎石跡2	0.68m	0.52m	楕円形	—	

第5表 7号礎石建物跡 礎石跡一覧表



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SB7 礎石跡1・2	1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径10m以内の円礫を多量、径3m以内の円い、黄褐色シルトブロック・径2m以内の灰褐色シルトブロックを少量、径2m以内の炭化物を微量含む	掘り方埋土

第25図 7号礎石建物跡

### 10号礎石建物跡 (SB10)

[位置と重複関係] 調査区南東部、X20・Y6で検出した。確認面はⅢc層石敷遺構面、SB1同様に石敷遺構の表面に礎石が露出している状態で検出された。

[規模と構造] 2石の礎石跡で構成され、柱間は1.9mである。方向はN-87°-Eで、これを基準とした南北軸は西に3°傾く配置となる。石敷遺構下にあることから掘り込みを行っていないため、掘り方については確認していない。

[礎石] 礎石は2基確認した。SB1と同様に小型で偏平な自然礫を使用し、平坦面に上に向けて設置している。

[出土遺物] 出土していない。

遺構	礎石長軸	礎石短軸	掘り方平面形状	深さ	備考
礎石跡1	0.32m	0.26m	—	—	
礎石跡2	0.36m	0.26m	—	—	

第6表 10号礎石建物跡 礎石跡一覧表



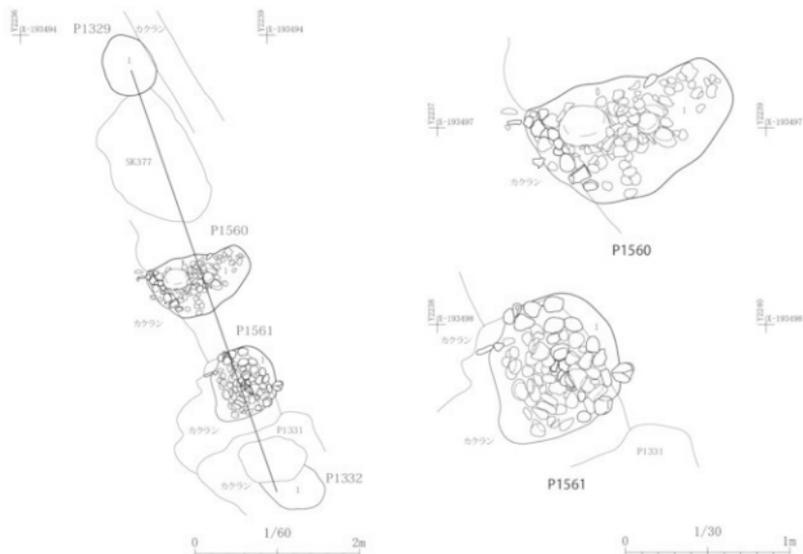
第26図 10号礎石建物跡

### 11号礎石建物跡 (SB11)

[位置と重複関係] 調査区南東部、X19・Y12で検出した。本遺構は当初、個別の4基の遺構 (P1329・P1332・P1560・P1561) として調査を行ったが、遺構の並びや相互の距離、構造などを検討した結果、礎石建物跡として取り扱うこととした。大型の土坑上で確認しており、確認面は不明である。東側にはSA8が近接する。

[規模と構造] 4基の礎石跡で構成される3間の長さは5.45mで、残存状況の良好なP1560とP1561の柱間が他と比較して短い。方向はN-20°-Wである。遺構の掘り込みを行っておらず、平面のみでの確認である。

[礎石跡] 4基の礎石跡で構成され、礎石自体は失われていた。根固石が確認できたのはP1560とP1561の2基で、残存状況の悪さからか、両端のP1329とP1332には根固石が確認できなかった。掘り方の平面形は概ね楕円形で、径は約0.6～1.2mである。礎石跡中央で計測した柱間距離は、おそらくは2間分とみられるP1329～



第27図 11号礎石建物跡 (1)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考	
SB11	P1329	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径1cm以内の円礫・径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを微量含む	掘り方埋土
	P1560	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径15cm以内の円礫を多量、径2cm以内の濃い黄褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物・径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	掘り方埋土
	P1561	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径10cm以内の円礫を多量、径2cm以内の灰白色シルトブロック・径1cm以内の炭化物を微量含む	掘り方埋土
	P1332	1	10YR4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色シルトブロック・径2cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を少量含む	掘り方埋土

第28図 11号礎石建物跡(2)

P1560の距離が2.65m、P1560～P1561が1.35m、P1561～P1332が1.35mと、他の建物跡の6尺3寸や6尺5寸に近似した数値とは異なっているが、これは3間分を2分割した三間二つ割による数値とみられる。

P1560は根固石がややまばらに残る状態で、径3～30cmの円礫が充填されており、またP1561は径2～13cmの円礫が密に充填されていたが、双方の根固め上面に礎石を置いた確りなどは確認できなかった。掘り方の土はブロック土を含む砂質シルトを主体とする。

【出土遺物】出土していない。

遺構	礎石長軸	礎石短軸	掘り方平面形状	深さ	備考
P1329	0.67m	(0.62m)	楕円形	—	東側が燧瓦に壊されている。
P1560	(1.19m)	0.87m	(不整形)円形	—	西側が燧瓦に壊されている。
P1561	0.84m	0.76m	不整形)円形	—	
P1332	(0.75m)	0.57m	(整形)円形	—	北側が燧瓦に壊されている。

第7表 11号礎石建物跡 礎石跡一覧表

### (3) 掘立柱建物跡

調査区の全域で9棟の建物跡を検出したうち、柱基礎が掘立柱による掘立柱建物跡は3棟ある。掘立柱建物跡についても礎石建物跡と同様に遺存状態が不良で、いずれも一部の確認に止まり、広く展開するものは無い。明確に柱の痕跡が確認できたものはSB5とSB9で、SB3は上部が大きく削平され、底石が露出する状況であった。また調査では建物とした以外にも多数のピットを確認しているが、これらの中には柱痕跡が認められることで建物跡となる可能性のあるものも多数含まれるとみられる。

#### 3号掘立柱建物跡(SB3)

調査区の中央やや北側、X13～14・Y9グリッドに位置するL字に屈曲する柱六列による掘立柱の建物跡とみられる。確認面はV層で、主要な遺構との重複関係は無いが、SA3が本遺構の西辺手前で途切れている。また東側にはSD15が平行して位置することで関連が窺われる。遺存状況は極めて悪く、底面付近まで大きく削平されていた。

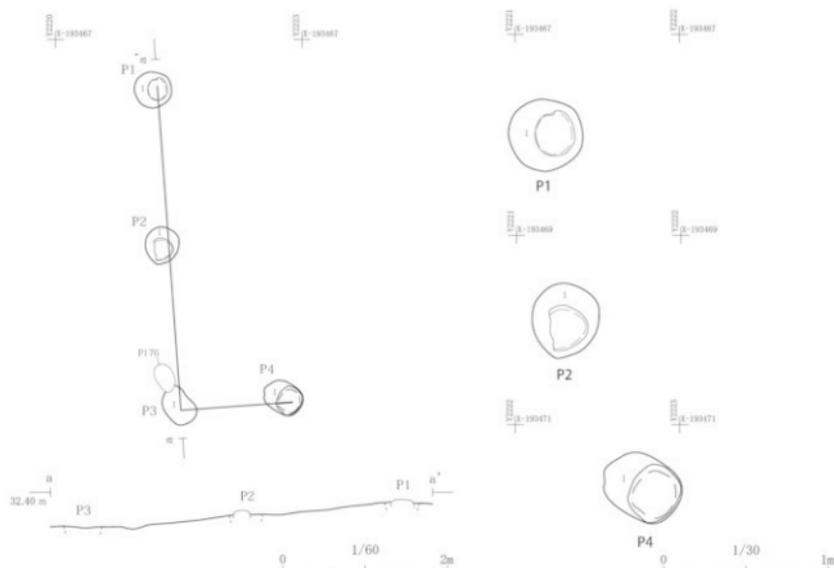
【規模と構造】規模は東西辺1間、南北辺2間で、確認長は柱間で東西辺が1.35m、南北辺が3.95mである。方向は南北列を主軸とするとN-4°-Wである。各柱穴の上部構造は不明であるが、3基の柱穴の底面には柱を受ける底石が1石遺存していた。

【柱穴】柱穴は4基検出され、その内3基の底面には底石が据えられていた。遺存状況が悪いことから詳細は不明であるが、掘り方の形状は円形や楕円形で、規模は30～45cmである。底石は径20～35cmの扁平な自然礫を使用している。柱間距離は南北列が北から2.00m、1.95m、東西列が1.35mと、南北列が6尺5寸に近い柱間であるのに対し、東西列は6尺5寸の2間分を三等分した数値に近い。掘り方埋土はブロック土を含むシルトを主体とし、炭化物と円礫の混入がやや目立つ。

【出土遺物】出土していない。

遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	柱径径	備考
P1	円形	0.45m	0.44m	—	—	
P2	円形	0.44m	0.41m	—	—	
P3	楕円形	0.38m	0.32m	—	—	北側をP176に壊されている。
P4	楕円形	0.48m	0.38m	—	—	

第8表 3号掘立柱建物跡 柱穴一覧表



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SB3P1	1	10YR5/3に灰黄褐色	砂質シルト	径5cm以下の灰白色シルトブロックを少量、径2cm以下の黄褐色シルトブロックを少量、径5cm以上の円礫・径2cm以上の炭化物・径0.5cm以下の白色砂子を微量含む	掘り方埋土
SB3P2・3	1	10YR4/1 灰灰色	シルト	径3cm以下の灰白色シルトブロックを少量、径10cm以上の円礫・径2cm以下の黄褐色シルトブロック・径2cm以下の炭化物を微量含む	掘り方埋土
SB3P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	径3cm以下の灰白色シルトブロックを少量、径10cm以上の円礫・径2cm以下の炭化物を微量含む	掘り方埋土

第29図 3号掘立柱建物跡

### 5号掘立柱建物跡 (SB5)

【位置と重複関係】調査区北東部、X9～10・Y11～13グリッドに位置する東西方向の柱穴列による掘立柱の建物跡とみられる。確認面はⅢF層で、P5が焼面遺構であるSX9を壊している。また南側約3.5mにSE2が位置する。遺存状況は不明だが、SX9の状況から上部はかなり失われているとみられる。柱痕が明確に検出できたのは2基のみである。

【規模と構造】規模は4間で、確認長は柱間で7.55mである。方向はN-82°-Eで、これを基準とする建物の南北軸は西に8°傾く配置となる。

【柱穴】柱穴は5基検出され、その内2基から明瞭な柱痕跡を確認した。柱痕の平面形状は楕円形で、位置はP1が北寄り、P2が南寄りに配置される。掘り方の形状はやや不整形なものが多く、規模は50～90cmである。また、

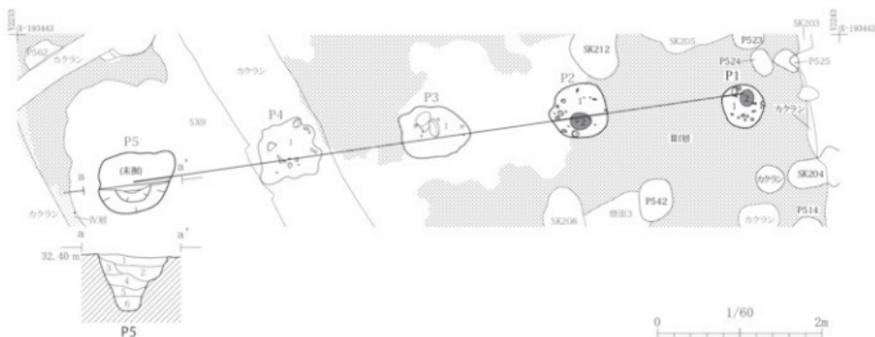
P5の南側を半裁し、下部の確認を行ったところ、確認面から掘り方底面までの深さは68cmで、底面はほぼ平坦で、やや急な傾斜をもって立ち上がり、東側には段差を確認した。P5から柱痕および柱の抜き取り痕は確認できず、他の柱穴も平面上は確認できなかった。

柱間距離は東から2.05 m、1.75 m、1.75 m、2.0 mあり、平均で1.89 m程度である。掘り方土は全てブロック土を多量に含むシルトを主体とする。

【出土遺物】P5の埋土から瓦6点、金属製品1点が出土した。

遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	柱直径	備考
P1	円形	0.52m	0.51m	—	20cm	
P2	不整楕円形	0.70m	0.66m	—	25cm	
P3	不整楕円形	0.82m	0.64m	—	—	
P4	不整楕円形	0.74m	0.71m	—	—	上面を覆瓦に壊されている。
P5	不整楕円形	0.92m	0.74m	68cm	—	SX9を埋している。

第9表 5号掘立柱建物跡 柱穴一覧表



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SBSP1	1	7.5YR5/3にぶい褐色	シルト	径10cm以内の円礫・径5cm以内の黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径2cm以内の炭化物を少量、径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	—
	2	7.5YR4/3褐色	シルト	径5cm以内の灰褐色シルトブロックを少量、径0.5cm以内の炭化物・径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	柱脚跡
SBSP2	1	7.5YR5/4にぶい褐色	シルト	径5cm以内の灰褐色シルトブロックを多量、径5cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を少量、径0.2cm以内の白色粒子を微量含む	—
	2	7.5YR4/3褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径2cm以内の円礫を微量含む	柱脚跡
SBSP3	1	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の黒褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の黒褐色砂質シルトブロック・径1cm以内の灰白色シルトブロックを少量、径20cm以内の円礫を含む	—
SBSP4	1	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の黒褐色砂質シルトブロック・径1cm以内の灰白色シルトブロックを少量含む	—
SBSP5	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	径3cm以内のぶい黄褐色シルトブロックを多量、径1cm以内の炭化物・径5cm以内の円礫を少量含む	—
	2	2.5Y3/2黒褐色	砂質シルト	径3cm以内のぶい黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の円礫を少量含む	—
	3	10YR4/2灰黄褐色	シルト	径3cm以内のぶい黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の円礫を少量含む、径1cm以内の炭化物を微量含む	—
	4	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	径3cm以内のぶい黄褐色シルトブロックを少量、径3cm以内の円礫を微量含む	—
	5	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	径2cm以内のぶい黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の円礫を少量含む	—
	6	2.5Y3/1黒褐色	シルト	径5cm以内のぶい黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の円礫を少量、炭化物を微量含む	—

第30図 5号掘立柱建物跡

### 9号掘立柱建物跡 (SB9)

【位置と重複関係】調査区南西部に設定した拡張トレンチ6に位置する。X19～20・Y4～5グリッドにかけて検出した柱穴による掘立柱の建物跡とみられる。確認面はV層で、主要な遺構との重複関係は、P4が崩跡であるSA2を壊して構築されている。遺存状況は不良である。P4とⅢc層石敷遺構との関係が不明瞭であるが、Ⅲc層

石敷き遺構が下部遺構である堀跡のSA2やこの建物のP4付近で止まり、これより西側に延びる状況が確認できない。また同時にこの位置を境に東側に段状に削られ低くなる何かしらの基礎地業が存在し、それはSB9の方向と平行する状況から、建物と石敷遺構は同時存在した可能性もある。

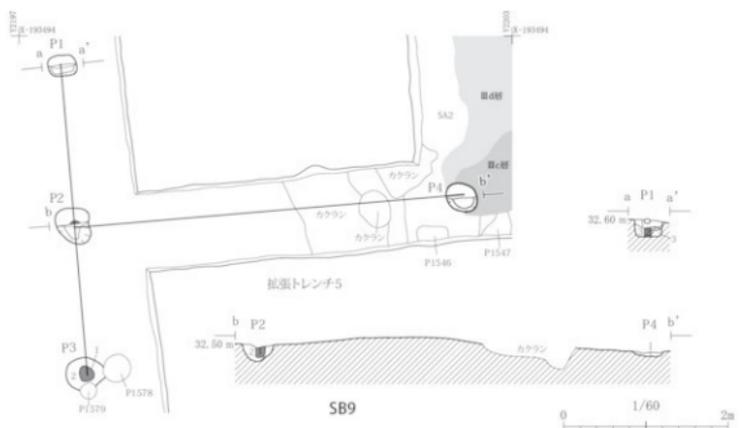
【規模と構造】規模は東西1間、南北2間で、P2とP4が直角に配置されている。確認長は柱間で東西4.8m、南北3.8mである。方向は南北列側ではN-5°-Wである。但しP4の北側と南側にこれと組むような柱跡は確認できなかった。

【柱穴】柱穴は4基検出され、その内3基から柱の抜き取り穴の可能性のある痕跡を確認した。抜き取り穴は柱穴の中央に位置し、平面形状はほぼ円形である。P1では抜き取られた柱の痕跡が掘り方下部に確認できる。掘り方の形状は円形や楕円形で、径は0.5～0.8mである。P1・2・4の南側を半截し、下部の確認を行ったところ、掘り方底面までの深さは7～20cmと浅く、底面はほぼ平坦で、ほぼ垂直に立ち上がる形状である。柱間距離は南北列が北から1.95m、1.85mで、東西列の柱間距離4.8mを南北の平均値で割ったところ、約2.5となることから、東西部分は2間半分の柱間をもつ建物との推定が可能である。掘り方土は全てブロック土を多量に含むシルト質土である。

【出土遺物】遺物は出土していない。

遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	柱径	備考
P1	楕円形	0.52m	0.51m	20cm	7cm	
P2	木物円形	0.70m	0.66m	19cm	10cm	
P3	(楕円形)	0.82m	0.64m	—	20cm	P1578・P1579に壊されている。
P4	楕円形	0.74m	0.71m	5cm		

第10表 9号掘立柱建物跡 柱穴一覧表



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SB9P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径3cm以内の円礫を少量、径1cm以内の灰褐色シルトブロック・径1cm以内の炭化物を微量含む	柱採取
	2	2.5Y4/2 暗灰褐色	シルト	径1cm以内の炭化物を少量、径1cm以内の灰黄褐色シルトブロックを微量含む	柱採取
	3	2.5Y5/3 灰黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を微量含む	—
SB9P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径1cm以内の灰褐色シルトブロック・径3cm以内の円礫を少量含む	柱採取
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	径1cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を微量含む	—
SB9P3	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径1cm以内の灰褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を微量含む	柱採取
	2	2.5Y4/2 暗灰褐色	砂質シルト	径1cm以内の炭化物を少量、径1cm以内の灰褐色シルトブロックを微量含む	—
SB9P4	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径3cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を少量含む	—

第31図 9号掘立柱建物跡

#### (4) 堀跡

堀跡の基礎とみられる溝状遺構や柱列は調査区のほぼ全域で8基を検出した。分布の傾向としては、遺構の重複関係が少ない東側全体と、北西側にかけてみられる。堀跡や柱列は方向の違いにより、東西方向のもの5基、南北方向のもの2基、東西と南北に鉤型に屈曲するもの1基に分けられ、また基礎構造の違いにより、溝状に掘った中に柱を等間隔に据える構造のもの4基、円形や方形の柱穴が一列に並ぶもの4基に分けられる。ただし基礎が溝状のものについては堆積土中、若しくは掘り方底面に柱痕跡が確認されることから堀跡と判断したが、柱穴が連続するものについては、調査区全体の削平状況を考慮すると、建物跡の一部の可能性も否定できない。また柱列としたものについては、遺存状況の悪い掘立柱建物跡の可能性もあるが、全体の柱間寸法が近世の建物の柱間である6尺5寸や6尺3寸より狭いことから、ここでは堀跡として扱った。なお他にも礎石跡が幾つか並ぶものが確認されているが、これらについては柱間が建物より狭くなるものの一部は堀跡として扱ったが、多くは構造上の理由を考慮し建物跡として扱っている。

遺存状況は総じて不良で、特に柱穴列のものは短いものが多いが、溝状のものには長く伸びるものが多く、中には途中で途切れることで、堀の端部位置が判明したものもある。

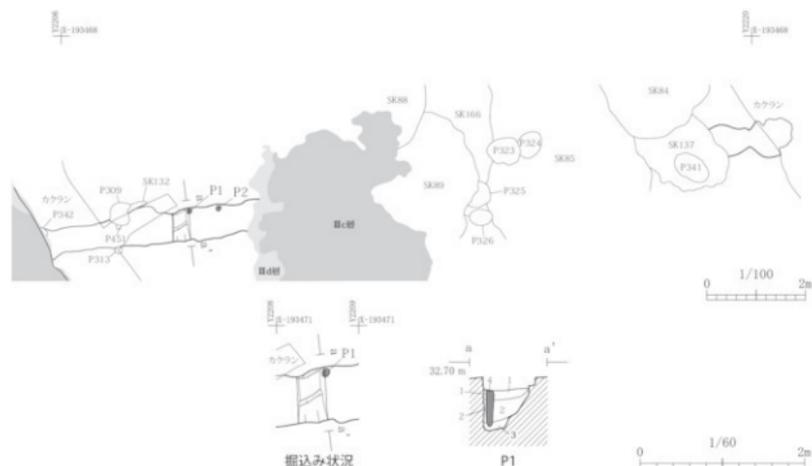
##### 1号堀跡 (SA1)

[位置と重複関係] 調査区の西部、X14～15・Y6～9グリッドに位置する溝状の掘り方が東西方向に走る堀跡である。確認面はV層である。中央部はSK85・89・137などの大型土坑や掘乱に壊され、西端はⅢc層石敷遺構に被覆されているため西側への伸びは不明である。また東端は東に近接するSB3の南北柱列手前で途切れており、本遺構との関連が窺われる。

[規模と構造] 溝状の掘り方規模は確認長で15.3m、掘り方幅35～75cm、検出面からの深さは65cmで、方向はN-81°-Eで、直線的に延びる。

遺構の掘り込み調査は西端から約2.5mの地点で行った。掘り方の底面は平坦で、壁面は南壁がやや傾斜して立ち上がり、途中で段差がみられ、北壁の立ち上がりはほぼ垂直である。

埋土は4層に分層でき、1～3層は地山ブロックを主体とする掘り方埋土で、締まりが良く各層がほぼ水平に



第32図 1号堀跡 (1)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SA1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径10cm以内の円礫を少量、径2cm以内の灰白色シルトブロック・径1cm以内の円礫を含む	—
	2	10YR7/2 濃い黄褐色	粘土	径8cm以内の灰白色シルトブロックを多量、径2cm以内の円礫を含む	—
	3	10YR4/3 濃い黄褐色土	シルト	径2cm以内の灰白色シルトブロックを少量、径1cm以内の円礫を含む	—
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	径3cm以内の円礫を少量、径1cm以下の灰白色シルトブロックを微量含む	柱痕跡 (P1)

第33図 1号堀跡(2)

堆積している。4層は柱痕跡で、色調が暗くブロックを僅かに含んでいる。

〔柱痕跡〕北壁に接するように2基の柱痕跡を検出した。上部が削平されているためか、柱の抜き取り痕跡は確認できない。形状は円形で、径はP1、P2共に10cm程度である。P1を半裁したところ、柱痕跡は掘り方底面までは届いていないことが判明した。P1とP2間の距離は60cmである。その他の箇所については他遺構との重複もあり柱痕跡は確認できなかった。

〔出土遺物〕掘り方直土から陶器1点、磁器1点、瓦7点、金属製品3点が出土した。

### 2号堀跡(SA2)

〔位置と重複関係〕調査区の西部、X13～20・Y4～5グリッドに位置する溝状の掘り方が南北方向に走る堀跡である。確認面はV層である。今回の調査で検出した遺構の中では、調査区西側に広域にみられる石敷遺構に次ぐ規模である。堀跡は年次ごとに設定した西側への拡張トレンチのみで断続的に確認している。

他の遺構との重複関係は、拡張トレンチ3～6において、Ⅲc層石敷遺構が堀跡を一部で被覆しており、また拡張トレンチ5ではSB9に壊されている。

〔規模と構造〕溝状の掘り方規模は確認長で34.6m、掘り方の最大幅1.3m、検出面からの深さは30～57cmで、拡張トレンチ4部分では他より幅が狭くなっている。方向はN-4°-Wで、調査区方向とほぼ合っており、直線的に延びる。

遺構の掘り込み調査は拡張トレンチ2・4・5で行った。掘り方の底面はほぼ平坦で、壁面は拡張トレンチ2・5ではやや傾斜があり、拡張トレンチ4ではほぼ垂直に立ち上がる。

理土は7層に分層でき、1～6層が掘り方埋め土、柱痕跡が7層である。掘り方直土はブロック土を含む砂質シルトを主体としている。

〔柱痕跡〕柱痕跡は拡張トレンチ2から3基、拡張トレンチ4から1基を検出した。柱の抜き取り痕跡は確認できない。拡張トレンチ2のP1～3は掘り方の中央よりやや西側に位置し、平面形状はP1・3が円形、P2が楕円形である。柱痕跡の径はP1・2が12cm、P3が14cmである。掘り込みを行ったのはP3のみで、検出面からの深さは41cmで、先端は掘り方の底面に達している。拡張トレンチ4で検出したP4は、掘り方の西壁に接する位置にあり、平面形状は円形で、柱痕跡の径は9cmである。柱間距離はP1～P2、P2～P3ともに60cmである。

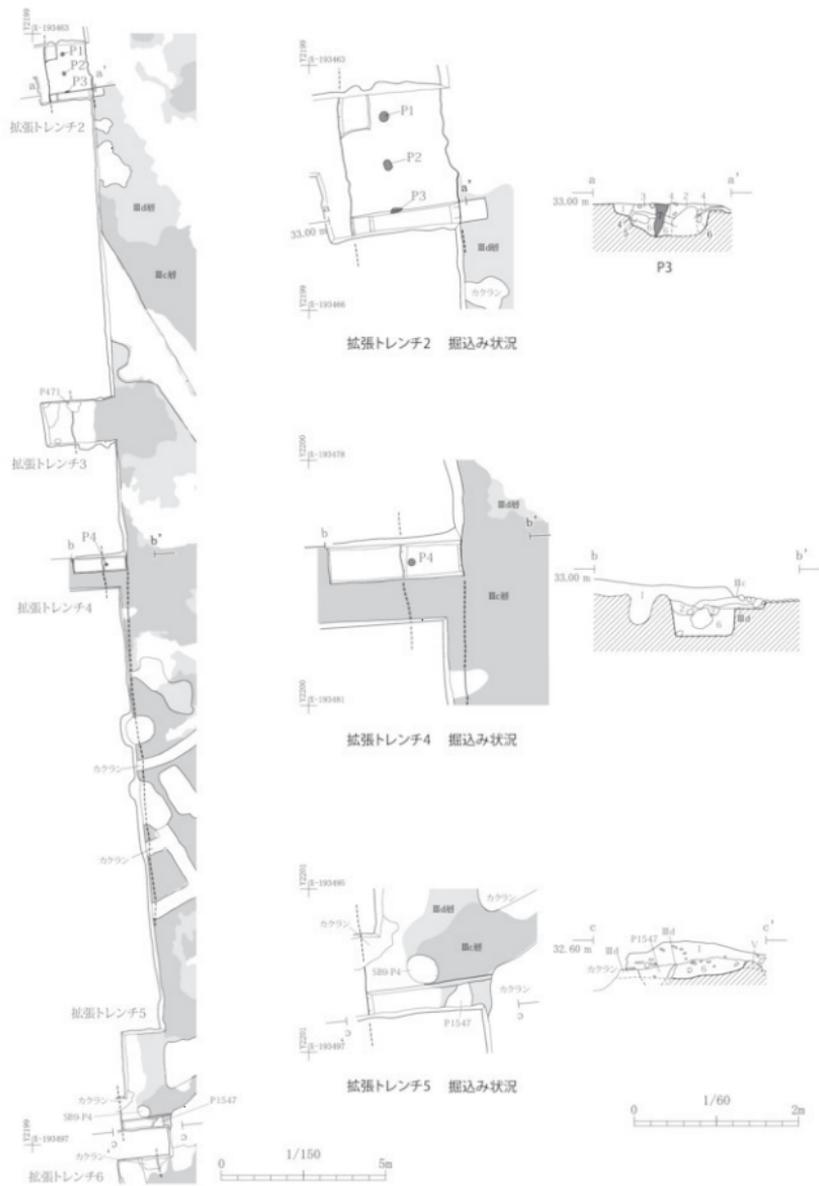
〔出土遺物〕掘り方直土より陶器1点、金属製品1点が出土した。

### 3号堀跡(SA3)

〔位置と重複関係〕調査区中央部のやや北側、X12～13・Y9～12グリッドに位置する溝状の掘り方が東西方向に走る堀跡である。確認面はIV層である。東側はX12・Y12グリッドで途切れており、西側は大型の土坑であるSK113、SD9、SX4や、さらに西側の大型土坑群に壊され、遺存状況は悪い。

〔規模と構造〕遺構の上面は削平が著しく、溝の途中が部分的に断絶している箇所がみられる。溝状の掘り方の規模は確認長で10.4mあるが、東端は止まるか或いは削平されたかは不明である。掘り方幅は20～30cmで、検出面からの深さが10cmと狭く浅いものである。方向はN-70°-Eで、僅かにカーブを描いている。

遺構の掘り込みは西端から約1.5mの地点で行った。遺構上部が大きく削平されているため、掘り方上部の形状等は不明であるが、遺存する壁面下部においては壁が垂直気味に立ち上がる。



第 34 図 2号壩跡 (1)

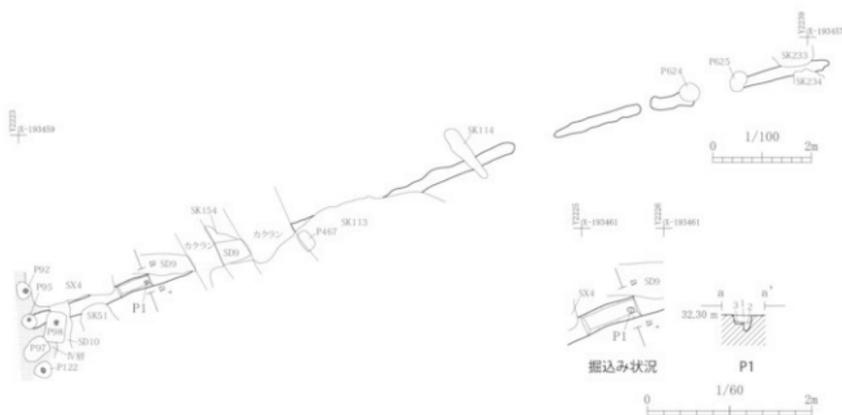
遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SA2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径30cm以内の円礫を多量、径1cm以内の灰黄褐色シルトブロックを少量、炭化物を微量含む	—
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質土	径10cm以内の円礫を含む	—
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径1cm以内の近い黄褐色シルトブロックを少量、炭化物粒子を微量含む	—
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径10cm以内の灰黄褐色シルトブロック、径5cm以内の円礫を含む	—
	5	10YR1/2 黒色	粘土質シルト	径1cm以内の黒色粘土質シルトブロックを少量含む	—
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径15cm以内の円礫を多量、炭化物を微量含む	—
	7	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	径1cm以内の灰黄褐色シルトブロック・径3cm以内の円礫を少量、炭化物を微量含む	P3(柱断面)
SA2P1・2・4	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	径1cm以内の灰黄褐色シルトブロック・径3cm以内の円礫を少量、炭化物を微量含む	柱痕跡

第35図 2号堀跡(2)

埋土は柱の抜き取り痕とみられる1・2層と掘り方埋土の3層に分層できる。

〔柱痕跡〕南壁際の掘り方底面において柱の抜き取り痕跡を検出した。柱先端部分は掘り方底面より下にあり、残存部分での平面形状は不整形形で、径は10cm、掘り方底面からの深さは12cmである。検出面では柱痕跡が確認できなかったことから、柱は後に全てが抜き取られたと考えられる。

〔出土遺物〕出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SA3	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	径1cm以内の灰白色シルトブロックを多量含む	柱状取込
	2	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	径1cm以内の灰白色シルトブロックを多量含む	—
	3	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	黒褐色シルト粘土を含む	—

第36図 3号堀跡

#### 4号堀跡(SA4)

〔位置と重複関係〕調査区の東側、X15～16・Y12～15グリッドに位置する柱穴が並ぶ東西方向の堀跡で、10基の柱穴が並ぶ。確認面はⅢF層である。西側は掘乱により壊され、東側は調査区外へ延びるかは不明である。幾つかの柱穴はピットと重複関係があり、これより古い。また約5m北側にはSD2が平行して延び、約3m北側には礎石跡で構成されるSB6が垂直方向の位置関係に存在する。

〔規模と構造〕規模は確認長で12.1m、方向はN-68°-Eで直線的に延びる。掘乱内に位置するP7を掘り込んだところ、掘り方の深さは残存の良好な確認面から29cmで、底面はほぼ平坦で、掘り方埋土はブロック土が主



遺構	層位	土色	土質	特徴	備考
SAA P1	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	径5.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカ・径10.5cm以内の白色粘土を多量、径20.0cm以上の円礫を少量含む。	—
	2	2.5Y5/2 暗灰色	砂質シルト	径3.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカ・径10.5cm以内の白色粘土を少量含む。	柱廻跡
SAA P2・5・8	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径5.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカ・径10.0cm以内の円礫を少量含む。	—
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径3.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカを少量含む。	柱廻跡
SAA P7	1	2.5YR4/2 オリーブ褐色	砂質シルト	径1.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカを含む。	—
	2	2.5YR4/2 暗灰色	砂質シルト	径1.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカ・径1.0cm以内の白色粘土を少量含む。	柱廻跡
SAA P6・9	1	2.5YR4/1 黄灰色	砂質シルト	径5.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカ・径2.0cm以内の黒褐色シルト・フロッカを少量含む。	—

第37図 4号堀跡

体である。

〔柱穴〕柱穴は10基確認し、このうち柱痕跡を検出したのはP1～5・7・8・10の8基あるが、掘乱により、P1と7の遺存状況は不良である。柱の抜き取り痕跡は確認できない。掘り方の形状は隅丸方形を主体に残存の悪いものは楕円形となり、規模は40～80cmで、柱痕跡の平面形状は円形や楕円形、径は12～17cmである。柱間距離は1.1～1.4mで、全体長を柱間数で割った平均は1.28mである。各柱穴の柱位置は北側に寄るものや南側に寄るものなど様々である。

〔出土遺物〕出土していない。

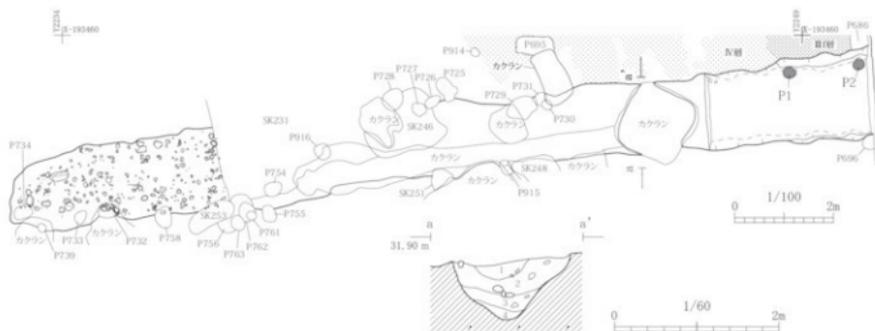
遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	柱径	備考
P1	隅丸方形	0.56m	0.28m	—	—	南側に掘乱に壊されている。
P2	隅丸方形	0.79m	0.67m	—	17cm	—
P3	不整隅丸方形	0.67m	0.57m	—	13cm	P908と重複する。
P4	隅丸方形	0.65m	0.63m	—	14cm	—
P5	楕円形	0.76m	0.43m	—	14cm	P841と重複する。
P6	隅丸方形	0.81m	0.55m	—	—	P1235と重複する。
P7	隅丸方形	0.65m	0.54m	32cm	13cm	上面が掘乱に壊されている。
P8	隅丸方形	0.62m	0.55m	—	14cm	P829・1234と重複する。
P9	不整楕円形	0.41m	0.35m	—	—	掘乱に壊されている。
P10	隅丸長方形	0.64m	0.47m	—	13cm	—

第11表 4号堀跡 柱穴一覧表

### 5号堀跡(SA5)

〔位置と重複関係〕調査区の東部、X13・Y11～15グリッドに位置する溝状の掘り方が東西方向に走る堀跡である。確認面はⅢe層面である。確認した溝状の掘り方の長さは比較的短いものの、掘り幅や深さは今回の調査で検出した堀跡の中では最大規模である。西端は大型の土坑のSK113の手前で途切れ、土坑の西側へは延びず、東側は調査区外へ延びている。他の遺構との重複関係は、西端から約5mの地点でSK231・246と重複し、堀跡が古い。また南側にSE3やSD2が近接しているが、SD2は方向性がやや異なっている。

〔規模と構造〕溝状の掘り方規模は確認長で17.2m、掘り幅1.45～1.75m、検出面からの深さは70～98cmである。方向はN-74°-Eで直線的に延びる。遺構の掘り込みは東端から約4.5mまでの範囲において柱痕跡



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SA5	1	10YR2/2黒褐色	シルト	径30m以内の円礫を少量、白色粒子を微量含む	—
	2	10YR3/2黒紫色	シルト	径15m以内の円礫を少量、炭化物を微量含む	—
	3	10YR4/2灰黒紫色	シルト	径5m以内の黒色シルトブロック・径2m以内の灰白色シルトブロックを少量含む	—
	4	10YR3/3暗紫色	砂質シルト	径2m以内の円礫を少量、径1m以内の灰白角礫土上ブロックを少量含む	—
SA5P1・2	1	10YR3/3暗紫色	砂質シルト	径2m以内の灰褐色砂質シルトブロックを少量、径1m以内の炭化物・径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	柱痕跡

第38図 5号堀跡

の確認を行った。壁の立ち上がりは底面近くは緩やかな傾斜であるが、壁面中位から上は急傾斜となる。

埋土は4層に分層した。掘り方埋土はブロック土を主体とし、西側の埋土上部では5～20cm大の円礫とともに瓦の小破片の混入が目立つ状況であったが、これが意図的なものかは不明である。

[柱痕跡] 掘り込み箇所北側の壁際に柱痕跡を2基確認した。平面形状は円形で、径は15cm、柱間距離は1.4mである。柱痕跡の先端については掘り方底面まで掘削していないことから不明である。また柱の抜き取り痕跡は確認できない。

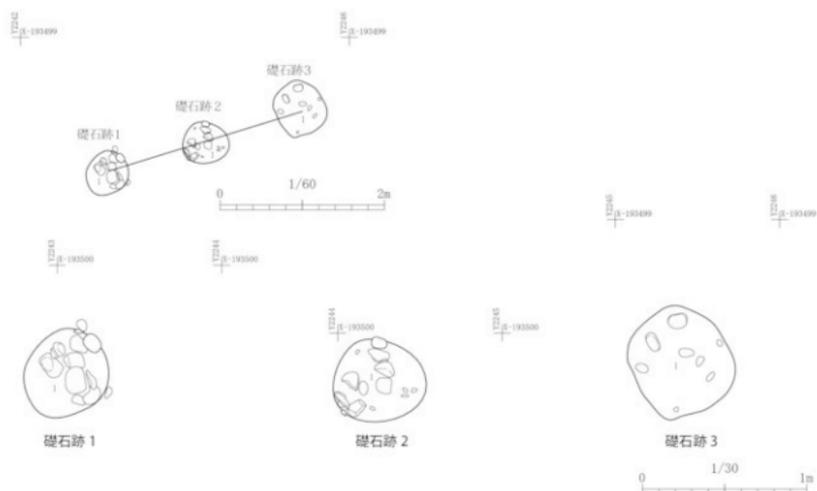
[出土遺物] 掘り方埋土より陶器2点、土師質土器9点、瓦185点が出土した。

#### 6号塀跡(SA6)

[位置と重複関係] 調査区の南東部、X20～21・Y13～14グリッドに位置する東西方向の礎石跡によるもので、柱間の関係から塀跡としたが、2間を三つ割した柱間の建物跡の一部である可能性も否定できない。確認面はV層である。主要な遺構との重複関係はないが、平行して延びるSD37とSD57に挟まれるように位置し、約4m北側にはSA8が、南側にはSX10が近接する。SA8は柱穴が連続して並ぶ基礎構造の塀跡で、上面は大きく削平され、底石が露出する状況であったが、本遺構とほぼ垂直方向に配置されることから関連が窺われる。

[規模と構造] 3基の礎石跡で構成され、2間分の長さは2.5mで、方向はN-71°-Eである。遺構の掘り込みは行っていないため、下部の構造は不明である。また控柱等の付属施設については確認できなかった。

[礎石跡] 礎石跡は3基確認したが礎石自体は失われている。平面形はほぼ円形で、径は54～62cm、柱間距離の平均は1.28mである。西側に位置する礎石跡1は、径が20cm以下の根固石が東側に遺存していた。中央部の礎石跡2もまばらではあるが15cm以下の根固石が西寄りに遺存していた。東側に位置する礎石跡3は最も遺存状



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SA6 礎石跡1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径20cm以内の円礫を多数、径1cm以内の炭化物を少量、径1cm以内の白色粒子を微量含む	—
SA6 礎石跡2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径20cm以内の円礫を少量、径1cm以内の炭化物を微量含む	—
SA6 礎石跡3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物・径2cm以内の白色粒子を微量含む	—

第39図 6号塀跡

況が悪く、根固石は北寄りに僅かに残り、径は5～10cm程度である。各礎石跡とも残存が悪いためか、礎石の抜き取り穴は確認できない。

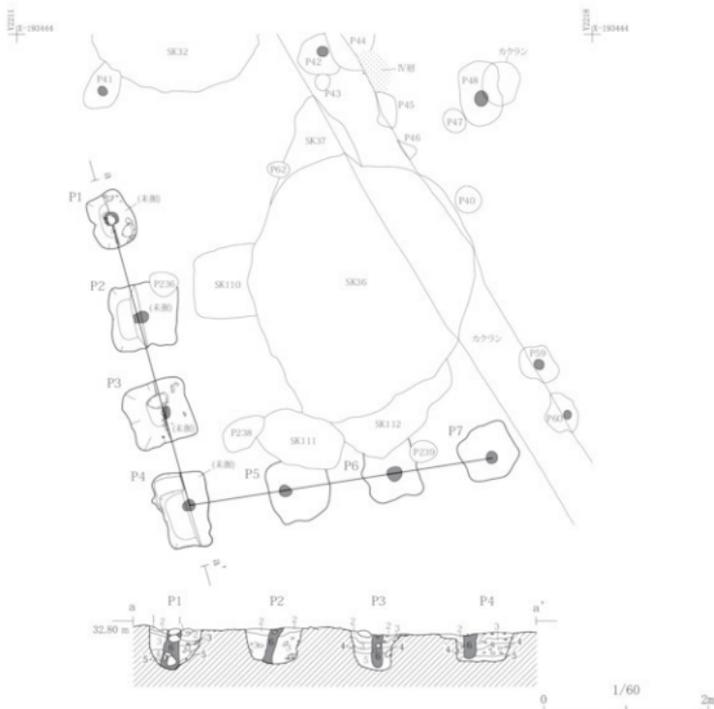
[出土遺物] 出土していない。

遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	備考
礎石跡1	円形	0.54m	0.40m	—	
礎石跡2	円形	0.56m	0.50m	—	
礎石跡3	不規則円形	0.62m	0.57m	—	

第12表 6号堀跡 礎石跡一覧表

### 7号堀跡 (SA7)

[位置と重複関係] 調査区の東側、X10～11・Y7～8グリッドに位置するL字に屈曲する柱穴列による堀跡である。確認面はIV層である。柱列は直角ではなく僅かに開くことから、建物跡の一部ではなく、堀跡と判断した。主要な遺構との重複関係はないが、井戸状となる土坑のSK36の南西部分を囲うように位置する状況が見られる。並行間



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SA7P1～7	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径2cm以内の灰黄褐色シルトブロックを少量、径5cm以内の門礎を含む	—
	2	10YR4/3 に、黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の灰黄褐色シルトブロックを少量、径3cm以内の門礎を含む	—
	3	10YR5/3 に、黄褐色	砂質シルト	径5cm以内の灰黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以内の門礎を少量含む	—
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径2cm以内の灰黄褐色シルトブロックを少量、径5cm以内の門礎を含む	—
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5cm以内の暗褐色～灰白色シルトブロックを多量、径8cm以内の門礎を少量含む	—
	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径12cm以内の門礎を含む	柱礎跡

第40図 7号堀跡

係にはないが、南側にSD7が近接する。遺存状況は比較的良好で、各柱穴の柱痕跡も明瞭に確認できる。遺構の掘り込みは南北辺のP1～P4で半載した。

[規模と構造] 規模は東西辺、南北辺ともに3間で、確認長は柱間で二辺とも3.7m程度である。方向は東西列がN-81°-E、南北列がN-15°-Wである。双方の延長部分には大きな攪乱が存在しないにも関わらず、柱穴が見られないことから、本来、扉は何かしらの一部を目隠しする短いものだった可能性がある。

[柱穴] 柱穴は7基検出され、各柱穴に柱痕跡を確認した。掘り方の形状は隅丸方形のものが多く、規模は50～90cmである。確認面から掘り方底面までの深さは35～50cm、柱痕の平面形状は円形または楕円形で径は12～17cmである。東西辺と南北辺での規模や構造に違いは見られない。また柱の抜き取り穴は確認できない。

柱間距離は南北列が北から1.25m、1.2m、1.2mあり平均で1.22m、東西列が東から1.2m、1.35m、1.2mあり平均で1.25mである。各柱穴の柱の位置は掘り方の中心に位置するものが殆んどである。半載を行ったP1～P4においては、掘り方底面は平坦で、P1・2の柱痕跡は底面に達している。P1の掘り方壁面の立ち上がりは、底面よりやや傾斜するが、P2～P4は底面より垂直気味に立ち上がっている。

掘り方埋め土は全てブロック土を主体とし、径3～8cm程度の円礫の混入がやや目立つ。

[出土遺物] 幾つかの柱穴から陶器1点、瓦質土器2点、土師質土器1点、瓦51点、金属製品1点があり、P4から出土した金属製品は銭貨で腐食が著しく、種類や名は不明である。

遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	柱径	備考
P1	不整隅丸長方形	0.65m	0.54m	48cm	15cm	
P2	隅丸方形	0.78m	0.75m	44cm	12cm	
P3	隅丸方形	0.75m	0.74m	43cm	15cm	
P4	隅丸長方形	0.91m	0.65m	35cm	15cm	
P5	隅丸方形	0.73m	0.73m	—	14cm	北側がSK111と重複する。
P6	不整隅丸方形	(0.55m)	0.67m	—	17cm	SK112とP239と重複する。
P7	不整隅丸方形	0.68m	0.65m	—	13cm	

第13表 7号堀跡 柱穴一覧表

## 8号堀跡(SA8)

[位置と重複関係] 調査区の南東部、X18～20・Y12～13グリッドに位置し、確認面はV層である。一部で2列になる南北の配置であり、5次調査で検出したP943・947・958が北側の一部を構成している。本遺構は調査時に建物跡としていたが、東西方向にはこれ以上展開せず、一部で二列になる状況も確認できるが、この部分に関しては控柱の可能性も考慮し、ここでは堀跡とした。

主要な遺構との重複関係はないが、約4m南側には東西方向のSA6が位置する。SA6の掘り方内には小礫が含まれ、礎石立ちの崩跡の可能性が考えられているが、垂直関係にあることから、関連が窺われる遺構である。遺構の掘り込みはP4で半載を行っている。

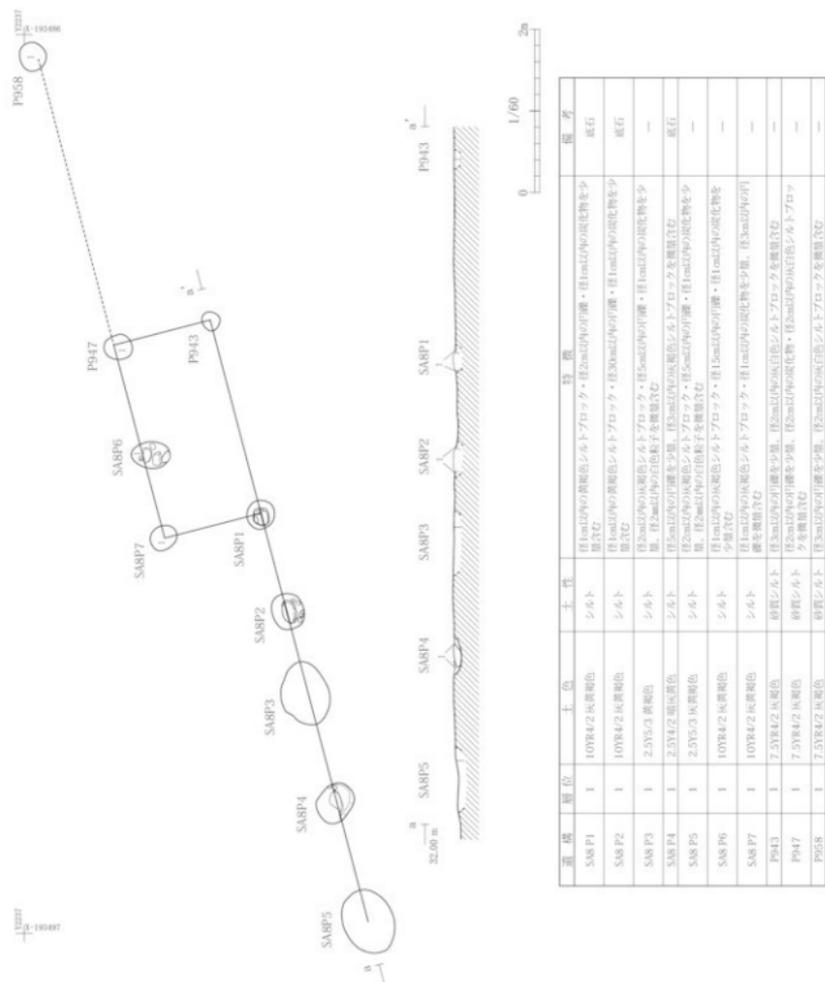
[規模と構造] 堀跡は中央で鉤型に屈曲するとみられ、直線としてみた規模は9間程度で、確認長は11.3mである。方向はN-14°-Wで、西列と東列が並行して並んでいる。柱間距離は西側列のP7とP6が1.0m、P6とP947が1.35m、P947とP958が3.65mで、平均が1.2mである。P947とP958の間に柱穴は確認できなかったが、3間分の長さであることがわかる。また東側の柱間はP5とP4が1.5m、P4とP3が1.3m、P3とP2が1.05m、P2とP1が1.25mで平均1.28mであり、P1とP943が2.45mことから、ここは2間分の長さとなっている。両列の幅は1.2m程度でこれもまた1間分程度の距離となっている。

本遺構は2列配置になることから、当初は掘立柱建物跡の可能性も考えたが、柱間全体が当時の建物の基準とは合わないことから、崩跡としている。したがって扉は鉤型に曲り、P943については控柱の可能性もある。仮に控柱が扉本体の東側に配置されていた場合は、東側が何らかの区画の内側となる。

[柱穴] 柱穴は全部で10基検出した。残存は極めて悪く、幾つかの柱穴では掘り方底面に設置した底石が露出す

る状況である。底石が遺存していたのは、P1・2・4の3基である。底石は径23～28cm程度の扁平の円礫を使用し、底石上部の標高はP1が31.64m、P2が31.62m、P4が31.65mとほぼ同一である。底石が失われているとみられる柱穴では残存が悪いためか、石の抜き取り穴は確認されていない。またP6では径が15cm以内の礫が数石見られたが、その性格は不明である。半蔵調査を行ったP4は掘り方の深さが8cmと非常に浅く、残存状況の悪さが判明した。

[出土遺物] 出土していない。



第41図 8号堀跡

遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	備考
P943	円形	0.21m	0.21m	—	
P1	楕円形	0.35m	0.34m	—	東側が SK361 と重複する。
P2	楕円形	0.42m	0.40m	—	
P3	楕円形	0.78m	0.58m	—	西側が P1275、東側が SK362 と重複する。
P4	不整形楕円形	0.50m	0.40m	16cm	
P5	楕円形	0.80m	0.60m	—	
P958	円形	0.35m	0.33m	—	
P947	円形	0.32m	0.29m	—	
P6	楕円形	0.48m	0.35m	—	北側が P1589、南側が P1590 と重複する。
P7	楕円形	0.36m	0.29m	—	

第 14 表 8号堀跡 柱六一覧表

## (5) 井戸跡

今回の調査で検出した確実と井戸跡とみられるものは 5 基で、他にも規模や構造等から井戸に類似するものが存在するが、これらは土坑として扱った。井戸跡は北東部に 2 基、西部に 1 基、南部に 2 基と、調査区全体に点在する。検出したものには石組み壁のものが 4 基、何らかの井戸枠が組まれていたものが 1 基あり、素掘りのものは無い。石組みには自然の円礫を使用し、石材はやや細長い形状の円礫を主体に組まれるが、中には玄武岩質の割石を組んだものもある。また円礫の小口部分を打ち欠いて面とし、壁面を揃えているものもある。掘り方からみた規模は、SE1・4・5 が径 3 m 以下のやや小型で、SE2 と 3 は径約 3.5 m のものである。井戸の付属施設を検出したのは SE4 のみで、上層施設の柱痕跡と考えられる南北方向の柱穴 2 基を検出した。

遺構の掘り込みを行ったのは SE3 を除く 4 基で、このうち、底面まで掘り込んだのは SE1 で、SE2・4・5 の 3 基については途中までの半截調査を行っている。掘削は安全面を考慮し、遺構検出面から約 1.5 m までの深さで止めている。

### 1号井戸跡 (SE1)

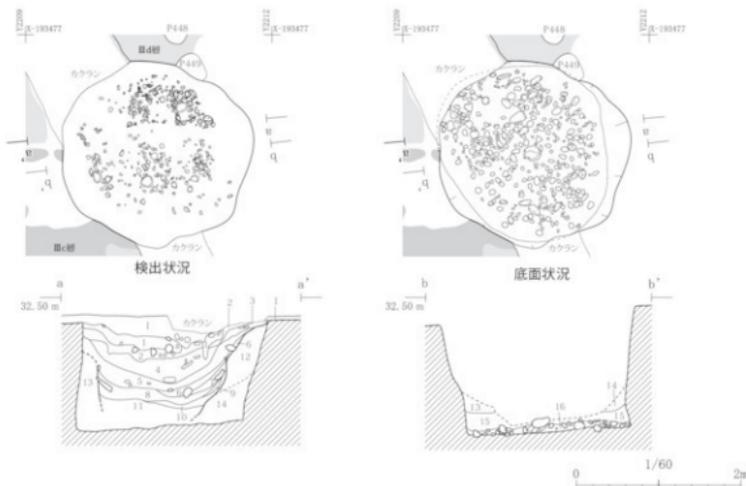
[位置と重複関係] 調査区西部、X16・Y6 ～ 7 グリッドに位置する。主要な遺構との重複関係は、Ⅲ c 層石敷遺構が井戸の掘り方部分のみならず、埋土上面を被覆していた可能性があり、北側には SD2 が近接する。西側の上部を掘削に削平されているが、遺存状況は比較的良好である。

[規模と構造] 掘り方の平面形は円形で、掘り方の規模は、径 2.3 m、検出面から掘り方底面までの深さは 1.45 m 程度とかなり浅いものである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、一部ではオーバーハングする箇所もみられる。壁際には掘り方埋土の残存とみられる層とその崩落土が確認できることから、内側には石組みでは無い木枠などが組まれ、壁面のオーバーハングは地山の崩落によるものと考えられる。また埋土下部の 11 層中には何らかの板材や木片が多量埋まっており、これは井戸枠の構架材の一部の可能性があるので、井戸の廃絶に伴い、井戸枠の一部が廃棄されたものとみられる。

掘り方底面はほぼ平坦である。底面から井戸枠の基礎等の施設は確認できなかったが、壁際を除く底面全体には径 5 ～ 10 cm 程度の自然礫がまばらに敷かれた状況が確認された。壁面際に礫が見られないのは礫が掘り方底面までは敷かれなかったことが理由と言える。

[埋土] 埋土は井戸の掘り方埋土とその崩落土、その上部に堆積する人為堆積土とに分層される。埋土下半部の 11 層中からは何らかの植物遺体と共に木製品が出土した。また上部では井戸の上面の一部を覆うⅢ c 層石敷遺構とその下面に敷かれたⅢ d 層整地土が井戸上で沈下する状況が観察された。Ⅲ d 層から 11 層までの層に関しては、ブロック土や小礫、炭化物等を多く含み、人為的に埋められた層と考えられる。

[出土遺物] 陶器 79 点、磁器 44 点、軟質施釉陶器 6 点、瓦質土器 7 点、土師質土器 10 点、瓦 666 点、石製品 1 点、木製品 150 点、金属製品 8 点、非ロクロ土師器 1 点と多くの遺物が出土した。これらの遺物の出土層位をみると、掘り方埋土の崩落土と考えられる 8・9 層を境に上層では陶磁器、瓦、金属製品が多く出土している。



下層遺物出土状況(11層中)



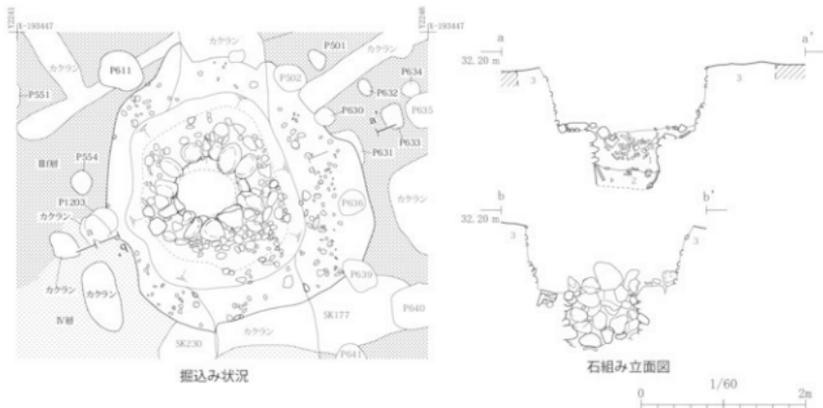
遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SEI	1	10YR3/2 暗褐色	砂	径10cm以内の円礫を少量含む	—
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	径10cm以内の円礫・砂粒を少量、径1cm以内の炭化物・径1cm以内の黄褐色粘土質シルトブロックを微量含む	—
	3	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物を多量、径1cm以内の焼土粒子を少量含む	—
	4	10YR4/1 暗灰色	砂	径10cm以内の円礫を少量、径1cm以内の炭化物を微量、径2cm以内のふい黄褐色砂質シルトブロックを含む	—
	5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径8cm以内の円礫・炭化物を少量、径3cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを含む	—
	6	10YR2/1 黒色	シルト	径1cm以内の灰黄褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物を含む	—
	7	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径3cm以内の暗灰黄色シルトブロックを多量、炭化物を微量含む	掘り方埋土の崩壊土
	8	2.5Y3/4 黒褐色	粘土質シルト	径2cm以内の炭化物を少量、炭化物・植物遺体・木片を含む	—
	9	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を含む 径1cm以内の灰黄褐色砂質シルトブロックを少量含む	掘り方埋土の崩壊土
	10	5Y4/2 灰オリーブ色	粘土質シルト	径3cm以内の暗灰黄色シルトブロックを多量、炭化物を少量含む	掘り方埋土の崩壊土
	11	5Y4/3 暗オリーブ色	粘土	径20cm以内の円礫を多量、炭化物を微量、植物遺体・木片・板材を含む	地山崩壊土
	12	10YR3/2 黒褐色	粘土	植物遺体・木片を含む	掘り方埋土
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	径1cm以内の炭化物を少量、径2cm以内のふい黄褐色シルトブロックを含む	掘り方埋土
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	径3cm以内のふい黄褐色シルトブロック・径10cm以内の円礫・炭化物を含む	掘り方埋土
	15	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	砂粒を多量、炭化物を微量含む	掘り方埋土
	16	10YR4/1 暗灰色	砂	径20cm以内の円礫を含む	掘り方埋土

第 42 図 1号井戸跡

## 2号井戸跡 (SE2)

【位置と重複関係】調査区北東部、X10～11・Y13～14 グリッドに位置する石組みの井戸跡で、確認面はⅢf層である。主要な遺構との重複関係はないが、4 m北側にSB5、南西約16 mにSE3が位置し、南東側にはSB7やSD21が近接する。上部80cm程度が攪乱により壊されていたため上部構造は不明で、下部での確認である。遺構の掘り込みは石組み内の南側を半載している。

【規模と構造】掘り方の平面形は不整形円で、掘り方の規模は上部径3.5 m、石組みの上部内径は70cmである。途中までの掘り込みのため深さは不明である。また掘り方に対して井戸本体の位置はやや西寄りに位置している。壁面に組まれた石組みは、径15cmから40cmのやや扁平の自然礫を乱積み状に積上げている。やや細長い石組



掘込み状況

石組み立面図

1層中遺物出土状況(上面)

2層中遺物出土状況(下面)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SE2	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	瓦片を多量含む。径2cm以内の炭化物・円礫を少量、径1cm以内の黄褐色シルトブロックを微量含む。	—
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	瓦片を多量含む。径1cm以内の炭化物を少量含む。	—
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	径20cm以内の円礫を少量、径1cm以内の炭化物を微量含む。	掘り方埋土

第43図 2号井戸跡

み礫の中には、小口部分を打ち欠いて面を描えているものが多数あり、石組みは5段程度確認した。石組み背面の裏込めには、径5～30cm程度の自然礫が用いられている。裏込めは円礫が密に充填されており、土の混入はほとんど見られないが、北側掘り方内においては礫自体がまばらな状況であった。

【埋土】埋土は井戸内の人為埋土である1・2層と、掘り方埋土の3層に分層した。1層中からは多量の近世瓦がまとまって出土しており、2層では石組みの礫が崩落した状況がみられた。これらのことから井戸は自然に埋没したのではなく、廃絶時に埋められたと考えられる。

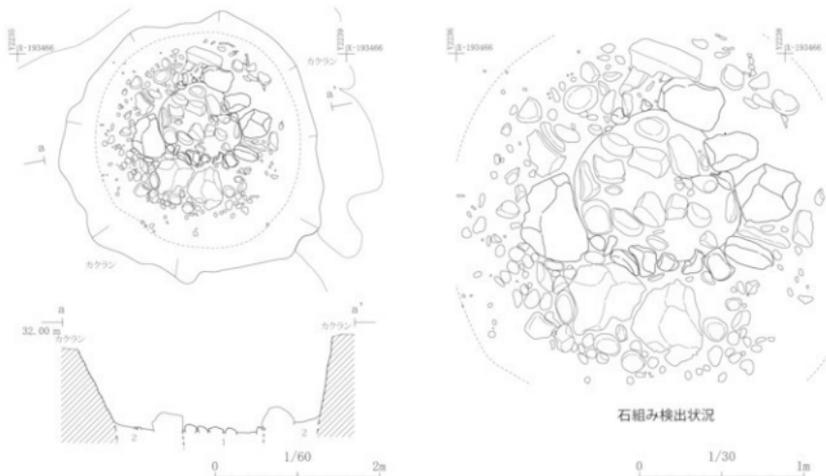
【出土遺物】堆積土より陶器2点、磁器1点、土師質土器17点、瓦1,038点、金属製品1点、非ロクロ土師器5点、自然遺物1点が出土した。出土遺物の9割が瓦片であり、全て廃棄されたものと考えられる。

### 3号井戸跡（SE3）

【位置と重複関係】調査区東部、X14・Y12グリッドに位置する石組みの井戸跡で、確認面はV層である。北東部約16mに位置するSE2と類似する構造と規模である。北側にはSA5、南側にSB6、SD2が近接する。本遺構は当初、攪乱として上部約80cmの深さまで掘り込んでおり、結果的にそれが掘り方部分を含んだ井戸プラン全体を掘り込んだものと判明した。掘り込み底面では円形にまわる石組みを平面的に確認しており、そこからの掘り込みは行っていない。

【規模と構造】掘り方の平面形は円形で、規模は上部径3.4m程度、石組みの上部内径は90cm程度である。石組みは扁平な円礫を中心に使用しているSE2とはやや様相が異なり、主に径30～50cmの大きめの玄武岩質の割石を円形に組んでいる。石材は広めの平坦面を井戸内側へ向けて組まれている。裏込めには径3～20cmの自然礫や砂が充填されており、礫の量としてはややまばらな状況である。

【埋土】埋土は1層が石組み内の埋土で、2層が裏込めとなる掘り方埋土である。平面での確認のみであるが、1層中には裏込め石とみられる多量の小礫が混入していた。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SE3	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径20cm以内の円礫を多量、径10cm以内の灰褐色砂質シルトブロック・径3cm以内の炭化物・瓦片を微量含む	—
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径20cm以内の円礫を多量、径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径2cm以内の灰褐色砂質シルトブロックを少量、径10cm以内の炭化物を微量含む	掘り方埋土

第44図 3号井戸跡

[出土遺物] 1層中から陶器7点、磁器2点、瓦4点、金属製品1が出土した。遺構の掘り込みを行っていないため、石組み確認面での採取にとどまっている。

#### 4号井戸跡 (SE 4)

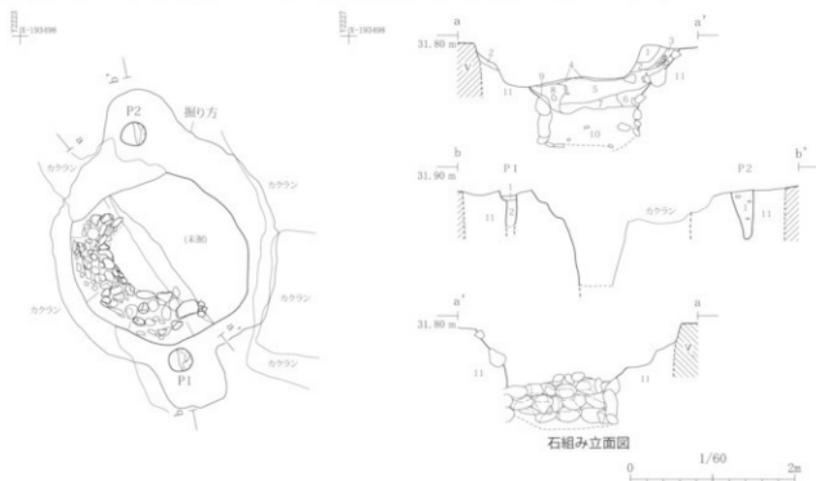
[位置と重複関係] 調査区中央部、X20～21・Y9～10グリッドに位置する石組みの井戸跡である。検出面はV層であるが、同時に東側で大型の土坑であるSK402を切る形で確認した。北東側約6mの地点にSE5、西北部に石組遺構のSX11が近接する。井戸中央部から北側にかけて、上部が攪乱により壊されているが、遺存状況は比較的良好である。掘り込みは西側を半裁している。

[規模と構造] 掘り方形状は基本形が円形で、北と南側の二方向に同一埋土のプランが突出する形状であるが、ここには井戸の付属施設の一部とみられるP1とP2が存在している。掘り方の規模は円形部分での上部径が約2.8～3.9m、南北突出部分を含めると3.9mあり、石組み部分では上部内径が約1mである。深さは1.2mまで掘り込んでいる。石組みは扁平の円礫をわりと水平に並べ段状に積み上げているが、SE2と比較してやや小型の礫を使用している。裏込めは径10～20cmの円礫がやや密な状況で充填されており、土の混入がやや多い。上部に攪乱があったため、井戸上部の状況は不明である。

[埋土] 埋土は石組みが崩れた部分の埋土である1～9層、石組み残存部分での埋土10層、掘り方埋土の11層に分層される。井戸内埋土の1～10層は、まず10層を埋めた後に石組みを崩しながら残りを埋めた、全人為的なものとみられる。

[その他の施設] 井戸南側に位置するP1は円形で、規模は長軸32cm、短軸29cm、確認面からの深さ40cmである。北側に位置するP2は不整形形で、規模は長軸30cm、短軸29cm、確認面からの深さ60cmと深いものである。各ビットから柱痕跡や抜き取り痕跡は確認できなかったが、ここには本来柱が立つことで、井戸上に架けられた上屋に関連する柱穴であると考えられる。P1とP2の柱間距離は2.8mで、方向のN-5°-Wは建物や塀跡、溝跡などと同様に、施設の方向性を示す可能性が高い。

[出土遺物] 埋土中から陶器23点、磁器19点、土師質土器4点、瓦86点、木製品1点、金属製品2点、自然遺物1点が出土した。出土傾向としては埋土上部に陶磁器片が多く、下部には瓦片がやや多い。



第45図 4号井戸跡(1)



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SE4	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径2cm以内の灰褐色シルトブロック・径3cm以内の炭化物を少量、径3cm以内の円礫を微量含む 瓦片を含む	—
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の炭化物を少量、径3cm以内の円礫を微量含む	—
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径5cm以内の円礫を少量含む	—
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径2cm以内の灰褐色シルトブロック・径1cm以内の炭化物を少量、径3cm以内の円礫を微量含む	—
	5	2.5Y5/4 黄褐色	砂質土	径3cm以内の円礫を微量含む	—
	6	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	径2cm以内の灰褐色シルトブロック・径5cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を微量含む	—
	7	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	径5cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を微量含む	—
	8	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	径2cm以内の炭化物を少量、径3cm以内の円礫を微量含む	—
	9	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質土	径1cm以内の黒褐色シルトブロック・径1cm以内の炭化物を少量含む	—
	10	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	径2cm以内の炭化物を少量、径20cm以内の円礫を含む	—
	11	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	径20cm以内の円礫・径5cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを多量、径2cm以内の炭化物を少量含む	掘り方埋土
SE4P1	1	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径1cm以内の円礫を少量、径0.5cm以内の炭化物を微量含む	—
	2	2.5Y4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径4cm以内の円礫を少量、径0.2cm以内の白色粒子を微量含む	—
SE4P2	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の炭化物を多量、径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径4cm以内の円礫を少量、瓦片含む	—

第46図 4号井戸跡(2)

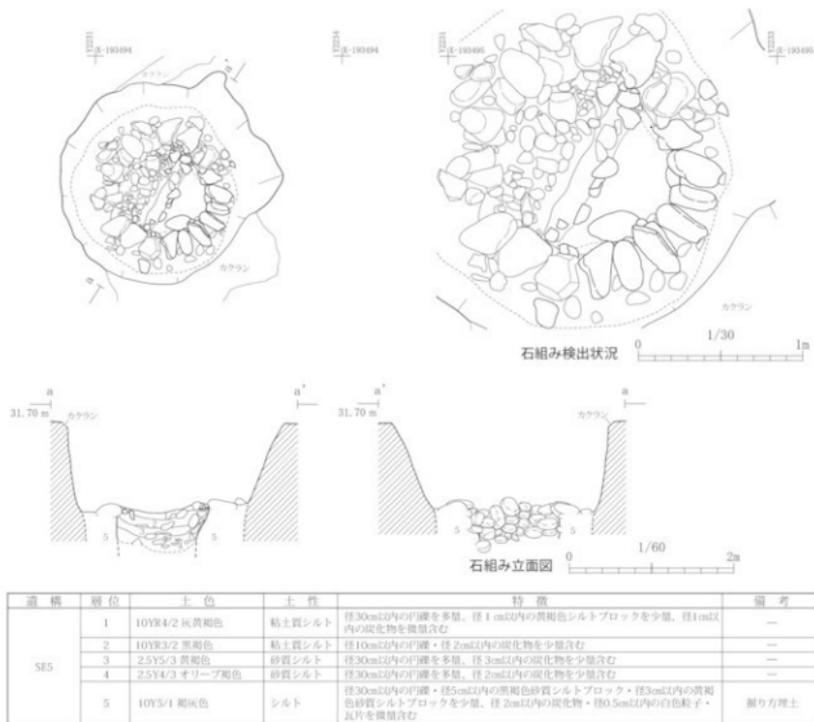
#### 5号井戸跡 (SE5)

[位置と重複関係] 調査区中央部のやや東側、X19～20・Y11グリッドに位置する石組みの井戸跡である。検出面はV層で、SE4同様に大型土坑のSK364を切る形で確認した。本遺構は当初の遺構確認時、締りの無い埋土であったことから攪乱として扱い、上部約1mの深さまで掘り込んでおり、結果的にそれが掘り方部分を含んだ井戸プラン全体を掘り込んだものと判明した。このため、上部構造は不明である。東側約6mにSA8が、南西側約6mにSE4が位置する。掘り込みは井戸の南東側を半截している。

[規模と構造] 掘り方の形状は円形であるが、北東部分が張り出しており、この部分は廃絶時に壊されている可能性がある。掘り方の規模は上部径2.4～2.6m、石組みの上部内径は1.0～1.1mである。石組みは径30～40cmで扁平気味や細長い円礫を用い、SE4同様に水平に並べ段状に積み上げている。裏込めは径10～20cmの円礫を充填しており、礫はややまばらな入れ方の印象を受ける。

[埋土] 埋土は5層に分層したが、上部の状況は不明である。1～4層は埋土で、5層は掘り方埋土である。1・2層の埋土中からは裏込め石とみられる多量の円礫が含まれており、埋土は全て人為的に埋められたものと判断される。

[出土遺物] 埋土中から磁器2点、土師質土器2点、瓦7点が出土した。他の井戸跡と比較して出土量は少ない。



第47図 5号井戸跡

## (6) 溝跡

調査区全域で60条の溝跡を検出した。分布の傾向としては、調査区の中央から南側にかけてやや多くみられる。しかし土坑や攪乱などに壊され遺存状況は概して不良で、全体を把握できたものは少ない。

溝跡の方向はほぼ東西方向が31条、ほぼ南北方向が24条、南西から北東方向に延びるものが5条である。ほとんどの溝跡は直線的に延びるものであるが、中には緩やかに弧を描くもの、「コ」の字状に巡るもの、鉤型に屈曲するものなどの平面配置をみせる。

構造上の違いとしては、素掘りの溝跡の他、壁が石組みで、底面に瓦を敷設したものや、壁に側板を設置したものなども僅かにみられ、埋土は自然堆積のほか、ブロック土を含む人為堆積によるものもみられる。いずれの溝跡の時期は近世と考えられるが、調査区南部に位置するSD47は、重複する遺構間では最も古いもので、出土遺物や自然堆積の状況等から、近世より古い時期の溝跡と考えられる。

溝跡については主に崩跡との区別を目的とし、以下の溝跡について掘り込み調査や攪乱を利用した断面調査を行った。

## 1号溝跡(SD1)

[位置と重複関係] 調査区の北西部、X13・Y5グリッドに位置する東西方向の溝跡である。東西両端が掘乱により壊され途切れているため、全体は不明である。確認面はV層で、主要遺構との重複関係は、東側でⅢc層石敷遺構の下にあることから、これより古い。南側にはSB1がほぼ同じ方向で近接しており、この建物北側の雨落ち溝の可能性もある。また東側約4mにはSB2が位置している。

遺構の掘り込みは行っていないが、掘乱壁面で埋土の堆積状況を確認した。

[規模と構造] 規模は確認長2.1m、幅35～50cm、深さ10cm、方向はN-86°-Eである。断面形状は、浅い皿状で、北側には僅かな段差がある。埋土は円礫と炭化物を含む自然堆積の可能性のある砂質シルトの単層である。

[出土遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SD1	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	径120mm以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量、にぶい黄褐色砂を含む	—

第48図 1号溝跡

## 2号溝跡(SD2)

[位置と重複関係] 調査区のほぼ中央、X14～16・Y5～15グリッドに位置し、東西方向に調査区を横断する確認遺構中では最も長い溝跡である。東側は調査区外へ延び、西側の大部分は大型の土坑群に壊され、端部はⅢc石敷遺構に被覆され途切れている。また中央部X14～15・Y11～12グリッドの範囲は掘乱による上部の削平が著しく、底面がわずかに遺存する状況であった。確認面はV層で、主要遺構との重複関係は、Ⅲ層石敷遺構や大型の土坑群より古い。本遺構は当初、崩跡の可能性が考えられたため、柱跡の確認を目的に、東端から約10mの地点と約6mの掘乱部分を利用して掘り込み調査を行なっている。

[規模と構造] 規模は確認長47.8m、幅32～97cm、深さ75～102cm、方向はN-12°-Wである。断面の形状は、底面から傾斜を持って立ち上がり、上半部で垂直気味になり、一部で南壁に低い段がみられる。埋土はブロック土を含む暗褐色から黒褐色土の5層に分層した。

[出土遺物] 中国産の磁器1点が出土した。

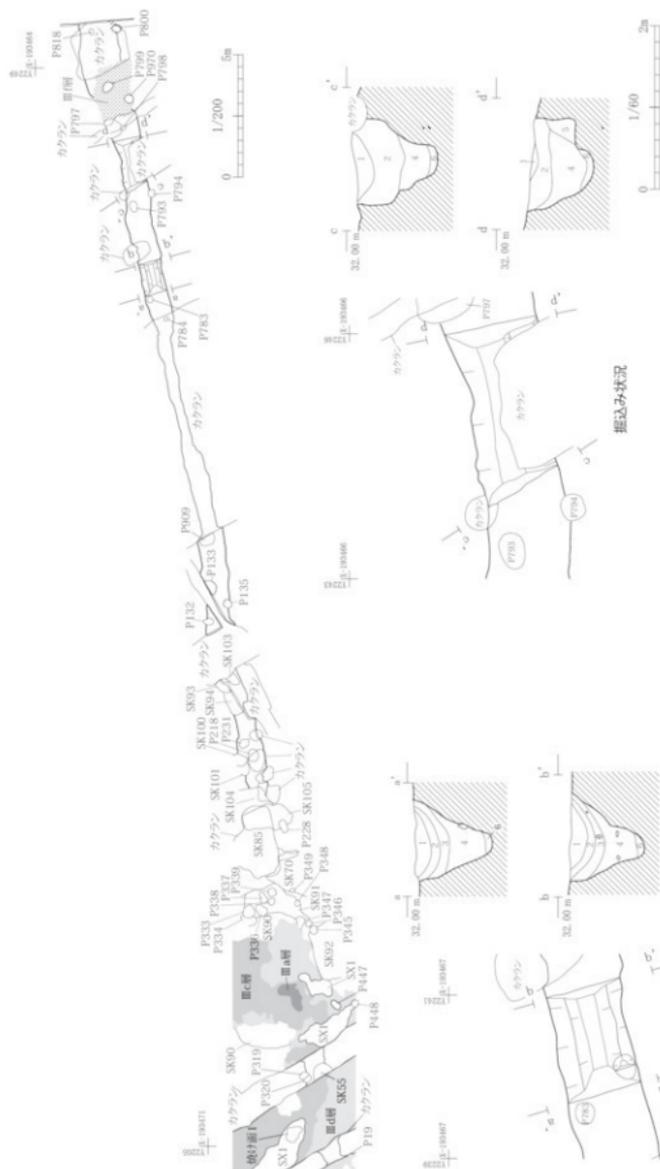
## 9号溝跡(SD9)

[位置と重複関係] 調査区の北部、X13・Y7～10グリッドに位置する東西方向の溝跡である。溝跡は直線的に延びるが、東端で北側へ僅かに湾曲する。確認面はV層で、主要遺構との重複関係はSX4や崩跡とみられるSA3より新しく、西側で大型の土坑群の直前で止まることから、これらとの新旧関係は不明である。

[規模と構造] 規模は確認長7.75m、幅47～55cm、深さ22cm、底面の標高は32.15mである。方向はN-87°-Wである。遺構の掘り込みは行っていないが、掘乱壁面で深さと土層の堆積状況の確認を行った。

埋土はシルトブロック土と炭化物を含む砂質シルトの単層である。

[出土遺物] 陶器1点、瓦9が出土した。

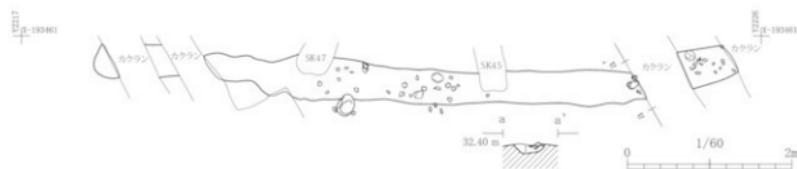


第49図 2号溝跡

掘込み状況

掘込み状況

番	層位	土色	土性	特徴	備考
1	10YR2/4 黒褐色	シルト	15cm以内のみに多い、黒褐色シルト・ブロッケ、15cm以内の灰化塊を少量、白色粘土を混濁含む	—	—
2	10YR2/2 黒褐色	シルト	15cm以内のみに多い、黒褐色シルト・ブロッケ、15cm以内の灰化塊を少量、白色粘土を混濁含む	—	—
3	10YR3/3 黒褐色	シルト	15cm以内のみに多い、黒褐色シルト・ブロッケ、15cm以内の白濁を少量、白色粘土を混濁含む	—	—
4	10YR4/2 黒黄褐色	シルト	15cm以内のみに多い、黒褐色シルト・ブロッケを少量含む	—	—
5	2.5Y5/1 黄褐色	シルト	15cm以内のみに多い、黄褐色シルト・ブロッケを少量含む	—	—
6	10YR2/3 黒褐色	シルト	15cm以内の灰化塊がシルト・ブロッケ、0.5mm以下を少量含む	—	—



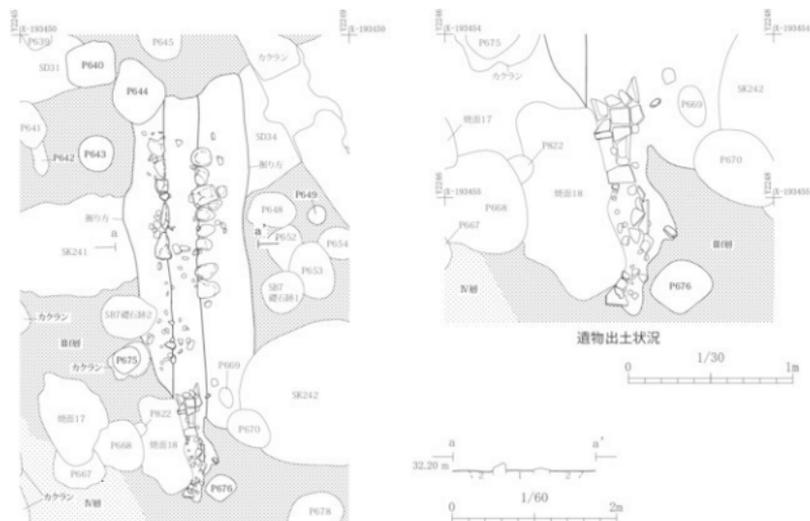
遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SD0	1	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の灰褐色シルトブロック・炭化物粒子・白色粒子を微量、径15cm以内の円礫を含む	—

第50図 9号溝跡

## 21号溝跡 (SD21)

[位置と重複関係] 調査区の北東部、X11～12・Y14グリッドに位置する南北方向に延びる石組みの溝跡である。建物の周囲を巡る雨落ち溝や側溝と考えられる。北端と南端部は削平され途切れているため全体は不明である。確認面はⅢf層で、主要遺構との重複関係は7号礎石建物跡より古いとみられる。また北東約1.5mにSE2、南側約5mにSA5が位置している。

[規模と構造] 規模は確認長5.25m、掘り方の幅135～145cm、石組みの内幅35～45cm、方向はN-3°-Wである。北側には径20～35cmの円礫を側壁として組んでいるのがみられ、南端では瓦を敷いて溝底面としてい



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SD21	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の灰褐色砂質シルトブロック・径5cm以内の円礫・瓦片を少量、径10cm以内の白色シルトブロック・径2cm以内の炭化物を微量含む	—
	2	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径10cm以内の円礫を少量、径10cm以内の炭化物・径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	掘り方埋土

第51図 21号溝跡

る。側壁は円礫の平坦面を内側に向けて面を描いて組んでいる。底面の瓦は平瓦を主体に、凹面を上に向けて密に並べており、わずかに丸瓦も使用されている。掘り方形状は不明であるが、側石の規模からみて掘り方幅は広いものとなっている。

埋土の残存は悪いが、石組み内部の埋土と石組みより外側の掘り方埋土とに分層される。

[出土遺物] 陶器 1 点と底部に敷かれていたとみられる瓦片が 10 点が出土した。

## 22号溝跡 (SD22)

[位置と重複関係] 調査区南東部、X17・Y13～14 グリッドに位置する溝跡である。遺存状況は悪く、南側は特に上面の削平が著しく、底面の一部のみの確認となった。確認面はV層で、主要な遺構との重複関係は無い。北側約7mにSA4が、南西側約7mにSA8が位置するが、これらとは方向が揃っていない。

[規模と構造] 平面形は「コ」の字状で、南辺の殆んどが失われているが、配置状況から何らかの施設を囲んだか、或いは建物間の隙間に入り込んだ溝と考えられる。規模は確認長で東西4.7m、南北3.0m、幅35～65cmで、底面近くの残存のためか、プランに乱れがある。方向は東西方向がN-61°-E、南北方向がN-22°-Wで、やや歪みがある。

遺構の掘り込みは行っていないが、埋土は単層で、砂質シルトブロックと炭化物を含んでいる。

[出土遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SD22	I	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の灰黄褐色砂質シルトブロック・径1cm以内の灰白色シルトブロック・径5cm以内の内礫を少量、径1cm以内の炭化物を微量含む	掘り方埋土

第52図 22号溝跡

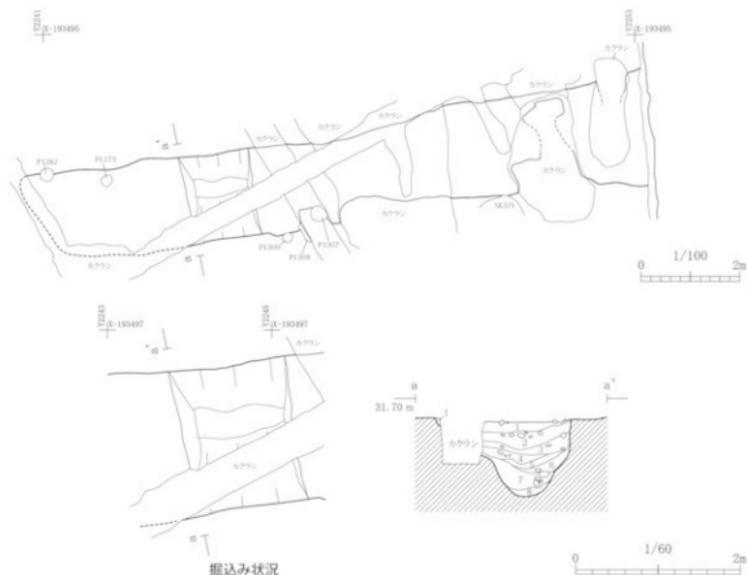
## 37号溝跡 (SD37)

[位置と重複関係] 調査区南東部、X20・Y13～15 グリッドに位置する東西方向の溝跡である。確認面はV層で、主要遺構との重複関係は無く、西端は大型土坑群の直前の攪乱内で止まっている。北側にはSA8、南側にはSD57とSX10が近接する。溝跡は深いにもかかわらず、土坑群の手前で収束する状況などから、崩跡の基礎等の可能性も否定できない。西端から約3mの地点で掘り込み調査を行った。

[規模と構造] 規模は確認長12.4m、幅1.7～2.4m、深さ90cm、方向はN-82°-Eである。断面形はU字状で、一部で南壁側がテラス状となる。埋土はブロック土を含むシルト層を主体とした8層に分層でき、人為的に埋め戻されたものと考えられる。下部はややグライ化している。一部掘り込みを行った範囲の底面において、柱等の痕

跡は確認できなかった。

[出土遺物] 陶器は志野織部の向付が1点、瓦11点が出土した。



掘込み状況

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SD37	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径3cm以下の灰褐色シルトブロック・径2cm以下の黒褐色シルトブロック・径20cm以下の円礫・径1mm以下の白色粒子を少量、径1cm以下の炭化物を微量含む	—
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	径3cm以下の灰褐色シルトブロック・径20cm以下の円礫・径1mm以下の白色粒子を少量、径1cm以下の炭化物・径2cm以下の黒褐色シルトブロックを微量含む	—
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径3cm以下の炭化物を少量、径10cm以下の円礫・径1mm以下の白色粒子を微量含む	—
	4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5cm以下の円礫・径1cm以下の炭化物・径1mm以下の白色粒子を微量含む	—
	5	5Y5/1 灰色	粘土質シルト	径1cm以下の灰褐色粘土質シルトブロックを少量含む	—
	6	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	径5cm以下の円礫・径2cm以下の灰白色シルトブロックを微量含む	—
	7	5Y6/1 灰色	粘土質シルト	径3cm以下の黄色シルトブロックを少量、径10cm以下の円礫・径1cm以下の炭化物・径1mm以下の白色粒子を微量含む	—
	8	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	地山ブロックを多量、径3cm以下の黒褐色シルトブロックを少量含む	—

第53図 37号溝跡

#### 47号溝跡 (SD47)

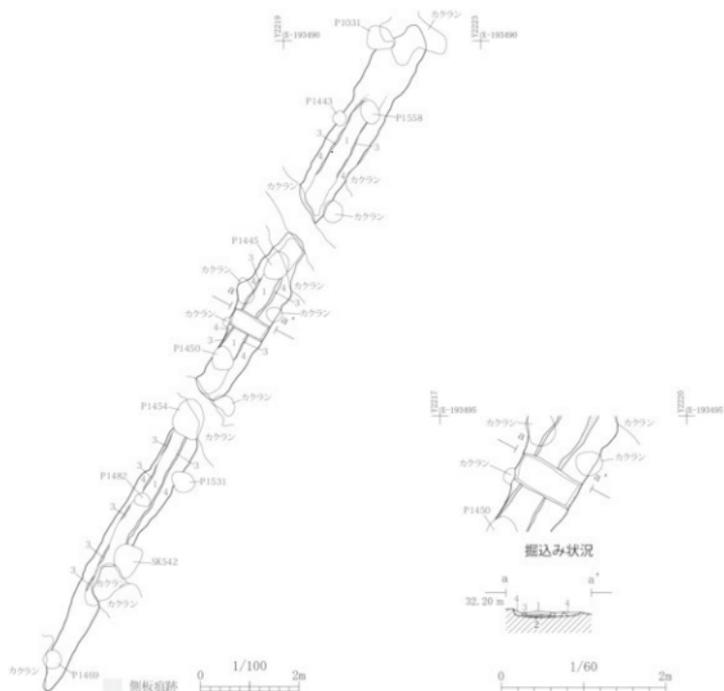
[位置と重複関係] 調査区の南部、X21～22・Y9～14グリッドに位置する東西方向の溝跡である。東側がSX10に、西側が土坑群に壊されているため全体は不明である。確認面はV層で、重複する全ての遺構より古い。西端から約3.5mの地点で掘り込み調査を行った。

本遺構は、規模が大きく方向性も他の溝跡とはやや異なっており、今回の調査で検出した中で最も古い時期の遺構と考えられる。

[規模と構造] 規模は確認長24.5m、幅160～240cm、深さ110cm、方向はN-81°-Wである。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形で、北側の一部に段差がみられる。埋土は自然堆積による8層に分層できる。

[出土遺物] 陶器1点が出土した。





遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SD48	1	2.5 Y 3/2 黒褐色	砂質シルト	径1cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を少量、径5mm以内の白色粒子を微量含む	—
	2	2.5 Y 4/4 オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色・オリーブ褐色砂が斑状に入る	—
	3	2.5 Y 3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	径1cm以内の円礫・黄褐色砂を少量、径1cm以内の炭化物を微量含む	側板痕跡
	4	2.5 Y 4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	径1cm以内の円礫・径1cm以内の黄褐色砂・白色粒子を少量、径1cm以内の炭化物を微量含む 黄褐色・オリーブ褐色・褐色土が斑状に入る	掘り方埋土

第55図 48号溝跡

### 51号溝跡 (SD51)

【位置と重複関係】調査区の南西部、X21～22・Y8～9 グリッドに位置する南北方向の溝跡である。溝跡は南から北へ直線的に延びた後、西に僅かに湾曲する。確認面はV層で、北側が土坑群に、南側はSK435と攪乱に壊されている。掘り込みは行っていないが、南側の攪乱壁面で断面の観察を行った。

【規模と構造】規模は確認長8.5m、幅50～130cm、深さ110cm以上、方向はN-10°-Wである。

埋土は2層まで確認し、両層ともやや大型の自然礫を多量に含んでいる。埋土と掘り方埋土との判別はできなかった。

【出土遺物】磁器1点、瓦3点が出土した。

### 52号溝跡 (SD52)

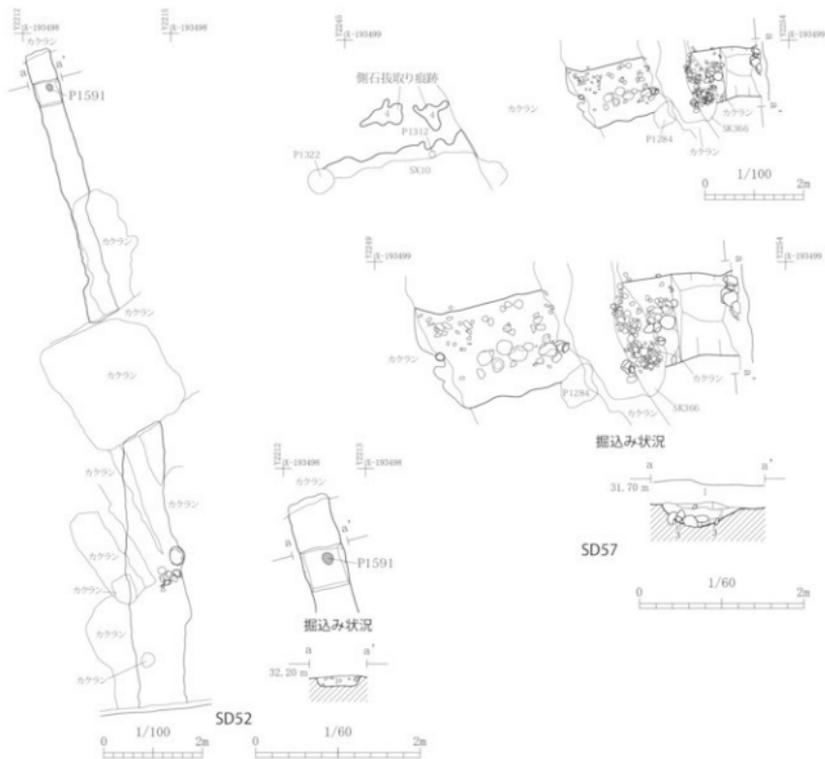
【位置と重複関係】調査区の南西部、X20～23・Y8～9 グリッドに位置する南北方向の溝跡である。南端から北へ直線的に延び、溝の中央から西へ傾いている。北端は攪乱に壊され、南側は調査区外へ延びる。確認面はV層で、



【規模と構造】規模は確認長で9.1 m、幅 100 ~ 120cm、深さ 20cm、断面形は船底状である。東側の底面で径 20 ~ 40cm の自然礫を確認しており、遺存状況が悪いため溝の構造は不明であるが、礫は壁石として組まれた円礫が崩落したものの可能性がある。また西側の溝形状が断続的な不整形となっているが、この部分は壁石の抜き取り穴と考えられる。

埋土は 4 層に分層でき、4 層は壁石抜き取り後の流入土とみられるが、上層は自然埋土と掘り方埋土が混在した層とみられる。

【出土遺物】陶器 2 点、土師質土器 5 点、瓦 11 点が出土した。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SD52	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	径10cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物・径0.5cm以内の白色粒子を少量、瓦片を含む	—
SD52 P1591	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径3cm以内の灰褐色砂質シルトブロックを多量、径0.5cm以内の白色粒子を少量、径1cm以内の黄褐色シルトブロックを微量含む	柱礎跡
SD57	1	2.5Y5/4 黄褐色	砂質土	径30cm以内の円礫を多量、径3cm以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を微量含む	—
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	径5cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を少量含む	—
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径30cm以内の円礫を多量、径2cm以内の灰白色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を微量含む	—
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径5cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物を少量、径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	壁石抜き取り痕跡

第 57 図 52・57 号溝跡

## (7) 性格不明遺構

今回の調査では、遺構の形状や構造等について、通常分別する遺構の種別に含まれないものを性格不明遺構 (SX) として取り扱った。またその中でも石組みなどの特徴を有する遺構については、性格不明遺構としながらも「石敷遺構」、「石組遺構」、「焼面遺構」などの名称を付している。

調査では土坑や溝跡などに含むことのできない10基の遺構を検出した。遺構は調査区全域で検出しており、X14 グリッドから北側にやや集中する傾向がある。これらは構造、規模、形状などから、底面に小円礫を敷いた石敷遺構1基 (SX2)、方形で壁面に石を組んだ石組遺構6基 (SX1、SX3、SX4、SX5、SX6、SX8)、遺構プランが焼けている焼面遺構1基 (SX9)、その他2基 (SX7、SX10) がある。

### 1号石組遺構 (SX1)

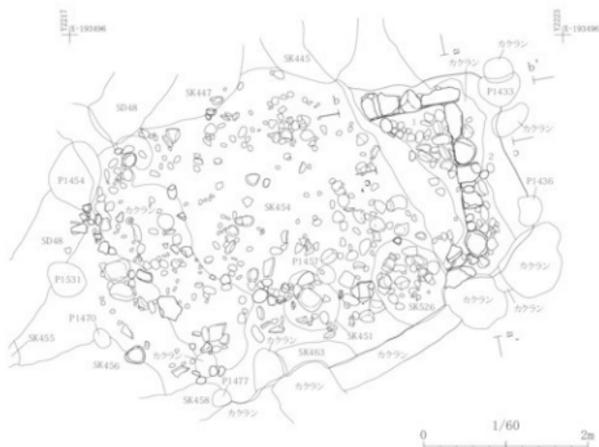
[位置と重複関係] 調査区南側、X20・Y9 グリッドに位置する石組遺構である。確認面はV層で、西側の大部分が大型の土坑のSK454により壊されている。

[規模と構造] 平面形は長方形と推定され、規模は確認できた掘り方の範囲で南北2.5m、東西の北辺1.5m、南辺1.2mで、壁石の内側での南北の長さは2m弱である。

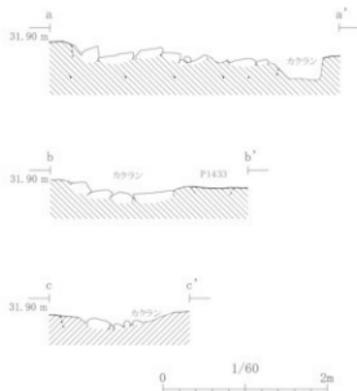
本遺構は掘り込み調査を行っていないために下部構造は不明であるが、掘り方の壁際に壁石を並べ、石組みの内側は低く、平坦な底面であったとみられる。壁石には径20cmから50cmの割り石を使用し、平坦な自然面や割面を内側に向け揃えて据えている。壁石は東辺で5石、北辺で3石、南辺で1石が遺存しており、他は全て失われている。壁石の欠落部分において礫の抜き取り痕は確認できなかった。壁石と掘り方との間の幅は20cm程度で、壁石背面には径10～15cmの裏込め石がみられる。また北東部の確認面よりやや下がった部分で礫の集積を確認したが、これは底面に敷かれたものではなく、遺構の廃絶に伴い、裏込め石が崩落したものと考えられる。

[埋土] 円礫を多量に含む黒褐色シルトの1層のみで、東側のみに残存する人為堆積層である。埋土とは別に西側にはSK454の埋土が本遺構を壊すように堆積する状況から、遺構廃絶時には1層は石組みを壊すことなく遺構内に埋められたとみられる。

[出土遺物] 埋土中に瓦片が僅かにみられたが、取り上げは行っていない。



第58図 1号石組遺構 (1)



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SX1	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径20cm以下の円礫を多量、径5cm以下の黄褐色砂質シルトブロック・径2cm以内の炭化物を少量、径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	—
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	径5cm以下の黄褐色シルトブロック・径3cm以内の炭化物を多量、径10cm以内の円礫を少量、径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	掘り方埋土

第59図 1号石組遺構(2)

## 2号石敷遺構(SX2)

[位置と重複関係] 調査区北端部、X9・Y9～10グリッドに位置する。本遺構は石敷遺構としたが、地表面に敷設されたとみられるⅢ層石敷遺構とは異なり、掘り方を伴う遺構内に敷設されたものである。北側は調査区外に延びており、東側はⅢe層に被覆されているため、この整地土より古いことはわかるが全容は不明である。確認面はⅣ層で、主要な遺構との重複関係はないが、東側約7mにSA5とSX9が、南西側約7mにSA7が位置する。

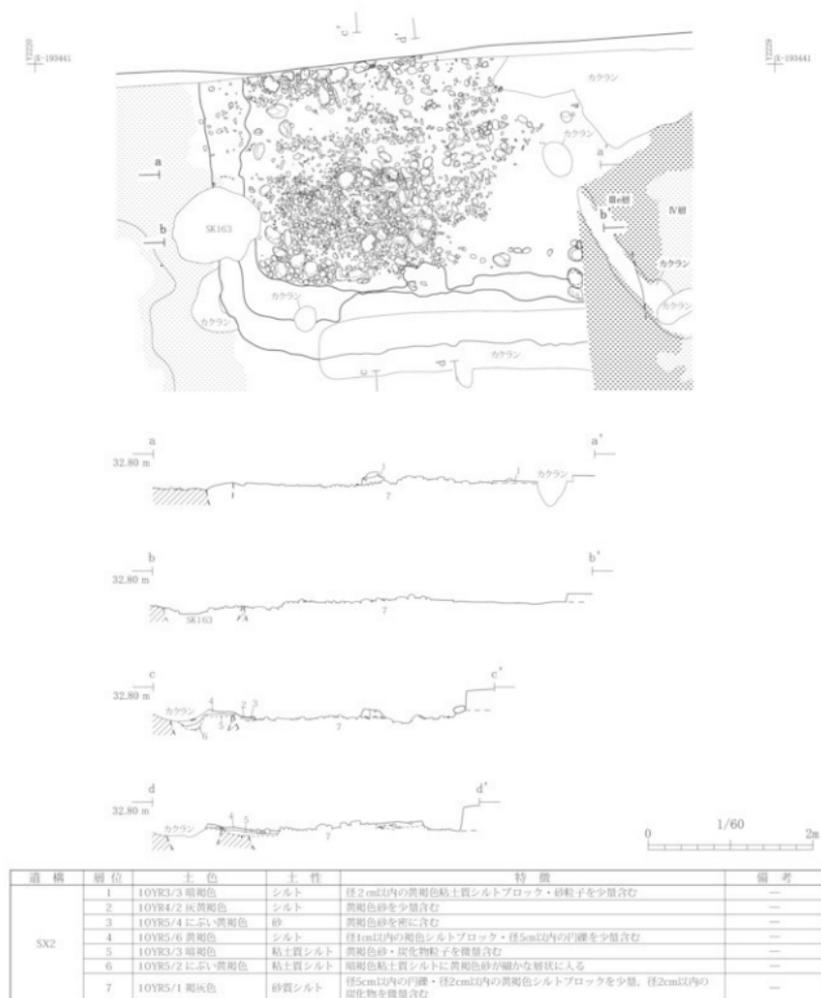
[規模と構造] 平面形は東西方向に長い楕円長方形と推定され、検出した範囲はその南西隅部である。規模は南北方向3.45m以上、東西方向4.55m以上、方向はN-5°-Wである。

構造は外縁部に幅30～90cmの溝が巡り、その内側の底面もしくは埋土上面に径3～30cmの自然礫がほぼ全体に水平に敷設されている。石敷きを使用している礫は小型のものが主体で、一部に扁平なやや大型の礫もみられる。石敷きの遺存状況は南西部が比較的良好で、礫が密に敷き詰められているのに対し、北部は後世の削平を受け、まぼらな状況である。また礫は東部にはほとんど存在していないが、南辺と北側調査区の壁沿いには、やや大きめの礫が並ぶ状況がみられる。

外縁を巡る溝は西辺の幅33～56cm、南辺は80～90cmと、規模に差がみられる。深さは10～25cmと浅く、溝内から壁面を構成する壁石や側板等の付帯施設は確認できなかった。

[埋土] 埋土は7層に分层され、1～3層が石敷き上にある埋土で、砂粒を多く含み、4～6層は外縁の溝上に堆積すると共に、石敷き下の埋土かもしくは掘り方埋土とみられる。7層は石敷き下のみにもみられる埋土で、硬質で締まりが良い。

[出土遺物] 出土していない。



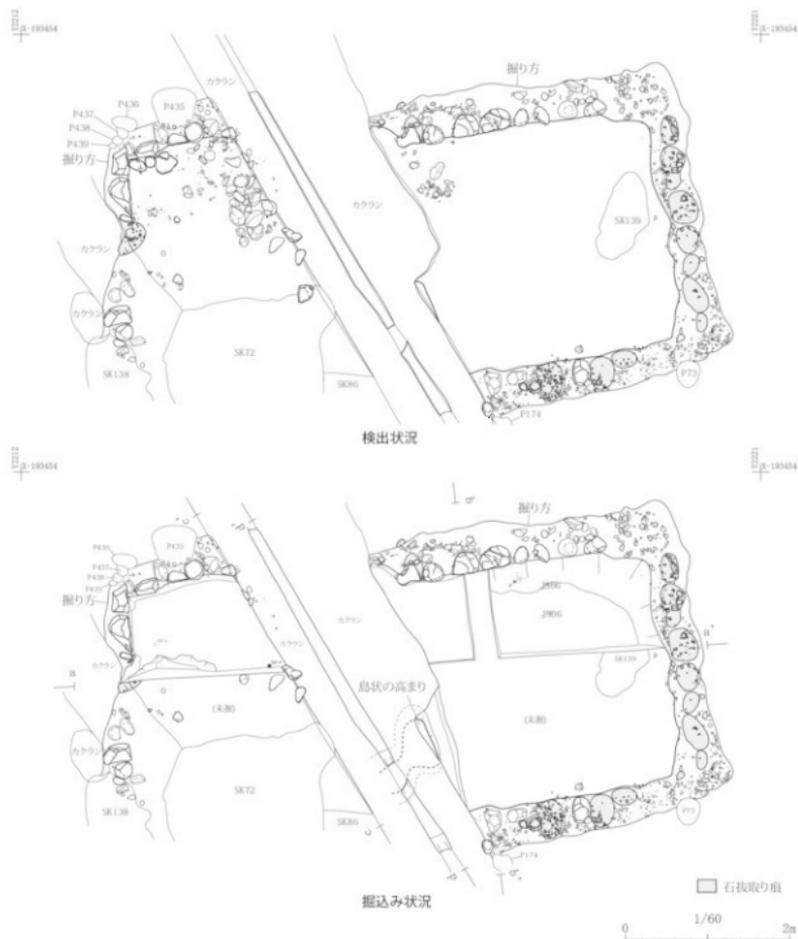
第60図 2号石敷遺構

### 3号石組遺構(SX3)

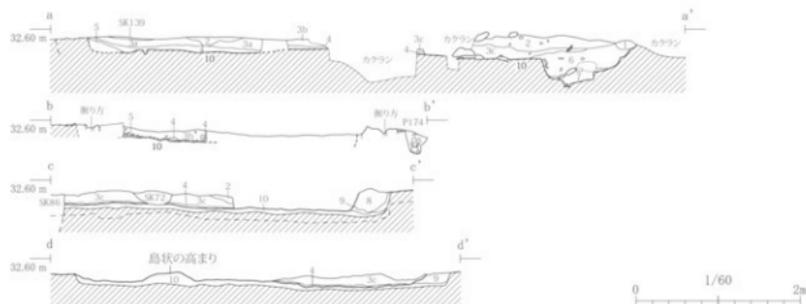
【位置と重複関係】調査区北西部、X11～12・Y7～9グリッドに位置する東西方向に長い石組遺構である。南西部をSK72とSK86に壊され、中央部を攪乱に壊されている。確認面はIV層～V層で、北側約5mにSA7が、南側約2.5mにSD9が位置する。

【規模と構造】平面形は概ね長方形で、掘り方の規模は東西長軸7.3m、南北短軸4.0m、深さ20cm、西側の落ち込みの深さは57cmである。また壁石の内側での規模は東西6.3m、南北2.9m程度と推定される。南北軸の方向はN-7°-Wである。

本遺構では北側を半截する掘り込み調査を行い、下部構造の確認を行った。外縁部には掘り方内に径20～



第61図 3号石組遺構(1)



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SX3	1	10YR2/1 黒色	砂	径3cm以内の円礫を含む	掘り痕
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	細かい黄褐色砂を多量含み、一部が層状に入る 径25cm以内の円礫を少量、白色粒子を微量含む	—
	3a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	径2cm以内の炭化物・炭化物粒子を含む(特に表層部分の層が顕著)	—
	3b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	径1cm以内の黄褐色砂ブロックを含み、一部が層状に入る 径1.5cm以内の炭化物・炭化物粒子・径3cm以内の円礫を少量含む	—
	3c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄褐色砂・白色粒子・炭化物粒子を微量含む	—
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	径3cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物を微量含む	—
	5	10YR4/4 褐色	粘土	径2cm以内の黄褐色粘土質シルトブロック・砂粒子を含む(特に東側の層が顕著)	—
	6	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	径1cm以内の灰白色シルトブロックを少量含む 上面に径5cm以内の円礫が張り付けられている	底面の掘り方埋土?
	7	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	粘性の異なる砂が細かな層状に入る 径25cm以内の円礫を含む	底面の掘り方埋土?
	8	5Y4/2 灰オリーブ	砂質シルト	黄褐色砂が層状に入る	石組みの掘り方埋土?
9	10YR4/3 濃い黄褐色	シルト	径0.5cm以内の円礫・白色粒子を少量、炭化物粒子を微量、径3cm以内の細かい黄褐色シルトブロックを含む	石組みの掘り方埋土	
10	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	径0.5cm以内の円礫・白色粒子を少量含む	掘り方埋土	

第 62 図 3号石組遺構(2)

50cmの円礫や割石を内側に面を揃えた壁石が構築されており、石組みは一段のみの残存だが、本来は数段が組まれていたとみられる。石組みの背面と掘り方壁面との間は狭く、裏込め石とみられる小礫がまばらに入れられている。掘り込みと攪乱部分での断面の観察から、底面はV層で、平坦面となっている。

壁石の検出状況は北辺が最も良好である。東端の礫は失われていたものの、全体で15石の礫が遺存していた。北辺に使用されている壁石は円礫が中心で、確認できた部分において小口の打ち欠きなどの加工痕跡は認められない。東辺の状況は礫は遺存していなかったものの、7か所から壁石の抜き取り痕が明瞭に検出され、その形状から東辺に組まれた礫も円礫と推定される。南辺の遺存状況は南西部が他の遺構や攪乱に壊されているため不良である。確認できた範囲では壁石3石、壁石の抜き取り痕2か所を確認した。礫は径が25～30cmの自然礫で、加工痕跡はみられない。西辺も南西部が攪乱や他の遺構に壊され遺存状況は悪い。壁石4石と抜き取り痕1か所を確認した。西辺の北部に使用されている壁石は、他と異なり径40cm程度の大形の割石が使用され、平坦面や剖面部分を内側に向け面を揃えて組まれている。

底面はほぼ平坦で、中央部の南側に高まりを検出した。一部を攪乱に壊されているため平面形は不明であるが、中央が括れる瓢箪形とみられ、掘り方底面に敷いた10層が一部で盛り上がったものである。確認できた範囲での規模は東西方向60cm以上、南北方向65cm以上、高さは5～10cmである。この高まりの性格については不明だが、底面に意図的に配置された鳥状の高まりと考えられる。

[埋土] 埋土は10層に分層された。1層は壁石の抜き取り痕の埋土で、黒色の砂が堆積しており、裏込め石とみられる小礫が僅かに含まれる。2層～5層は埋土で炭化物やブロック土が混入し、特に4層は層厚は薄いのが広範囲にみられる層である。これらは人為的に埋められた可能性が高いが、下部層については自然堆積の可能性もある。

6層は粘質の強い層で、一部の上面には径5cm程度の円礫があたかも貼り付けられたようにみられ、7層は一部で織状になる砂層で、これらは東側の底面窪み内のみみられる。さらに下には遺構全体に10層がみられ、これら3層はこの遺構の底面に何らかの目的で入れられた埋土と考えられる。また8層と9層については壁石と裏込めを構築する際に入れられた埋土である。

【出土遺物】瓦31点、陶器2点、磁器1点、瓦質土器1点、土師質土器2点、軟質施釉陶器1点、土製品1点、金属製品3点が出土した。

#### 4号石組遺構(SX4)

【位置と重複関係】調査区中央やや北側、X13・Y9グリッドに位置する石組遺構である。確認面はV層で、中央部をSD9に、北東部をSK45・P255に壊され、南側でSA3を切っている。また北東部約3mに別の石組遺構であるSX3が位置する。

【規模と構造】平面形は掘り方が南北方向にやや長い隅丸長方形で、石組みの内側の形状は概ね方形である。掘り方の規模は長軸1.95m、短軸1.65mで、石組み内の規模は南北1.25m、東西1.25mあり、方向はN-9°-Wである。

本遺構は掘り込みを行っていないため、底面状況や石組みの下部構造は確認していない。石組みの検出状況は東側の壁石が全て失われていたが、全部で15石の壁石が遺存しており、径20～30cmの円礫が内側に面を揃えて配されている。壁石は北辺が最も良好に遺存しており、ここからは一辺に5石ないし6石が組まれているのがわかる。中には楕円形状の礫の小口を内側に向けている状況も確認できるが、礫に加工の痕跡は認められない。西辺と南辺はやや遺存状態が悪く、壁石が原位置を保っていないものもあり、やや乱された状況である。

【埋土】表層での確認のみで、石組み内の埋土と石組みと掘り方壁面との間の掘り方埋土の2層に分層され、埋土1層は人為的に入れられたものとみられる。

【出土遺物】出土していない。

#### 5号石組遺構(SX5)

【位置と重複関係】調査区北西部、X10～11・Y6～7グリッドに位置する石組遺構である。確認面はV層で、西側がⅢa層石敷遺構に被覆されており、北側はSK74に壊されている。また南側にはSD7が近接し、西側約2mにSA7が位置する。

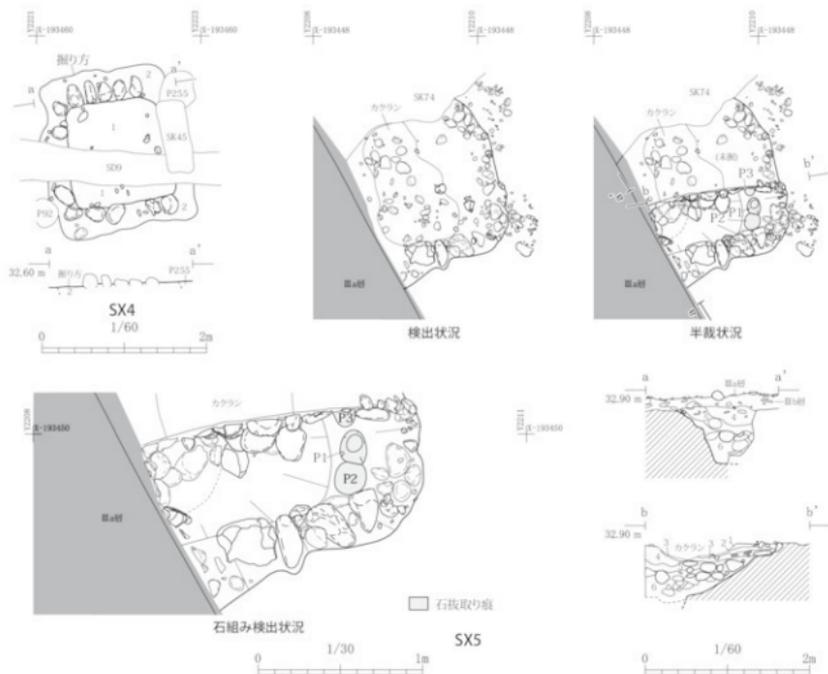
【規模と構造】平面形は同様の構造をもつ遺構の状況から隅丸方形と推測され、掘り方の規模は南北方向1.8m以上、東西方向1.6m以上で、石組み内の規模は不明である。方向は南辺を基準とする南北軸からN-19°-Wである。

本遺構は南側の半裁調査を行い、下部構造の確認を行った。石組みは全般的に遺存状況が不良で、南辺は比較的遺存度が高いが、明確に壁石と認定できるものは6石のみである。壁石の状況は径30～35cmの円礫が2段に組まれており、加工の痕跡は認められない。東壁側に壁石は遺存せず、その位置には裏込め石と3か所の壁石の抜き取り痕が認められたのみである。

掘り方南側の壁の立ち上がりはやや急な傾斜で、東壁は緩やかに立ち上がる。他の石組遺構とは異なり、底面の中央部は深く掘り込まれ狭く、これが本来の構造か、或いは後に掘り込まれたものかは断面観察からは判断できない。底面までの深さは80cm以上ある。

【埋土】埋土は6層に分層され、全て人為的に埋められたものとみられるが、最下層の6層中には崩落したとみられる壁石が多量含まれている。

【出土遺物】瓦2点が出土した。



第 63 図 4・5号石組遺構

### 6号石組遺構 (SX6)

[位置と重複関係] 調査区中央やや北側、X12～13・Y11 グリッドに位置する。確認面はIV層で、主要遺構との重複はない。北側にSA3、南側にSA5、西側に大型の土坑のSK113が近接する。

[規模と構造] 平面形はやや不整の隅丸方形で、掘り方の規模は東西方向2.15m、南北方向1.85m、深さは20cmで、石組み内の規模は東西が1.2m程度とみられる。

本遺構は南側の半截調査を行い、下部構造の確認を行った。壁石には径20～40cm前後の円礫が内側に面を描いて配されているが、原位置から外れた石もみられる。壁石の外側には径10cm以下の裏込め石を検出している。南辺から西辺にかけて遺存状況が比較的良好で、2段組みで20cm程度の小型の礫が乱積みされている状況を確認した。東辺は大型の礫が2石遺存しており、南辺と異なり1段のみの検出にとどまった。北辺には壁石やその抜

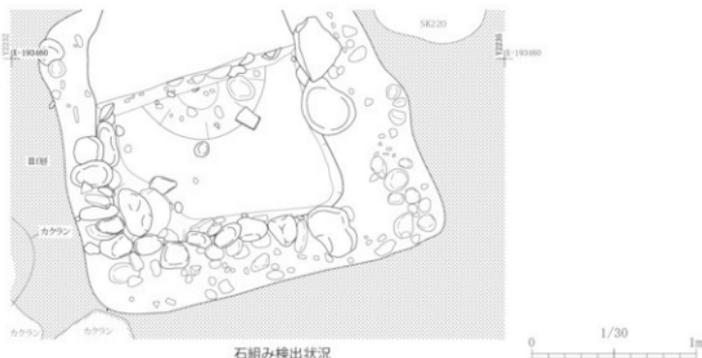
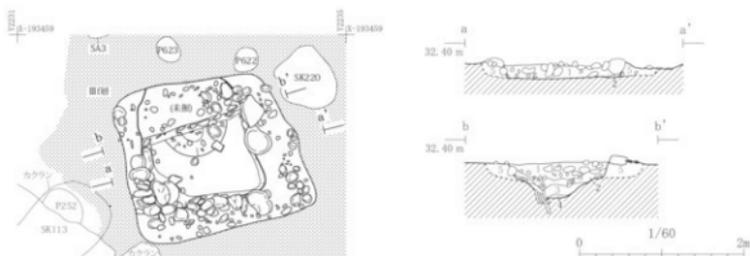
遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SX4	1	10YR4/1 暗灰色	シルト	径10cm以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量含む	—
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径8cm以内の灰黄色粘土質シルトブロック・径10cm以内の円礫を含む	掘り方埋土
SX5	1	2.5Y4/5 オリーブ褐色	粘土質シルト	径1cm以内の円礫・顆粒を少量、炭化物粒子を微量含む	—
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径10cm以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量、砂粒子を含む	—
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	径20cm以内の円礫を含む。炭化物粒子がうすい層状に入る	—
	4	7.5YR4/3 褐色	砂	径10cm以内の円礫を含む	—
	5	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径20cm以内の円礫を少量、径1cm以内の炭化物を微量、砂粒子(上層ほど多く混入)を含む	—
	6	7.5YR4/1 暗灰色	シルト	径30cm以内の円礫を多量、砂粒子を含む	—
SXSP1-3	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	径1cm以内の灰白色シルトブロックを少量、径2cm以内の炭化物を微量含む	抜き取り痕

き取り痕も検出できなかったが、同時に掘り方プランも不明瞭なことから、この部分には本来壁石が無かったか、後に裏込めともに壊されている可能性もある。

底面は概ね平坦だが、北側の底面が一段深く掘鉢状に掘り窪められている。窪みの平面形は円形と推定され、規模は幅0.8m、確認面からの深さは46cmある。また窪みの西壁際には平瓦が縦に重ねて据えられていたことから、窪みは意図的に掘られたものとみられる。

〔埋土〕埋土は6層に分層され、1～4層が石組内に人為的に埋められたもので、6層が壁石背面の掘り方埋土である。

〔出土遺物〕瓦26点、陶器1点が出土している。陶器は志野織部の皿である。



石組み検出状況

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SX6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径1.5cm以下の円礫・黄褐色粘土質シルトブロック・にぶい黄褐色砂質シルトブロック・黒灰色シルトブロックを少量含む	—
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂・黒灰色粘土質シルトブロック・径20mm以下の礫を少量含む	—
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	径3cm以下の円礫を少量、径1cm以下の黒褐色粘土質シルトブロックを微量含む	—
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径2cm以内のにぶい黄褐色砂質シルトブロック・径2cm以下の黒褐色粘土質シルトブロックを少量含む	—
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	径5cm以内の黄褐色シルトブロック・径30cm以上の円礫を多量、径2cm以下の炭化物を少量含む	掘り方埋土

第64図 6号石組遺構

### 7号性格不明遺構(SX7)

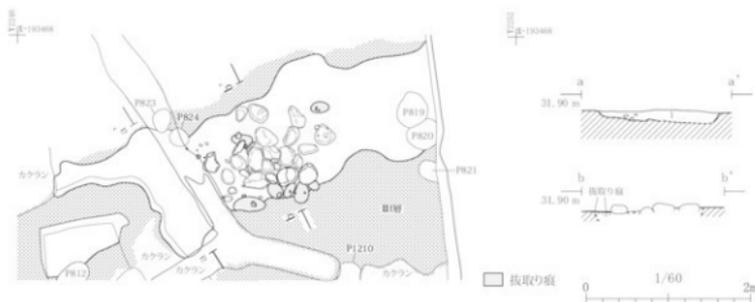
〔位置と重複関係〕調査区東側、X14～15・Y14～15グリッドに位置し、東側が調査区外へ延びる。確認面はⅢF層で、主要遺構との重複はないが、北側にSD2が近接し、南側約2.5mにSA4がほぼ平行して走り、西側約5mにSB6が位置する。

[規模と構造] 平面形は東西方向に長い溝状で、規模は確認した範囲で東西方向 4.9 m以上、南北方向 1.22 ~ 1.65 m、深さは 15cm で、方向は N - 79° - E である。

本遺構は掘り込み調査を行っていないが、攪乱の壁面で埋土の状況を確認した。底面はほぼ平坦で、中央部に径 20 ~ 30cm の円礫が集中して検出された。明確に礫が組まれた状況はみられなかったが、礫が抜きとられたような痕跡を南壁側で 5 か所、北壁側で 2 か所検出した。このことから本遺構は両側に壁石を配置した石組みの溝跡の可能性もあるが、西側では延びを全く確認できない。

[埋土] 埋土は 1 層のみで、ブロック土を多量に含み、人為的に埋め戻されたとみられる。

[出土遺物] 出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SX7	I	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径10cm以内の黒褐色シルトブロック・径5cm以内の灰褐色シルトブロック・径40cm以内の円礫を多量、径10cm以内の灰白色シルトブロックを少量、径20cm以内の灰化物・径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	—
SX7 採取り痕	I	10YR4/1 褐色	砂質シルト	径3cm以内の黒い・黄褐色シルトブロック・径5cm以内の円礫を少量、径1cm以内の灰褐色シルトブロック微量含む	—

第 65 図 7 号性格不明遺構

### 8号石組遺構 (SX8)

[位置と重複関係] 調査区南東部、X22・Y14 グリッドに位置する石組遺構である。SX10 と全く重複し、これを切ることから、本来の掘り込み面は不明である。

[規模と構造] 平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 3.3 m、短軸 2.3 m、深さ 25cm で、壁石の内側での規模は長軸 2 m 弱と推定される。長軸方向は N - 5° - W である。明確に認められる壁石は南壁の一部のみの残存で、礫は径 10 ~ 20cm の円礫を使用しており、他の石組遺構の壁石と比較して小さく目立たないものである。

[埋土] 埋土は 3 層に分層され、1 層 ~ 2 層が壁石内の埋土、3 層が壁石と掘り方壁面との間に入れられた裏詰めである。基本的に人為的に埋められたとみられ、1 ~ 2 層中に含まれる多量の円礫は、廃絶の過程で壁石や裏詰め石の上部が入ったものと考えられる。

[出土遺物] 瓦 55 点、陶器 4 点、磁器 3 点、瓦質土器 1 点、土質土器 2 点が出土した。

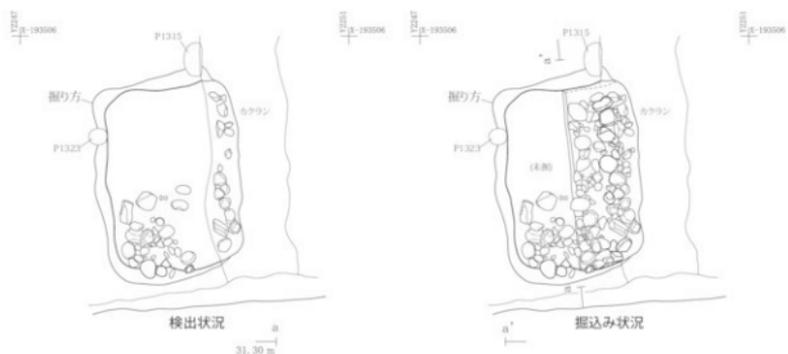
### 9号焼面遺構 (SX9)

[位置と重複関係] 調査区北東部、X9 ~ 10・Y11 ~ 12 グリッドに位置する。確認面は III f 層で、SB5P5 の柱穴に壊されている。東側が大きく攪乱に壊されており、東側への延びは不明である。

[規模と構造] 平面形は不整形で、規模は東西方向 2.45 m 以上、南北方向 2.2 m で、西側から東側に向かって被熱した地山、焼土ブロック混入土、炭化物層、灰層が順に広がっている。被熱した地山の平面形状は円形が南北に重

なるように2連の弧を描きほぼ西側のみに限定される範囲とみられる。東側の堆積物下の遺構底面はほぼ平坦であるが、緩やかに湾曲しており、被熱していない。

本遺構はSB5P5の壁面で断面観察を行っており、炭化物層、灰層の上に、焼土ブロック混入層が堆積することで、焼面の上部にカマド状の構造物が存在していたことが窺われ、灰層上の焼土ブロックは、何らかの構造物の廃絶時にこの構築材を壊すことで堆積したと考えられる。また焼面の東側の状況からは燃焼で出た燃え滓を東側に掻き出



遺構	層位	土色		特徴	備考
SX8	1	10YR4/3 濃い黄褐色	シルト	南側に径30cm以内の円礫を多量、径1cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径2cm以内の炭化物を少量、瓦片を含む	—
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径30cm以内の円礫を多量、径1cm以内の炭化物を微量、瓦片を含む	—
	3	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	径5cm以内の円礫を少量、径1cm以内の炭化物を微量、瓦片を含む	掘り方埋土
SX9	1	5YR4/6 赤褐色	シルト	径5cm以内の焼土ブロックを多量、径5cm以内の濃い黄褐色シルトブロック・炭化物を含む	—
	2	10YR5/4 濃い黄褐色	シルト	灰・炭化物を多量、濃い黄褐色シルトブロックを含む	—
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	灰・炭化物を多量、焼土粒子を少量含む	—
	4	5YR4/3 濃い赤褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径5cm以内の炭化物を少量含む	焼面

第66図 8号石組遺構・9号焼面遺構

す行為が行われていたことが想定される。周囲に柱穴や溝跡等の遺構は確認できなかった。

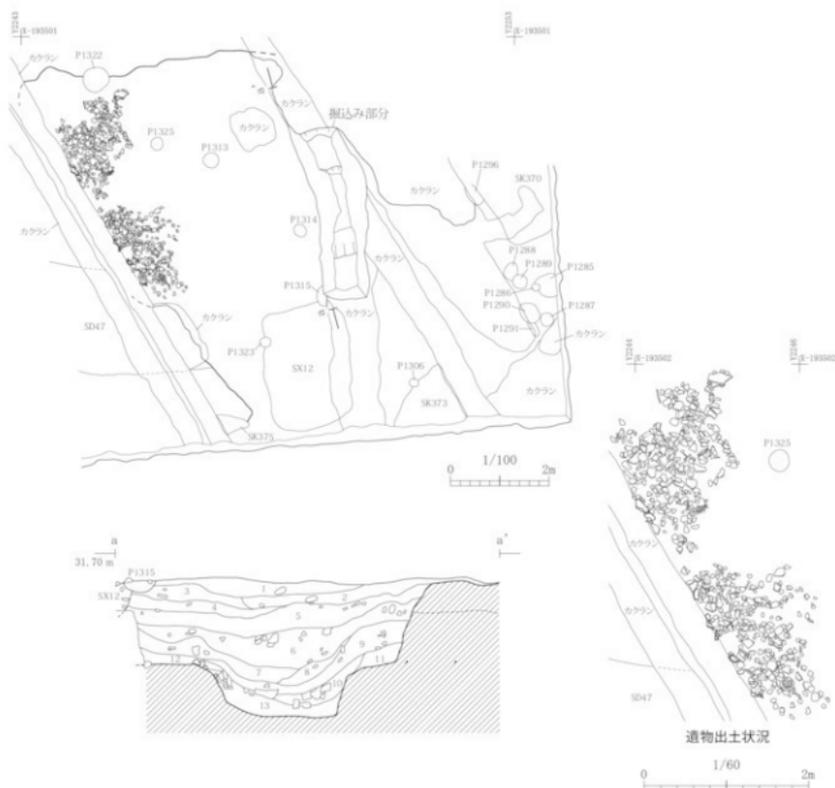
[埋土] 1層から3層の焼土ブロックや炭化物、灰を含む層が人為的堆積物であり、4層とした焼面は遺構確認面のⅢf層が被熱したものである。

[出土遺物] 陶磁器や瓦の他、遺構の性格を窺うことのできる微細な遺物等は出土していない。

### 10号性格不明遺構(SX10)

[位置と重複関係] 調査区南東隅部、X21～22・Y13～15グリッドに位置する。南東側が調査区外へ延び、西側は攪乱に壊されている。確認面はV層で、主要遺構との重複関係はSD40・47を壊しており、SX12に壊されている。本遺構は不整形形で、掘り込みを伴う遺構の中では最大規模で、石組みは確認できないことから、ここでは性格不明遺構とした。

[規模と構造] 平面形は不整形形で、規模は確認できた範囲は東西約10m、南北約8mで、遺構西側は南北の攪乱溝の西側には確認できず、その結果、北西部がやや尖る形状と推定される。一部を掘り込んだ部分での深さは1.7mである。南北方向のトレンチを中央部分に設定して下層の確認を行ったところ、北側の壁面の立ち上がりは急で、



第67図 10号性格不明遺構(1)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SX10	1	10YR5/6 黄褐色	砂質土	径5cm以内の灰褐色砂質シルトブロックを多量、径2cm以内の黒褐色シルトブロックを少量、径20cm以内の門礫を含む	—
	2	10YR5/4 濃い黄褐色	砂質土	径5cm以内の灰褐色砂質シルトブロック・径2cm以内の黒褐色シルトブロックを多量、径10cm以内の門礫・瓦片を含む	—
	3	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質土	径2cm以内の黒褐色シルトブロックを多量、径10cm以内の門礫・瓦片を含む	—
	4	10YR4/3 濃い黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の炭化物を少量、径1cm以内の黄褐色シルトブロックを微量、径5cm以内の門礫を含む	—
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径1cm以内の炭化物・径5cm以内の門礫・瓦片を少量含む	—
	6	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5cm以内の炭化物・瓦片を少量、径3cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを微量、径10cm以内の門礫を少量、瓦片を含む	—
	7	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径3cm以内の炭化物を多量、径10cm以内の門礫を少量、瓦片を含む	—
	8	10YR2/1 黒色	炭化物層	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径3cm以内の焼土ブロックを少量含む	—
	9	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色シルトブロック・径2cm以内の炭化物を少量、瓦片・木片を含む	—
	10	10YR5/3 濃い黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径2cm以内の炭化物・瓦片を多量含む	—
	11	10YR5/6 黄褐色	砂質土	径10cm以内の黒褐色シルトブロックを多量、径2cm以内の黄褐色シルトブロックを少量含む	—
	12	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径4cm以内の炭化物を多量、径5cm以内の門礫・径3cm以内の黄褐色シルトブロックを少量、瓦片を含む	—
	13	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	径3cm以内の炭化物を多量、径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量、瓦片・木片を含む	—

第 68 図 10号性格不明遺構(2)

底面の中央部分が一段深く掘り窪められ、掘り方の断面形は逆凸字形となっている。僅かな確認であったが、底面に石の敷設など特徴的な構造は確認できなかった。

[埋土]埋土は13層に分層され、混入物の差はあるが、全て人為的に埋め戻されたものと考えられる。特徴的なのは、遺構の上部が1層の黄色の砂で埋め戻されていることで、この砂層は本遺構のほぼ全域で検出した。6層～10層は炭化物と共に板状の廃材や瓦片、陶磁器片が多量に含まれており、これらは人為的に廃棄されたものと推定される。また北西部では2か所で瓦片が大量に廃棄された状況を確認しており、その大半は小破片で、中には被熱したのも含まれている。埋土の状況から本遺構は何かの掘り込みを一時期に埋めるように物が廃棄されたもので、上層の砂の敷均しは最終的な地面の調整によるものと考えられる。

[出土遺物]瓦296点、陶器14点、磁器11点、土師質土器2点、石製品1点、金属製品2点が出土した。

## (8) 鍛冶炉跡ほか

調査では鍛冶炉跡の可能性のある遺構1基に加え、調査区中央西側や北東側などにⅢf層面やV層面が被熱する焼面を19か所で検出し、それぞれに番号を付した。

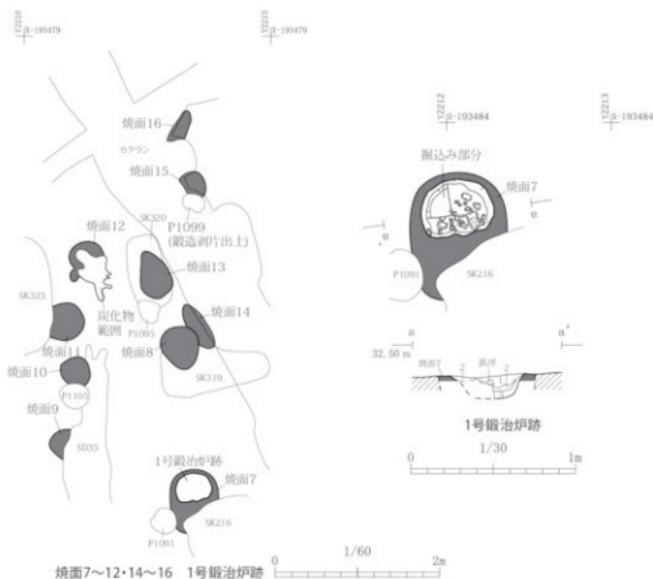
中央西側のX17～18・Y7グリッドの範囲では、10基の焼面が集中して検出した。これら焼面の精査時や周辺のピット等からは鍛造剥片や鉄滓が出土している。北東部のX9～12・Y12～14の範囲では、7基の焼面を検出した。西部の集中部に比べるとやや範囲が拡がり、個々の焼面の規模もやや大型のものが存在している。以下では鍛冶炉跡と重複しながら特に焼面が集中して分布している中央西側についてみる。

### 1号鍛冶炉跡

調査区西部、X17・Y7グリッドに位置する鍛冶炉跡とみられる遺構である。確認面はV層で、南東部をSK216とP1091に壊されている。焼面7の範囲内に完全に重複する形で検出したが、周囲に多数の焼面が存在する状況から焼面7は別遺構と考えられる。南西側に近接するP1091の埋土中には炭化物と大量の灰が混入している。

炉の平面形は東西に長い楕円形で、長軸44cm、短軸32cm、確認面から底面までの深さは16cmで、断面形は碗状である。炉については南側を半截し、下部構造の確認を行った。炉内の埋土は3層に分層され、2層中からは径1cmから10cm程度の鉄滓が多量出土している。最下層の3層は炭化物層で、灰が密に含まれている。炉内の底面や壁面に明瞭な被熱箇所は確認できなかったが、後に炉内が壊されている可能性が高い。

炉内から鉄製品などの遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
1号鍛冶炉跡	1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・炭化物を少量含む	—
	2	10YR2/2 黄褐色	砂質シルト	炭化物を多量、径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径2cm以内の焼土を少量含む	—
	3	10YR1.7/1 黒色	粘土質シルト	炭化物を多量、炭化色粘土を微量含む	—

第 69 図 焼面 7 ～ 12・14 ～ 16 1 号鍛冶炉跡

遺構	平面形状	長軸	短軸	深さ	確認面	備考
焼面 1	不整形門形	0.73m	0.55m	—	V	
焼面 2	楕円形	0.32m	0.30m	—	Ⅲ F	内側を P458 に埋されている。
焼面 3	楕円形	(0.84m)	0.62m	—	Ⅲ F	焼面 4 を埋している。
焼面 4	楕円形	(1.05m)	(0.59m)	—	Ⅲ F	焼面 3・SK207・208 に埋されている。
焼面 5	楕円形	(0.55m)	0.46m	—	Ⅲ F	
焼面 6	楕円形	(1.35m)	(0.47m)	—	V	SD25 と焼瓦に埋されている。
焼面 7	楕円形	(0.82m)	0.64m	—	V	1 号鍛冶炉、SK216、P1091 に埋されている。
焼面 8	不整形門形	0.91m	0.75m	—	V	焼面 14 を埋している。
焼面 9	円形	0.63m	0.60m	—	V	SD35 に埋されている。
焼面 10	円形	0.61m	0.60m	—	V	SD35 を埋し、P1105 に埋されている。
焼面 11	円形	0.80m	(0.65m)	—	V	
焼面 12	不整形	1.22m	0.83m	—	V	上部に炭化物の集中する範囲あり。
焼面 13	(不整形門形)	0.60m	0.41m	—	V	SK320 を埋している。
焼面 14	楕円形	1.05m	(0.42m)	—	V	焼面 8 と焼瓦に埋されている。
焼面 15	楕円形	0.59m	(0.41m)	—	V	P1099 に埋されている。
焼面 16	楕円形	(0.68m)	(0.35m)	—	V	内側が焼瓦に埋されている。
焼面 17	不整形門形	1.22m	0.72m	—	Ⅲ F	P667・668 を埋している。
焼面 18	不整形門形	1.25m	0.55m	—	Ⅲ F	P668 に埋されている。
焼面 19	楕円形	0.75m	0.58m	—	Ⅳ	

第 15 表 焼面一覧表

## (9) 土坑

今回の調査で検出した土坑は全部で 528 基である。分布の傾向としては、調査区の北西隅と南東隅を結んだラインより南西の全域に、大小様々な規模や形状の土坑が隣りなく密集し、また幾つかが重複する状況が確認された。土坑群の広がり、西側では数か所で設定した試掘区の状況から、Y5 グリッドラインあたりでほぼ取束し、それより西側の調査区外へはあまり分布していないことがわかる。また調査区北東側では西側のような土坑の集中する状況はみられず、小規模の土坑が散在する状況であった。

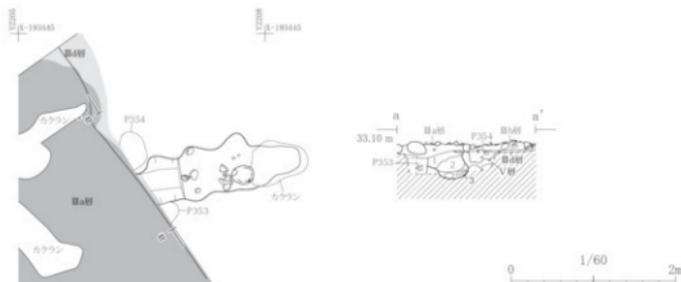
西側の土坑集中箇所を確認した大型の土坑群の埋土中には、炭化物や焼土粒・塊と共に、瓦片や陶磁器類の破片、さらに何らかの板材や木杭等の廃材が多量に混入する状況が多数確認でき、同時に掘り込みを行っていない土坑の平面観察からも同様の状況が確認できた。これらの状況は、文献等から読み取れる片倉屋敷の火災やそれに伴う建て替え時における土取り穴、さらにそれを利用しての瓦礫処理を行ったためのものが多数含まれていると推定される。また土坑群の中には貝類などの食物残渣が含まれているものも幾つか確認していることから、土坑群の中には各時期の屋敷内で使用されていたごみ穴も相当数含まれているものと推定される。

ごみ穴以外の性格を有するとみられる主な土坑としては、形状や構造等から井戸と類似する性格の可能性がある SK183、SK424 や、土師質土器を大量に廃棄した SK214 等もあり、近世を通して営まれた様々な性格の土坑が存在することがわかる。

### 25号土坑 (SK25)

調査区の北西部、X10・Y6 グリッドに位置する小型の溝状土坑である。西側がⅢ a 層石敷遺構に被覆されているため全容は不明である。確認面はⅤ層で、主要遺構との重複関係は、Ⅲ a 層石敷遺構より古い。また南側に SK74 が近接する。平面形は溝状で、規模は長軸 1.98m 以上、短軸 0.7m、深さ 35cm で、方向は N-81°-E、である。底面はほぼ平坦で、断面形は壁の崩落により北側がオーバーハングする。埋土は 3 層に分層され、ブロック土を含むシルトを主体とし、人為的に埋め戻されている。北側から堆積する状況がうかがえ、10～30cm 程度の円礫がまばらに含まれる。

遺物は瓦が 13 点出土した。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK25	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	径2cm以下の灰褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒・植土粒を微量含む	—
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	径3cm以下の灰褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒・植土粒を微量含む	—
	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	径2cm以下の灰褐色砂質シルトブロックを少量、径10cm以下の円礫を含む	—

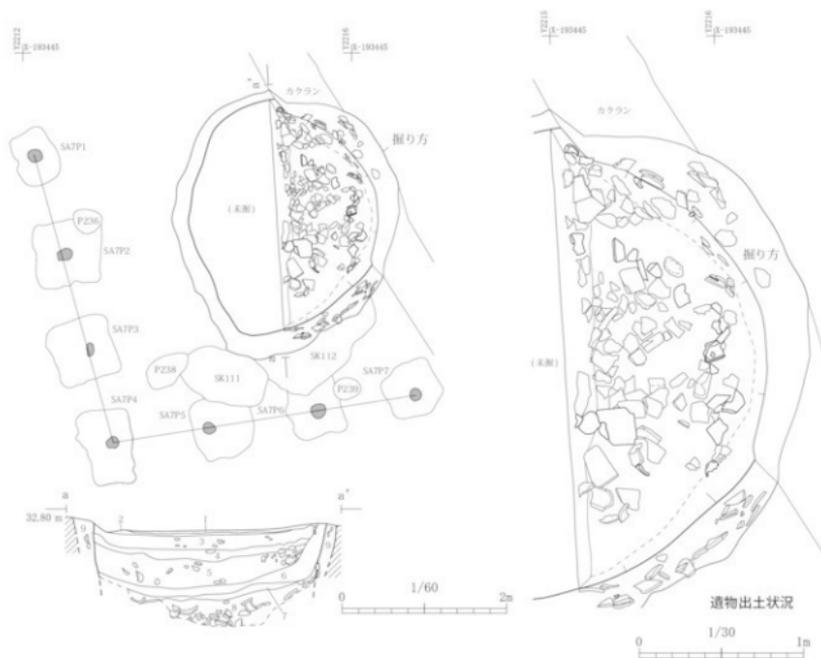
第70図 25号土坑

### 36号土坑 (SK36)

調査区の北西部、X10・Y7～8 グリッドに位置する中型の土坑である。確認面はⅢ e 層で、主要遺構との重複

関係はみられないものの、SA7が本遺構の西側と南側を囲むように位置しており、両遺構は同時存在した可能性もある。平面形は楕円形で、規模は長軸3.2m、短軸2.7m、深さは120cm以上まで掘り込んだが、底面は確認していない。方向はN-15°-Eである。埋土は9層に分層され、大別すると外縁部に縦に堆積した掘り方埋土に類似した層と内側の埋土に分けられる。壁側に堆積する9層の内側面には、壁に沿って縦方向に瓦片が張り付けられた状態で出土している。9層の内側に堆積する1~8層はほぼ水平に近いレンズ状に堆積しており、上層の2層粘土層は非常に硬く締まっている特徴的な層である。8層には炭化物や焼土粒とともに、多量の瓦片があたかも敷かれたように多量出土している。

遺物は瓦762点、陶器41点、磁器27点、瓦質土器4点、土師質土器8点、石製品3点、金属製品8点が出土した。



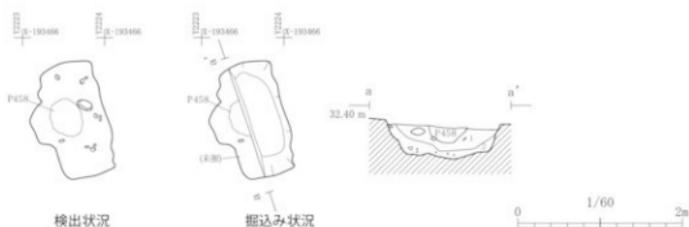
遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK36	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂	径3cm以内の円礫を微量含む	—
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	径1cm以内の円礫・炭化物粒子を微量含む	—
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径5cm以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量、径2cm以内の濃い黄褐色砂ブロックを含む	—
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	径1cm以内の炭化物・炭化物粒子を含む	—
	5	10YR4/3 濃い黄褐色	シルト	径1cm以内の炭化物を少量、炭化物粒子を微量、径3cm以内の濃い黄褐色シルトブロック・径20cm以内の円礫を含む	—
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	径3cm以内の黒褐色粘土ブロック・径1cm以内の焼土ブロックを少量、炭化物粒子を微量含む	—
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	径1cm以内の暗褐色砂質シルトブロックを含む 瓦の混入多数	—
	8	10YR2/1 黒色	砂質シルト	径2cm以内の炭化物・炭化物粒子を多量、径15cm以内の円礫・径1cm以内の焼土ブロックを少量含む 瓦の混入多数	—
	9	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径3cm以内の円礫・焼土粒子を少量、径1cm以内の濃い黄褐色砂ブロック・径1cm以内の炭化物・炭化物粒子を含む 瓦縦方向に多量混入	掘り方埋土

第71図 36号土坑

### 54号土坑 (SK54)

調査区の中央やや北側、X14・Y9 グリッドに位置する小型の土坑である。確認面はV層で、主要遺構との重複関係はないが、上部にP458が重複しており、南東部約2mにSB3が位置する。平面形は長方形で、西側の一部が方形気味に張り出している。規模は長軸1.45m、短軸0.9m、深さ48cmで、方向はN-14°-Wである。断面形は逆台形で、底面の確認は行っていない。埋土は2層に分層でき、ブロック土が混入し、人為的に埋め戻されており、埋土上部が底石を伴うP458によって壊されている。

遺物は瓦2点、土師質土器4点、縄文土器1点が出土した。

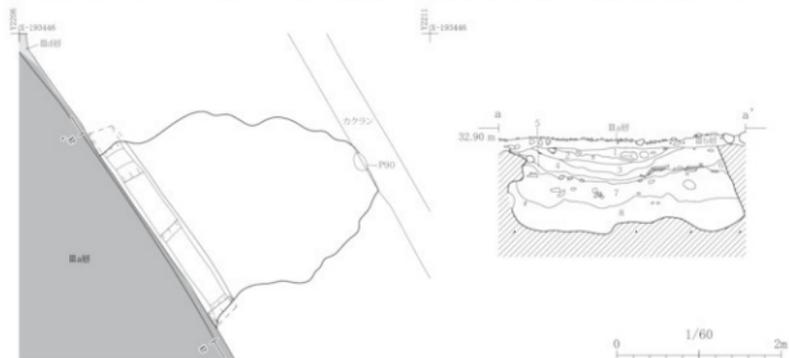


遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK54	1	10YR4/3 灰黄褐色	シルト	径2cm以内の円礫を少量、径3cm以内の灰白色シルトブロック・径15cm以内の円礫を含む	—
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	径2cm以内の灰白色シルトブロック・径8cm以内の円礫を少量、径1cm以内の円礫を微量含む	—

第72図 54号土坑

### 74号土坑 (SK74)

調査区の北西部、X10・Y6～7グリッドに位置する大型の土坑である。西側がⅢa層石敷遺構に被覆されているため全容は不明である。確認面はV層で、主要遺構との重複関係は、Ⅲa層石敷遺構より古く、SX5石組遺構より新しい。北側にはSK25が近接する。平面形は概ね楕円形と推定され、規模は長軸3.2m以上、短軸2.45m、深さ105cmで、方向はN-77°-Eである。一部でトレンチ状の掘り込みを行ったところ、底面中央にはやや起伏がみられ、断面形は南北両壁がオーバーハングしているが、これが壁面の崩落によるかは不明である。埋土は8層に分層され、上層の1～5層はレンズ状に堆積し、7・8層は厚くほぼ水平に堆積する。全体にブロック土を



第73図 74号土坑(1)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK74	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物粒子を微量、径20cm以内の円礫を含む	—
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径5cm以内の褐色～黒灰色シルトブロックを多量、径10cm以内の円礫を少量、炭化物粒子微量含む	—
	3	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径5cm以内の近い黄褐色砂質シルトブロックを多量、炭化物粒子微量含む	—
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	径20cm以内の近い黄褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子を微量含む	—
	5	10YR1.7/1 黒色	粘土	炭化物粒子を密に含む	—
	6	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	地山崩壊土	—
	7	7.5YR3/3 暗褐色	砂	径10cm以内の円礫を含む	—
	8	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の近い黄褐色砂質シルトブロックを多量、径5cm以内の円礫を少量含む	上部に近い黄褐色砂質シルト粒子が混入する

第74図 74号土坑(2)

含むシルト質土を主体とし、炭化物粒を密に含む薄い5層上面には4層中に瓦が大量に廃棄されていた。埋土は全て人為的に埋め戻されたとみられ、当初は5～8層が埋まっていたところに4層以上の層が後に埋められたと考えられる。

遺物は瓦133点、陶器3点、磁器1点、土師質土器3点、瓦質土器1点、石製品1点、木製品1点が出土した。

#### 77号土坑(SK77)

調査区の北西部、X12～13・Y6～7グリッドに位置する大型の土坑である。確認面はV層で、主要遺構との重複関係は、Ⅲc層石敷遺構やSB2より古い。平面形は不整楕円形で、規模は長軸5.1m、短軸4.45m以上、深さ155cmで、方向はN-32°-Eである。平面的には単一の土坑として確認したが、東西方向にトレンチ調査を実施し、底面を確認したところ、底面中央部分に尾根状の地山の高まりを確認したことから、土坑は2基が重複していると考えられる。埋土は13層に分割され、堆積状況からみて当初は西側の土坑の底から埋められ、途中で東側の土坑が掘られると共に、底の一部が埋められるが、最終的には2基の土坑上には共通の埋土がみられることで、同時に埋められていったとみられる。埋土中には瓦片が多量に混入し、底面付近からは何らかの木材や木片が出土した。

遺物は瓦437点、陶器19点、磁器19点、土師質土器5点、瓦質土器5点、石製品2点、木製品47点、金属製品1点、自然遺物8点が出土した。木製品では漆器、下駄が出土した。

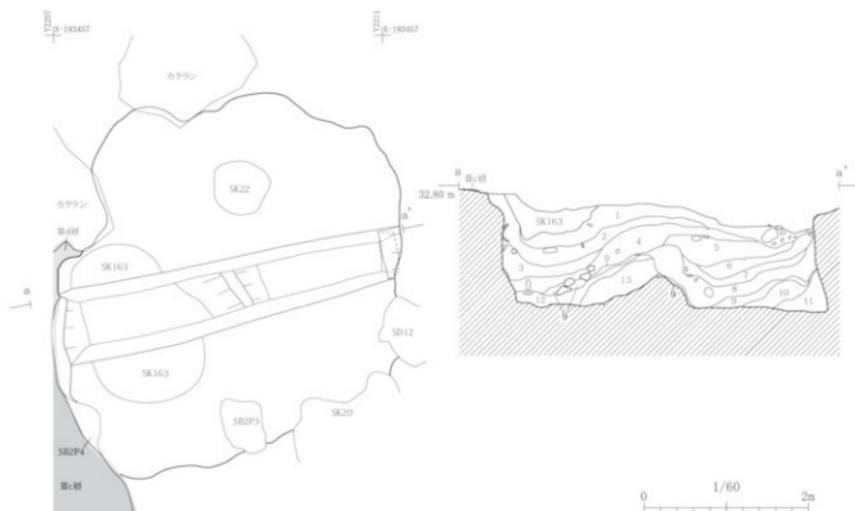
#### 81号土坑(SK81)

調査区北部、X11～12・Y9グリッドに位置する。確認面はⅢe層で、主要遺構との重複関係はないが、南西部にSX3が近接する。平面形は概ね楕円形で、規模は長軸4.15m、短軸2.35m、深さ150cm以上で、方向はN-17°-Wである。攪乱を利用したトレンチ調査を実施したが、底面までの掘削は行っていない。壁の前落により南側の壁面の一部は袋状となっている。埋土は15層に分割され、最も厚く堆積する12層中からは焼土や炭化物の他、被熱した泥岩、円礫、瓦片が多量に混入するのが確認された。被熱した泥岩の大きさは、一辺が10～30cmのものもあり、比較的整った直方体ないし立方体に近い形状のものも含まれている。中には径50cmもある大型のものも含まれている。円礫は径10～20cmのものが大半を占め、大きさがわりと揃っている。土坑は初め12層等を中心に大量の礫を含んだ土壌が入られた後、中央部分が新たに掘削され、再度の埋め戻しを繰り返し、目的は不明だが、数回の掘り込みが行われたとみられる。

遺物は瓦452点、陶器18点、磁器7点、土師質土器3点、金属製品2点、石製品2点が出土した。

#### 83号土坑(SK83)

調査区の北西部、X13～14・Y7～8グリッドに位置する大型の土坑である。確認面はV層で、SK82・83に南側を壊されている。北側以外の大部分が他の遺構や攪乱に壊されているため形状は不明である。規模は長軸5.65m、短軸3.34m以上、深さ54cmで、仮定した長軸方向はN-10°-Eである。遺構上面には10～35cm程度の円礫がまばらに検出されたが、これは特に埋土上に構築された何かしらの一部ではなく、埋土中の混入とみられる。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK77	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粘径の異なるにぶい黄褐色砂が層状となり、径8cm以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量含む	—
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径2cm以内の円礫・砂粒子を少量含む	—
	3	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	径5cm以内の円礫・砂粒子を少量、炭化物粒子を微量含む	—
	4	2.5Y2/3 暗オリーブ褐色	粘土	砂粒子を少量、径1.5cm以内の円礫を含む	—
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	径8cm以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量、細かな層状に砂粒子、径3cm以内のにぶい黄褐色シルトブロックを含む	—
	6	2.5Y3/5 暗オリーブ褐色	シルト	径2cm以内の円礫を少量、細かな層状に砂粒子を含む	—
	7	2.5Y3/3 黒褐色	粘土	細かな層状に砂粒子を含む	—
	8	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	径3cm以内の円礫を少量、にぶい黄褐色砂質シルトブロック・砂粒子を含む	—
	9	10YR2/1 黒色	粘土	植物遺体を多量含む	—
	10	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	径20cm以内のにぶい黄褐色砂質シルトブロックを多量、炭化物粒子を微量含む	—
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土	径1cm以内の炭化物・炭化物粒子を微量含む 地山崩壊土	—
	12	10YR1.7/1 黒色	シルト	径2cm以内の炭化物・炭化物粒子を多量、径5cm以内の円礫を微量含む	高い土坑の堆積土
	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	径10cm以内の円礫を少量、径2cm以内の炭化物・炭化物粒子を微量、径2cm以内の暗灰色シルトブロック・にぶい黄褐色砂質シルトブロックを含む	高い土坑の堆積土

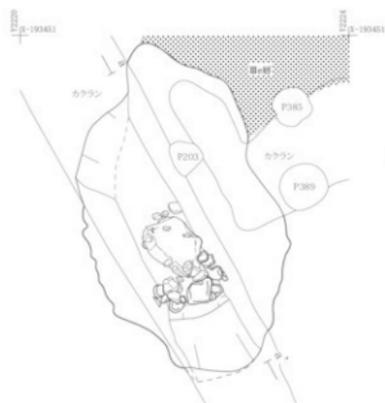
第75図 77号土坑

底面はほぼ平坦で、壁面は傾斜をもって立ち上がっており、東側の一部に高さ20cm程度の段差を確認した。土坑全体としては規模と比較して浅いものである。埋土は6層に分層され、ブロック土と炭化物を含むシルトを主体とし、人為的に埋め戻されている。

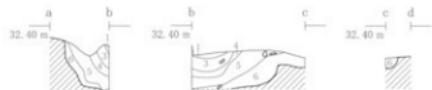
遺物は陶器2点、磁器1点、土師質土器2点が出土した。

#### 84号土坑 (SK84)

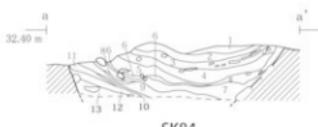
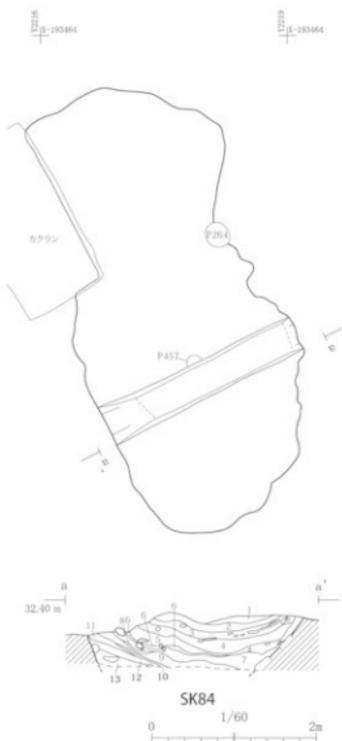
調査区の中央部やや西側、X13～15・Y8グリッドに位置する大型の土坑である。確認面はV層で、南西部がSK85に壊されている。また南側にSA1、東側にSB3が近接する。平面形は不整形円形で、規模は長軸5.6m、短軸2.65m、深さ65cm以上で、方向はN-15°-Wである。トレンチ調査を実施したが、底面までの掘削は行っていない。埋土は15層の層厚のわりと薄い層に分層された。レンズ状に堆積する全ての層は人為的に埋め戻されたと考えられ、3層中からは、遺物がまとめて出土している。6・8・10層は薄く面的に広がる堆積層で、植物遺体や炭化物が混入する。



SK81



SK83



SK84

第76図 81・83・84号土坑(1)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK81	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒子によって黒色化した径 5cm 以内の砂質シルト・に濃い黄褐色粘土ブロックを上層ほど多量、径 2cm 以内の褐色シルトブロックを多量に多量、焼土粒子を微量、径 1cm 以内の炭化物・炭化物粒子を含む	—
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒子を少量、に濃い黄褐色粗砂～砂粒子を含む	—
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物シルトを上層ほど多量、径 15cm 以内の焼熟炭灰片を多量、径 1cm 以内の炭化物・炭化物粒子を少量含む	—
	4	10YR4/3 に濃い黄褐色	シルト	径 5cm 以内の濃い黄褐色シルトブロックを多量、径 8cm 以内の円礫、径 1cm 以内の炭化物・炭化物粒子を微量、径 2cm 以内の焼土ブロックを含む	—
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 15cm 以内の灰質土の一部礫層・径 1cm 以内の炭化物・径 12cm 以内の焼土ブロックを少量、径 3cm 以内の濃い黄褐色シルトブロックを含む	—
	6	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 3cm 以内の灰黄褐色粘土質シルトブロックを多量、径 1cm 以内の炭化物を少量、径 2cm 以内の炭灰片を含む	—
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒子を少量、径 3cm 以内の砂粒子・灰黄褐色粘土ブロック・径 1cm 以内の炭化物を含む	—
	8	10YR4/3 に濃い黄褐色	砂	径 3cm 以内の円礫・径 1cm 以内の炭化物を少量、径 8cm 以内の炭灰片を微量、径 2cm 以内の濃い黄褐色シルトブロックを含む	—
	9	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 0.5cm 以内の炭化物・径 1cm 以内の焼土ブロックを含む	—
	10	10YR5/3 に濃い黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の焼土ブロック・炭化物・炭灰片を微量、径 1cm 以内の黄褐色シルトブロック・に濃い黄褐色砂ブロックを含む	—
	11	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	径 10cm 以内の円礫・炭化物を少量、径 1cm 以内の濃い黄褐色砂ブロックを含む	—
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 30cm 以内の円礫を多量、径 5cm 以内の炭灰片・径 1cm 以内の炭化物・径 5cm 以内の焼土ブロックを少量含む	—
	13	10YR3/1 黒褐色	シルト	径 2.5cm 以内の炭灰片を多量、径 1cm 以内の炭化物を少量、径 5cm 以内の焼土ブロックを含む	—
	14	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	径 1cm 以内の炭化物を微量、径 1cm 以内の濃い黄褐色砂ブロック・径 1cm 以内の炭灰片を含む	—
15	10YR2/1 黒色	粘土	炭化物粒子を層状に多量、径 5cm 以内の円礫を少量、砂粒子を含む	—	
SK83	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の円礫・径 1cm 以内の炭化物・炭化物粒子を少量含む	—
	2	5Y4/2 灰褐色	シルト	径 3cm 以内の灰黄褐色シルトブロック・径 3cm 以内の炭化物を少量、径 2cm 以内の円礫を微量含む	他の部分で確認
	3	10YR2/3 黒褐色	粘土	径 8cm 以内の濃い黄褐色砂質シルトブロック・径 1cm 以内の炭化物・炭化物粒子を含む	—
	4	10YR5/3 黒色	シルト	径 8cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量含む	—
	5	10YR1/7.1 暗褐色	粘土質シルト	径 3cm 以内の炭化物・炭化物粒子を基に、径 3～10cm 炭化物・炭化物粒子を少量含む	—
	6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径 8cm 以内の灰黄褐色シルトブロック(V 層)・径 5cm 円礫を少量含む	—
SK84	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の円礫を少量、白色粒子・炭化物粒子を微量、砂粒子を含む	—
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の濃い黄褐色砂質シルトブロック・径 3cm 以内の円礫を少量、白色粒子を微量含む	—
	3	10YR2/3 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の濃い黄褐色砂質シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物・炭化物粒子を微量含む	—
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 8cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の白色粒子・炭化物・炭化物粒子を微量、径 2cm 以内の灰黄褐色シルトブロックを含む	—
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物・白色粒子を微量、径 3cm 以内の濃い黄褐色シルトブロックを含む	—
	6	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	炭化物粒子を層状に含む	—
	7	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	径 10cm 以内の濃い黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 1cm 以内の炭化物・炭化物粒子を微量、径 15cm 以内の円礫を含む	—
	8	2.5Y4/1 灰褐色	シルト	炭化物粒子・植物遺体を含む	—
	9	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	径 0.5cm 以内の炭化物・炭化物粒子を微量、径 1cm 以内の暗灰色粘土質シルトブロックを含む	—
	10	10YR2/1 黒色	粘土	植物遺体を密に含む	—
	11	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 1cm 以内の暗灰色粘土質シルトブロックを少量含む	—
	12	2.5Y3/3 オリーブ黒色	粘土質シルト	砂粒子を含む	—
	13	10YR2/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量含む	—

第 77 図 81・83・84 号土坑 (2)

遺物は瓦 117 点、陶器 19 点、磁器 6 点、瓦質土器 2 点、土師質土器 7 点、軟質施軸陶器 5 点、石製品 1 点、木製品 1 点、金属製品 1 点、土製品 1 点が出土した。

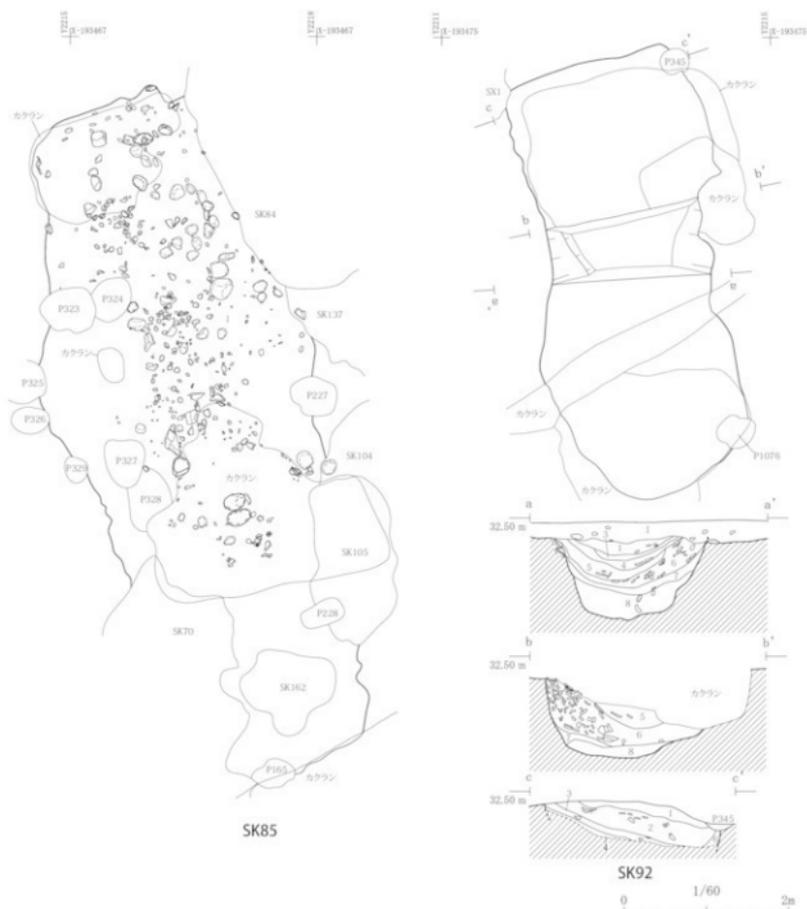
### 85 号土坑 (SK85)

調査区の中央部やや西側、X14～16・Y7～8 グリッドに位置する大型の土坑である。確認面は V 層で、北東部を SK84、南部を SK70・104・105・162 に壊されている。平面形は中央部が僅かに張り出す長楕円形で、規模は長軸 8.42 m、短軸 3.35 m、方向は N-14°-W である。本遺構は掘り込み調査を行っていないため、深さは不明である。遺構の上には径 30cm 以内の円礫や瓦片がまばらに確認され、北側に炭化物の集中範囲が認められた。

遺物は瓦 26 点、陶器 7 点、磁器 4 点、瓦質土器 1 点、土師質土器 1 点、土製品 2 点が出土した。

### 92 号土坑 (SK92)

調査区の西側、X16～17・Y7 グリッドに位置する大型の土坑である。確認面は V 層で、主要な遺構との重複関係はないが、西側に SE1、南西側に 1 号鍛冶炉が近接する。平面形は長楕円形と推定され、規模は長軸 5.36 m、



通称	層位	土色	土性	特徴	備考
SK85	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	径30cm以内の円礫を多量、瓦片・径2cm以内の炭化物・径1cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む	—
SK92	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	径8cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物を少量、炭化物粒子を含む(特にC-Cでの器人が顕著である) 瓦入る	—
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径3cm以内の炭化物を少量、粘土ブロックを微量、灰黄褐色砂・径2cm以内のぶい黄褐色砂質シルトブロックを含む(1層ほど多く混入)	—
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	オリーブ褐色砂と暗褐色シルトの混ざり 径1cm以内の炭化物を少量含む	—
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	径1cm以内の黒色シルトブロックを含み部分的に崩壊して堆積する 径2cm以内の灰黄褐色砂質シルトブロック・径1cm以内のオリーブ褐色砂ブロック・炭化物粒子を含む	—
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径3cm以内の灰黄褐色砂質シルトブロック・径2cm以内のオリーブ褐色土質シルトブロックを多量、径1cm以内のぶい黄褐色シルトブロック(Vd層)を少量、(層別1層での器人が顕著) 径5cm以内の円礫を少量含む B-B'では径3cm以内の炭化物を含む	—
	6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	瓦多量入る	—
	7	10YR1.7/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒子を多量、粘土粒子を少量、径1cm以内の炭化物を含む	—
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	径10cm以内の円礫を少量、径1cm以内の炭化物を微量、褐色・径1cm以内の灰白〜灰黄褐色を含む	—

第78図 85・92号土坑

短軸 2.34m、深さ 98cm で、方向は  $N-19^{\circ}-W$  である。掘り込みは中央部のトレンチ調査を実施し、一部底面を確認した。底面はほぼ平坦で壁は傾斜を持って立ち上がる。埋土は 8 層に分層された。全層とも人為的に埋め戻されたとみられ、6 層中には西側を中心に瓦が大量に廃棄され、その下層の 7 層中には多量の炭化物が含まれる。

遺物は瓦 2,751 点、陶器 2 点、磁器 4 点、瓦質土器 2 点、土師質土器 11 点、石製品 1 点、木製品 1 点、金属製品 2 点が出土した。

### 113号土坑 (SK113)

調査区の中央部やや北側、X13 ~ 14・Y9 ~ 11 グリッドに位置する東西方向に長い大型の土坑である。確認面は IV ~ V 層で、主要な遺構との重複関係は、SA3 より新しく、SD9、SK52 より古い。東側には SA5 が近接する。平面形はやや不整な楕円形で、西側が方形気味に張り出した形状である。規模は長軸 8.9m 以上、短軸 4.6m、深さ 160cm 以上で、方向は  $N-82^{\circ}-E$  である。西側部分においてトレンチ調査を実施したが、底面までの掘り込みは行っていない。埋土は 8 層に分層され、上位の 1 層から 7 層は層厚がわりと薄く、炭化物や埴土の混入した層がレンズ状に堆積するが、中～下位の 8 層は分層ができない層厚のある単一層とみられ、地山ブロックを主体とし、それ以外の混入物はほとんど認められない特徴的な層である。このことから、土坑に重複関係は確認できなかったが、当初のものが埋め戻された後に再度掘り込みと埋戻しが行われている可能性が高い。

遺物は瓦 15 点、土師質土器 4 点、金属製品 1 点、弥生土器 1 点が出土した。



第 79 図 113号土坑 (1)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK113	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂を多量、径2cm以内の黄褐色シルトブロックを少量、炭化物粒子を微量含む	—
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	径2cm以内の黄褐色シルトブロック・径1cm以内の炭化物・炭化物粒子を含む	—
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物・炭化物粒子を少量、灰黄褐色砂を含むシルトブロックと炭化物は比較的多く、砂は両側に多く混入する	—
	4	10YR4/1 黒灰色	シルト	径1cm以内の炭化物を少量、径5cm以内の黄褐色シルトブロックを含む	—
	5	10YR2/1 黒色	シルト	径2cm以内の炭化物・炭化物粒子を多量、径3cm以内の焼土ブロック・焼土粒子・径4cm以内の黄褐色シルトブロック・径1.5cm以内の円礫を含む	—
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径1cm以内の炭化物・炭化物粒子を少量、径2cm以内の黄褐色シルトブロック・径1.5cm以内の円礫を含む	—
	7	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒子を少量、径5cm以内の円礫を含む	—
	8	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径5cm以内の黄褐色シルトブロック・径5cm以内の黒褐色粘土ブロックを多量、径1cm以内の炭化物を微量、径20cm以内の円礫を含む。下層ほど黒褐色粘土ブロックの層人が目立つ。また北東部の上層部分にはワライ化している	—

第80図 113号土坑(2)

### 163号土坑(SK163)

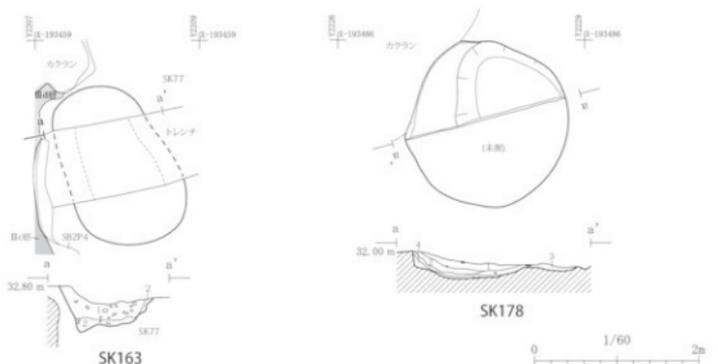
調査区の北西部、X12～13・Y6グリッドに位置する小型の土坑である。確認面は不明であるが、本遺構の上部にⅢc石敷遺構が僅かに確認できることから、石敷遺構より古い段階の遺構である。平面形は楕円形で、規模は長軸2.05m、短軸1.36m、深さ57cmで、方向はN-19°-Wである。埋土は2層に分層され、ブロック土と炭化物を含む人為的に埋め戻されたやや乱れた土層である。

遺物は磁器1点が出土した。

### 178号土坑(SK178)

調査区の中央部やや南側、X18・Y10グリッドに位置する小型の土坑で確認面はV層である。平面形は概ね円形で、規模は長軸2.06m、短軸2.02m、深さ23cmである。底面はほぼ平坦で、西側に僅かな段差がある。埋土は4層に分層され、人為的に埋め戻されたとみられるブロック土と炭化物を含むシルトを主体とする。

遺物は瓦25点、陶器13点、磁器6点、軟質施軸陶器1点、瓦質土器2点、土師質土器4点、金属製品2点が出土した。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK163	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径0.5cm以内の焼土ブロック・炭化物粒子を少量、径2cm以内の暗褐色砂質シルトブロック・径1.5cm以内の円礫を含む	—
	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径5cm以内の円礫・径1.5cm以内の炭化物を少量、炭化物粒子を含む	—
SK178	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子を微量、径1.5cm以内の円礫を含む	—
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	径1cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量、径2cm以内の炭化物粒子を含む	—
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒子を少量、径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを含む	—
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む	—

第81図 163・178号土坑

### 183号土坑 (SK183)

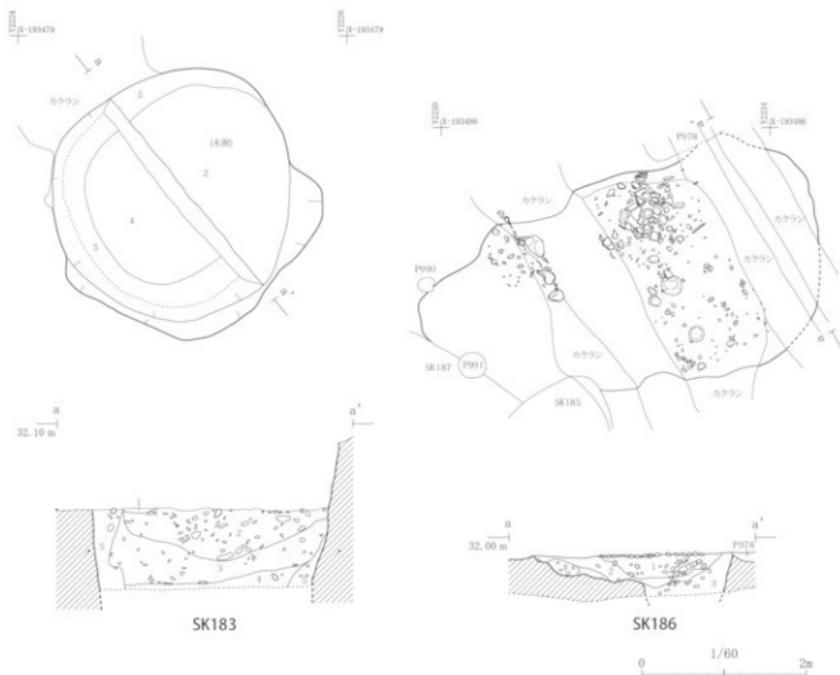
調査区中央やや南側、X16～17・Y9・10グリッドに位置する中型の土坑である。確認面はV層で、SK199と重複し、本遺構が新しい。平面形は概ね円形で、規模は長軸3.1m、短軸2.9m、深さは180cmまで掘削した時点でさらに1m以上の深さがあることが判明し、底面は確認できなかった。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。埋土は5層に分層され、1～4層は土坑全体にレンズ状に堆積する人為的に埋められたとみられるのに対し、5層は壁際のみ縦長に堆積している。5層については平面的にも東側を除く壁際に環状に堆積している状況が確認されており、おそらくは何らかの内壁構造をもった掘り方埋土と考えられる。埋土と掘り方との間に何らかの仕切り等は確認できなかったが、プランの形状や構造から、井戸跡の可能性もある土坑である。

遺物は瓦175点、陶器8点、磁器7点、土師質土器4点、石製品1点、木製品2点、縄文土器1点が出土した。

### 186号土坑 (SK186)

調査区の中央やや南東側、X18・Y10～11グリッドに位置する東西に長い大型の土坑である。確認面はV層で、西側をSK185・187に壊されている。平面形は不整楕円形で、規模は長軸5.00m、短軸2.17m、深さ50cm以上である。西側の掘乱中で埋土の確認を行ったところ、埋土は3層に分層され、ブロック土を含むシルトを主体とし、人為的に埋め戻されたものと考えられる。1層中からは瓦片が多量に出土している。断面をみると土坑の北東側に極端に深くっており、古い土坑状のプランが重複している可能性がある。

遺物は瓦64点、陶器2点、磁器4点が出土した。



第82図 183・186号土坑(1)

遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK183	1	5YR4/3 赤褐色	シルト	径2cm以上の焼土ブロックを多量、炭化物を少量含む	—
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	径20cm以内の円礫を多量、径3cm以内の赤い黄褐色粘土質シルトブロックを含む	—
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	径5cm以内の赤い黄褐色粘土質シルトブロック・径10cm以内の円礫を含む	—
	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	径8cm以内の円礫を少量含む	—
	5	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	径5cm以内の赤い黄褐色砂質シルトブロック・径1.5cm以内の円礫を多量、炭化物を少量含む	掘り方埋土
SK186	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	径5cm以内の黄褐色シルトブロック・径3cm以内の灰褐色シルトブロックを多量、径10cm以内の円礫・径3cm以内の炭化物・瓦片を少量、径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	—
	2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	径5cm以内の灰褐色シルトブロックを多量、径5cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物・径0.5cm以内の白色粒子を微量含む	—
	3	5Y5/1 灰白色	砂質シルト	径3cm以内の赤い黄褐色砂質シルトブロック・径3cm以内の灰褐色砂質シルトブロックを多量、径1cm以内の灰白色シルトブロック・径5cm以内の円礫・径3cm以内の炭化物を微量含む	—

第 83 図 183・186 号土坑 (2)

### 189号土坑 (SK189)

調査区の中央やや南側、X18～19・Y9～10グリッドに位置する大型の土坑である。確認面はV層で、南西部は溝跡や土坑群に壊されている。南側で接するSK188との重複関係は、遺構検出時の状況では本遺構が新しい時代の土坑として調査を進めたが、南北方向に設置した土層観察用ベルトで埋土の状況を再度精査した結果、本遺構が古い土坑であることを確認した。平面形は概ね楕円形で、規模は長軸5.2m以上、短軸3.65m、深さ105cmで、方向はN-45°-Eである。底面は緩やかな起伏はあるが、概ね平坦で、断面形は箱形ないし逆台形で、壁は急な傾斜を持って立ち上がる。埋土は22層に分層され、全体的にブロック土と遺物を含む人為的に埋め戻された土層である。断面観察から当初埋め戻された土坑は南西側を中心に再度掘り込まれ、再び埋められている可能性もある。

遺物量は多く、炭化物とともに瓦片や陶磁器類が出土している。出土遺物の内訳は、陶器143点、磁器100点、軟質施軸陶器12点、土師質土器77点、瓦質土器13点、瓦738点、土製品5点、木製品5点、金属製品84点、石製品5点、自然遺物86点、非ロクロ土師器4点、石器2点である。

### 199号土坑 (SK199)

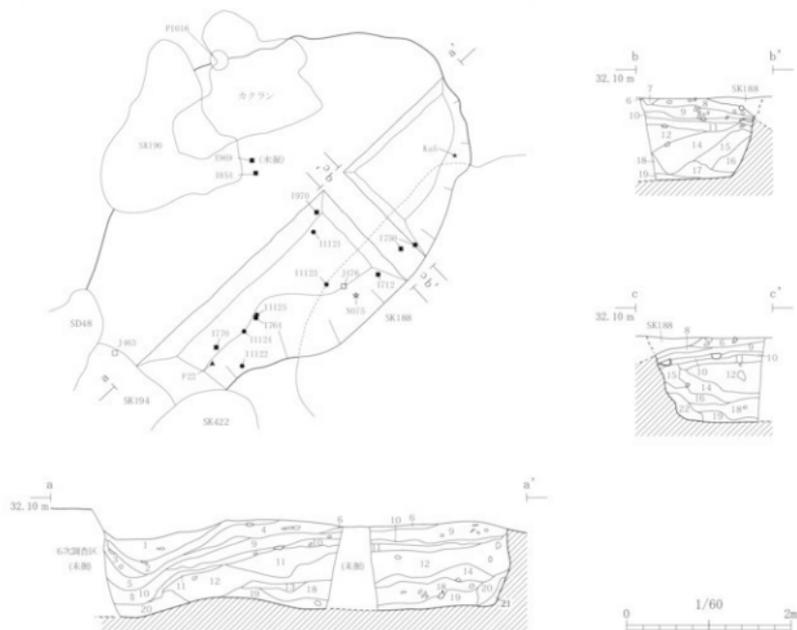
調査区の中央部、X16～17・Y10グリッドに位置するやや大型の土坑である。確認面はV層で、南西部がSK183に壊されている。本遺構は未掘削で、攪乱の壁面で埋土の観察のみ行なった。平面形は楕円形と推定され、規模は長軸3.3m以上、短軸2.9m、深さ45cm以上で、方向はN-3°-Wである。埋土は確認できる範囲で6層に分層され、全層とも層厚は薄く、ブロック土を含むシルトを主体とし、人為的に埋め戻されている。2・3層中には炭化物が、5層中には植物遺体が多く含まれる。

遺物は出土していない。

### 200号土坑 (SK200)

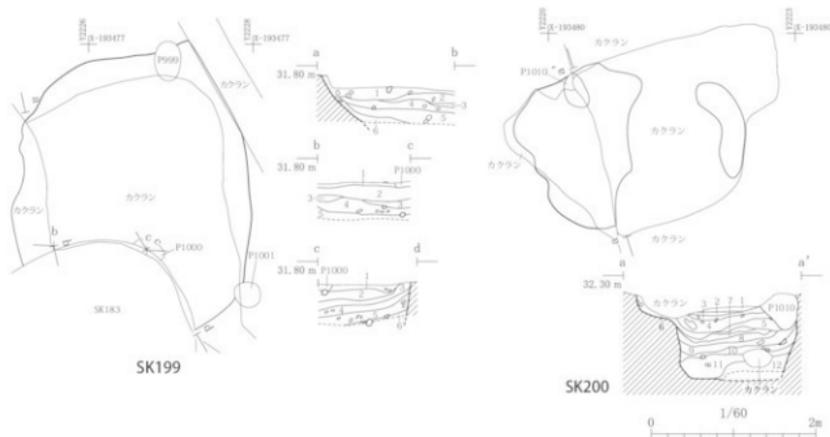
調査区の中央部、X17・Y8～9グリッドに位置する中型の土坑である。確認面はV層で、主要な遺構との重複関係はない。本遺構の大部分は攪乱によって壊されており、攪乱壁面で埋土の観察のみ行なった。平面形は不明で、断面形は南側に浅い段差がある箱型である。規模は確認した範囲で、東西方向2.8m以上、南北方向2.0m以上で、深さは90cmである。埋土は12層に分層され、ブロック土を含むシルトを主体とし、人為的に埋め戻されている。上層の1～6層はレンズ状に堆積し、7層以下は概ね水平に堆積する。6～10層中には炭化材、炭化物粒子、焼土ブロックなどが混入する。

遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK189	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径2cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物を少量、径1cm以内の黄褐色粘土質ブロック・瓦片を微量含む	—
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径4cm以内の炭化物を多量、径3cm以内の礫を少量、瓦片を微量含む	—
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径1cmの炭化物を少量、径1cm以内の礫を微量含む	—
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径5cm以内の黄褐色シルトブロック・径3cm以内の焼土粒子を少量、径1mm以内の白色粒子を微量、下部に炭化物を多量含む	—
	5	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	径3cm以内の炭化物を多量、径3cm以内の円礫を少量、径2cm以内の灰褐色シルトブロックを微量を含む	—
	6	5Y4/3 に近い黄褐色	シルト	径3cm以内の炭化物を少量、径3cm以内の円礫を微量含む 灰褐色・黄褐色・黒褐色のシルトブロックがまだらに混入する	—
	7	10YR4/1 黄灰色	シルト	径5cm以内の円礫・径5cmの灰褐色シルトブロックを少量、径5cm以内の炭化物を微量含む	—
	8	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	径5cm以内の灰白色シルトブロック・径5cmの円礫・径3cm以内の黒褐色シルトブロックを少量含む	—
	9	2.5Y3/3 黄褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロックを微量含む	—
	10	10YR4/1 暗灰色	シルト	径5cm以内の円礫を少量、径3cm以内の黄褐色シルトブロックを微量含む	—
	11	10YR5/2 灰黒褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色粘土質シルトブロックを少量、径5cmの円礫を微量含む	—
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	径2cm以内の黄褐色シルトブロック・径1cm以内の礫を微量含む	—
	13	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径1cm以内の灰褐色シルトブロックを微量含む	—
	14	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	径5cmの炭化物を多量、径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを微量、瓦片・陶磁器片を含む	—
	15	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径5cm以内の円礫を少量、径2cm以内の炭化物を微量含む	—
	16	2.5Y3/3 黄褐色	シルト	径1cm以内の炭化物を少量、径1cm以内の灰褐色シルトブロックを微量含む	—
	17	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径2mm以内の白色粒子・径1cm以内の黄褐色シルトブロックを少量含む	—
	18	2.5Y3/2 暗灰黄色	粘土質シルト	径1cm以内の黒褐色シルトブロックを微量含む	—
	19	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	径3cm以内の灰褐色シルトブロック・径2mm以内の白色粒子を少量、径1cm以内の黄褐色シルトブロックを微量含む	—
	20	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径3cm以内の炭化物を多量、径5cm以内の円礫・瓦片を少量含む	—
	21	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の炭化物を少量、径1cm以内の黄褐色シルトブロックを微量含む	—
	22	2.5Y3/3 黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量含む	—

第 84 図 189 号土坑



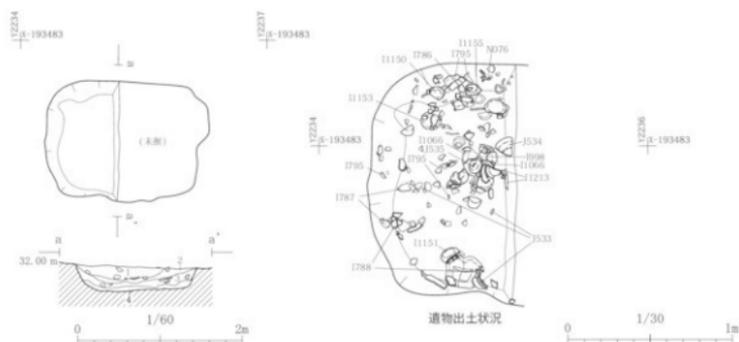
遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK199	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	径10cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物を少量含む	—
	2	10YR1/7.1 黒色	シルト	径3cm以内の炭化物を多量、径10cm以内の円礫を少量含む	—
	3	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径1cm以内の炭化物・植物遺体を少量含む	—
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	径5cm以内の黒褐色粘土質シルトブロック・暗灰色粘土質シルトブロック・径8cm以内の円礫を少量含む	—
	5	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	植物遺体を多量、径10cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物・灰を少量含む	—
	6	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	径10cm以内の黒褐色シルトブロック・径8cm以内の黒い・黄褐色シルトブロック・径12cm以内の円礫を少量含む	—
SK200	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	径6cm以内の円礫を少量、径2cm以内の炭化物を微量含む	—
	2	10YR1/7.1 黒色	砂質シルト	径2cm以内の炭化物を多量、径3cm以内の灰黄褐色砂質シルトブロック・径1cm以内の焼土粒子を少量含む	—
	3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	径2cm以内の暗灰色～黒い黄褐色砂質シルトブロック・径1cm以内の炭化物を少量含む	—
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径5cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を少量、径5cm以内の黄褐色～黒い黄褐色シルトブロック・径3cm以内の焼土ブロックを含む	—
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径1cm以内の暗灰色シルトブロック・径1cm以内の炭化物・径1cm以内の焼土ブロックを少量含む	—
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	径5cm以内の円礫・径3cm以内の炭化物を少量、焼土粒子を微量含む	—
	7	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	径1cm以内の焼土ブロックを少量含む	—
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	径3cm以内の円礫・径1cmの焼土ブロック・径1cm以内の炭化物を少量含む	—
	9	10YR4/4 褐色	シルト	径2cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径3cm以内の焼土ブロックを多量、径1cm以内の炭化物を少量、径2cm以内の黒い黄褐色シルトブロックを含む	—
	10	10YR2/2 黒褐色	シルト	径5cm以内の円礫を少量、径1cm以内の炭化物・焼土粒子を微量含む	—
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径3cm以内の灰白色粘土質シルトブロック・径3cm以内の黄褐色シルトブロック・径3cm以内の円礫を少量含む	—
	12	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径3cm以内の灰白色粘土質シルトブロックを少量含む	—

第85図 199・200号土坑

## 214号土坑 (SK214)

調査区の中央やや南東側、X17・Y11～12グリッドに位置する中型の土坑である。平面形は概ね隅丸の長方形で、規模は長軸2.0m、短軸1.45m、深さ30cmと浅く、方向はN-88°-Eである。底面は平坦で、断面形はやや丸みを帯びた逆台形である。堆積土は4層に分層され、人為的に埋め戻された状況であり、1・3層は炭化材、炭化物粒子を多量に含む黒色がかかった層で、遺物は主にこれらの層から出土している。

遺構の規模に対して遺物量は多く、陶器40点、磁器14点、軟質施釉陶器1点、土師質土器206点、瓦24点、土製品3点、木製品1点、金属製品6点、金属製品1点、石製品1点が出土した。遺物の中では土師質土器が突出して多い。



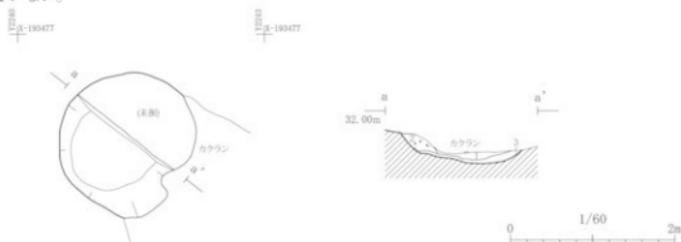
遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK214	1	10YR1.7/1 黒色	シルト	炭化物を多量、にぶい黄褐色シルトブロック・径3cm以内の円礫を少量含む	—
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック主体で黒褐色シルトブロック・径5cm以内の円礫を少量含む	—
	3	10YR1.7/1 黒色	粘土質シルト	炭化物を多量、にぶい黄褐色シルトブロックを微量含む	—
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック主体で暗褐色シルトブロック・炭化物を微量含む	—

第86図 214号土坑

### 228号土坑 (SK228)

調査区の中央やや南東側、X16・Y13グリッドに位置する中型の土坑である。確認面はV層で、主要遺構との重複関係はないが、北側約2.5mにSA4が位置する。南東側の上部を攪乱に削平されている。平面形は南側にやや張り出し部を持つ楕円形で、規模は長軸1.72m、短軸1.56m、深さ20cmで、方向は不明である。埋土は3層に分層され、ブロック土を含むシルトを主体とし、人為的に埋め戻されている。

遺物は出土していない。

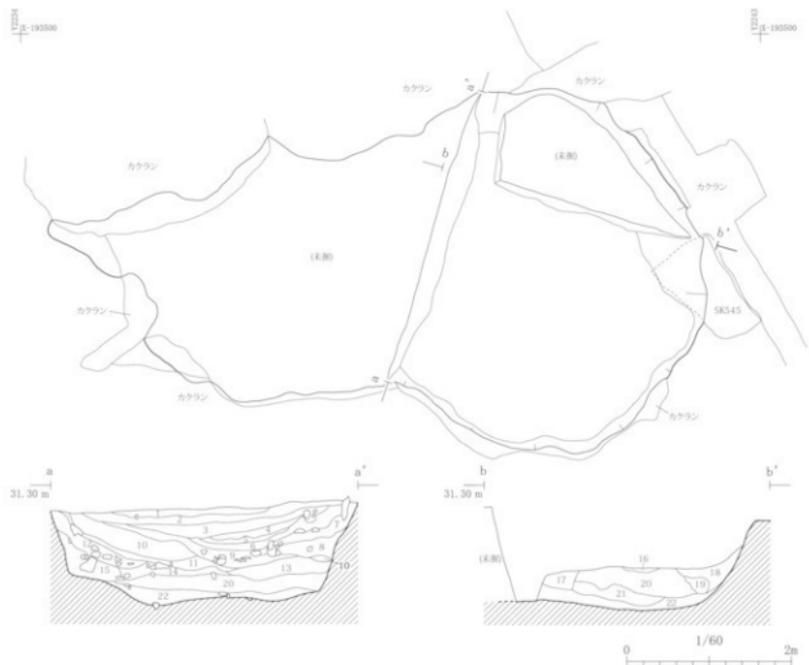


遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK228	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径10cm以内の円礫を少量、径5cm以下の灰褐色シルトブロック・径3cm以内の黄褐色シルトブロックを微量含む	—
	2	2.5YR4/2 暗灰黄褐色	粘土質シルト	径1cmの円礫・砂粒子を微量含む	—
	3	2.5YR5/2 暗灰黄褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック・径4cm以内の円礫を少量、径1mm以内の白色粒子を微量含む	—

第87図 228号土坑

### 383号土坑 (SK383)

調査区の南東部、X21～22・Y11～13グリッドに位置する大型の土坑である。確認面はV層で、北西部が攪乱により壊されている。また、南側にSD47と接し、これより新しく、東側にはSX10が近接する。平面形は不整楕円形と推定され、確認できた範囲での規模は長軸8.1m以上、短軸4.4mと、今回確認した土坑の中でも最大規



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK383	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径5cm以内の円礫・径3cm以内の炭化物を少量含む	—
	2	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	径1cm以内の黄褐色シルトブロック・径3cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物を少量含む	—
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径2cm以内の炭化物を少量含む。径1cm以内の灰白色シルトブロック・径10cm以内の円礫を微量、瓦片・木片を含む	—
	4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質土	径1cm以内の炭化物を少量、径3cm以内の円礫を微量含む	—
	5	10YR3/2 黒褐色	砂質土	径1cm以内の炭化物を微量、木片を含む	—
	6	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	径1cm以内の黄褐色砂質シルトブロック・径5cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物を少量、木片を少量含む	—
	7	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	径2cm以内の炭化材・木片・瓦片を多量、径3cm以内の円礫を少量含む	—
	8	2.5Y3/2 黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の黄褐色シルトブロック・径1cm以内の炭化物を少量、木片を含む	—
	9	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	径3cm以内の炭化物・木片・瓦片を多量、径20cm以内の円礫を少量含む	—
	10	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	径3cm以内の炭化物を多量、径5cm以内の灰黄褐色シルトブロック・径5cm以内の円礫を少量、木片を含む	—
	11	10YR3/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径3cm以内の炭化物を多量、径5cm以内の灰黄褐色シルトブロック・径5cm以内の円礫を少量、木片を含む	—
	12	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径2cm以内の炭化物・瓦片・木片を多量、径5cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径2cm以内の白色粒子を微量含む	—
	13	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	径3cm以内の炭褐色砂質シルトブロック・径3cm以内の炭化物・木片を多量、径2cm以内の円礫を微量含む	—
	14	5Y4/2 灰オリーブ	粘土質シルト	径5cm以内の灰白色シルトブロック・径4cm以内の円礫・径3cm以内の炭化物・木片を少量含む	—
	15	5Y5/3 灰オリーブ	砂質シルト	径4cm以内の黒褐色シルトブロックを少量、径4cm以内の円礫を微量、木片を含む	—
	16	5Y6/2 灰オリーブ	粘土質シルト	径3cm以内の白色粒子を少量、木片を微量含む	—
	17	5Y4/1 灰色	粘土質シルト	径1cm以内の灰白色シルトブロックを少量、径2cm以内の白色粒子を微量、木片を含む	—
	18	2.5Y6/4 に近い黄色	砂質土	径3cm以内の炭褐色砂質シルトブロックを多量、径3cm以内の白色粒子を少量含む	—
	19	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	径3cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径2cm以内の白色粒子を微量含む	—
	20	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	径3cm以内の白色粒子を多量、径3cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、木片を含む	—
	21	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	径1cm以内の白色粒子・木片を微量含む	—
	22	5Y5/4 オリーブ	砂質土	径10cm以内の円礫を多量、径2cm以内の炭褐色シルトブロックを少量含む	—

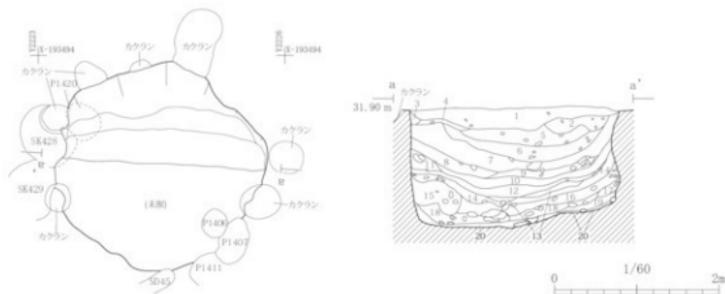
第88図 383号土坑

模で、深さは最深部で1.2 m程度と、規模と比較するとあまり深くは無い。方向はN-84°-Wである。底面は緩やかな起伏がみられるが、概ね平坦で、断面形は逆台形である。埋土は確認できる範囲で22層に分層される。全ての層とも人為的な埋戻しの状況が認められ、特に9層～13層には炭化物とともに木材や瓦、陶磁器などが大量に廃棄されている状況であった。また20層以下はグライ化が進んでいる。土坑は平面や断面から遺構どうしの重複は確認できなかったが、その形状や規模から幾つかの土坑が重複している可能性もある。

遺物は瓦481点、陶器29点、磁器29点、瓦質土器5点、土師質土器9点、石製品1点、木製品68点、金属製品1点、自然遺物3点、須恵器1点が出土した。

#### 4 2 4号土坑 (SK 4 2 4)

調査区の南側、X19～20・Y9～10グリッドに位置する中型の土坑である。確認面はV層で、主要な遺構との重複関係はない。南側約2 mの位置に同程度の規模のSE4、東側に約5 mにSE5が位置する。平面形は概ね円形で、規模は長軸2.6 m、短軸2.5 m、深さ150 cmである。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは、垂直である。埋土は20層に分層され、褐色～黄褐色シルトブロックを含む黒褐色砂質シルト土を主体としたレンズ状堆積による土層で、全て人為的に埋め戻されている。形状や埋土の状況から掘り方を伴わない浅い井戸状の遺構の可能性も考えたが、浅いためにここでは性格不明の土坑とした。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK 4 2 4	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	径4m以内の黄褐色シルトブロック・径2m以内の円礫・径2m以内の炭化物を少量含む	—
	2	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロックを多量、径2m以内の炭化物を少量、径3m以内の円礫を微量含む	—
	3	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂・径3m以内の円礫を多量、径1m以内の炭化物を微量含む	—
	4	10YR4/3に濃い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂・径3m以内の円礫を多量、灰色シルトブロックを少量、径1m以内の炭化物を微量含む	—
	5	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂・径5m以内の円礫・径2m以内の炭化物を少量含む	—
	6	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂・径5m以内の円礫・径2m以内の炭化物を多量含む	—
	7	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂・褐色シルトブロックを多量、径3m以内の炭褐色砂質シルトブロック・径5m以内の円礫・径2m以内の炭化物を少量含む	—
	8	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	径3m以内の灰褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂・褐色シルトブロック・径5m以内の円礫・径2m以内の炭化物を少量含む	—
	9	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	径5m以内の円礫・瓦片を少量含む 炭化物が層状に入る	—
	10	10YR4/3に濃い黄褐色	砂質シルト	黄褐色砂質ブロック・灰黄褐色砂を多量、径3m以内の円礫を少量含む 腐木が層状に入る	—
	11	10YR3/3黒褐色	砂質シルト	径3m以内の炭褐色砂質シルトブロック・黄褐色砂・径10m以内の礫・径2m以内の炭化物を少量、褐色シルトブロックを微量含む	—
	12	10YR3/1黒褐色	シルト	中央部に炭化物を多量、径5m以内の黄褐色砂質ブロック・灰黄褐色砂質シルトブロックを少量含む 腐木が層状に入る	—
	13	10YR4/2灰黄褐色	シルト	径3m以内の白色粒子を少量、径2m以内の炭化物を微量含む	—
	14	2.5Y2/1黒褐色	シルト	径5m以内の円礫を少量含む 腐木が層状に入る	—
	15	10YR3/1黒褐色	シルト	径10m以内の円礫を少量、炭化物を多量含む 腐木が層状に入る	—
	16	10YR4/2灰黄褐色	シルト	—	地山の崩壊土
	17	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロック・灰黄褐色シルトブロックを少量含む	—
	18	7.5YR1/21黒色	シルト	径10m以内の円礫を少量含む 腐木炭化物が層状に入る	—
	19	10YR3/1黒褐色	シルト	径1m以内の炭化物を少量含む 腐木が層状に入る	—
	20	5Y3/2オリーブ黒色	シルト	層下面に木片が埋入	—

第 89 図 424号土坑

遺物は、瓦 119 点、陶器 29 点、磁器 32 点、軟質施釉陶器 2 点、瓦質土器 3 点、土師質土器 12 点、石製品 1 点、木製品 3 点、金属製品 1 点、土製品 2 点が出土した。

#### 426号土坑 (SK426)

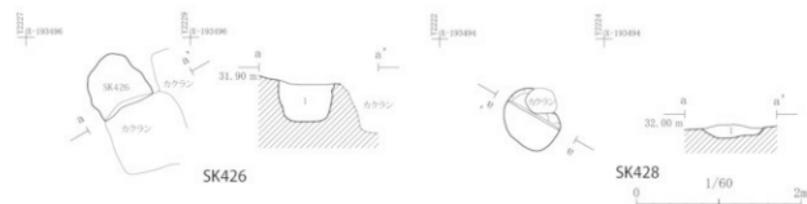
調査区の南側、X20・Y10 グリッドに位置する小型の土坑である。確認面はV層で、主要な遺構との重複関係はない。南西約 3.5 m に SE4、東側約 2.5 m に SE5 が位置する。南側が攪乱に壊されているため平面形は不明である。規模は南北方向 0.64 m、東西方向 0.70 m、深さ 45 cm である。底面は平坦であり、立ち上がりはほぼ垂直である。埋土はブロック土を含むシルトを主体とした単一層で、人為的に埋め戻されている。柱痕跡は確認されず、他に組み合う遺構も確認できなかった。

遺物は出土していない。

#### 428号土坑 (SK428)

調査区の南側、X19～20・Y9 グリッドに位置する小型の土坑である。確認面はV層で、SK424・429 を壊している。平面形は楕円形で、規模は長軸 0.73 m、短軸 0.55 m、深さ 15 cm で、方向は N - 43° - W である。底面は平坦であり、断面形は皿状である。埋土は炭化物を含む砂質シルト土を主体とした単一層で、人為的に埋め戻されている。

遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
SK426	I	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径3cm以内の黒褐色シルトブロックを少量、径3cm以内の灰黄褐色シルトブロック・径10cm以内の円礫を少量、径0.5cm以内の炭化物を微量含む	—
SK428	I	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	径3cm以内の円礫を少量、径0.5cm以内の炭化物・径0.2cm以内の白色・黄褐色粒子を少量含む	—

第90図 426・428号土坑

#### 489号土坑 (SK489)

調査区の南西部、X21・Y6～7 グリッドに位置する東西に長い大型の土坑である。確認面は周囲の多くの土坑を切る形で確認したことから不明だが、おそらくはV層とみられる。主要な遺構との重複関係はないが、北側約 2 m に SB10 が位置する。平面形は長方形で、規模は長軸 5.13 m、短軸 2.51 m である。深さは 13 cm と規模と比較して極端に浅い。方向は N - 52° - E である。埋土は浅いこともあり単一層で、人為的に埋め戻されたと考えられるブロック土を含むややグライ化した砂質シルトを主体とする。土坑は平面形状や底面状況から規格性の高いものと言えるが、本来浅いプランであったものとみられる。

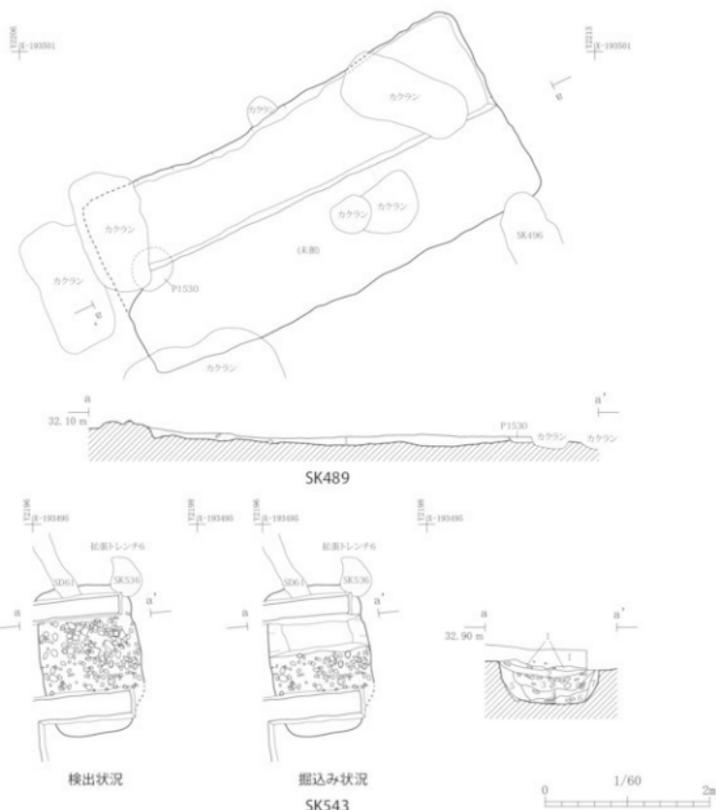
遺物は瓦 17 点、陶器 18 点、磁器 7 点、土師質土器 4 点、金属製品 11 点が出土した。

#### 543号土坑 (SK543)

本遺構は拡張トレンチ 6 で検出した土坑である。調査区南西部、X20・Y4 グリッドに位置する。確認面はV層で、東側に長屋の基礎の可能性のある SB9 が近接する。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 1.8 m、短軸 1.2 m、深さ 51 cm で、方向は N - 5° - W である。底面は概ね平坦で、壁はやや急な傾斜を持って立ち上がる。埋土は7層に

分層され、2層は砂層で、約2cmの厚さで全体を覆っており、その下部の3層上面には径10cm以下の円礫が人的に敷かれる状況が確認された。この3層上面は何らかの機能を有していたある時期の底面とみることができる。また壁際にみられる7層は掘り方理土の可能性が高く、掘り方底面以外にも4層か6層上面もかつての遺構底面となっていた可能性もある。

遺物は瓦63点、陶器3点、磁器3点、土師質土器1点が出土した。



遺構	層位	土色	特徴	備考
SK489	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト 径0.5cm以下の灰白色・黒色・黄褐色シルトブロックを多量、径3cm以下の暗褐色砂質シルトブロック・円礫・瓦片を少量含む	—
	1	2.5Y5/4 黄褐色	シルト 径2cm以下の灰褐色シルトブロック・径2cm以下の黄褐色砂質シルトブロック・径4cm以下の円礫を少量含む	—
SK543	2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質土 径2cm以下の円礫を少量含む	—
	3	2.5Y5/6 黄褐色	砂質シルト 径1cm以下の炭化物を少量、1部に径10cm以下の円礫と瓦片を敷き詰めている	—
	4	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト 径3cm以下の円礫を少量、径2cm以下の炭化物を少量、瓦片を含む	—
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト 径2cm以下の炭化物を多量、径1cm以下の灰褐色シルトブロック・径5cm以下の円礫を少量含む	—
	6	10YR5/4 黄褐色	粘土質シルト 径5cm以下の円礫・瓦片を少量含む	—
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト 炭化物を多量、径10cm以下の円礫・瓦片を含む	掘り方理土?

第91図 489・543号土坑

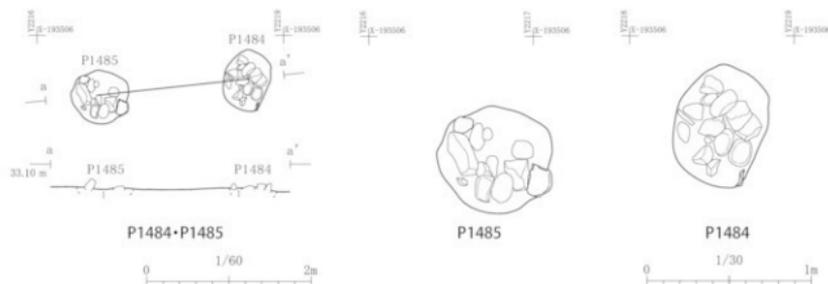
## (10) ピット

調査区の全域で1582基のピットを検出した。分布状況にはあまり偏りは認められないが、調査区の南東部は攪乱による削平が著しいため遺存状態が悪い。またV層地山面や整地土上での確認と比較して土坑上での確認は難しいことから、遺構が密集する地区での確認数は概して少なくなっている。

ピットとしたものの中には、礎石跡の根固石に加え、柱穴内の底石や柱痕跡が明瞭に検出されたものも多数含まれるが、これらについては、周辺の遺構と組む状況に無いことから、ここでは単独ピットとして扱っているが、中には明らかに建物跡や崩跡の一部と推定されるものもある。以下には掘り込みを行ったその一部を掲載した。

### 1484・1485号ピット (P1484・1485)

調査区南西部、X22・Y7グリッドで検出した礎石建物跡の可能性のある2基のピットである。SK474を壊して構築されており、確認面は不明である。遺構の掘り込みは行っていないものの、平面確認において根固石の可能性のある礎の集積を確認した。柱間は1.9mで、方向はN-87°-Eである。これを基準とした南北軸は西に3°傾く配置となる。掘り方の平面形は楕円形で、長軸径は約0.70mである。根固石は径10～30cmの礎が充填されていた。P1485の遺存状況はやや不良で、掘り方北側の礎が失われていた。掘り方の埋土はブロック土を含む砂質シルトを主体とする。遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
P1484(礎石跡)	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径20cm以下の円礎を多数、径3cm以下の灰黄褐色シルトブロックを少量、径0.5cm以下の白色粒子を微量含む	掘り方埋土
P1485(礎石跡)	1	10YR4/1 褐色	砂質シルト	径20cm以下の円礎を多数、径2cm以下の黒褐色砂質シルトブロックを少量、径0.5cm以下の白色粒子を微量含む	掘り方埋土

第92図 1484・1485号ピット

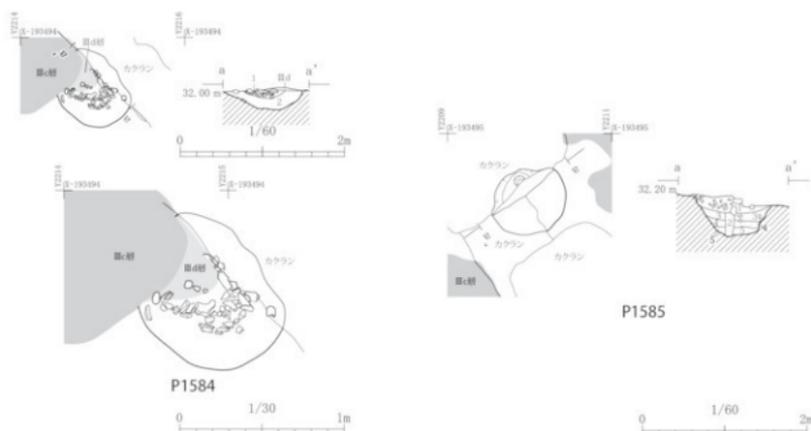
### 1584号ピット (P1584)

調査区南西部、X19～20・Y7～8グリッドで検出した。SK196を壊して構築されており、土坑内で検出したため確認面は不明である。北西部がⅢc石敷遺構に被覆されており、北東部が攪乱に壊されている。平面形は楕円形で、規模は長軸0.96m、短軸0.76m、深さ26cmで、方向はN-32°-Wである。断面形は浅い皿状で、底面から緩やかに立ち上がる。埋土は2層に分層した。1層は遺構上部の中心部分の埋土で、瓦片が大量に敷き詰められているような状態で検出した。下部の2層は灰褐色・黄褐色・茶褐色土が幾重にも重なり、人工的に転圧をかけられたことに起因するとみられる縞が確認できる。遺物は瓦12点が出土した。

### 1585号ピット (P1585)

調査区南西部、X20・Y6～7グリッドで検出した柱穴である。確認面はV層で、北側から西側にかけて上部が攪乱に壊されている。主要な遺構との重複関係はないが、南西約3mにSB10が位置する。平面形は楕円形で、規

楕は長軸0.94m、短軸0.83m、確認面からの深さは50cmで、方向はN-35°-Eである。底面はほぼ平坦で、急な傾斜を持って立ち上がる。埋土は5層に分層した。2層が柱の抜き取り痕で、明瞭に確認された。他の埋土は版築状に埋められている。遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	特徴	備考
P1584 (礎石跡)	1	2.5Y3/1 黄灰色	砂質シルト	瓦片を多量、径1cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物・径0.1cm以内の白色粒子を微量含む	柱取り痕
	2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	径5cm以内の円礫・径2cm以内の炭化物・径2cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径0.1cm以内の白色粒子を微量含む。炭褐色土・黄褐色土・茶褐色土が塊状に堆積する	廻り方埋土
P1585 (礎石)	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径10cm以内の円礫を多量、径3cm以内の炭褐色シルトブロック・瓦片を少量含む	柱抜き取り痕
	2	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	径1cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物を微量含む	柱抜き取り痕
	3	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	径5cm以内の円礫・径1cm以内の炭化物・径4cm以内の黄褐色シルトブロックを少量含む	—
	4	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	径2cm以内の黄褐色シルトブロック・径1cm以内の炭化物を少量含む	—
	5	2.5Y3/2 暗オリーブ褐色	砂質シルト	径5cm以内の黄褐色シルトブロックを多量、径0.5cm以内の炭化物を少量含む	—

第93図 1584・1585号ピット

### (11) 整地土 (Ⅲ e・Ⅲ f・Ⅳ層整地土)

調査区北東部を中心に遺存する3枚の整地土を検出した。整地土の層名は上からⅢ e・Ⅲ f・Ⅳ層とし、範囲の確認を行った。またこれらの整地土は、石敷遺構下部では確認できず、また大型土坑周辺でも確認できなかったが、これが後世の削平によるものかは不明である。

最上層のⅢ e層整地土は調査区の北東部、X9～11・Y9～13グリッドで検出した。削平や攪乱に壊されているため遺存状態は悪く、島状の狭い範囲で検出した整地土である。調査区北端ではSX2を被覆する状況を確認している。確認した範囲で、層厚は5～10cm程度、標高は32.4～32.7mで、南側の標高がやや高い。整地土は数種類のブロック土が混入する砂質土を主体とし、径1～3cmの炭化物、焼土、10cm程度の自然礫が混入する。概して層全体の締りが弱く、汚れたような印象を受ける層である。整地土中からは瓦片3点、瓦質土器2点、銭貨1点が出土した。

Ⅲ f層整地土はX8～20・Y9～15グリッドにかけて検出した。全体的に遺存状態は悪いものの、東側の広い範囲で検出されており、東側全域で大規模な整地がなされたと考えられる。確認した範囲での層厚は、調査区の北側がやや薄く10cm程度、中央部が最も厚く40cm程度、南側は10～15cm程度である。整地土上面の標高は32.0～

31.8 mで、北から南に向かって標高が下がる。Ⅲf層はブロック土を僅かに含む砂質土を主体としており、Ⅲe層整地土より色調が明るく、全体に締りが良く、炭化物や焼土の混入量は少ない。整地土中からは瓦片6点、陶器1点、土師質土器13点、金属製品1点、縄文土器3点、弥生土器2点、非ロクロ土師器3点、ロクロ土師器14点が出土した。

Ⅳ層整地土は調査区のX8～14・Y6～16グリッドにかけて検出した最も下層の古い整地土の可能性がある。分布範囲は北側に限定され、西側はⅢa層石敷遺構まで続いている。粒子の荒い砂礫土を主体とし、10cmを超える大型の自然礫が多量に含まれる。確認した範囲では、層厚は西側がやや薄く20cm程度、東側は30cm程度である。上面の標高は32.0～32.7 mで、西から東に向かって標高が下がる。整地土中から遺物は出土しておらず、自然堆積層の可能性も否定できないが、分布範囲が限定的であり、層中にわずかではあるが炭化物が含まれることから、ここでは整地土として扱った。

## (12) 試掘調査

本調査区の南方における遺構の分布状況を確認するため試掘調査を行った。調査は第6次発掘調査期間中の平成26年9月26日から10月15日の間に実施し、本調査区南端から南側約35 mと75 mの地点に5 m×10 mの規模の試掘区を2箇所設定した。調査面積は100㎡である。検出した遺構は平面観察の記録に留め、掘り込み調査は行っていない。また試掘調査の遺構番号は本調査区とは別に、各試掘区で新たに付しているが、基本土層は本調査での基本層序に準じている。

### 1号試掘区

[位置] X29～31・Y9～11グリッドに設定した。追廻住宅に関連する擾乱により遺存状況はやや不良である。

[検出遺構] 試掘区全域で検出した遺構は総数46基で、内訳は溝跡1条、土坑28基、ピット16基、性格不明遺構1基である。主な遺構としては、試掘区の中央を東西方向に延びるSD1や、北東部に位置する大型土坑のSK1、大型の礫が多量に検出されたSX1などがある。

[土層] 追廻住宅に関わる盛土が0.5～1 mの厚さで堆積する。表土直下が地山となり、これは本調査区の基本層第V層に相当すると考えられる。

[出土遺物] 瓦40点、陶器80点、磁器45点、軟質施軸陶器3点、瓦質土器6点、土師質土器7点、金属製品2点、土製品4点、石製品1点が出土した。

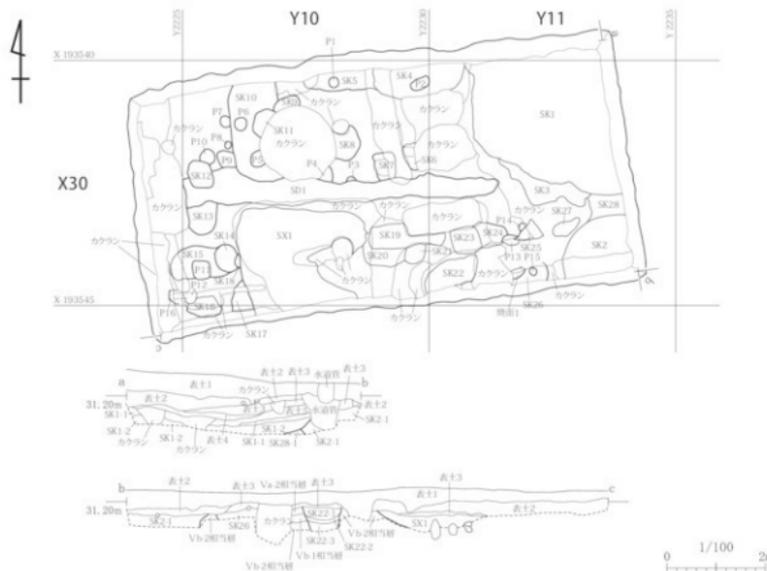
### 2号試掘区

[位置] X38～39・Y7～9グリッドに設定した。

[検出遺構] 試掘区西側にやや分布の偏りがみられる。検出した遺構は、石敷遺構1面、溝跡2条、土坑12基、ピット17基、性格不明遺構1基である。主な遺構は試掘区南西部に広がる石敷遺構や、西側に位置し、南北方向に延びるSD1、SD2などがある。石敷遺構は本調査区で検出した石敷きより礫の密度が粗く、石敷に伴う整地土も確認されなかった。また、P6とP16からは根固め石とみられる礫の集積を確認した。

[土層] 追廻住宅に関わる盛土が0.2 mの厚さで堆積する。1号試掘区と同様に表土直下が地山となり、これは本調査区の基本層第V層に相当すると考えられる。

[出土遺物] 瓦4点、陶器27点、磁器44点、軟質施軸陶器2点、土師質土器2点が出土した。

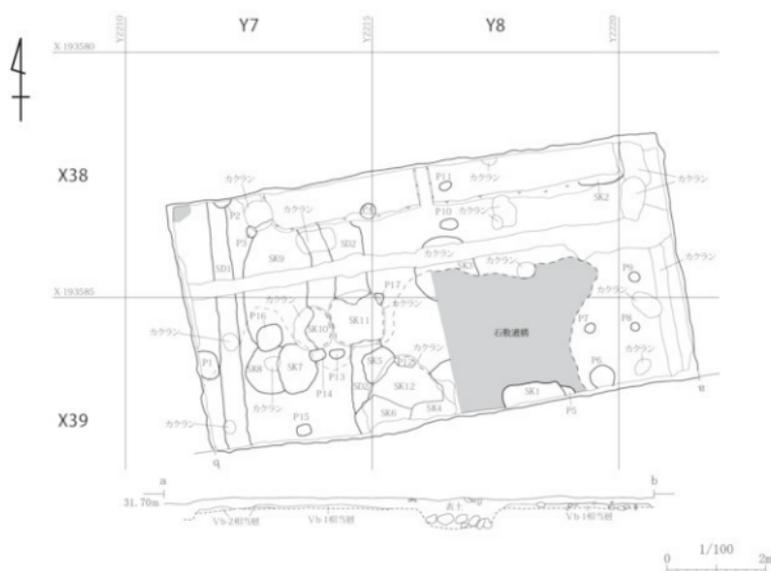


第94図 1号試掘区

遺構	グリッド	平面形状	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
SD1	X30・Y10～11	—	6.32	0.75	0.26	
SD1	X30～31・Y10	[楕円長方形]	2.65	[2.13]	—	
鏡面1	X30・Y11	[楕円形]	[0.29]	[0.21]	0.19	
SK1	X29～30・Y11	[円形]	[3.24]	[2.81]	—	
SK2	X30・Y11	[円形]	[1.45]	[1.15]	—	
SK3	X30・Y11	不整形	[2.07]	[0.55]	—	
SK4	X30・Y11	[楕円形]	[1.85]	[0.62]	—	
SK5	X30・Y11	[楕円形]	[1.41]	[0.38]	—	
SK6	X30・Y11	[不整形楕円形]	[1.85]	[0.62]	—	
SK7	X30・Y10	[楕円長方形]	[0.55]	[0.43]	—	
SK8	X30・Y10	[楕円形]	[0.74]	[0.51]	—	
SK9	X30・Y10	[楕円形]	[0.54]	[0.19]	—	
SK10	X30・Y10	[楕円長方形]	[2.06]	1.02	—	
SK11	X30・Y10	[不整形円形]	0.58	[0.29]	—	
SK12	X30・Y10	不整形楕円形	0.52	0.48	—	
SK13	X30・Y10	[楕円形]	[0.64]	[0.60]	—	
SK14	X30・Y10	[楕円形]	0.58	0.43	—	
SK15	X30・Y10	[不整形楕円形]	[0.93]	[0.65]	—	
SK16	X30～31・Y10	[円形]	[0.71]	[0.43]	—	
SK17	X30～31・Y10	[円形]	[0.61]	[0.41]	—	
SK18	X30・Y10	[円形]	[0.29]	[0.12]	—	
SK19	X30・Y10～11	[楕円形]	[1.52]	[0.51]	—	
SK20	X30・Y10	[楕円長方形]	[0.85]	[0.62]	—	
SK21	X30・Y10	[不整形楕円形]	[0.41]	0.39	—	

遺構	グリッド	平面形状	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
SK22	X30・Y10～11	[楕円形]	[1.12]	[0.53]	—	
SK23	X30・Y11	[楕円形]	[0.53]	0.52	—	
SK24	X30・Y11	[不整形楕円形]	[0.55]	[0.51]	—	
SK25	X30・Y11	[楕円形]	[0.50]	[0.39]	—	
SK26	X30・Y11	[楕円形]	[0.81]	—	—	南壁で確認
SK27	X30・Y11	不整形楕円形	0.58	0.30	—	
SK28	X30・Y11	—	0.64	[0.52]	—	
P1	X30・Y10	円形	[0.19]	[0.18]	—	
P2	X30・Y10	楕円形	0.39	0.18	—	
P3	X30・Y10	円形	0.19	[0.10]	—	
P4	X30・Y10	[円形]	[0.30]	[0.22]	—	
P5	X30・Y10	[円形]	[0.31]	[0.22]	—	
P6	X30・Y11	楕円形	0.25	0.22	—	
P7	X30・Y10	[円形]	0.22	[0.18]	—	
P8	X30・Y10	楕円形	0.15	0.11	—	
P9	X30・Y10	[楕円形]	[0.32]	[0.30]	—	
P10	X30・Y10	[円形]	0.31	0.30	—	
P11	X30・Y10	楕円長方形	0.36	0.35	—	
P12	X30・Y10	[楕円形]	[0.24]	[0.22]	—	
P13	X30・Y11	[楕円形]	[0.31]	[0.22]	—	
P14	X30・Y11	[円形]	0.19	[0.11]	—	
P15	X30・Y11	円形	0.18	0.15	—	
P16	X30・Y10	[楕円形]	[0.21]	[0.19]	[0.15]	

第16表 1号試掘区 遺構一覧表



第95図 2号試掘区

遺構	グリッド	平面形状	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
石取遺構	X38 ~ 39・Y8	—	(4.15)	(2.91)	—	
SD1	X38 ~ 39・Y7	—	(5.00)	0.45	—	
SD2	X38 ~ 39・Y7	—	(3.38)	0.72	—	
SK1	X38・Y8 ~ 9	(隅丸方形)	1.22	(0.71)	—	
SK2	X39・Y8	(不整形円形)	0.92	(0.40)	—	
SK3	X38 ~ 39・Y8	(円形)	(1.31)	1.22	—	
SK4	X39・Y8	(楕円形)	(0.91)	(0.32)	—	
SK5	X39・Y7 ~ 8	(不整形円形)	(0.76)	(0.55)	—	
SK6	X39・Y7 ~ 8	(不整形円形)	(1.15)	(0.58)	—	
SK7	X39・Y7	(不整形円形)	1.01	(0.81)	—	
SK8	X39・Y7	(不整形円形)	0.99	(0.72)	—	
SK9	X38 ~ 39・Y7	(不整形円形)	(2.51)	(1.35)	—	
SK10	X39・Y7	(不整形円形)	(0.91)	(0.70)	—	
SK11	X38 ~ 39・Y7 ~ 8	(隅丸方形)	(0.91)	(0.70)	—	
SK12	X39・Y7 ~ 8	(不整形円形)	(1.31)	(0.80)	—	
P1	X39・Y7	(楕円形)	0.61	(0.35)	—	
P2	X38・Y7	(円形)	(0.35)	(0.12)	—	
P3	X38・Y7	(円形)	0.21	0.20	—	
P4	X38・Y7 ~ 8	(円形)	0.31	(0.29)	—	
P5	X39・Y8	(楕円形)	(0.21)	(0.18)	—	
P6	X39・Y8	(円形)	0.51	(0.45)	—	
P7	X39・Y8	不整形円形	0.21	0.19	—	
P8	X39・Y9	円形	0.19	0.17	—	
P9	X38・Y9	円形	0.22	0.18	—	
P10	X38・Y8	楕円形	0.36	0.22	—	
P11	X38・Y8	楕円形	0.25	0.18	—	
P12	X39・Y8	(不整形)	(0.42)	(0.22)	—	
P13	X39・Y7	楕円形	0.31	0.22	—	
P14	X39・Y7	(隅丸長方形)	0.31	(0.22)	—	
P15	X39・Y7	(隅丸長方形)	0.32	0.20	—	
P16	X39・Y7	楕円形	0.61	0.52	—	
P17	X38 ~ 39・Y8	(楕円形)	(0.21)	(0.14)	—	

第17表 2号試掘区 遺構一覧表

道 横	グリッド	平面形状	規模 (m)		傾斜	土 色	土 性	特 徴	
			長軸	短軸					
SD3	X12・Y7	南北方向に 伸びる	0.85	0.09	-1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む	
SD4	X12・Y7	南北方向に 伸びる	2.51	0.14 0.20	-1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を複数含む	
SD5	X12・Y7	南北方向に 伸びる	3.32	0.14 0.39	-1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物を少量、径 20cm 以内の円礫を含む	
SD6	X12・Y7	南北方向から北 西方向に伸びる	1.25	0.41	-1	2.5Y 4/2 暗灰黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を複数含む	
SD7	X11・Y6～8	南北方向に 伸びる	(7.50)	0.31 0.57	-1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む	
SD8	X14・Y9～10	南北方向に 伸びる	(3.50)	0.52 0.77	-1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む	
SD10	X13・Y9	南北方向に 伸びる	(2.30)	0.42	-1	10YR 4/4 褐色	砂質	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む	
SD11	X14・Y9	南北方向に 伸びる	(0.23)	0.03 0.09	-1	10YR 5/3 に濃い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む	
SD17	X12・Y3～4	南北方向に 伸びる	(2.53)	0.71	-1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫、瓦片、白色粒子を少量、径 1.5cm 以内の円礫、炭化物などを複数含む	
SD18	X12・Y10	南北方向に 伸びる	(2.47)	0.18	-1	10YR 4/4 褐色	砂質	径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物を少量、径 20cm 以内の円礫を含む	
SD19	X11～12・Y4	南北方向に 伸びる	(2.09)	0.25	-1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む	
SD20	X11・Y3～4	南北方向に 伸びる	1.79	0.01 0.04	-1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む	
SD23	X18・Y7	南北方向に 伸びる	(1.37)	0.41	-1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	径 10cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物を少量、径 20cm 以内の円礫を含む	
SD24	X06～17・Y7	南東方向から北 西方向に伸びる	(2.13)	0.72	39.8	10YR 3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫、径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物を複数含む	
						3	10YR 4/3 に濃い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む
						4	10YR 3/3 暗褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む
SD25	X15～16・ Y10～11	南北方向に 伸びる	5.44	0.00 0.00	-1	10YR 4/3 に濃い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 12cm 以内の円礫、白色粒子を複数含む	
SD26	X14・Y13～14	南北方向に 伸びる	0.72	0.31	-1	10YR 4/3 に濃い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、黄褐色砂質シルトブロック、灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫を複数含む	
SD27	X14・Y14	南北方向に 伸びる	0.24	0.22	-1	10YR 4/4 褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫、炭化物などを複数含む	
SD28	X17・Y8	南北方向に 伸びる	0.34	0.20 0.51	28.5	10YR 3/2 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の黄褐色砂質シルトを少量、径 4cm 以内の円礫、白色粒子を複数含む	
SD29	X12・Y12	南北方向に 伸びる	1.75	0.15	-1	10YR 5/3 に濃い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む	
SD30	X11・Y13	南北方向に 伸びる	1.40	0.30	-1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む	
SD31	X17・Y6	南北方向に 伸びる	2.83	0.50 0.99	-1	10YR 3/3 暗褐色	砂質	径 15cm 以内の円礫、瓦片を少量含む	
SD32	X17・Y14	南北方向に 伸びる	0.90	0.20	-1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫、瓦片、白色粒子を少量、径 1.5cm 以内の円礫、炭化物などを複数含む	
SD33	X18・Y11～12	南北方向に 伸びる	1.32	0.25	-1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を複数含む	
SD34	X10～11・Y14	南北方向に 伸びる	2.00	1.63	-1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫、径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物を複数含む	
SD35	X17～18・ Y7	南北方向に 伸びる	6.83	0.30 0.33	-1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫、径 2cm 以内の炭化物、白色粒子を複数含む	
SD36	X17～18・ Y3～6	字状にほぼ南北 に連続する	3.44	0.25	-1	2.5Y 5/2	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、瓦片を少量含む	
SD38	X20・Y12～13	南北方向に 伸びる	2.10	0.34 0.75	-1	10YR 4/3 に濃い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の黄褐色シルトブロックを少量、径 12cm 以内の円礫、白色粒子を複数含む	
SD39	X21・Y15	南北方向に 伸びる	2.42	0.14 0.06	-1	10YR 4/3 に濃い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、黄褐色砂質シルトブロック、灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫を複数含む	
SD40	X21～22・Y13	南北方向に 伸びる	6.03	0.30 0.73	-1	10YR 4/4 褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック、灰褐色シルトブロックを少量、白色粒子を複数含む	
SD41	X21・Y10	南北方向に 伸びる	0.52	0.18 0.28	-1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の黄褐色砂質シルトを少量、径 4cm 以内の円礫、白色粒子を複数含む	
SD42	X19～20・ Y10	南北方向に 伸びる	0.45	0.17	-1	10YR 5/3 に濃い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む	
SD43	X20・Y10	南北方向に 伸びる	0.73	0.18	-1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む	
SD44	X19・Y10	南北方向に 伸びる	0.93	0.14 0.31	-1	10YR 3/3 暗褐色	砂質	径 15cm 以内の円礫、瓦片を少量含む	
SD45	X20・Y9	南北方向に 伸びる	1.95	0.12 0.24	-1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫、瓦片、白色粒子を少量、炭化物を含む	
SD46	X22～23・ Y10	南北方向に 伸びる	4.46	1.12 1.39	-1	2.5Y 4/2 暗灰黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を複数含む	
SD49	X19～20・ Y8	南北方向に 伸びる	1.61	0.33 0.41	-1	10YR 4/3 に濃い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、黄褐色砂質シルトブロック、灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫を複数含む	
SD53	X22・Y7	南北方向に 伸びる	1.55	0.45 0.54	-1	10YR 5/3 に濃い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む	
SD54	X22～23・ Y10	南北方向に 伸びる	1.96	0.22 0.36	-1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の褐色シルトブロックを少量含む	
SD55	X21～23・ Y8	南北方向に 伸びる	0.91	0.45 0.54	-1	10YR 3/3 暗褐色	砂質	径 15cm 以内の円礫、瓦片を少量含む	
SD56	X22～23・ Y10	南北方向に 伸びる	4.95	1.39	-1	2.5Y 4/2 暗灰黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を複数含む	
SD58	X19・Y11	南北方向に 伸びる	0.89	0.18 0.29	-1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を複数含む	
SD59	X18・Y14	南北方向に 伸びる	0.60	0.16 0.17	-1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物を少量、径 20cm 以内の円礫を含む	
SD60	X19・Y4	南北方向にほぼ 東西に伸びる	1.07	0.18 0.32	-1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫、径 2cm 以内の炭化物、白色粒子を複数含む	
SD61	X19～20・ Y4	南北方向に 伸びる	1.86	0.19 0.23	-1	2.5Y 5/2	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、瓦片を少量含む	
SD62	X20・Y4	南北方向に 伸びる	3.08	0.77	-1	10YR 4/4 褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック、灰褐色シルトブロックを少量、白色粒子を複数含む	

第 18 表 溝跡観察表

道 橋	グリッド	平面形状	規模 (cm)			層 位	土 色	土 性	特 徴	
			長軸	短軸	深さ					
SK1	X10-Y5	不整形円形	157.7	80.3	-	1	2.5V	4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の礫少量、炭化物粒子、白色粘土、瓦片微量含む
SK2	X10-Y13-Y5	不整形円形	70.7	60.0	-	1	2.5V	4/2 暗灰黄色	シルト	径 8cm 以内の礫少量、炭化物粒子、瓦片微量含む
SK3	X12-Y5	不整形円形	81.7	69.0	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	シルト	瓦片少量、径 4cm 以内の礫、径 1cm 以内の炭化物微量含む
SK4	X0-Y9	不整形円形	69.1	43.5	-	1	10.9R	3/3 暗褐色	シルト	径 15cm 以内の礫少量、径 2cm 以内の炭化物砂質シルトブロック含む、腐土ブロック、炭化物粒子少量含む
						2	10.9R	2/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒子含む、径 1cm 以内の炭化物、径 3cm 以内の礫少量含む
SK5	X13-Y14-Y5	楕円形	106.7	67.8	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	シルト	灰白色・黄褐色・灰褐色シルトブロックの混合層、径 10cm 以内の礫少量含む
SK6	X12-Y13-Y5	不整形円形	328.8	160.4	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	シルト	径 20cm 以内の礫少量、径 2cm 以内の炭化物砂質シルトブロック、径 1cm 以内の礫少量含む
SK7	X13-Y5	楕円形	69.2	64.9	-	1	2.5V	4/3 オリーブ褐色	シルト	径 1cm 以内の炭化物シルトブロック微量含む
SK8	X13-Y5	楕円形	57.2	52.4	-	1	2.5V	5/2 暗灰黄色	シルト	径 1cm 以内の炭化物シルトブロック少量含む
SK9	X13-Y5	円形	53.6	41.0	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロック少量、径 8cm 以内の礫少量、炭化物粒子微量含む
SK10	X13-Y5	-	84.0	47.2	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	シルト	径 3cm 以内の炭化物シルトブロック多量、径 3cm 以内の黄褐色シルトブロック少量、径 12cm 以内の礫、白色粘土微量含む
SK11	X14-Y5	-	106.0	33.3	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロック多量、径 3cm 以内の礫少量、炭褐色砂質シルトブロック、炭褐色シルトブロック少量、白色粘土微量含む
						2	10.9R	4/4 褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック、灰褐色シルトブロック少量、白色粘土微量含む
SK12	X14-Y5	楕円形	143.4	15.0	-	1	10.9R	3/2 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の黄褐色砂質シルト少量、径 4cm 以内の礫、白色粘土微量含む
SK13	X15-Y5	楕円形	69.3	51.4	-	1	10.9R	5/3 におい黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック多量、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 1cm 以内の礫少量含む
SK14	X15-Y5	隅丸長方形	86.4	58.3	-	1	10.9R	5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の炭褐色シルトブロックや少量含む
SK15	X16-Y5	不明	79.3	25.9	-	1	10.9R	3/3 暗褐色	砂質	径 15cm 以内の礫、瓦片少量含む
SK16	X16-Y5	不整形円形	117.6	52.5	-	1	10.9R	3/3 暗褐色	砂質	炭褐色シルトブロック多量、径 3cm 以内の礫、瓦片、白色粘土少量、炭化物粒子、径 15cm 以内の礫微量含む
SK17	X16-Y5-6	-	68.1	59.6	-	1	10.9R	4/4 褐色	シルト	灰白色・黄褐色・灰褐色シルトブロックの混合層、径 5cm 以内の礫少量含む
						1	10.9R	4/4 褐色	シルト	灰白色・黄褐色・灰褐色シルトブロックの混合層、径 5cm 以内の礫少量含む
SK18	X16-Y5-6	-	158.0	80.0	-	1	10.9R	2/1 黒褐色	炭化物層	径 5cm 以内の炭褐色シルトブロック多量、径 10cm 以内の礫・炭化物粒子少量含む
						3	2.5V	3/2 黒褐色	粘土質シルト	径 20cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭化物、白色粘土微量含む
SK19	X14-Y8	楕円形	66.5	49.7	-	1	10.9R	3/2 黒褐色	シルト	径 10cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 2cm 以内の炭化物微量含む
SK20	X13-Y6-7	楕円形	104.0	120.0	-	1	2.5V	4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロック少量、径 3cm 以内の炭化物微量含む
SK21	X14-Y5	楕円形	91.6	67.4	-	1	7.5VR	4/2 灰褐色	シルト	径 20cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 2cm 以内の炭化物微量含む
SK22	X14-Y6	不整形円形	67.2	64.0	-	1	10.9R	3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭化物、白色粘土微量含む
SK23	X12-Y13-Y7	楕円形	117.0	72.4	-	1	2.5V	5/2	砂質シルト	径 15cm 以内の礫、径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、瓦片少量含む
SK24	X10-Y6	不整形円形	76.7	39.4	-	1	10.9R	5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 1.0-0.5cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物少量、径 8cm 以内の礫微量含む
SK26	X10-Y6	不整形円形	57.6	54.5	-	1	7.5VR	4/3 褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 5cm 以内の礫少量、白色粘土、炭化物微量含む
SK27	X0-Y6-7	不整形円形	77.4	63.2	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の礫下部に多量、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 1cm 以内の炭化物、径 1.5cm 以内の礫・炭褐色シルトブロック少量含む
SK28	X16-Y7	-	62.9	07.0	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の礫多量、炭化物粒子微量含む
SK29	X0-Y7	不整形円形	68.8	59.9	-	1	10.9R	5/3 におい黄褐色	砂質シルト	径 25cm 以内の礫の混層に多量、径 1cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量、白色粘土少量含む
SK30	X0-Y7	不整形円形	46.4	40.8	-	1	7.5VR	5/3 におい褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫多量、径 2cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む
SK26	X10-Y6	不整形円形	57.6	54.5	-	1	7.5VR	4/3 褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の炭褐色シルトブロック多量、径 5cm 以内の礫少量、白色粘土、炭化物微量含む
SK27	X0-Y6-7	不整形円形	77.4	63.2	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の礫下部に多量、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 1cm 以内の炭化物、径 1.5cm 以内の礫・炭褐色シルトブロック少量含む
SK28	X16-Y7	不明	52.5	17.0	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の礫多量、炭化物粒子微量含む
SK29	X0-Y7	不整形円形	68.8	59.9	-	1	10.9R	5/3 におい黄褐色	砂質シルト	径 25cm 以内の礫の混層に多量、径 1cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量、白色粘土少量含む
SK30	X0-Y7	不整形円形	46.4	40.8	-	1	7.5VR	5/3 におい褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫多量、径 2cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む
SK31	X0-Y7	楕円形	108.0	163.3	-	1	7.5VR	4/2 灰褐色	砂質シルト	径 12cm 以内の礫多量、径 4cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む、径 1cm 以内の灰白色シルトブロック少量含む、径 1cm 以内の礫少量含む
SK32	X0-Y7	円形	217.9	214.0	-	1	7.5VR	3/3 暗褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の礫多量、径 4cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む、径 1cm 以内の灰白色シルトブロック少量含む、径 1cm 以内の礫少量含む
SK33	X0-Y7-8	不整形円形	85.6	55.7	-	1	10.9R	3/3 暗褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の礫多量、径 4cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む、炭化物粒子少量、白色粘土微量含む
SK34	X0-Y7-8	不整形円形	93.2	82.7	-	1	7.5VR	3/2 黒褐色	砂質シルト	径 25cm 以内の礫多量、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック、炭化物粒子少量含む
SK35	X12-Y7	楕円形	73.4	34.4	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子・白色粘土・酸化鉄層を含む
SK37	X0-Y7-8	不整形円形	113.0	79.3	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 4cm 以内の炭褐色シルトブロック多量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 6cm 以内の礫少量、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む
SK38	X16-Y8	楕円形	85.5	17.8	-	1	10.9R	3/2 黒褐色	シルト	径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック多量、炭化物粒子、白色粘土少量含む、遺構の跡に瓦片礫等並存しているように見える
SK39	X10-Y11-Y8	円形	69.6	48.4	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭褐色砂質シルトブロック少量、径 1cm 以内の炭化物微量含む
SK40	X10-Y8	楕円形	69.8	47.6	-	1	10.9R	5/3 におい黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭褐色砂質シルトブロック少量、径 1cm 以内の炭化物微量含む
SK41	X10-Y9	不整形円形	76.4	56.1	-	1	10.9R	5/3 におい黄褐色	砂質シルト	径 4cm 以内の礫少量、黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の灰白色シルトブロック少量含む
SK42	X11-Y7	不整形円形	96.3	90.1	-	1	10.9R	5/3 におい黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫少量、白色粘土、炭化物粒子微量含む
SK43	X12-Y8	楕円形	69.5	66.3	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	シルト	径 8cm 以内の礫多量、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む
SK44	X11-Y8	楕円形	53.1	36.8	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以下の礫、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む
SK45	X13-Y9	隅丸長方形	67.3	32.1	-	1	10.9R	5/4 におい黄褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、径 3cm 以内の礫少量含む
SK46	X13-Y9	楕円形	58.6	53.2	-	1	10.9R	4/3 におい黄褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の礫、径 1cm 以内の炭褐色粘土質シルトブロック、径 5cm 以内の炭褐色シルトブロック少量、炭化物粒子微量含む
SK47	X13-Y9	不整形円形	36.4	33.3	-	1	10.9R	3/3 暗褐色	シルト	径 18cm 以内の礫、径 3cm 以内の炭褐色砂質シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物少量含む
SK48	X16-Y7-8	不整形円形	78.1	71.3	-	1	10.9R	4/2 灰黄褐色	シルト	径 2cm 以内の礫多量、径 2cm 以内の炭化物、径 1cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量、白色粘土微量含む

第 19 表 土坑観察表 (1)

道 横	グリッド	平面形状	規模 (cm)			傾 度	土 色	土 性	特 徴
			長軸	短軸	深さ				
SK49	X16-Y7-8	(楕円形)	72.5	61.0	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 5cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰白色粘土質土質ブロック少量、炭化物粒子、白色粘土、瓦片散見含む
SK50	X06-Y8	(楕円形)	46.7	31.9	-	1	2.5Y 3/2 黒褐色	シルト	径 1cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土塊含む
SK51	X13-14-Y9	楕円形	103.2	98.2	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 8cm 以内の円礫まばらに含む 灰白色粘土質土質ブロック少量、径 3cm 以内の灰白色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土少量含む 径 3cm 以内の炭化物、径 3cm 以内の灰白色シルトブロック少量、径 10cm 以内の円礫塊含む
SK52	X13-14-Y9	(不整形楕円形)	78.2	79.3	-	1	10YR 5/2 灰黄褐色	シルト	径 2cm 以内の灰白色土質ブロック少量、炭化物粒子、白色粘土塊含む
SK53	X16-Y8	楕円形	112.3	65.8	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 3cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK55	X16-Y0	(不整形)	82.3	50.1	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 3cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK56	X14-Y0	(不整形楕円形)	69.6	58.3	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	傾斜部に径 10cm 以内の円礫含む 灰白色粘土質土質ブロック少量、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土、焼土ブロック少量含む
SK57	X14-Y10	楕円形	87.1	69.2	-	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	径 0.5cm の圆形シルトブロック、炭化物粒子少量含む
SK58	X14-Y0	隅丸方形	77.6	63.2	-	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	径 8cm 以内の円礫、径 4cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK59	X13-14-Y9	(楕円形)	96.3	85.1	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	灰白色シルトブロック少量、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック、炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK60	X14-15-Y9-10	(隅丸長方形)	64.6	63.2	-	1	10YR 5/3 に近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック、径 0.5cm 以内の白色粘土少量含む
SK61	X14-15-Y10	(不整形楕円形)	56.5	43.5	-	1	10YR 6/2 灰黄褐色	シルト	径 5cm 以内の径 1.5cm 以内の黄褐色シルトブロック少量含む
SK62	X14-15-Y10	(楕円形)	86.4	74.6	-	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック、炭化物塊少量含む
SK63	X15-Y10	(不整形)	66.3	65.2	-	1	10YR 5/2 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック、白色粘土塊含む
SK64	X15-Y10	隅丸方形	102.3	58.3	-	1	2.5Y 4/3 オリーブ褐色	シルト	径 30cm 以内の円礫まばらに含む、径 1cm 以内のシルトブロック少量、径 1cm 以内の円礫、瓦片少量含む
SK65	X15-16-Y10	(楕円形)	78.6	63.2	-	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 30cm 以内の円礫、瓦片少量含む、径 4cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、白色粘土塊含む
SK66	X16-Y10	(楕円形)	51.3	44.5	-	1	2.5Y 3/2 黒褐色	粘土シルト	径 5cm 以内の円礫、径 2cm 以内の黄褐色シルトブロック少量含む
SK67	X15-Y9-10	(楕円形)	65.3	55.5	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK68	X15-Y9-10	(楕円形)	75.3	25.4	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック、炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK69	X15-16-Y9	(不整形楕円形)	63.3	54.1	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック、炭化物粒子、白色粘土少量含む 下部に炭化物多量に含む、径 3cm 以内の円礫、径 2cm 以内の黄褐色シルトブロック少量、白色粘土塊含む
SK70	X15-16-Y8	(不整形)	75.6	56.4	-	2	10YR 4/2 灰黄褐色	砂質シルト	上部に 10cm 以内の円礫多量、径 5cm 以内の黄褐色シルトブロック、白色粘土、瓦片塊少量含む
SK71	X16-Y8	(不整形楕円形)	81.4	30.6	-	1	2.5Y 5/2 暗灰黄色	シルト	炭化物多量、径 10cm 以内の円礫、径 4cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量、白色粘土塊含む
SK72	X12-Y7-8	(不整形)	216.5	168.8	-	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	径 30cm 以内の円礫含む 炭化物粒子、径 1cm の黄褐色砂質シルトブロック、瓦片少量含む
SK73	X15-16-Y10	(楕円形)	65.3	60.2	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 1.5cm 以内の円礫少量、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK75	X13-Y6	(隅丸長方形)	91.5	57.7	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 15cm 以内の円礫少量、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土少量含む
SK76	X12-Y8	(不整形楕円形)	56.6	41.1	-	1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫、径 4cm 以内の灰白色シルトブロック少量、径 1cm 以内の炭化物塊少量含む
SK78	X13-Y7	(楕円形)	061.9	151.9	-	1	10YR 4/2 暗灰黄色	シルト	径 8cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、白色粘土、炭化物粒子、瓦片塊少量含む
SK79	X14-Y6	(不整形楕円形)	1059.3	130.5	-	1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫、径 4cm 以内の灰白色シルトブロック少量、径 3cm 以内の炭化物塊少量含む
SK80	X14-Y6	(不整形)	146.0	139.8	-	1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	径 12cm 以内の円礫、径 5cm 以内の径 1.5cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物塊少量含む
SK82	X13-14-Y6-7	(不整形楕円形)	551.9	408.9	-	1	10YR 4/2 に近い黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫少量含むシルトブロック、炭化物粒子、径 20cm 以内の円礫少量、白色粘土塊少量含む
SK86	X12-13-Y7-9	-	615.0	292.9	-	1	2.5Y 5/2 暗灰黄色	シルト	瓦片、径 3cm 以内の灰白色シルトブロック少量、径 3cm 以内の炭化物塊少量、径 3cm 以内の円礫少量、白色粘土塊少量含む
SK87	X14-Y9-7	-	020.4	214.9	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 3cm 以内の炭化物、粘土、瓦片少量、白色粘土塊少量含む
SK88	X14-15-Y7	-	020.2	188.0	-	1	7.5YR 4/2 灰褐色	シルト	径 12cm 以内の円礫、径 5cm 以内の径 1.5cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 5cm 以内の炭化物、瓦片少量含む
SK89	X14-15-Y7	-	0029	130.4	-	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	遺構の周辺部に凝土土帯状に露出する 径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の円礫、瓦片少量、白色粘土塊少量含む
SK90	X15-Y7	-	020.2	52.6	-	1	2.5Y 4/1 黄褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫、径 0.5cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、径 2cm 以内の炭化物、白色粘土塊少量含む
SK91	X15-16-Y7-8	-	076.8	120.2	-	2	7.5YR 5/3 に近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫径 5cm 以内のシルトブロック、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、白色粘土、径 2cm 以内の炭化物塊少量含む
SK93	X15-Y9	(楕円形)	596	57.6	-	1	10YR 5/3 に近い黄褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫少量、径 2cm 以内の炭化物、径 3cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量、白色粘土塊少量含む
SK94	X15-Y9	(楕円形)	42.3	36.5	-	1	2.5Y 3/2 黒褐色	シルト	径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、径 4cm 以内の炭化物少量、径 3cm 以内の円礫、白色粘土塊少量含む
SK95	X14-Y6	(不整形楕円形)	125.0	80.8	-	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	径 2cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量、径 2cm 以内の炭化物少量、白色粘土塊少量含む
SK96	X14-Y6	(不整形楕円形)	102.0	79.7	-	1	10YR 5/3 に近い黄褐色	シルト	凝土塊・灰白色・灰褐色・黄褐色シルトブロックの混成体 炭化物粒子塊少量含む
SK97	X14-Y6	(不整形楕円形)	152.2	69.7	-	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の炭化物、白色粘土少量、灰白色・黄褐色砂質シルトブロック少量、径 3cm 以内の円礫塊少量含む
SK98	X14-Y6	(不整形楕円形)	80.6	58.4	-	1	10YR 3/3 暗褐色	シルト	径 5cm 以内の灰白色・黄褐色シルトブロック少量、径 3cm 以内の円礫塊少量含む
SK99	X15-Y8-9	(不整形楕円形)	68.6	66.2	-	1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫、径 15cm 以内の円礫少量、径 2cm 以内の炭化物塊少量含む
SK100	X15-Y9	(不整形楕円形)	58.6	57.1	-	1	7.5YR 5/2 灰褐色	シルト	径 3cm 以内の径 1.5cm 以内の灰褐色シルトブロック、径 15cm 以内の円礫少量、白色粘土、炭化物粒子塊少量含む
SK101	X15-Y9	(楕円形)	69.1	56.3	-	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の黄褐色シルトブロック少量、炭化物粒子塊少量含む
SK102	X15-Y8-9	(楕円形)	87.4	50.6	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 1cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、白色粘土塊少量含む
SK103	X15-Y9	(不整形楕円形)	99.6	57.0	-	1	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 25cm の円礫あり、径 3cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、炭化物粒子少量含む
SK104	X15-Y8	(不整形楕円形)	156.3	104.3	-	1	10YR 4/3 に近い黄褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック、径 1cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量含む
SK105	X15-Y8	(不整形楕円形)	64.3	45.1	-	1	10YR 4/2 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫、径 2cm の黄褐色シルトブロック少量、炭化物粒子、白色粘土塊少量含む
SK106	X12-Y2-3	(不整形楕円形)	223.7	54.2	-	1	7.5YR 4/3 暗褐色	シルト	径 12cm 以内の円礫多量、白色粘土少量含む
SK107	X12-Y2-3	(不整形楕円形)	223.7	54.2	-	1	7.5YR 5/3	シルト	径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック少量、白色粘土、径 1cm 以内の炭化物塊少量含む
SK108	X12-Y3	(不整形)	94.9	37.4	-	1	7.5YR 5/2 灰褐色	シルト	径 2cm 以内の灰白色シルトブロック少量、径 5cm 以内の円礫少量、径 1cm 以内の炭化物塊少量含む

第 20 表 土坑観察表 (2)

道 横	グリッド	平面形状	規模 (cm)			層位	土 色	土 性	特 徴
			長軸	短軸	深さ				
SK109	X16・Y5	(楕円形)	73.2	14.8	-	1	7.5R/5.3 赤い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック多量。径 2cm 以内の灰褐色シルトブロック。炭化物粒子微量含む
SK110	X10・Y7	(楕円方形)	89.3	66.9	-	1	10R/5.3 赤い黄褐色	砂質シルト	径 12cm 以内の円礫多量。径 5cm 以内の角礫が散在。シルトブロック少量含む
SK111	X10・Y7	(不整形円形)	102.4	65.3	-	1	10R/4.3 赤い黄褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の円礫多量。径 3cm 以内の角礫が散在。シルトブロック少量含む
SK112	X10・Y7~8	(不整形円形)	158.3	56.3	-	1	7.5R/4.3 赤褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の円礫。径 3cm 以内の角礫が散在。シルトブロック少量含む
SK114	X12・Y10~11	(楕円形)	56.9	57.6	-	1	7.5R/5.2 灰褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫。径 3cm 以内の灰白色シルトブロック少量。径 1cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK115	X14・Y17~8	(不整形円形)	270.3	130.1	-	1	10R/5.2 灰黄褐色	シルト	径 5cm 以内の灰白色シルトブロックやや多量。径 20cm 以内の円礫。径 2cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK116	X12・Y5	-	10420	185.8	-	1	10R/4.3 赤い黄褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫。径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック。径 1cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK117	X14・Y8	-	93.2	90.4	-	1	10R/4.4 赤褐色	シルト	径 20cm 以内の角礫。径 1cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK118	X14・Y7	(不整形円形)	86.0	55.1	-	1	2.5Y 5.2 暗灰褐色	シルト	炭化物多量。径 10cm 以内の円礫。径 4cm の黄褐色砂質シルトブロック少量。白色粒子微量含む
SK119	X14・Y7	(不整形円形)	120.0	37.0	-	1	10R/5.3 赤い黄褐色	シルト	径 5cm 以内の灰白色シルトブロック多量。径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック。径 6cm 以内の円礫少量。炭化物少量含む
SK120	X13・Y8	(不整形円形)	56.7	26.0	-	1	7.5R/4.2 灰褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫。径 2cm 以内の灰白色シルトブロック少量。径 2cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK121	X14~13・Y16	(不整形円形)	74.7	67.7	-	1	7.5R/3.2 灰褐色	シルト	径 5cm 以内の黄褐色シルトブロック多量。径 3cm 以内の灰白色シルトブロック。径 1.5cm 以内の円礫。径 3cm 以内の炭化物少量含む
SK122	X14~13・Y10~7	(不整形)	1376	109.0	-	1	2.5Y 3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫。炭化物多量含む
SK123	X14・Y6	(不整形円形)	87.2	60.9	-	1	10R/5.3 赤い黄褐色	シルト	黄褐色・灰白色・灰褐色・黄褐色シルトブロックの混在。炭化物粒子微量含む
SK124	X14・Y7	(不整形円形)	162.3	104.2	-	1	2.5Y 3/2 黒褐色	シルト	径 5cm 以内の赤い黄褐色シルトブロック。径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック。径 3cm 以内の炭化物多量。径 10cm 以内の円礫少量含む
SK125	X14・Y7	(不整形円形)	79.6	46.2	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色砂質シルトブロック少量。径 1.5cm 以内の炭質シルトブロック。炭化物粒子微量含む
SK126	X14・Y6	(不整形円形)	117.4	106.0	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	シルト	径 6cm 以内の円礫。径 2cm 以内の黄褐色シルトブロック。炭化物粒子。白色粒子少量含む
SK127	X14・Y5~6	-	10548	187.6	-	1	10R/5.2 灰黄褐色	シルト	径 12cm の円礫あり。径 5cm 以内の灰白色シルトブロック少量含む
SK128	X14・Y5~6	-	90.3	137.6	-	1	10R/5.3 赤い黄褐色	シルト	径 6cm 以内の円礫。径 2cm 以内の灰褐色シルトブロック少量。径 1cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK129	X14・Y6	(不整形円形)	66.5	74.5	-	1	10R/3.3 暗褐色	シルト	径 12cm の円礫中に有り。径 3cm 以内の灰白色・黄褐色シルトブロック少量。径 3cm 以内の円礫少量含む
SK130	X14~13・Y18	(不整形円形)	328	182.1	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	シルト	径 1cm 以内の炭褐色砂質シルトブロック少量。炭化物粒子微量含む
SK131	X15・Y6	(不整形)	1525	109.6	-	1	7.5R/4.2 灰褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫。径 4cm 以内の灰褐色シルトブロック。径 3cm 以内の炭化物少量含む
SK132	X15・Y6	(不整形円形)	96.3	95.1	-	1	7.5R/5.3 赤い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック。径 15cm 以内の円礫。径 2cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK133	X15・Y5~6	(不整形円形)	1360	533	-	1	10R/3.3 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫。径 1cm 以内の灰白色砂質シルトブロック少量。炭化物粒子微量含む
					2	10R/2.2 黒褐色	シルト	径 25cm 以内の円礫有り。径 4cm 以内の円礫。径 3cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量。径 1cm 以内の炭質シルトブロック少量。白色粒子微量含む	
					3	10R/5.3 赤い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰褐色シルトブロック少量含む	
					1	10R/5.4 赤い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰褐色・黄褐色シルトブロック。白色粒子の混在	
					2	2.5Y 3/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫含む。径 2cm の灰白色シルトブロック多量。炭化物粒子微量含む	
SK134	X15・Y6	(不整形円形)	1731	49.5	-	3	2.5Y 5.2 暗灰褐色	シルト	径 6cm 以内の円礫。炭化物粒子。白色粒子少量含む
					4	2.5Y 5.2 暗灰褐色	シルト	炭化物粒子微量含む	
					1	2.5Y 5/1 黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック多量。径 3cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック少量。白色粒子微量含む	
SK135	X15・Y6	(楕円形)	980	167.9	-	2	10R/5.4 赤い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の黄褐色シルトブロック。白色粒子少量。径 3cm 以内の灰白色シルトブロック。径 10cm 以内の円礫。炭化物粒子。粘土量含む
SK136	X14・Y5~6	(不整形円形)	1143	117.7	-	2	10R/5.4 赤い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色・白色粒子少量。灰白色・黄褐色砂質シルトブロック少量。径 3cm 以内の円礫少量含む
SK137	X14~13・Y18	(不整形円形)	876	56.4	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	砂質シルト	外縁部に径 30cm 以内の円礫と瓦片が散在されている。径 4cm 以内の炭褐色シルトブロック。径 3cm 以内の炭褐色砂質シルトブロック少量。炭化物粒子微量含む
SK138	X12・Y7	(不整形)	1081	77.2	-	1	7.5R/3.2 黒褐色	シルト	粘土含む。径 20cm 以内の円礫。径 2cm 以内の炭化物。白色粒子微量含む
SK139	X12・Y8	(不整形円形)	104.0	90.5	-	1	2.5Y 4/4 オリーブ褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒子含む。径 1cm 以内の炭化物少量含む SK としたが、SK3 層上の埋土上の堆積性を考えられる
SK140	X14・Y6	(不整形円形)	68.9	74.7	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	シルト	径 1cm 以内の赤い黄褐色シルトブロック。径 0.5cm 以内の炭褐色シルトブロック少量。径 2cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK141	X12・Y7~8	(不整形円形)	1123	70.7	-	1	10R/3.2 黒褐色	シルト	径 25cm 以内の円礫多量。径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量。炭化物少量含む
SK142	X13・Y7	(不明)	51.3	37.5	-	1	2.5Y 4/3 オリーブ	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫多量。径 0.2cm の黄褐色の砂質少量含む
SK143	X10・Y10	(不整形円形)	99.3	87.1	-	1	10R/3.3 暗褐色	粘土質シルト	径 15cm 以内の円礫。径 3cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック。径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック多量。径 3cm 以内の炭化物少量含む
SK144	X12・Y6	-	1067.3	120.0	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	シルト	径 1cm 以内の赤い黄褐色シルトブロック。径 0.5cm 以内の炭褐色シルトブロック少量。径 2cm 以内の炭化物粒子微量含む
SK145	X12・Y6	-	81.0	32.4	-	1	10R/3.3 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色。白色粒子少量。灰白色・黄褐色砂質シルトブロック多量。径 3cm 以内の円礫少量含む
SK146	X11~12・Y16	-	1289	184.4	-	1	10R/3.2 黒褐色	シルト	径 25cm 以内の円礫多量。径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量。炭化物少量含む
SK147	X09・Y7	(楕円形)	69.9	53.4	0.34	1	10R/5.2 灰黄褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の円礫多量。炭化物粒子。白色粒子微量含む
SK148	X09・Y7	(楕円方形)	59.9	56.4	-	1	10R/5.2 灰黄褐色	砂質シルト	径 25cm 以内の円礫。径 2cm 以内の炭褐色粒子。白色粒子微量含む
SK149	X11・Y9	(楕円形)	96.9	25.4	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の黄褐色シルトブロック。径 20cm 以内の円礫。径 1cm 以内の炭褐色。径 1cm 以内の灰白色シルトブロック少量含む
SK150	X11~12・Y16	(不整形円形)	50.5	49.1	-	1	10R/3.3 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色。白色粒子少量。灰白色・黄褐色砂質シルトブロック多量。径 3cm 以内の円礫少量含む
SK151	X11~12・Y16	-	1151.1	152.8	-	1	10R/5.2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫多量。径 1cm 以内の炭褐色少量含む
SK152	X12・Y5~6	-	1883.9	219.2	-	1	10R/3.2 黒褐色	シルト	径 25cm 以内の円礫多量。径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック少量。炭化物少量含む
SK153	X12・Y6	(楕円形)	1004.2	172.0	-	1	10R/4.2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫多量。径 1cm 以内の炭褐色。白色粒子微量含む
SK154	X13・Y9~10	-	69.8	45.5	-	1	10R/3.2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色。白色粒子少量。灰白色・黄褐色砂質シルトブロック多量。径 3cm 以内の円礫少量含む
SK155	X11・Y9	(不整形円形)	1102.3	98.6	-	1	10R/5.3 赤い黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫多量。径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック。径 2cm 以内の炭褐色。径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック少量含む
SK156	X13・Y8~9	(楕円方形)	59.6	55.1	-	1	10R/4.2 灰黄褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の円礫少量。径 1cm 以内の炭褐色。白色粒子微量含む
SK157	X10・Y5	-	1178	179.0	-	1	10R/5.2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫多量。径 1cm 以内の炭褐色少量含む

第 21 表 土坑観察表 (3)

道 橋	グリッド	平面形状	規模 (cm) 長軸 短軸 深さ	傾 斜	土 色	土 性	特 徴
SK158	X10 - Y1 - Y5	—	1203 389	—	10YR 4/2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫を多量、径 1cm 以内の炭化物、白色粒子を微量含む
SK159	X10 - Y5	—	608 474	—	10YR 5/2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫を多量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK160	X10 - Y8	—	0659 1115	—	10YR 5/2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫を多量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK161	X16 - Y8	不整形楕円形	1081 818	—	10YR 4/2 灰褐色	粘土質シルト	径 15cm 以内の礫を少量、径 0.5cm 以内の灰白色シルトブロックを多量、炭化物粒子、白色粒子を少量含む
SK162	X15 - 16 - Y8	不整形	1172 1049	—	7.5YR 5/2 灰褐色	砂質シルト	径 10cm 以内の灰白色シルトブロックを多量、径 20cm 以内の礫、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK164	X15 - 16 - Y8	不整形	1344 (34.2)	—	7.5YR 5/2 灰褐色	砂質シルト	炭石有り 径 10cm 以内の灰白色シルトブロックを多量、径 20cm 以内の礫、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK165	X15 - 16 - Y8	不整形楕円形	3701 2065	—	10YR 5/2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫を多量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK166	X15 - 16 - Y8	不整形楕円形	2000 1440	—	10YR 5/2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫を多量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK167	X15 - 16 - Y8	不整形楕円形	66.9 56.9	—	10YR 5/2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の礫を多量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK168	X15 - 16 - Y8	不整形楕円形	99.7 93.0	—	10YR 4/2 灰褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫を少量、径 0.5cm 以内の炭化物を少量含む
SK169	X15 - 16 - Y8	不整形楕円形	2237 (42.8)	—	10YR 4/2 灰褐色	粘土質シルト	径 15cm 以内の礫を少量、径 1cm 以内の灰白色シルトブロックを多量、炭化物粒子、白色粒子を少量含む
SK176	X17 - Y7 - 8	円形	466 695	—	10YR 3/2 黒褐色	シルト	径 4cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭化物を少量、白色粒子を微量含む
SK177	X11 - Y13 - 14	(楕円形)	2411 (85.7)	—	10YR 5/3 に近い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の礫、径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK179	X18 - Y7 - 8	楕円形	2123 1608	—	10YR 5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 2.5cm 以内の礫が平準化している 径 1cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、白色粒子を少量含む
SK180	X10 - Y6 - 7	不整形楕円形	6911 783	—	10YR 5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫を多量、径 2cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK181	X16 - Y10 - 11	(不整形楕円形)	1349 (61.4)	—	7.5YR 4/2 灰褐色	砂質シルト	径 2.5cm 以内の礫を多量、径 3cm 以内の炭化物を少量、径 1cm 以内の炭褐色炭石を微量含む
SK182	X12 - Y11	円形楕円長方形	783 235	—	7.5YR 3/3 黒褐色	砂質シルト	径 12cm 以内の礫を多量、径 4cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物を少量含む
SK184	X10 - Y12 - 13	(不整形楕円形)	955 823	—	10YR 2/3 黒褐色	シルト	径 10cm 以内の礫を多量、径 2cm 以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量含む
SK185	X18 - 19 - Y11	(楕円形)	1458 777	—	2.5Y 4/2 暗灰黄色	シルト	径 8cm 以内の礫を少量、炭化物粒子、瓦片を微量含む
SK186	X18 - Y10 - Y11	(楕円形)	4789 2067 403	—	10YR 4/1 暗灰色 2 10YR 4/2 灰黄色 3 10YR 4/2 暗灰黄色	シルト シルト シルト	径 0.5cm 以内の暗色粘土ブロック、径 0.3cm 以内の白色粒子、径 2cm 以内の炭化物を多量を少量含む 径 1cm 以内の炭化物、白色粒子を少量含む 白色粒子を少量、径 1cm 以内の黄褐色砂質ブロックを帯状に含む
SK187	X18 - 19 - Y10 - 11	(不整形楕円形)	2649 1452	—	10YR2/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色砂質シルトブロックを多量、炭化物粒子、黄土粒子を微量含む
SK188	X18 - 19 - Y9 - 10	(楕円形)	5056 2668	—	10YR2/3 黒褐色	シルト	径 10cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量含む
X10	X18 - Y10	(不整形)	0952 1749	—	10YR 5/3 に近い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の礫、径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK191	X11 - Y11	楕円形	1123 544	—	10YR4/2 灰黄色	砂質シルト	径 6cm 以内の礫を少量、径 4cm 以内の黄褐色シルトブロックを多量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK192	X18 - 19 - Y9	(不整形楕円形)	0564 944	—	10YR2/2 黒褐色	シルト	径 1cm 以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子、白色粒子を微量含む
SK193	X17 - 18 - Y8 - 9	(不整形楕円形)	1522 1038	—	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 8cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量含む
SK194	X18 - 19 - Y8 - 9	(不整形)	0748 1511	—	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の礫を少量、径 3cm 以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK195	X18 - 19 - Y8	(不整形楕円長方形)	2786 2168	—	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 4cm 以内の、近い黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の灰白色シルトブロック、径 8cm 以内の礫を少量、白色粒子を微量含む
SK196	X18 - 19 - Y7 - 8	楕円長方形	5137 2509 180	—	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の礫を多量、白色粒子を微量含む
SK197	X18 - 19 - Y7	(楕円形)	0269 876 394	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 15cm 以内の礫を少量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック (V 6 層)、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック (V 4 層)、径 3cm 以内の炭化物を少量含む
SK198	X18 - 19 - Y7	(不整形円形)	2144 2038 433	—	10YR3/3 暗褐色	砂質土	径 1cm 以内の炭化物、径 1.5cm 以内の炭褐色粘土粒を含む
SK201	X0 - Y13 - 14	(不整形楕円形)	1268 (91.7)	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 2cm 以内の礫、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 15cm 以内の礫 (河原石)、径 3cm 以内の灰白色シルトブロックを含む
SK202	X10 - Y13	(不整形楕円形)	906 (79.1) 152	—	10YR4/3 暗褐色	シルト	径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の礫 (河原石) を含む
SK203	X10 - Y11 - 12	(不整形楕円形)	1513 841	—	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	灰白色シルトブロックを多量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック、炭化物粒子、白色粒子を少量含む
SK204	X0 - Y13 - 14	(不整形楕円形)	888 (57)	—	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	黒炭粒・径 10cm 以内の礫及び 灰白粘土ブロックを多量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック、炭化物粒子、白色粒子を少量含む
SK205	X0 - Y13	不整形楕円形	2413 1742	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 0.5cm の暗褐色シルトブロック、炭化物粒子を少量含む
SK206	X10 - Y13	(楕円形)	771 517	—	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 8cm 以内の礫、径 4cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物を多量含む、白色粒子を微量含む
SK207	X10 - Y12 - 13	(不整形楕円形)	0955 823	—	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	灰白色シルトブロックを多量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック、炭化物粒子、白色粒子を少量含む
SK208	X0 - 10 - Y12	(不整形楕円形)	75.6 404	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の礫を少量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量含む
SK209	X10 - Y12	楕円形	848 547	—	10YR6/2 灰黄色	シルト	径 5cm 以内の、近い黄褐色シルトブロックを多量含む
SK210	X10 - Y12	(楕円形)	91.6 572	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 5cm 以内の礫、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック、炭化物を微量含む
SK211	X10 - Y11 - 12	(不整形)	1804 1121	—	10YR4/2 灰黄色	シルト	径 5cm 以内の礫、暗褐色シルトブロックを多量、径 10cm 以内の礫を少量、炭化物を微量含む
SK212	X0 - Y12 - 13	不整形楕円形	844 586	—	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の、近い黄褐色シルトブロックを多量、炭化物粒子を微量含む
SK213	X0 - Y11	(不整形楕円形)	1229 697	—	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 2cm 以内の礫、径 1cm 以内の、近い黄褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子を微量含む
SK215	X18 - Y8 - 9	(楕円形)	1864 (51.8)	—	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の、近い黄褐色砂質シルトブロック、径 3cm 以内の礫を少量、白色粒子を微量含む
SK216	X17 - 18 - Y7	(楕円形)	1038 852	—	10YR2/2 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の、近い黄褐色砂質シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を微量含む、遺物も認められる
SK217	X10 - Y13	(楕円形)	096.3 (47.0)	—	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 2cm 以内の炭褐色シルトブロックを含む 径 8cm 以内の礫を少量、白色粒子、径 1cm 以内の炭化物を微量含む
SK218	X12 - Y11	楕円長方形	1426 829	—	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 1cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを多量、白色粒子を微量含む
SK219	X12 - Y11	楕円長方形	1734 (84.1) 443	—	10YR3/2 黒褐色 2 10YR2/2 黒褐色	シルト シルト	径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、白色粒子を微量含む
SK220	X12 - Y11	(不整形楕円形)	466 695	—	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	径 3cm 以内の礫、径 0.5cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、白色粒子、径 2cm 以内の炭化物を少量含む
SK221	X12 - Y11 - 12	(不整形楕円形)	1242 441	—	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	灰白色・灰褐色・黄褐色シルトブロックの混合層
SK222	X12 - Y11 - 12	(不整形楕円形)	871 851	—	7.5YR5/3 に近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、白色粒子、径 2cm 以内の炭化物を少量含む
SK223	X17 - 18 - Y11	(楕円形)	1918 1313	—	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒子を含む (特に C - C の混入が顕著である) 径 8cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭化物、瓦片を少量含む

第 22 表 土坑観察表 (4)



道 横	グリッド	平面形状	規模 (cm)			傾 斜	土 色	土 性	特 徴
			長軸	短軸	深さ				
SK278	X17・Y12	(不整形門形)	1272	714	-	1	10YR4/2 灰黄色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK279	X17・Y11-12	(不整形門形)	1680	649	-	1	10YR5/4 近い黄褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫、炭化物粒子を少量含む
SK280	X17・Y5-6	(不整形門形)	1457	38.9	41.5	1	10YR4/3 近い黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫、径 1cm 以内の炭褐色粘土シルトブロック、径 5cm 以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子を微量含む
SK281	X17・Y11-12	(不整形門形)	1854	109.8	-	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 18cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰褐色砂質シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK282	X17-18・Y11	(不整形門形)	1566	110.1	37.5	2	10YR2/1 黒色	シルト	径 1cm 以内の炭化物、径 0.1cm 以内の白色粒子を少量含む
SK283	X16・Y4-5	-	-	-	-	1	10YR4/6 灰褐色	シルト	径 1cm 以内の炭化物を多量、径 0.1cm 以内の白色粒子を微量含む
SK284	X17-18・Y11	(不整形丸方形)	253.3	240.7	45.8	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	径 0.5cm 以内の炭化物、径 0.5cm 以内の白色粒子を多量、径 1cm 以内の褐色土ブロックを少量含む
						3	10YR2/3 黒褐色	粘土シルト	径 1cm 以内の炭化物、径 0.5cm 以内の白色粒子を少量含む
						3	10YR2/2 黒褐色	シルト	径 1cm 以内の炭化物を微量含む
SK285	X17・Y7-8	(不整形門形)	91.9	54.1	-	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の円礫、灰白色粘土シルトブロックを多量、径 3cm 以内の灰黄色シルトブロック、炭化物粒子、白色粘土、塊土ブロックを少量含む
SK286	X18・Y10-11	(不整形門形)	76.3	39.1	-	1	10YR4/3 近い黄褐色	シルト	径 0.5cm の暗褐色シルトブロック、炭化物粒子を少量含む
SK287	X18-19・Y11	(楕円形)	207.2	64.4	-	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 8cm 以内の円礫、径 4cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物を少量、白色粘土を少量含む
SK288	X17・Y10	(不整形門形)	76.6	66.8	-	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 8cm 以内の円礫、径 4cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物を少量、白色粘土を少量含む
SK289	X16-17・Y10	(不整形丸方形)	92.7	83.5	-	1	10YR5/3 近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の白色シルトブロック、径 0.5cm 以内の白色粒子を少量含む
SK290	X16・Y10	(不整形門形)	248.4	34.8	28.5	1	10YR6/2 灰黄色	シルト	径 5cm 以内の近い黄褐色シルトブロックを多量含む
						1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	径 8cm 以内の円礫、径 1cm 以内の円礫を少量含む
						2	10YR2/1 黒色	シルト	径 2cm 以内の炭化物を多量、径 5cm 以内の円礫を少量含む
SK291	X16-17・Y9	(不整形)	255.6	173.3	43.3	3	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径 0.5cm 以内の炭化物を微量含む、暗褐色が顕在する
						4	10YR4/3 近い黄褐色	砂質シルト	径 2cm 以内の灰白色シルトブロック、径 2cm 以内の灰黄色粘土質シルトブロックを少量、径 0.5cm 以内の炭化物を微量含む
						5	10YR4/1 暗灰色	粘土質シルト	径 2cm 以内の炭化物を微量含む
SK292	X17・Y8	(楕円形)	80.8	46.1	-	1	10YR4/3 近い黄褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫、径 3cm 以内の黄褐色シルトブロック、炭化物を微量含む
SK293	X17-18・Y8-9	(不整形門形)	275.7	250.2	26.4	1	10YR4/2 灰黄色	シルト	径 1.5cm 以内の炭化物を少量、径 1.5cm 以内の円礫を含む
SK294	X16・Y8	(不整形門形)	3436	98.8	31.4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	径 30cm 以内の円礫を多量、径 1cm 以内の灰粘土シルトブロック (V 層) を少量、炭褐色-暗褐色層 (Vc 層) 層を含む
SK295	X18・Y9	(不整形門形)	105.5	98.4	-	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径 2cm 以内の円礫、砂粒を少量含む
SK296	X18・Y8	(不整形門形)	100.2	71.3	-	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫、砂粒を少量、炭化物粒子を微量含む
SK297	X17・Y6	(楕円形)	68.5	59.9	-	1	2.5Y3/3 オリーブ黒色	粘土	砂粒を含む、径 1.5cm 以内の円礫を含む
SK298	X18・Y6	(不整形門形)	126.6	43.8	-	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	砂粒層から層状に含む 径 8cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量、径 3cm 以内の近い黄褐色シルトブロックを含む
SK299	X16・Y12	(偏長方形)	68.4	30.0	-	1	2.5Y3/5 暗オリーブ褐色	シルト	砂粒層から層状に含む 径 2cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量、径 3cm 以内の近い黄褐色シルトブロックを含む
SK300	X17-18・Y9-10	(不整形門形)	120.4	54.1	-	1	2.5Y3/3 黒褐色	粘土	砂粒層から層状に含む 径 2cm 以内の円礫を少量含む
SK301	X17・Y8	(不整形門形)	67.7	60.9	-	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	径 6cm 以内の円礫を少量、径 5cm 以内の灰黄色シルトブロック (V d 層) を少量 (特に V 層) に多く含まれる
SK302	X16-17・Y8	(楕円形)	82.3	60.5	-	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	径 3cm 以内の円礫を微量、近い黄褐色砂質シルトブロック、砂粒を含む
SK303	X18・Y8	(不整形)	141.2	125.1	-	1	10YR2/1 黒色	粘土	植物遺体を多量含む
SK304	X18・Y8	(不整形門形)	106.4	100.6	-	1	10YR17/1 黒色	シルト	径 2cm 以内の炭化物を多量、径 5cm 以内の円礫を微量含む
SK305	X18・Y8	(不整形門形)	128.0	64.6	-	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 1cm 以内の暗灰粘土質シルトブロックを少量含む
SK306	X18・Y8	(不整形門形)	125.3	82.6	-	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子、白色粘土を微量含む
SK307	X18・Y8	(不整形門形)	121.2	71.1	-	1	10YR4/3 近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫、径 1cm 以内の近い黄褐色シルトブロックを少量、白色粘土、炭化物粒子を微量含む
SK308	X18-19・Y8	(不整形門形)	241.1	101.5	-	1	2.5Y3/3 オリーブ黒色	シルト	砂粒を含む
SK309	X17・Y8	(楕円形)	68.5	59.9	-	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量含む
SK310	X17・Y7-8	(不整形門形)	91.9	54.1	-	1	10YR4/3 近い黄褐色	シルト	径 30cm 以内の円礫をまばらに含む 丸片、炭化物粒子、径 1cm 以内の円礫を含むシルトブロックを少量含む
SK311	X18・Y7	(不整形門形)	224.7	183.3	-	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 5cm 以内の円礫を少量、白色粘土を微量含む
SK312	X17・Y7	(不整形門形)	128.0	64.6	-	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 2cm 以内の円礫、塊土、丸片を少量、白色粘土を微量含む
SK313	X17・Y7	(不整形門形)	74.4	48.2	-	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	径 12cm 以内の円礫、径 5cm 以内の近い黄褐色シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物、丸片を少量含む
SK314	X17・Y7-8	(不整形門形)	67.1	43.3	-	1	10YR4/3 近い黄褐色	シルト	溝槽の縁部から層状に顕在する 径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の円礫、丸片を少量、白色粘土を微量含む
SK315	X18・Y7-8	(不整形門形)	79.6	45.5	-	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	径 3cm 以内の円礫、径 0.5cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物、白色粘土を微量含む
SK316	X18・Y6	(不整形門形)	126.6	43.8	-	1	10YR5/3 近い黄褐色	シルト	灰白色-灰褐色-暗褐色シルトブロックの層状
SK317	X18・Y7	(不整形門形)	188.5	180.4	-	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の灰褐色粘土質を多量、径 1.5cm 以内の炭化物、径 0.3cm 以内の白色粘土を含む
SK318	X15・Y10-11	(楕円形)	216.2	118.6	5.6	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭を多量含む
SK319	X17・Y7	(不整形門形)	131.3	73.4	-	1	10YR17/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒子を多量、塊土粒子を少量、径 1cm 以内の炭化物を含む
SK320	X18・Y7-8	(不整形門形)	90.1	44.8	-	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物を微量、径 10cm 以内の炭褐色-灰白色-灰黄色を含む
						1	10YR2/2 黒褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を微量含む
						3	2.5Y4/1 灰褐色	シルト	径 1.5cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量含む
SK321	X15・Y10-11	(不整形門形)	240.3	187.9	64.3	2	2.5Y3/4 暗褐色	シルト	円礫、炭化物を含めない
SK322	X17・Y7	(不整形)	138.1	48.0	-	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰白色-黄褐色砂質シルトブロックを多量、径 3cm 以内の炭化物、白色粘土を少量、径 5cm 以内の円礫を微量含む
SK323	X17・Y6-7	(楕円形)	152.4	105.6	-	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色-黄褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫を微量含む
SK324	X18・Y6-7	(不整形門形)	205.8	205.7	-	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 1cm 以内の灰褐色粘土粒、径 0.2cm 以内の白色粒子を微量、径 0.5cm 以内の炭化物を少量含む
						1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の炭化物、径 1.5cm 以内の円礫、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量含む
SK325	X15-16・Y11	(不整形門形)	202.7	78.8	71.3	2	10YR4/3 近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを多量含む
						3	2.5YR4/3 オリーブ暗褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫を多量、径 3cm 以内の炭化物を少量含む

第 24 表 土坑観察表 (6)

道 橋	グリッド	平面形状	堤脚 (cm)			層位	土 色	土 性	特 徴
			長軸	短軸	深さ				
SK326	X10・Y11	(不整形門形)	284.0	59.1	65.7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰黄褐色シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物を少量含む
						2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 2cm 以内の円礫、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
						3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	径 1cm 以内の円礫、径 5cm 以内の炭化物を少量含む
						4	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	径 5cm 以内の円礫、炭化物を少量含む
						5	2.5YR4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK327	X10・Y11	(不整形門形)	332.2	254.3	—	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む	
SK328	X10・Y6	(不整形門形)	43.6	60.4	—	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 20cm 以内の円礫、径 2cm 以内の炭化物を少量含む	
SK329	X10・Y11	(不整形門形)	87.1	39.8	—	10YR4/3 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む	
SK330	X10・Y8	(楕円形)	69.0	71.2	—	10YR4/4 褐色	シルト	径 20cm 以内の径の異なる黄褐色粘土質シルトブロックを少量、炭化物粒子を少量含む	
SK331	X18・Y6	(不整形門形)	146.7	71.5	—	2.5Y5/2 暗灰褐色	シルト	炭化物を少量、径 10cm 以内の円礫、径 4cm の黄褐色砂質シルトブロックを少量、白色粘土を少量含む	
SK332	X10・Y6	(不整形門形)	52.6	39.0	—	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	径 5cm 以内の灰白色シルトブロック、径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック、径 6cm 以内の円礫を少量、瓦片を少量含む	
SK333	X10・Y6	隅丸長方形	73.3	56.9	—	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物を少量含む	
SK334	X10・Y6	隅丸長方形	74.5	41.2	—	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	径 5cm 以内の径の異なる黄褐色シルトブロック、径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 15cm 以内の円礫、瓦片を少量含む	
SK335	X10・Y6~7	(隅丸長方形)	59.4	50.4	—	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫、瓦片を少量含む	
SK336	X18・Y6	(不整形門形)	73.7	71.9	—	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	黄褐色・灰白色・灰褐色・黄褐色シルトブロックの混層層 炭化物粒子を少量含む	
SK337	X18・Y6	(楕円形)	168.8	99.3	—	10YR3/3 暗褐色	シルト	径 0.5cm 以内の粘土ブロック・炭化物粒子を少量、径 15cm 以内の円礫、径 2cm 以内の粘土質砂質シルトブロックを少量含む	
SK338	X17・Y6	(楕円形)	109.6	55.6	—	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の円礫、径 1cm 以内の炭化物を少量含む	
SK339	X10・Y6	(不整形門形)	43.9	35.0	—	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	層状有り 径 10cm 以内の径の異なる灰白色シルトブロックを少量、径 20cm 以内の円礫、径 5cm 以内の径の異なる黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭化物を少量含む	
SK340	X18・Y6	(楕円形)	132.4	40.1	—	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む	
SK341	X10・Y6	(不整形門形)	63.9	45.0	—	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む	
SK342	X19・Y6~7	(不整形門形)	524.6	174.2	—	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む	
SK343	X10・Y6	隅丸長方形	107.28	57.7	—	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物、白色粘土を少量含む	
SK344	X10・Y6	(不整形門形)	70.5	21.4	—	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径 0.5cm 以内の円礫を少量、径 15cm 以内の円礫、炭化物粒子、白色粘土を少量含む	
SK345	X19・Y5~6	(不整形門形)	55.9	45.0	—	2.5Y5/2 暗灰褐色	シルト	径 0.5cm 以内の白色粘土を少量、径 3cm 以内の円礫を少量含む	
SK346	X16~17・Y6	(不整形門形)	184.3	403.9	—	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 0.5cm 以内の炭化物、径 0.2cm 以内の白色粘土を少量、径 10cm 以内の円礫を含む	
SK347	X17・Y6~7	(不整形門形)	50.2	30.5	—	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫を少量、径 3cm 以内の灰黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色粘土質シルトブロックを少量含む	
SK348	X17・Y6	(不整形門形)	48.0	62.7	—	10YR2/1 黒色土	砂質シルト	径 1cm 以内の暗色スクリップ、径 0.3cm 以内の白色粘土を含む	
SK349	X17・Y6	(不整形門形)	198.8	56.5	—	10YR3/3 暗褐色	砂質土	径 0.3cm 以内の白色粘土を少量、径 0.5cm 以内の炭化物を少量含む	
SK350	X18・Y6~7	(不整形門形)	83.6	22.0	—	10YR4/4 褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の炭褐色粘土結晶を少量、少量を炭化物、径 0.5cm 以内の炭化物、径 0.2cm 以内の白色粘土を少量含む	
SK351	X18・Y8	不整形	141.2	125.1	—	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫を少量、径 3cm 以内の灰黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色粘土質シルトブロック、径 3cm 以内の炭化物を少量含む	
SK352	X18・Y8	(不整形門形)	1004	100.6	—	11YR4/6 褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫を少量、径 0.3cm 以内の炭褐色粘土質シルトブロックを少量含む	
SK353	X18・Y8	(不整形門形)	125.3	182.0	—	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径 2cm 以内の円礫、砂粒を少量含む	
SK354	X18・Y8	(不整形門形)	124.2	71.1	—	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫、砂粒を少量、炭化物粒子を少量含む	
SK355	X18~19・Y8	(不整形門形)	241.1	101.5	—	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	砂粒を少量、径 15cm 以内の円礫を含む	
SK356	X17・Y8	楕円形	685	59.9	—	10YR3/4 暗褐色	シルト	砂粒細かな状況に含む 径 8cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を少量、径 3cm 以内の径の異なる黄褐色シルトブロックを含む	
SK357	X17・Y7~8	(不整形門形)	91.9	54.1	—	2.5Y3/5 暗オリーブ褐色	シルト	砂粒細かな状況に含む 径 2cm 以内の円礫を少量含む	
SK358	X18・Y7	(楕円形)	132.4	40.1	—	2.5Y3/3 黒褐色	粘土	砂粒細かな状況に含む	
SK359	X10・Y6	(不整形門形)	63.9	45.0	—	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	径 6cm 以内の円礫を少量、径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック (Vd 層) を含む (粘土層に多く含まれる)	
SK360	X10・Y6~7	(不整形門形)	524.6	174.2	—	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物、白色粘土を少量含む	
SK361	X10・Y6	隅丸長方形	107.28	57.7	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 0.2cm 以内の白色粘土を少量、径 0.1cm 以内の炭化物を少量含む	
SK362	X10・Y6	(不整形門形)	70.5	21.4	—	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	径 6cm 以内の円礫を少量、径 5cm 以内の灰黄褐色シルトブロック (Vd 層) を含む (粘土層に多く含まれる)	
SK363	X10・Y6	(不整形門形)	100.0	95.7	—	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	径 2cm 以内の白色シルトブロックを含む、径 15cm の円礫を含む	
SK364	X18~19・Y15	(方形)	130.0	166.0	—	2.5Y5/2 暗灰褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物、白色粘土を少量、灰白色、径 3cm 以内の円礫を少量含む	
SK359	X10・Y13	隅丸方形	107.6	63.4	—	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	径 4cm 以内の灰白色シルトブロックを少量含む	
SK365	X18~19・Y13	(方形)	146.3	54.1	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 8cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を少量含む	
SK366	X18~19・Y13	隅丸方形	146.3	54.1	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の黄褐色シルトブロックを少量、径 12cm 以内の円礫、炭化物、白色粘土を少量含む	
SK361	X10・Y12~13	台形	118.3	112.3	—	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、黄褐色砂質シルトブロック、炭褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫を少量含む	
SK362	X19・Y13	(方形)	63.2	162.7	—	10YR4/4 褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック、炭褐色シルトブロック、白色粘土を少量含む	
SK363	X10・Y12	(方形)	56.2	60.8	—	10YR3/2 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の黄褐色砂質シルトブロック、径 4cm 以内の円礫、白色粘土を少量含む	
SK364	X10~19・Y11	隅丸長方形	146.3	42.0	—	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む	
SK365	X10~19・Y12	隅丸長方形	223.1	175.0	—	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量含む	
SK366	X20~21・Y15	(隅丸長方形)	60.0	110.0	—	10YR3/3 暗褐色	砂質	径 15cm 以内の円礫、瓦片を少量含む	
SK367	X21・Y15	楕円形	89.5	32.4	—	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫、瓦片、白色粘土を少量、径 15cm 以内の円礫、炭化物粒子を少量含む	
SK368	X21・Y15	(楕円形)	101.98	50.0	—	2.5Y4/2 暗灰褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 5cm 以内の炭化物を少量含む	
SK369	X21・Y15	(楕円形)	76.7	66.4	—	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	径 2cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物、径 20cm 以内の円礫を少量含む	

第 25 表 土坑観察表 (7)

道 横	グリッド	平面形状	規模 (cm)		傾 斜	土 色	土 性	特 徴
			長軸	短軸				
SK370	X21 - 22・Y15	[方形]	0200	0160	—	1 0YR3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内、径 2cm 以内の炭化物、白色粘土を混雜含む
SK371	X20・Y14 - 15	不整形長方形	150.0	74.1	—	2 5Y5/2	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、瓦片を少量含む
SK372	X21・Y15	[楕円形]	0300	71.4	—	1 0YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の炭化物を少量、径 0.5cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量、径 8cm 以内の円礫を混雜含む
SK373	X22・Y15	[楕円形]	0488	0218	—	1 0YR3/3 暗褐色	シルト	径 2cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子、焼土粒子を混雜含む
SK374	X22・Y12	[楕円方形]	31.0	25.9	—	1 0YR2/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子、焼土粒子を混雜含む
SK375	X22・Y14	[楕円形]	186.4	060.5	—	1 0YR2/3 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、径 10cm 以内の円礫を含む
SK376	X19 - 20・Y11 - 12	不整形方形	352.8	330.0	—	1 7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫を下部に多量、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物、径 1.5cm 以内の赤い黄褐色シルトブロックを混雜含む
SK377	X10 - 20・Y12	不整形丸方形	1687	107.8	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子・白色粘土・酸化鉄混雜含む
SK378	X22・Y12	楕円方形	23.1	18.0	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子・白色粘土・酸化鉄混雜含む
SK379	X20 - 20・Y11	[楕円形]	38.2	13.5	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	砂	径 3cm 以内の円礫を混雜含む
SK380	X20・Y12	[楕円形]	59.6	50.5	—	1 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	径 1cm 以内の円礫、炭化物粒子を混雜含む
SK381	X10 - 20・Y12	[不整形方形]	426.8	206.9	—	1 0YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を混雜、径 2cm 以内の赤い黄褐色砂ブロックを含む
SK382	X20 - 21・Y11 - 12	[不整形方形]	698.8	534.2	—	1 0YR3/1 黒褐色	シルト	径 1cm 以内の炭化物を含む
SK383	X21 - 22・Y13	[方形]	104.0	47.0	—	1 2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 3cm 以内の暗褐色シルトブロック、白色粘土を少量、径 3cm 以内の灰白シルトブロック、径 10cm 以内の炭化物、炭化物粒子、瓦片を混雜含む
SK385	X22・Y12	楕円方形	85.1	64.0	—	1 0YR5/4 赤い黄褐色	シルト	炭化物粒子・白色粘土・酸化鉄混雜含む
SK386	X22・Y12	[楕円形]	103.5	66.4	—	1 0YR3/3 暗褐色	シルト	炭褐色の砂質シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を少量、灰白色、径 3cm 以内の円礫を混雜含む
SK387	X22・Y12	不整形	56.0	56.8	—	1 2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	径 4cm 以内の灰白色シルトブロックを少量含む
SK388	X22・Y12	[楕円方形]	67.0	62.9	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	シルト	径 8cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰白シルトブロックを少量、炭化物粒子を混雜含む
SK389	X22 - 23・Y11 - 12	[方形]	064.9	28.4	—	1 0YR4/3 赤い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 1.2cm 以内の円礫、白色粘土を混雜含む
SK390	X19・Y11	[方形]	61.9	57.8	—	1 0YR4/3 赤い黄褐色	シルト	径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、炭褐色の砂質シルトブロック、炭褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫を混雜含む
SK391	X19・Y11	不整形方形	69.0	46.3	—	1 0YR4/4 褐色	シルト	炭褐色の砂質シルトブロック、炭褐色シルトブロックを少量、白色粘土を混雜含む
SK392	X19・Y10 - 11	不整形円形	141.0	106.8	—	1 0YR3/2 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、径 4cm 以内の円礫、白色粘土を混雜含む
SK393	X19・Y10	不整形円形	119.0	118.0	—	1 0YR3/5 赤い黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の円礫を含む
SK394	X20・Y11	不整形円形	111.0	70.4	—	1 0YR5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 6cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量含む
SK395	X20 - Y10 - 11	[上方形]	291.0	238.2	—	1 0YR3/3 暗褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫、瓦片を少量含む
SK396	X20 - 21・Y10 - 11	不整形	0780	427.0	—	1 0YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物・砂ブロックを少量、径 3cm 以内の円礫、瓦片、白色粘土を少量、炭化物を含む
SK397	X20 - 21・Y11	不整形長方形	0370	158.0	—	1 2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の赤い白色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を混雜含む
SK398	X20 - 21・Y11	<方形>	0210	126.0	—	1 7.5YR4/2 灰褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫を含む
SK399	X21・Y12	[楕円方形]	0343	0353	—	1 0YR3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内、径 2cm 以内の炭化物、白色粘土を混雜含む
SK400	X21・Y11	[楕円形]	96.0	62.3	—	1 2.5Y5/2 砂質シルト	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰白色シルトブロック、瓦片を少量含む
SK401	X20 - 21・Y10	[楕円方形]	364.0	75.8	—	1 0YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 0.5cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量、径 8cm 以内の円礫を混雜含む
SK402	X20 - 21・Y10 - 11	[不整形方形]	844.0	509.0	—	1 0YR3/3 暗褐色	シルト	径 2cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子、焼土粒子を混雜含む
SK403	X20 - 21・Y10	[楕円形]	747	56.6	—	1 0YR2/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子、焼土粒子を混雜含む
SK404	X21・Y10	不整形丸方形	79.2	63.0	—	1 0YR2/3 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、径 10cm 以内の円礫を含む
SK405	X22・Y11	[楕円形]	96.3	46.2	—	1 7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の黒褐色シルトブロックを少量、径 5cm 以内の円礫を少量、白色粘土、炭化物を混雜含む
SK406	X22・Y11	[不整形丸方形]	127.0	47.2	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫を下部に多量、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、炭化物を含む
SK407	X22 - 23・Y11	[楕円形]	0260	0160	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	砂	炭化物粒子・白色粘土・酸化鉄混雜含む
SK408	X22 - 23・Y10 - 11	[楕円形]	0260	033.0	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	砂	炭化物粒子を混雜含む
SK409	X22 - Y10 - 11	[楕円形]	0150	024.0	—	1 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	径 1cm 以内の円礫、炭化物粒子を混雜含む
SK410	X22・Y10	[楕円形]	0178	0128	—	1 0YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を混雜、径 2cm 以内の赤い黄褐色砂ブロックを含む
SK411	X22・Y10 - 11	不明	057.8	41.0	—	1 0YR3/1 黒褐色	シルト	径 1cm 以内の炭化物を含む
SK412	X22 - Y10 - 11	<方形>	0220	1120	—	1 0YR4/3 赤い黄褐色	シルト	径 20cm 以内の円礫、径 3cm 以内の赤い黄褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK413	X21 - 22・Y10	円形	92.7	92.1	—	1 0YR3/5 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の炭褐色粘土ブロック、径 1cm 以内の焼土ブロックを少量、炭化物粒子を含む
SK414	X22・Y10	不整形丸方形	83.0	61.9	—	1 0YR3/2 黒褐色	シルト	径 1cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロック、粘土を含む
SK415	X22・Y10	楕円方形	97.8	89.7	—	1 0YR2/1 赤色	砂質シルト	径 1cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 15cm 以内の円礫、径 1cm 以内の焼土ブロックを少量含む
SK416	X22・Y10	[楕円形]	0304	93.7	—	1 0YR2/1 赤色	シルト	径 1cm 以内の砂利を少量、径 1cm 以内の炭化物、0.5cm 以内の白色粘土を含む
SK417	X22・Y13	[楕円方形]	340.0	23.0	—	1 0YR4/3 赤い黄褐色	砂質シルト	径 8cm 以内の円礫、径 2cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を混雜含む
SK418	X22・Y12 - 13	[楕円長方形]	0900	73.2	—	1 0YR5/5 赤い黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の円礫、径 2cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を混雜含む
SK419	X19・Y9	—	0300	70.3	—	1 0YR5/3 赤い黄褐色	砂質シルト	径 4cm 以内の赤い黄褐色シルトブロック、径 2cm 以内の灰白色シルトブロック、径 8cm 以内の円礫を少量、白色粘土を混雜含む
SK420	X19 - Y9 - 10	[楕円形]	0628	0420	—	1 0YR5/3 赤い黄褐色	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫を少量、白色粘土、炭化物粒子を混雜含む
SK421	X19 - Y9	[楕円形]	0478	77.2	—	1 0YR4/3 赤い黄褐色	シルト	径 8cm 以内の円礫を少量、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭化物を含む
SK422	X19 - Y9	[不整形円形]	216.3	174.5	—	1 0YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK423	X19 - Y10	[楕円形]	127.0	104.8	—	1 0YR5/4 赤い黄褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の炭褐色シルトブロック、径 2cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 5cm 以内の円礫、炭化物を含む
SK425	X20 - Y10	[楕円方形]	63.0	39.3	—	1 0YR3/3 暗褐色	シルト	径 18cm 以内の円礫、径 3cm 以内の炭褐色の砂質シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK426	X20 - Y10	[楕円方形]	714	67.2	—	1 0YR4/3 赤い黄褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 10cm 以内の円礫、径 3cm 以内の炭褐色シルトブロックを少量、径 0.5cm 以内の炭化物を混雜含む

第 26 表 土坑観察表 (8)

道 橋	グリッド	平面形状	堤脚 (cm)		層位	土 色	土 性	特 徴
			長軸	短軸				
SK427	X20・Y10	◀楕円形▶	1630	88(2)	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径15cm以内の円礫を多数、白色粘土、炭化物粒子を混雜含む 径25cm以内の円礫、径3cm以内の黄褐色砂質シルトブロック、径1cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、白色粘土を混雜含む
SK429	X20・Y9	◀楕円形▶	700	(58.1)	-	1.0R2/2	黒褐色	シルト 径1cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、白色粘土を混雜含む
SK430	X20・Y9	楕円方形	62.6	45.0	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	シルト 径15cm以内の炭褐色シルトブロックを少量含む
SK431	X20・Y9	円形	56.8	52.0	-	1.0R5/4	にぶい黄褐色	シルト 径1cm以内の炭褐色・黒褐色シルトブロック、白色粘土の混雜層
SK432	X20・Y9	不整形楕円形	88.7	45.9	-	1.2/3/2	黒褐色	シルト 径20cm以内の炭褐色シルトブロックを多数、炭化物粒子を混雜、径3cm以内の円礫を含む
SK433	X20・Y9	不整形円形	80.0	70.8	-	1.2/3/2	暗灰褐色	シルト 径6cm以内の円礫、炭化物粒子、白色粘土を少量含む
SK434	X22・Y9・10	(方形)	148(0)	102.0	-	1.2/3/2	暗灰褐色	シルト 炭化物粒子を混雜含む
SK435	X22・Y20・Y9	不整形楕円形	382.0	267.0	-	1.2/3/1	黄褐色	シルト 径3cm以内の炭褐色シルトブロックを多数、径3cm以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量、白色粘土を混雜含む
SK436	X22・Y3・Y8・9	(楕円形)	673(7)	1074(0)	-	1.2/3/4	暗灰褐色	シルト 径3cm以内の炭褐色シルトブロック、白色粘土を少量、径10cm以内の円礫、径30cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、炭化物粒子、灰片を混雜含む
SK437	X22・Y9	(不整形楕円形)	183.6	146(2)	-	1.0R5/4	にぶい黄褐色	シルト 径2cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径15cmの円礫を含む
SK438	X21・Y22・Y9	楕円方形	96.4	88.0	-	1.0R3/3	暗褐色	シルト 黄褐色砂質シルトブロックを多数、径3cm以内の円礫、径3cm以内の炭化物、白色粘土を少量、灰片、灰を混雜含む
SK439	X23・Y9	楕円形	66.7	33.6	-	1.2/3/2	暗灰褐色	シルト 径4cm以内の炭褐色シルトブロックを少量含む
SK440	X19・Y8	楕円方形	88.2	48.5	-	1.0R4/2	灰黄褐色	シルト 径8cm以内の円礫、径1cm以内の炭白色シルトブロックを少量、炭化物粒子を混雜含む
SK441	X19・Y20・Y8	(不整形多角形)	144.0	620(3)	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	シルト 径3cm以内の炭褐色シルトブロックを多数、径3cm以内の黄褐色シルトブロックを少量、径13cm以内の円礫、白色粘土を混雜含む
SK442	X19・Y27・Y8	(不整形多角形)	184(0)	845(0)	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	シルト 径1cm以内の炭褐色シルトブロック、黄褐色砂質シルトブロック、炭褐色シルトブロックを多数、径3cm以内の円礫を混雜含む
SK443	X20・Y8	-	(007)	(08.0)	-	1.0R4/4	黒褐色	シルト 黄褐色砂質シルトブロック、炭褐色シルトブロックを少量、白色粘土を混雜含む
SK444	X20・Y17・Y8	(楕円方形)	234.2	164(2)	-	1.0R3/2	黒褐色	シルト 径2cm以内の黄褐色砂質シルトを少量、径4cm以内の礫、白色粘土を混雜含む
SK445	X19・Y20・Y8・9	(楕円長方形)	327(0)	190.0	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	シルト 径3cm以内の炭褐色シルトブロック、径1cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の円礫を含む
SK446	X20・Y8	-	(48.3)	(33.6)	-	1.0R5/2	炭褐色	シルト 径3cm以内の炭褐色シルトブロック、径6cm以内の炭褐色シルトブロックを少量を多数含む
SK447	X20・Y8	(楕円形)	16278	669.0	-	1.0R3/3	暗褐色	砂質 径15cm以内の礫、灰片を少量含む
SK451	X20・Y8・Y9	不整形円形	77.0	68.4	-	1.0R3/3	暗褐色	シルト 炭褐色シルトブロックを多数、径3cm以内の円礫、灰片、白色粘土を少量、径15cm以内の円礫、炭化物粒子を混雜含む
SK452	X19・Y8	不整形多角形	64.8	53.3	-	1.2/3/4	暗灰褐色	シルト 径10cm以内の円礫、径5cm以内の炭白色シルトブロックを少量、径3cm以内の炭化物を混雜含む
SK453	X19・Y8	楕円方形	92.5	43.7	-	1.7/3/4/2	炭褐色	シルト 径2cm以内の炭白色シルトブロックを少量、径2cm以内の炭化物を混雜、径20cm以内の円礫を含む
SK454	X20・Y1・Y8・9	(楕円方形)	659(0)	372(0)	-	1.0R3/2	黒褐色	シルト 径20cmの円礫、径2cm以内の炭化物、白色粘土を混雜含む
SK455	X20・Y1・Y8・9	-	(49.7)	(27.0)	-	1.2/3/2	砂質シルト	径15cm以内の円礫、径1cm以内の炭褐色シルトブロック、灰片を少量を含む
SK456	X20・Y17・Y8	(不整形多角形)	600(0)	100(0)	-	1.0R5/2	炭褐色	シルト 径1cm以内の炭褐色シルトブロックを多数、径0.5cm以内の炭白色シルトブロック、径1cm以内の炭化物を少量、径8cm以内の円礫を混雜含む
SK457	X21・Y8	(方形)	672(0)	301(0)	-	1.0R3/3	暗褐色	シルト 径2cm以内の炭黄褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子、炭粒子を混雜含む
SK458	X21・Y8	不整形多角形	201.0	121.0	-	1.0R2/2	黒褐色	シルト 径3cm以内の炭黄褐色砂質シルトブロックを多数、炭化物粒子、炭粒子を混雜含む
SK459	X21・Y8	(不整形多角形)	265	162.4	-	1.0R2/3	黒褐色	シルト 径2cm以内の炭黄褐色砂質シルトブロックを少量、径10cm以内の円礫を含む
SK460	X21・Y8	(不整形多角形)	80(0)	62.0	-	1.7/3/4/3	緑色	砂質シルト 径5cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径5cm以内の円礫を少量、白色粘土、炭化物を混雜含む
SK461	X21・Y8	(楕円方形)	223(0)	136.4	-	1.0R4/2	灰黄褐色	シルト 径15cm以内の円礫を下部に多数、径2cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物、径1.5cm以内のにぶい黄褐色シルトブロックを混雜含む
SK462	X21・Y9	楕円形	91.4	53.3	-	1.0R4/2	灰黄褐色	シルト 炭化物粒子・白色粘土・酸化鉄混雜を含む
SK463	X21・Y8・9	(楕円方形)	177(0)	182.5	-	1.0R4/2	灰黄褐色	砂 径3cm以内の炭化物を混雜含む
SK464	X21・Y9	楕円形	113(0)	80.0	-	1.2/3/4/2	暗灰褐色	粘土 径1cm以内の円礫、炭化物粒子を混雜含む
SK465	X21・Y9	(不整形楕円形)	107(0)	182(0)	-	1.0R3/4	暗褐色	砂質シルト 径5cm以内の円礫を少量、炭化物粒子を混雜、径2cm以内のにぶい黄褐色シルトブロックを含む
SK470	X21・Y8・Y9	(不整形多角形)	99.2	83.0	-	1.0R3/1	黒褐色	シルト 径1cm以内の炭化物を含む
SK467	X19・Y7	楕円形	111.0	88.2	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	シルト 径20cm以内の円礫、径3cm以内のにぶい黄褐色シルトブロック、径1cm以内の炭化物を少量含む
SK468	X20・Y1・Y7	(不整形多角形)	115(0)	50.7	-	1.0R3/3	暗褐色	シルト 径3cm以内の炭褐色シルトブロック、径1cm以内の炭質シルトブロックを少量、炭化物粒子を混雜含む
SK469	X21・Y7	円形	748	69.0	-	1.0R3/2	黒褐色	シルト 径1cm以内の炭黄褐色砂質シルトブロック、灰を含む
SK470	X21・Y8・Y9	(不整形多角形)	210.0	119.7	-	1.0R2/1	黒色	砂質シルト 径5cm以内の炭化物を少量、径15cm以内の円礫、径10cm以内の礫シルトブロックを少量を含む
SK471	X21・Y22・Y8・9	(方形)	220(0)	210.9	-	1.0R2/1	黒色	シルト 径1cm以内の砂粒を少量、径1cm以内の炭化物、0.5cm以内の白色粘土を含む
SK472	X21・Y8	(楕円形)	178.6	146.6	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径8cm以内の円礫、径2cm以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を混雜含む
SK474	X21・Y22・Y8	(楕円形)	460(0)	317.0	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径5cm以内の円礫、径2cm以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を混雜含む
SK475	X21・Y22・Y8・9	-	(484.0)	(252.8)	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径4cm以内のにぶい黄褐色シルトブロック、径2cm以内の炭褐色シルトブロック、径8cm以内の円礫を少量、白色粘土を混雜含む
SK476	X22・Y23・Y8	小形	63(0)	66(2)	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径15cm以内の円礫を多数、白色粘土、炭化物粒子を混雜含む
SK477	X22・Y23・Y8	不整形	335(0)	327.9	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	シルト 径8cm以内の円礫を多数、径2cm以内の炭褐色シルトブロック、径2cm以内の炭化物を少量含む
SK478	X22・Y23・Y8	(楕円形)	239(0)	196.0	-	1.0R4/2	灰黄褐色	砂質シルト 径20cm以内の円礫、径3cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を少量含む
SK479	X23・Y8	-	(111.0)	(66.0)	-	1.0R5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト 径3cm以内の炭褐色シルトブロック、径2cm以内の炭褐色シルトブロックを少量、径5cm以内の円礫、炭化物粒子を混雜含む
SK480	X23・Y8	(楕円形)	80.3	149.0	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径10cm以内の円礫、径1cm以内の炭黄褐色粘土質シルトブロック、径5cm以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子を混雜含む
SK481	X21・Y22・Y8	不整形多角形	284(0)	254.0	-	1.0R3/3	暗褐色	シルト 径18cm以内の円礫、径3cm以内の炭褐色砂質シルトブロック、径1cm以内の炭化物を少量含む
SK482	X21・Y8	(楕円形)	109(0)	103.0	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径8cm以内の円礫、径2cm以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を混雜含む
SK484	X20・Y1・Y6	(楕円形)	1422(0)	1239.0	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径50cm以内の円礫、径2cm以内の炭褐色砂質シルトブロックを少量、径1cm以内の炭化物を混雜含む
SK485	X20・Y1・Y6	不整形	149(0)	104(0)	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径4cm以内のにぶい黄褐色シルトブロック、径2cm以内の炭褐色シルトブロック、径8cm以内の円礫を少量、白色粘土を混雜含む
SK486	X21・Y6	(楕円形)	131(0)	130(0)	-	1.0R5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト 径15cm以内の円礫を多数、白色粘土、炭化物粒子を混雜含む
SK487	X21・Y6	溝状	376(0)	59.3	-	1.0R4/3	にぶい黄褐色	シルト 径8cm以内の円礫を多数、径2cm以内の炭褐色シルトブロック、径2cm以内の炭化物を少量含む

第 27 表 土坑観察表 (9)

道 横	グリッド	平面形状	規模 (cm)		傾 位	土 色	土 性	特 徴
			長軸	短軸/深さ				
SK488	X21・Y6	(不整形円形)	2123	2070	-	1.0YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径 20cm 以内の円礫、径 3cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK490	X21・Y5	(隅丸方形)	1080	677	-	1.0YR3/3 暗褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物、白色粒子を少量含む
SK491	X21・Y5～6	(不整形長方形)	1008	49.9	-	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	径 4cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量含む
SK492	X21・Y6	楕円形	6.30	47.0	-	1.0YR4/2 灰黄褐色	シルト	径 8cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、炭化物粒子を少量含む
SK493	X20～21・Y7	方形	1970	105.0	-	1.0YR4/3 にごい・黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の黄褐色シルトブロックを少量、径 1.5cm 以内の円礫、灰片、白色粒子を少量含む
SK494	X21・Y7	(方形)	72.0	68.3	-	1.0YR4/3 にごい・黄褐色	シルト	径 1cm 以内の円礫を少量、径 0.5cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を含む
SK495	X21・Y7	(隅丸長方形)	137.6	51.7	-	1.0YR4/4 褐色	シルト	黄褐色砂質シルトブロック、灰褐色シルトブロックを少量、白色粒子を少量含む
SK496	X21・Y7	隅丸方形	110.0	64.0	-	1.0YR3/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の黄褐色砂質シルトを少量、径 4cm 以内の礫、白色粒子を少量含む
SK497	X21～22・Y7	-	0952	0738	-	1.0YR5/3 にごい・黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰白色シルトブロック、径 1cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を含む
SK498	X21～22・Y7	隅丸方形	74.6	41.6	-	1.0YR5/2 灰黄褐色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色シルトブロック、径 6cm 以内の暗褐色シルトブロックを少量含む
SK499	X21～22・Y6・7	(不整形長方形)	724.0	314.0	-	1.0YR3/3 暗褐色	砂質	径 15cm 以内の礫、瓦片を少量含む
SK500	X22・Y7	-	0406	07.0	-	1.0YR3/3 暗褐色	シルト	灰褐色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の円礫、灰片、白色粒子を少量、炭化物粒子を少量含む
SK501	X22・Y6～7	(隅丸方形)	0600	196.0	-	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 10cm 以内の円礫、径 5cm 以内の灰白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物を少量含む
SK502	X22・Y7	-	0880	190	-	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫を少量、径 2cm 以内の炭化物を少量、径 20cm 以内の円礫を含む
SK503	X10・Y6～7	不整形	0000	0077	-	1.0YR3/2 黒褐色	シルト	径 20cm 以内の礫、径 2cm 以内の炭化物、白色粒子を少量含む
SK504	X22・Y6～7	不整形	171.5	86.4	-	2.5Y5/2	砂質シルト	径 15cm 以内の円礫、径 1cm 以内の灰褐色シルトブロック、瓦片を少量含む
SK505	X22・Y7	楕円形	0284	107.6	-	1.0YR5/3 灰黄褐色	砂質シルト	径 1cm 以内の暗褐色シルトブロック、径 0.5cm 以内の灰褐色シルトブロック、径 1cm 以内の炭化物を少量、径 3cm 以内の炭化物を少量含む
SK506	X23・Y7	不整形円形	75.5	63.7	-	1.0YR3/3 暗褐色	シルト	径 3cm 以内の灰褐色砂質シルトブロックを少量、炭化物粒子、焼土粒を少量含む
SK507	X23・Y7	-	0302	44.4	-	1.0YR2/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の炭化物を少量、径 1.5cm 以内の暗褐色シルトブロックを少量、径 5cm 以内の円礫を少量含む
SK508	X23・Y7	(方形)	50.0	34.0	-	1.0YR2/3 黒褐色	シルト	径 2cm 以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量、径 10cm 以内の円礫を少量含む
SK509	X10・Y6～7	(不整形円形)	322.0	204.0	-	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の暗褐色シルトブロックを少量、径 5cm 以内の円礫を少量、白色粒子、炭化物を少量含む
SK510	X19・Y6～7	-	2963	0056	-	1.0YR4/2 灰黄褐色	シルト	径 15cm 以内の円礫を少量、径 2cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物、径 1.5cm 以内のにごい・黄褐色シルトブロックを少量含む
SK511	X20・Y7	(不整形)	82.3	50.4	-	1.0YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒子・白色粒・酸化鉄を含む
SK512	X19・Y6	(隅丸長方形)	0730	71.0	-	1.0YR4/2 灰黄褐色	砂	径 3cm 以内の円礫を少量含む
SK513	X19・Y6	(不整形円形)	126.9	81.6	-	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	径 1cm 以内の円礫、炭化物粒子を少量含む
SK514	X20・Y7	(不整形)	0411	21.9	-	1.0YR3/4 暗褐色	砂質シルト	径 3cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を少量、径 2cm 以内のにごい・黄褐色シルトブロックを含む
SK515	X20・Y6～7	(不整形)	066.7	45.8	-	1.0YR3/1 黒褐色	シルト	径 1.5cm 以内の炭化物を含む
SK516	X20・Y6～7	(方形)	2000	0450	-	1.0YR4/4 灰黄褐色	シルト	径 1.5cm 以内の炭化物を少量、径 15cm 以内の円礫を含む
SK517	X19～20・Y7	(不整形)	6133	0659	-	1.0YR3/4 暗褐色	シルト	径 30cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の灰褐色粘土質シルトブロック(Vc 等級)を少量、黄褐色～暗褐色砂礫(Vc 等級)を含む
SK518	X19～20・Y6・7	(楕円形)	0328	1169	-	1.0YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	径 2cm 以内の円礫を少量含む
SK519	X21・Y7	(方形)	2558	0753	-	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫、砂粒を少量、炭化物粒子を少量含む
SK520	X20・Y7	(不整形)	0436	01.4	-	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	径 3cm 以内の円礫、砂粒を少量含む
SK521	X20～21・Y6・7	(不整形)	0889	0618	-	1.0YR3/4 暗褐色	シルト	砂礫層から層状に含む、径 8cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を少量、径 3cm 以内のにごい・黄褐色シルトブロックを含む
SK522	X20・Y7	(楕円形)	0600	115.2	-	2.5Y3/5 暗オリーブ褐色	シルト	砂礫層から層状に含む、径 2cm 以内の円礫を少量含む
SK523	X20・Y7	不整形方形	97.0	44.2	-	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	砂礫層から層状に含む
SK524	X20・Y7	(楕円形)	0120	0330	-	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土	径 6cm 以内の円礫を少量、径 5cm 以内の灰褐色シルトブロック(Vd 層)を含む。特に、層に多く含まれる
SK525	X20・Y8	(楕円形)	071.5	26.7	-	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土	径 3cm 以内の円礫を少量、にごい・黄褐色砂質シルトブロック、砂質を含む
SK526	X20・Y9	(楕円形)	0075	87.4	-	1.0YR2/1 黒色	粘土	植物遺体を多量含む
SK528	X19・Y10～11	(方形)	0900	41.0	-	1.0YR1/7.1 黒色	シルト	径 2cm 以内の炭化物を少量、径 5cm 以内の礫を少量含む
SK529	X21・Y12	(隅丸方形)	090.9	68.7	-	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 1cm 以内の暗褐色粘土質シルトブロックを少量含む
SK530	X20・Y10	(不整形円形)	82.6	77.7	-	1.0YR3/3 暗褐色	シルト	径 5cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子、白色粒子を少量含む
SK531	X19・Y7～8	(不整形隅丸方形)	0600	315.0	-	1.0YR4/3 にごい・黄褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内のにごい・黄褐色シルトブロックを少量、径 0.5cm 以内の炭化物を含む
SK532	X19・Y6	(不整形円形)	69.0	66.4	-	2.5Y3/3 オリーブ黒色	粘土質シルト	砂粒を含む
SK533	X20～21・Y7	(方形)	80.0	78.1	-	1.0YR2/2 黒褐色	シルト	径 3cm 以内の円礫を少量、炭化物粒子を少量含む
SK534	X21・Y7	(楕円形)	06.2	43.0	-	1.0YR4/3 にごい・黄褐色	シルト	灰片、炭化物粒子、径 1cm 以内の黄褐色砂質シルトブロックを少量、径 30cm 以内の円礫を少量含む
SK535	X20・Y7	(不整形)	0730	45.4	-	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	灰片、径 3cm 以内の白色シルトブロックを少量、径 3cm 以内の炭化物、径 5cm 以内の円礫を少量含む
SK536	X20・Y4	不整形円形	51.9	39.3	-	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	径 2cm 以内の円礫、焼土、瓦片を少量、白色粒子を少量含む
SK537	X19・Y4	隅丸方形	75.6	70.7	-	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	径 12cm 以内の円礫、径 5cm 以内の黄褐色シルトブロック、径 5cm 以内の炭化物、径 5cm 以内の円礫を含む
SK539	X20・Y15	(方形)	0329	0273	-	1.0YR4/3 にごい・黄褐色	シルト	礫層の境界面に露出が非常に多く、径 1cm 以内の白色シルトブロックを少量、径 6cm 以内の円礫、灰片を少量、白色粒子を少量含む
SK540	X18～Y3・4	(不整形)	2129	0615	-	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	径 3cm 以内の円礫、径 0.5cm 以内の灰褐色シルトブロックを少量、径 2cm 以内の炭化物、白色粒子を少量含む
SK541	X21～22・Y6	(隅丸方形)	0843	0830	-	1.0YR5/3 にごい・黄褐色	シルト	灰褐色・灰褐色・黄褐色シルトブロックの混在層
SK542	X21・Y8	不整形円形	68.1	53.4	-	1.0YR3/4 黒色	砂質土	炭化物粒子を少量、径 1.5cm 以内の炭化物、径 1.5cm 以内の白色粒を含む
SK543	X19・Y4	不整形円形	66.2	60.9	-	1.0YR1/7.1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒子を少量、径 1cm 以内の炭化物、焼土粒子を少量含む
SK545	X21・Y13	(方形)	0317	81.3	-	1.0YR3/3 暗褐色	シルト	径 10cm 以内の円礫を少量、径 10cm 以内の礫砂・灰白色・灰黄褐色を含む。径 1cm 以内の炭化物を含む
SK546	X20・Y10	(隅丸方形)	72.6	61.4	-	1.0YR2/1 黒色	シルト	径 1cm 以内の円礫を少量、径 1cm 以内の炭化物、0.5cm 以内の白色粒を含む
SK547	X21・Y8～9	(不整形長方形)	2200	07.0	-	1.0YR4/3 にごい・黄褐色	砂質シルト	径 8cm 以内の円礫、径 2cm 以内の灰褐色砂質シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK548	X21・Y9	(不整形長方形)	098.4	030.3	-	1.0YR5/3 にごい・黄褐色	砂質シルト	径 5cm 以内の円礫、径 2cm 以内の暗褐色砂質シルトブロックを少量、径 1cm 以内の炭化物を少量含む
SK549	X21～22・Y7・8	-	0576	0830	-	1.0YR5/3 にごい・黄褐色	砂質シルト	径 4cm 以内の円礫、径 5cm 以内の円礫を少量、白色粒を少量含む

第 28 表 土坑観察表 (10)

道 橋	グリッド	平面形状	最大径 (km)	備 考	道 橋	グリッド	平面形状	最大径 (km)	柱版あり	備 考
P1	X13-Y5	(不整楕円形)	(50.6)		P80	X12-Y9	不整楕円形	22.2	柱版あり	
P2	X13-Y5	楕円形	33.8		P81	X11-Y8	不整楕円形	18.6		
P3	X13-Y5	不整楕円形	35.2		P82	X11-Y8	楕丸長方形	25.2		
P4	X13-Y5	不整楕円形	32.5		P83	X11-Y8	楕円形	15.3		
P5	X13-Y5	(不整楕円形)	27.6		P84	X11-Y9	楕丸長方形	32.6		
P6	X12-Y5	楕円形	36.5		P85	X12-Y9	円形	22.5		
P7	X13-Y5	(不整楕円形)	45.9		P86	X12-Y9	(不整楕円形)	74.5		
P8	X14-Y5	不整楕円形	30.8		P87	X12-Y9	楕円形	41.9		
P9	X14-Y5	(楕円形)	(42.9)		P88	X13-Y9	不整楕円形	47.0		
P10	X14-Y5	楕円形	33.8		P89	X10-Y7	不整楕円形	52.4	柱版あり	
P11	X14-Y5	楕円形	36.1		P90	X10-Y7	(楕円形)	24.2		
P12	X15-Y5	(不整楕円形)	15.0		P91	X12-X13-Y9	円形	30.9		
P13	X15-Y5	(不整楕円形)	22.1		P92	X13-Y9	(不整楕円形)	20.5	柱版あり	
P14	X15-Y5	楕円形	17.6		P93	X13-Y9	(楕円形)	12.3		
P15	X15-Y5	(楕円形)	(37.3)		P94	X13-Y9	(円形)	16.6		
P16	X15-Y5	(楕円形)	55.9		P95	X13-Y9	(不整楕円形)	29.7	柱版あり	
P17	X16-Y5	(楕円形)	(29.5)		P96	X10-Y7	不整楕円形	40.4		
P18	X16-Y5	(楕円形)	25.6		P97	X13-Y9	不整楕円形	56.2		
P19	X16-Y5	(楕円形)	(29.8)		P98	X13-Y9	楕丸長方形	62.3	柱版あり	
P20	X16-Y5-6	(楕丸長方形)	(38.2)		P99	X10-Y7	(不整楕円形)	34.8	柱版あり	
P21	X16-Y6	(不整楕円形)	42.4		P100	X13-Y9	(不整楕円形)	13.9		
P22	X14-Y6	楕円形	42.7		P101	X13-Y9	(不整楕円形)	5.6		
P23	X14-Y6	円形	42.8		P102	X13-Y9	不整楕円形	19.3		
P24	X9-Y6	楕円形	41.6		P103	X13-Y9	楕円形	16.3		
P25	X10-Y6	(楕円形)	41.3		P104	X13-Y9	不整楕円形	15.2		
P26	X10-Y6	(楕円形)	40.5		P105	X13-Y9-10	(楕円形)	19.2		
P27	X9-Y6	(不整楕円形)	(44.6)		P106	X14-Y9	楕円形	15.3		
P28	X9-Y6	不整楕円形	20.7		P107	X13-Y9	円形	14.6		
P29	X9-Y6	(円形)	47.7		P108	X13-Y9	不整楕円形	42.3	柱版あり	
P30	X9-Y6	(楕円形)	37.3		P109	X13-Y9-10	不整楕円形	32.3		
P31	X9-Y7	楕円形	25.9		P110	X13-Y10	不整楕円形	29.3		
P32	X9-Y8	不整楕円形	41.1	柱版あり	P111	X13-Y10	楕円形	39.4		
P33	X10-Y6-7	(円形)	37.5		P112	X14-Y9	楕円形	41.0		
P34	X10-Y7	楕円形	24.9		P113	X14-Y9-10	楕円形	14.3		
P35	X9-Y7	円形	31.0	柱版あり	P114	X14-Y9	(楕円形)	16.3		
P36	X9-Y7	不整楕円形	48.1		P115	X14-Y9	楕円形	35.3		
P37	X9-Y7	不整楕円形	27.9		P116	X14-Y9-10	(楕円形)	10.0		
P38	X9-Y6	(楕円形)	(40.2)		P117	X14-Y9	(楕円形)	36.3		
P39	X11-Y7	楕丸長方形	48.3	柱版あり	P118	X14-Y10	楕円形	25.6		
P40	X10-Y8	不整楕円形			P119	X13-Y11	(円形)	33.9		
P41	X9-Y7	(不整楕円形)	(55.5)	柱版あり	P120	X14-Y10	(楕円形)	18.6		
P42	X9-Y7	(不整楕円形)	51.9	柱版あり	P121	X14-Y10	(不整楕円形)	10.9		
P43	X9-Y7	(楕円形)	19.0		P122	X13-Y9	不整楕円形	31.9	柱版あり	
P44	X9-Y7-8	(不整楕円形)	(88.2)		P123	X14-Y10	楕円形	15.6		
P45	X9-Y7-8	(不整楕円形)	37.5		P124	X14-Y10	(楕円形)	7.6		
P46	X10-Y8	(楕円形)	24.9		P125	X14-Y10	(不整楕円形)	17.6		
P47	X9-Y7-8	楕円形	31.0		P126	X14-Y10	不整楕円形	21.0		
P48	X9-Y7-8	楕円形	48.1	柱版あり	P127	X14-Y10	(楕円形)	36.5		
P49	X9-Y8	楕円形	27.9		P128	X14-Y10	楕円形	26.7		
P50	X9-Y8	不整楕円形	(40.2)		P129	X15-Y9-10	円形	36.5		
P51	X10-Y8	不整楕円形	48.3	柱版あり	P130	X14-Y5-Y10	楕円形	14.6		
P52	X12-Y7	不整楕円形	30.9		P131	X15-Y10	(不整楕円形)	16.4		
P53	X12-Y7	不整楕円形	46.7		P132	X15-Y10	不整楕円形	42.6		
P54	X12-Y7	不整楕円形	26.3		P133	X15-Y10	(円形)	27.9	柱版あり	
P55	X12-Y7	不整楕円形	40.4		P134	X14-Y10	楕円形	17.7		
P56	X12-Y7	不整楕円形	32.9		P135	X15-Y10	楕円形	19.9		
P57	X11-Y8	不整楕円形	47.1		P136	X15-Y10	楕円形	32.1	柱版あり	
P58	X11-Y7	(不整楕円形)	33.0		P137	X15-Y10	楕円形	35.7		
P59	X10-Y8	不整楕円形	32.9	柱版あり	P138	X15-Y10	不整楕円形	40.3		
P60	X10-Y8	不整楕円形	47.1	柱版あり	P139	X15-Y10	不整楕円形	31.0		
P61	X10-Y8	不整楕円形	37.1		P140	X11-Y7	不整楕円形	50.3		
P62	X10-Y7	楕円形	26.7		P141	X15-Y10	(不整楕円形)	44.8	柱版あり	
P63	X10-Y8	不整楕円形	25.2		P142	X15-Y10	楕円形	12.1		
P64	X10-Y10	不整楕円形	37.1		P143	X14-Y9	—	27.3		
P65	X10-Y11	不整楕円形	20.5		P144	X16-Y10	不整楕円形	27.7		
P66	X11-Y8	円形	24.6		P145	X16-Y10	不整楕円形	43.5		
P67	X11-Y8	(不整楕円形)	15.8		P146	X16-Y10	楕丸長方形	19.2		
P68	X11-Y8	円形	16.5		P147	X16-Y10	不整楕円形	27.7		
P69	X11-Y8	不整楕円形	12.2		P148	X15-Y9	不整楕円形	14.3		
P70	X11-Y8-9	(円形)	(51.6)	柱版あり	P149	X15-Y9	(不整楕円形)	22.3		
P71	X12-Y9	(不整楕円形)	59.8	柱版あり	P150	X15-16-Y9	(不整楕円形)	26.3		
P72	X12-Y8	楕円形	15.9		P151	X16-Y9	不整楕円形	32.0		
P73	X12-Y9	(楕円形)	28.9		P152	X16-Y10	円形	37.2		
P74	X12-Y9	楕円形	31.3		P153	X16-Y10	不整楕円形	43.9		
P75	X12-Y9	(楕円形)	44.8		P154	X16-Y10	(円形)	44.3		
P76	X12-Y9	不整楕円形	19.7	柱版あり	P155	X16-Y10	楕円形	31.6		
P77	X12-Y8	楕円形	25.0	柱版あり	P156	X15-Y10	不整楕円形	6.9		
P78	X13-Y8	(楕円形)	19.3	柱版あり	P157	X15-16-Y9	楕円形	32.0		
P79	X13-Y8	(楕円形)	20.3		P158	X15-Y9	楕円形	27.3		

第 29 表 ビット観察表 (1)

道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考	道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考
P159	X15-Y9	(不整楕円形)	19.3		P238	X11-Y7	不整楕円形	58.7	
P160	X16-Y8-9	(円形)	29.3		P239	X10-Y8	楕円形	25.3	
P161	X15-Y9	(不整楕円形)	32.6		P240	X10-Y8	楕円形	12.3	
P162	X15-Y9	(不整楕円形)	20.3		P241	X12-13-Y10	楕円形	34.1	
P163	X12-Y9	不整円形	23.6		P242	X12-Y10	(円形)	33.1	柱橋あり
P164	X16-Y8	(不整楕円形)	31.0		P243	X12-Y10	(円形)	27.6	
P165	X16-Y8	(不整楕円形)	10.6		P244	X12-Y10	楕円形	33.1	柱橋あり
P166	X14-Y9	楕円形	19.6	柱橋あり	P245	X12-Y10	不整円形	19.6	柱橋あり
P167	X14-Y9	(不整楕円形)	41.0		P246	X12-Y10	楕円形	39.1	
P168	X14-Y9	楕円形	21.5		P247	X13-Y10	楕円形	31.3	
P169	X14-Y9	(不整楕円形)	33.3		P248	X13-Y10	不整円形	29.3	
P170	X14-Y9	楕円形	22.6		P249	X13-Y10	不整円形	31.5	
P171	X14-Y9	(楕円形)	16.4		P250	X13-Y10-11	楕円形	34.4	
P172	X14-15-Y9	(楕円形)	15.4		P251	X13-Y11	楕円形	41.0	
P173	X15-Y9	楕円形	25.5		P252	X13-Y11	楕円形	37.0	
P174	X12-Y8	(不整楕円形)	15.6		P253	X12-Y11	不整楕円形	52.0	柱橋あり
P175	X14-Y8	(円形)	36.2		P254	X13-Y8	(不整楕円形)	16.9	柱橋あり
P176	X15-Y9	楕円形	12.3		P255	X13-Y9	(不整楕円形)	46.2	
P177	X15-Y9	楕円形	25.6	柱橋あり	P256	X13-Y9	(不整楕円形)	47.0	
P178	X13-Y7	不整楕円形 (51.2)			P257	X13-Y9	(不整楕円形)	12.3	
P179	X10-Y7	(楕円形)	19.5		P258	X12-Y10	(不整楕円形)	22.1	
P180	X10-Y7	(楕円形)	36.2		P259	X12-Y9	(不整楕円形)	(57.0)	
P181	X10-Y7	(楕円形)	16.3		P260	X12-Y9	楕円形	24.5	
P182	X13-Y6	(不整楕円形)	(63.4)	柱橋あり	P261	X12-Y9-10	(不整楕円形)	(112.2)	柱橋あり
P183	X13-Y6	(不整楕円形)	(26.4)		P262	X13-14-Y8	(楕円形)	36.5	
P184	X13-Y6	(不整楕円形)	(33.7)	柱橋あり	P263	X14-Y8	(円形)	25.5	
P185	X13-Y6	(不整楕円形)	25.4		P264	X14-Y8	楕円形	44.3	
P186	X13-Y6	楕円形	36.7		P265	X15-Y6	不整楕円形	36.9	
P187	X13-Y6	楕円形	19.9	柱橋あり	P266	X14-Y7-8	楕円形	46.8	
P188	X13-Y6	楕円形	25.0		P267	X14-Y8	不整楕円形	32.3	
P189	X13-Y6	不整楕円形	28.6		P268	X14-Y8	(不整楕円形)	26.9	
P190	X13-Y6	楕円形	26.0		P269	X14-Y8	(楕円形)	42.0	
P191	X12-Y5	(円形)	37.1		P270	X14-Y7-8	(円形)	20.0	
P192	X13-Y6	不整楕円形	32.2		P271	X14-Y7	不整楕円形	47.8	柱橋あり
P193	X13-Y6	楕円形	23.4		P272	X14-Y7	(楕円形)	26.4	
P194	X13-Y6	楕円形	23.1		P273	X14-Y6	楕円形	26.6	
P195	X13-Y6	楕円形	25.7		P274	X9-Y8	楕円形	16.5	
P196	X13-14-Y6	(不整楕円形)	37.0		P275	X14-15-Y6	不明	10.3	
P197	X13-14-Y6	楕円形	46.5		P276	X14-15-Y6	不明	(76.5)	
P198	X13-Y5	楕円形	45.5		P277	X14-Y6	不明	(93.0)	
P199	X13-Y5	不明	(54.1)		P278	X15-Y6	不明		
P200	X14-Y6-Y7	不整楕円形	54.2		P279	X15-Y6	(楕円形)	(16.5)	
P201	X14-Y6	不整楕円形	55.1		P280	X14-Y7	楕円形	44.4	
P202	X11-Y8	楕円形	41.3		P281	X14-Y7	不整楕円形	32.9	
P203	X11-Y9	不整楕円形 (39.1)		P282	X14-Y7	(楕円形)	26.7		
P204	X14-Y9	不明	23.6		P283	X14-Y7	不整楕円形	30.6	
P205	X15-Y9	不整円形	18.9		P284	X14-Y6	(楕円形)	(26.9)	
P206	X15-Y9	不整楕円形	26.4		P285	X14-Y7	不整楕円形	48.2	
P207	X15-Y9	(楕円形)	39.5		P286	X14-Y6	(楕円形)	21.2	
P208	X15-Y9	楕円形	41.3		P287	X14-Y6	不整楕円形	31.1	
P209	X15-Y9	(楕円形)	23.1		P288	X14-Y6	(楕円形)	31.1	
P210	X15-Y9	(楕円形)	29.1		P289	X15-Y6	不整円形	74.8	
P211	X15-Y9	不整楕円形	14.1		P290	X15-Y6	不整円形	29.7	
P212	X9-Y6	楕円形	38.3		P291	X15-Y6	不整形	55.6	
P213	X9-10-Y6	不整楕円形	21.7		P292	X15-Y6	(楕円形)	47.5	
P214	X10-Y6	(楕円形)	(20.9)		P293	X15-Y6	(楕円形)	20.9	
P215	X10-Y6	(不整楕円形)	33.4		P294	X14-Y5-6	(楕円形)	(36.8)	
P216	X15-Y9	不整楕円形	15.6		P295	X14-Y5	楕円形	15.6	
P217	X15-Y9	楕円形	25.6		P296	X14-Y5	(不整楕円形)	20.0	
P218	X14-Y9	不明	23.6		P297	X14-Y7	不明		
P219	X15-Y8	楕円形	36.7		P298	X14-Y6	不整楕円形	(33.0)	
P220	X14-Y8	楕円形	22.3	柱橋あり	P299	X14-Y6	楕円形	32.0	
P221	X14-Y8-9	不整楕円形	18.9	柱橋あり	P300	X14-Y6	不整楕円形	23.8	柱橋あり
P222	X9-Y9	(楕円形)	15.6		P301	X14-Y6	楕円形	22.2	柱橋あり
P223	X13-14-Y8-9	(楕円形)	6.3		P302	X14-Y6	楕円形	15.7	
P224	X13-Y8	(楕円形)	18.9		P303	X14-Y6	(楕円形)	18.6	
P225	X15-Y9	不明	29.1		P304	X14-Y6	(不整楕円形)	(34.2)	
P226	X15-Y8	隅丸方形	29.7		P305	X14-Y6	楕円形	26.8	
P227	X15-Y8	不整楕円形	32.2		P306	X15-Y6	不整楕円形	39.9	
P228	X15-Y8	隅丸長方形	36.5		P307	X15-Y6	(楕円形)	49.3	
P229	X15-16-Y8	不整形	33.2		P308	X15-Y6	(楕円形)	(51.6)	
P230	X15-Y8	(楕円形)	15.6		P309	X15-Y6	不明	46.7	柱橋あり
P231	X15-Y9	不整楕円形	25.6		P310	X15-Y6	(円形)	15.5	
P232	X12-Y3	(楕円形)	32.7		P311	X15-Y6	楕円形	22.2	
P233	X12-Y3	不整楕円形	23.7		P312	X15-Y6	不整楕円形	48.4	
P234	X11-Y7	(楕円形)	(36.9)		P313	X15-Y6	(楕円形)	14.0	
P235	X11-Y7	不整楕円形	30.3		P314	X15-Y6	(不整楕円形)	(46.5)	
P236	X11-Y7	不整楕円形	34.1		P315	X15-Y6	(楕円形)	27.3	
P237	X11-Y7	不整楕円形	25.6		P316	X15-Y6	不整円形	26.1	

第 30 表 ビット観察表 (2)

道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (km)	備 考	道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (km)	備 考
P317	X15-Y6	(楕円形)	(17.9)		P396	X12-Y9	(円形)	23.6	
P318	X15-Y6	(楕円形)	31.7		P397	X12-Y9	楕丸方形	29.9	
P319	X15-Y6-7	(楕円形)	39.3		P398	X12-Y9	(楕円形)	23.6	
P320	X15-Y6-7	(楕円形)	33.9		P399	X12-Y10	不整形門部	13.6	
P321	X13-14-Y3	不整形門部	28.8		P400	X12-Y10	不整形門部	32.7	
P322	X15-Y6	—	(17.5)		P401	X12-Y10	楕円形	31.3	
P323	X15-Y7-8	不整形門部	68.1		P402	X12-Y10	—	19.3	
P324	X14-15Y8	(楕円形)	58.8		P403	X12-Y10	楕円形	67.5	柱礎あり
P325	X15-Y7	(不整形門部)	54.6		P404	X12-Y9	不整形	46.2	柱礎あり
P326	X15-Y7	楕円形	46.2		P405	X12-Y9	楕円形	14.8	
P327	X15-Y7	不整形門部	18.6		P406	X12-Y9-10	(円形)	27.3	
P328	X15-Y8	(不整形門部)	22.6		P407	X12-Y10	不整形門部	24.2	
P329	X15-Y7-8	楕円形	32.5		P408	X12-Y10	(不整形門部)	17.0	
P330	X15-Y7-8	(不整形門部)	(57.4)		P409	X12-Y10	不整形門部	21.8	
P331	X15-Y7	不整形門部	50.7		P410	X12-Y10	不整形門部	15.2	
P332	X15-Y7	(楕円形)	27.7		P411	X10-Y9	不整形門部	25.0	
P333	X15-Y7	不整形門部	54.0		P412	X10-Y9	不整形	35.1	
P334	X15-Y7	(不整形門部)	65.4	柱礎あり	P413	X12-Y9	—	28.9	
P335	X15-Y7	(楕円形)	49.8		P414	X13-Y9	楕丸方形	16.9	
P336	X15-Y7	不整形門部	52.8		P415	X13-Y9-10	(楕円形)	34.0	柱礎あり
P337	X15-Y7-8	不整形門部	45.1		P416	X14-Y10	(円形)	40.5	柱礎あり
P338	X15-Y7-8	楕円形	29.7		P417	X10-Y5	(楕円形)	35.7	
P339	X15-Y8	楕丸方形	36.9		P418	X9-Y9	(楕円形)	26.6	
P340	X15-16-Y7-8	(不整形門部)	48.8		P419	X10-Y10	不整形	26.3	柱礎あり
P341	X15-Y8	楕円形	—		P420	X10-Y9	楕丸方形	60.4	柱礎あり
P342	X15-Y6	(楕円形)	(21.8)		P421	X10-Y9-10	不整形楕丸長方形	78.8	柱礎あり
P343	X15-Y6	不整形門部	28.5		P422	X14-Y7	不整形門部	53.1	
P344	X15-Y7-8	楕円形	46.0		P423	X1-Y7	不整形門部	27.9	
P345	X16-Y7	不整形門部	34.6		P424	X1-Y7	楕円形	45.5	
P346	X15-Y7-8	楕円形	27.2		P425	X1-Y7	不整形門部	27.3	
P347	X15-Y7	(不整形門部)	(43.6)		P426	X1-Y7	不整形門部	19.4	
P348	X13-14Y7-8	(楕円形)	50.3		P427	X11-Y7	(楕円形)	37.8	
P349	X15-Y7	不整形門部	15.3		P428	X9-Y8	円形	18.0	
P350	X12-Y7	(不整形門部)	39.4	柱礎あり	P429	X13-Y10	—	18.9	
P351	X13-Y7	楕円形	47.2		P430	X11-Y7	—	28.9	
P352	X13-Y7	楕円形	41.5		P431	X14-Y9	—	31.5	
P353	X10-Y6	(不整形門部)	30.3		P432	X9-Y8	楕円形	21.0	
P354	X10-Y6	(不整形門部)	43.7		P433	X11-Y7	不整形門部	34.9	柱礎あり
P355	X13-Y6	楕丸方形	29.8		P434	X11-Y7	楕丸長方形	22.7	
P356	X13-Y6	(不整形門部)	28.7		P435	X11-12Y7	(不整形楕丸長方形)	53.0	柱礎あり
P357	X14-Y6	楕円形	32.2	柱礎あり	P436	X12-Y7	楕円形	30.9	
P358	X15-Y6	(楕円形)	43.7		P437	X12-Y7	楕円形	15.2	
P359	X15-Y6	楕円形	19.8		P438	X12-Y7	楕円形	13.0	
P360	X14-Y6	楕円形	29.0		P439	X12-Y7	(楕円形)	10.0	
P361	X14-Y6	(円形)	28.9		P440	X16-Y8	不整形門部	9.5	
P362	X12-Y8	不整形門部	36.4		P441	X15-Y8	楕円形	18.6	
P363	X12-Y7	不整形門部	38.2		P442	X15-Y8	不整形門部	—	
P364	X12-Y7-8	楕円形	41.3		P443	X16-Y8	不整形門部	25.7	
P365	X12-Y7-8	楕円形	26.9		P444	X16-Y8	不整形門部	31.0	
P366	X12-Y7	—	(24.5)		P445	X16-Y8	不整形門部	25.4	
P367	X12-Y7	不整形門部	33.6		P446	X15-Y6	不整形門部	40.6	柱礎あり
P368	X13-Y7	楕円形	30.3		P447	X16-Y7	楕円形	44.9	
P369	X13-Y7	不整形門部	45.1		P448	X16-Y7	円形	29.7	
P370	X13-Y7	(楕円形)	41.3		P449	X16-Y7	(不整形門部)	37.8	
P371	X13-Y7-8	楕円形	41.8		P450	X15-Y5	楕円形	22.7	柱礎あり
P372	X13-Y8	不整形門部	55.3		P451	X15-Y6	(楕円形)	9.9	
P373	X13-Y7	楕丸長方形	50.3		P452	X14-Y6	楕円形	6.9	
P374	X13-Y7	不整形門部	33.7	柱礎あり	P453	X12-Y8	(楕円形)	26.9	柱礎あり
P375	X13-Y7	円形	25.9		P454	X13-Y9	楕円形	35.3	
P376	X12-Y7	楕円形	38.2		P455	X13-14-Y9	不整形門部	68.5	柱礎あり
P377	X11-Y9	楕円形	49.6	柱礎あり	P456	X14-Y9	(不整形門部)	(58.6)	
P378	X13-Y7	(楕円形)	17.9		P457	X14-Y8	円形	15.7	
P379	X11-Y9	楕円形	34.6		P458	X14-Y9	(楕円形)	22.2	
P380	X11-Y10	不整形門部	45.0		P459	X13-Y3	(不整形門部)	41.2	
P381	X11-Y9	不整形門部	19.5		P460	X13-Y3	(楕円形)	29.3	
P382	X11-Y10	(円形)	36.4		P461	X13-Y4	(不整形門部)	26.1	
P383	X11-Y10	楕円形	40.0		P462	X13-Y3	(楕円形)	38.9	
P384	X11-Y10	楕円形	44.0		P463	X12-Y3	(楕円形)	36.5	
P385	X11-Y9	不整形門部	44.4		P464	X11-Y8	楕円形	29.3	
P386	X11-Y9	不整形門部	46.3		P465	X12-Y7	楕円形	45.6	
P387	X11-Y10	不整形門部	47.1		P466	X12-Y11	楕円形	25.6	
P388	X11-Y9-10	不整形門部	76.7	柱礎あり	P467	X13-Y10	(楕丸方形)	10.3	
P389	X11-Y9	楕円形	56.9	柱礎あり	P468	X13-Y10	(楕丸方形)	29.3	
P390	X11-Y10	不整形門部	28.2		P469	X13-Y8-9	(不整形門部)	19.3	
P391	X11-Y9	楕円形	(24.3)		P470	X14-Y9	楕円形	28.3	
P392	X11-Y9	(不整形門部)	(40.2)		P471	X15-Y4	(不整形)	37.3	
P393	X11-Y9	(不整形門部)	15.3		P472	X15-Y10	—	25.6	
P394	X11-Y10	不整形門部	41.0		P473	X12-Y9	不整形門部	32.1	
P395	X11-Y10	不整形門部	54.3		P474	X12-13-Y9	—	25.7	

第 31 表 ビット観察表 (3)

道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考	道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考
P475	X13-14-Y3	楕円形	57.7		P554	X10-Y13	楕円形	30.3	
P476	X8-9-Y14	楕円形	34.2		P555	X10-Y13	楕丸長方形	50.6	
P477	X9-Y14	不整形楕円形	41.7		P556	X10-Y13	楕円形	38.1	
P478	X9-Y14	(不整形楕円形)	37.0		P557	X10-Y13	楕円形	41.9	
P479	X9-Y14	(不整形楕円形)	37.9		P558	X10-11-Y13	楕丸方形	32.5	
P480	X9-Y14	円形	31.1		P559	X9-Y11	(不整形楕円形)	68.1	
P481	X9-10-Y14	楕円形	49.9		P560	X9-Y11	楕円形	22.7	
P482	X9-Y14	不整形楕円形	57.0		P561	X9-Y11	円形	17.4	
P483	X8-Y13	楕円形	37.4		P562	X9-Y11	(不整形楕円形)	50.2	
P484	X8-9-Y13	楕円形	41.4		P563	X9-Y11	不整形楕円形	50.1	
P485	X9-Y13	不整形円形	37.3		P564	X9-Y10	不整形楕丸方形	29.6	
P486	X10-Y14	楕円形	29.6		P565	X9-Y10	楕円形	34.0	
P487	X9-Y13	円形	41.6		P566	X9-Y11	不整形楕円形	48.4	
P488	X9-Y13	不整形方形	42.0		P567	X10-Y11	楕円形	37.7	
P489	X10-Y14	(楕円形)	(17.7)		P568	X10-Y10	楕円形	42.6	
P490	X9-Y13	不整形楕円形	40.3		P569	X10-Y10	楕円形	42.5	
P491	X9-Y13	楕丸方形	26.7		P570	X10-Y10	楕円形	34.9	
P492	X9-Y13	楕円形	(62.1)		P571	X10-Y12	(不整形楕円形)	66.5	
P493	X9-Y13-14	楕丸長方形	53.8		P572	X10-Y12	楕円形	24.3	
P494	X10-Y14	不整形楕円形	55.1		P573	X10-Y12	不整形楕円形	42.8	
P495	X10-Y14	楕円形	24.1		P574	X10-Y12	楕円形	22.2	
P496	X10-Y14	楕円形	25.9		P575	X10-Y12	楕円形	33.6	
P497	X10-Y14	円形	22.4		P576	X10-11-Y12	不整形楕円形	61.1	
P498	X10-Y14	円形	22.6		P577	X10-Y11	楕円形	74.6	
P499	X10-Y14	不整形楕円形	47.8		P578	X10-11-Y10	不整形楕円形	50.1	
P500	X10-Y13-14	楕円形	39.6		P579	X11-Y10	楕円形	38.9	
P501	X10-Y13	不整形楕円形	26.7		P580	X11-Y11	楕円形	43.7	
P502	X10-Y13	楕円形	41.9		P581	X10-Y11	楕丸長方形	36.6	柱幅あり
P503	X10-Y13	不整形楕円形	41.1		P582	X11-Y11	楕円形	27.9	
P504	X10-Y13-14	楕円形	(31.2)		P583	X11-Y11	円形	34.8	
P505	X10-Y13	不整形楕丸長方形	19.3		P584	X11-Y11	楕円形	29.9	
P506	X10-Y13	楕円形	39.2		P585	X11-Y11	不整形円形	43.7	
P507	X10-Y13	不整形楕円形	35.3		P586	X11-Y11	円形	30.2	
P508	X9-Y14	不整形楕円形	37.4		P587	X11-Y10-11	円形	39.1	
P509	X9-Y14	不整形楕円形	34.0		P588	X11-Y10	不整形楕円形	60.0	
P510	X9-Y14	円形	20.0		P589	X11-Y10	(不整形楕円形)	19.6	
P511	X9-Y14	楕円形	29.4		P590	X11-Y10	楕円形	32.5	
P512	X9-Y14	楕円形	21.1		P591	X11-Y10	楕円形	12.0	
P513	X9-Y13	楕円形	14.7		P592	X11-Y10	不整形円形	33.0	
P514	X9-Y13	不整形楕円形	26.8		P593	X11-Y10	楕円形	34.1	柱幅あり
P515	X9-Y13	楕円形	16.0		P594	X11-Y10	楕円形	42.8	
P516	X8-Y13	円形	18.0		P595	X12-Y10	円形	26.7	柱幅あり
P517	X8-Y13	(円形)	32.9		P596	X12-Y10	楕円形	33.9	
P518	X9-Y13	不整形円形	76.6		P597	X12-Y10	不整形楕円形	(26.1)	
P519	X9-Y13	(不整形楕円形)	42.7		P598	X12-Y10	楕円形	28.4	
P520	X9-Y13	不整形円形	40.8		P599	X10-Y11	楕円形	60.0	
P521	X9-Y13	楕円形	45.7		P600	X10-11-Y11-12	円形	49.8	
P522	X9-Y13	楕円形	55.3		P601	X10-11-Y12	(不整形楕円形)	38.7	
P523	X9-Y13	楕丸方形	42.6		P602	X11-Y12	円形	23.5	
P524	X9-Y13	楕円形	33.8		P603	X11-Y11	不整形楕円形	44.9	
P525	X9-Y13	不整形楕円形	32.3		P604	X11-Y11	不整形楕円形	47.5	
P526	X9-Y12	楕円形	31.9		P605	X11-Y11	(楕円形)	21.4	
P527	X9-Y12	円形	29.9		P606	X11-Y11	(不整形楕円形)	(39.0)	
P528	X9-Y12	不整形楕円形	29.7		P607	X12-Y11	円形	30.2	
P529	X9-Y12	不整形円形	39.2	柱幅あり	P608	X12-Y11	楕丸方形	28.0	
P530	X9-Y12	楕円形	38.3		P609	X12-Y11	不整形楕円形	19.6	
P531	X9-Y12	楕円形	43.8		P610	X10-Y13	楕円形	37.6	
P532	X9-Y12	(楕円形)	(40.1)		P611	X10-Y13	不整形楕円形	57.5	
P533	X9-Y12	(楕円形)	(28.6)		P612	X11-Y12	不整形円形	50.1	
P534	X9-Y12	楕円形	21.2		P613	X13-14-Y14	円形	35.0	
P535	X9-Y12	不整形円形	29.6		P614	X12-Y12	楕円形	17.2	
P536	X9-Y12	楕円形	40.1		P615	X12-Y12	不整形楕円形	42.6	
P537	X9-Y12	楕円形	36.5		P616	X12-Y12	楕円形	52.6	柱幅あり
P538	X9-Y12	円形	24.8		P617	X12-Y12	(楕円形)	46.9	
P539	X9-Y12	楕円形	52.1	柱幅あり	P618	X12-Y12	不整形方形	33.9	
P540	X10-Y12	不整形楕円形	26.9	柱幅あり	P619	X12-Y12	楕円形	45.4	
P541	X10-Y12	楕円形	45.8		P620	X12-Y12	(楕円形)	(42.4)	
P542	X9-10-Y13	楕円形	54.7		P621	X12-Y12	楕円形	28.5	
P543	X10-Y13	楕円形	22.6		P622	X12-Y11	楕円形	33.0	
P544	X10-Y13	楕円形	34.0		P623	X12-Y11	楕円形	33.7	
P545	X10-Y12-13	不整形楕円形	38.5	柱幅あり	P624	X12-Y11	楕円形	41.4	柱幅あり
P546	X10-Y12-13	楕円形	18.4		P625	X12-Y12	楕円形	43.4	
P547	X10-Y12-13	楕円形	30.0		P626	X12-Y11	楕円形	23.8	
P548	X10-Y12	楕円形	39.1		P627	X11-Y13	不整形楕円形	81.8	
P549	X10-Y12	楕丸方形	34.8		P628	X11-12-Y13	楕円形	41.3	
P550	X10-Y13	楕円形	45.9		P629	X12-Y13	不整形円形	39.9	
P551	X10-Y13	楕丸長方形	46.3		P630	X10-Y13	円形	25.0	
P552	X10-Y13	不整形楕円形	48.7		P631	X10-Y13-14	不整形楕円形	53.5	
P553	X10-Y13	楕円形	30.5		P632	X10-Y14	楕円形	22.5	

第 32 表 ビット観察表 (4)

道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考	道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考
P633	X10-Y14	楕円形	31.6		P712	X13-Y15	(楕円長方形)	86.1	
P634	X10-Y14	(円形)	23.1		P713	X13-Y14-15	円形	21.5	
P635	X10-Y14	不整形円形	44.9		P714	X13-14-Y14-15	楕円形	23.6	
P636	X10-Y13-14	楕円形	35.1		P715	X14-Y14-15	不整形楕円形	51.6	
P637	X10-Y14	(楕円方形)	54.2		P716	X14-Y14	円形	36.4	
P638	X10-Y14	楕円形	55.1		P717	X13-Y14	楕円形	42.6	
P639	X10-11-Y13-14	不整形楕円形	48.6		P718	X14-Y14	不整形楕円形	41.8	
P640	X11-Y14	楕円方形	57.9	柱筋あり	P719	X14-Y13	楕円形	39.5	
P641	X11-Y13-14	楕円形	59.6		P720	X13-Y13	不整形楕円形	41.8	
P642	X11-Y14	(不整形楕円形)	(35.2)		P721	X12-Y12-13	不整形楕円形	39.1	
P643	X11-Y14	円形	44.1		P722	X12-Y13	不整形楕円形	23.7	
P644	X11-Y14	不整形楕円方形	63.9		P723	X12-Y13	不整形楕円形	36.9	
P645	X10-11-Y14	不整形楕円形	93.4		P724	X13-Y13	楕円形	24.7	
P646	X11-Y13	不整形楕円形	73.7		P725	X13-Y13	不整形楕円形	50.8	
P647	X11-Y13	不整形楕円形	61.8		P726	X13-Y13	楕円形	34.9	
P648	X11-Y14	不整形楕円形	60.8		P727	X13-Y13	不整形楕円形	30.6	
P649	X11-Y14	円形	24.1		P728	X13-Y13	楕円形	45.5	
P650	X11-Y14	不整形楕円形	39.9		P729	X13-Y13	不整形楕円形	61.6	
P651	X10-Y10	楕円形	37.5		P730	X13-Y13	楕円形	22.5	
P652	X11-Y14	(不整形楕円形)	(48.0)		P731	X13-Y13	(楕円形)	26.6	
P653	X11-Y14	(楕円形)	71.6		P732	X13-Y11-12	楕円形	37.6	
P654	X11-Y14	(楕円形)	48.1		P733	X13-Y11	楕円形	29.5	
P655	X11-Y13	(楕円形)	70.9		P734	X13-Y11	楕円形	38.3	
P656	X19-Y16	不整形楕円形	30.0		P735	X13-Y11	楕円形	17.7	
P657	X12-Y12	円形	24.9		P736	X13-Y11	楕円形	54.1	
P658	X12-Y12	(不整形楕円形)	51.4		P737	X13-Y11	楕円形	24.5	
P659	X12-Y12	(楕円形)	(26.8)		P738	X13-Y11	楕円形	28.4	
P660	X12-13-Y12	不整形楕円形	39.4		P739	X13-Y11	円形	18.8	
P661	X12-13-Y12	楕円形	34.1		P740	X13-Y11	不整形楕円形	33.9	
P662	X12-Y12	(不整形楕円形)	34.3		P741	X13-Y11	楕円形	26.0	
P663	X12-Y12	楕円方形	55.0		P742	X13-Y11	楕円形	35.3	
P664	X11-Y13	楕円形	37.4		P743	X13-Y11	楕円形	49.7	
P665	X11-12-Y13	(不整形楕円形)	58.2		P744	X14-Y13	楕円形	33.7	
P666	X11-Y13	不整形円形	43.1		P745	X14-Y13	円形	20.0	
P667	X12-Y14	(不整形楕円形)	64.7		P746	X14-Y12	不整形楕円形	52.2	
P668	X11-12-Y14	(不整形円形)	67.2		P747	X13-Y13	(不整形楕円形)	30.0	
P669	X11-Y14	楕円形	25.7		P748	X13-Y13	楕円形	57.0	
P670	X11-12-Y14	楕円形	57.8		P749	X13-Y13	不整形円形	29.7	
P671	X11-12-Y14	楕円形	66.3		P750	X13-Y13	不整形楕円形	38.8	
P672	X11-Y14	楕円形	43.5		P751	X13-Y13	楕円形	51.6	
P673	X11-Y14	(円形)	23.0		P752	X13-Y13	楕円形	40.0	
P674	X11-12-Y14	(楕円形)	(55.5)		P753	X13-Y13	不整形楕円形	31.4	
P675	X11-Y14	楕円形	34.6		P754	X13-Y12	楕円形	37.1	
P676	X12-Y14	不整形方形	32.4		P755	X13-Y12	不整形楕円形	31.6	
P677	X12-Y14	楕円形	42.0		P756	X13-Y12	(不整形楕円形)	81.6	
P678	X12-Y14	楕円形	72.5		P757	X13-Y12	(不整形長方形)	76.2	
P679	X12-Y14	楕円形	29.8		P758	X13-Y12	不整形楕円形	41.4	
P680	X12-Y14	円形	37.8		P759	X13-Y12	(不整形楕円形)	(15.3)	
P681	X12-Y14	楕円形	80.0		P760	X13-Y12	楕円方形	28.6	
P682	X12-Y14-15	(不整形楕円形)	(52.4)		P761	X13-Y12	楕円形	20.1	
P683	X12-Y14	不整形楕円形	42.5		P762	X13-Y12	(不整形楕円形)	40.5	
P684	X12-Y14	円形	22.6		P763	X13-Y12	楕円形	31.7	
P685	X12-Y14-15	(楕円長方形)	(42.0)		P764	X13-Y12	楕円形	40.8	
P686	X12-13-Y14-15	(不整形楕円形)	(36.3)		P765	X13-Y12	楕円形	29.7	
P687	X12-Y14	(不整形楕円長方形)	52.6		P766	X13-Y12	楕円形	29.7	
P688	X12-Y14	円形	49.7		P767	X13-Y12	楕円形	38.3	
P689	X12-13-Y14	楕円形	41.5		P768	X14-Y11	(不整形楕円形)	(74.6)	
P690	X12-Y13	楕円形	22.4		P769	X14-Y11	楕円形	28.9	
P691	X12-Y13	円形	49.0		P770	X14-Y11	(不整形楕円形)	(46.6)	
P692	X12-Y13	楕円形	32.2		P771	X14-Y11	楕円形	26.6	
P693	X12-Y13	不整形楕円形	47.2		P772	X14-Y11	(不整形楕円長方形)	80.6	
P694	X12-Y13	不整形楕円形	47.8		P773	X14-Y11	不整形円形	79.4	
P695	X13-Y13	不整形楕円長方形	76.7		P774	X14-Y11	不整形楕円形	82.1	
P696	X13-Y15	(不整形円形)	(23.5)		P775	X14-Y10-11	(楕円形)	37.6	
P697	X13-Y14	楕円形	30.6		P776	X14-Y10-11	楕円形	51.1	
P698	X13-Y14	楕円形	40.7		P777	X14-Y11	(楕円形)	(23.7)	
P699	X13-Y14	不整形楕円形	48.1		P778	X14-Y11	楕円形	26.2	
P700	X13-Y14	楕円形	38.3		P779	X15-Y11	(不整形楕円形)	86.0	
P701	X13-Y13-14	(楕円形)	37.7		P780	X14-Y13	不整形楕円形	89.9	
P702	X13-Y13-14	楕円形	40.5		P781	X14-Y12	円形	47.2	
P703	X13-14-Y13-14	円形	57.7		P782	X14-Y13	不整形楕円形	48.5	
P704	X13-Y14	楕円形	37.2		P783	X14-Y12	楕円形	27.2	
P705	X13-Y14	不整形楕円形	64.8		P784	X14-Y12	楕円形	20.0	
P706	X13-Y14	不整形円形	28.1		P785	X14-15-Y12	楕円形	35.9	
P707	X13-Y14	楕円形	39.0		P786	X13-14-Y13	不整形楕円形	48.1	
P708	X13-Y14	円形	44.7		P787	X14-Y13	楕円形	29.8	
P709	X13-Y14	(楕円長方形)	40.1		P788	X14-Y13	楕円形	44.4	
P710	X13-Y14-15	楕円形	40.8		P789	X14-Y13	不整形楕円形	78.8	
P711	X13-Y15	(不整形円形)	49.8		P790	X14-15-Y13	楕円形	54.1	

第 33 表 ビット観察表 (5)

道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考	道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考
P791	X14-15-Y13	円形	95.1		P870	X16-Y14	円形	35.3	
P792	X15-Y13	楕円形	39.3		P871	X16-Y14	楕円形	25.9	
P793	X14-Y13	楕円形	45.5		P872	X16-Y14	不整楕円形	29.7	
P794	X14-Y13	楕円形	33.5		P873	X16-17-Y14	楕円形	41.8	
P795	X14-Y13	円形	27.3		P874	X16-Y14	楕円形	26.0	
P796	X14-Y13	楕円形	35.6		P875	X17-Y13-14	円形	22.5	
P797	X14-Y14	不整楕円形	80.2		P876	X17-Y13	楕円形	26.4	
P798	X14-Y14	楕円形	25.8		P877	X16-Y13	楕円形	19.7	
P799	X14-Y14	不整楕円形	51.7		P878	X16-Y13	楕円形	25.8	
P800	X14-Y15	楕円形	39.6		P879	X16-Y13	楕円形	29.9	
P801	X14-Y15 (楕円形)	(37.8)		P880	X16-Y12-13	円形	38.0		
P802	X15-Y13	楕円形	68.5		P881	X16-Y12	楕円形	38.7	
P803	X15-Y13	円形	27.9		P882	X16-Y12	楕円形	32.4	
P804	X15-Y13	楕円形	32.9		P883	X17-Y12	楕円形	32.1	
P805	X15-Y14	楕円形	35.7		P884	X16-17-Y12	楕円形	36.1	
P806	X15-Y13	楕円形	35.4		P885	X17-Y14	楕円形	28.3	
P807	X15-Y13	楕円形	36.5		P886	X17-Y14	楕円形	43.7	
P808	X15-Y13	楕円形	32.4		P887	X17-Y14 (不整楕円形)	66.2		
P809	X15-Y13	円形	26.8		P888	X17-Y14	円形	22.0	
P810	X15-Y13	楕円形	32.8		P889	X17-Y14	円形	21.1	
P811	X15-Y13	楕円形	52.6		P890	X17-Y14	円形	30.2	
P812	X15-Y14	楕円形	43.8		P891	X17-Y14	楕円長方形	46.9	
P813	X15-Y14	円形	33.1		P892	X17-Y14	楕円形	41.8	
P814	X15-Y14	円形	27.7		P893	X17-Y13-44	円形	19.9	
P815	X15-Y14	不整楕円形	37.6		P894	X17-Y15	楕円長方形	66.4	
P816	X15-Y14	円形	29.8		P895	X17-Y15	楕円形	44.7	
P817	X15-Y14	楕円形	35.4	柱痕あり	P896	X18-Y14	楕円形	21.7	
P818	X14-Y15	楕円形	26.0		P897	X18-Y14	円形	31.1	
P819	X14-Y15	不整円形	43.9		P898	X18-Y15	不整円形	29.3	
P820	X14-Y15 (不整楕円形)	(40.1)		P899	X18-Y14-15	楕円形	(48.1)		
P821	X14-Y15 (楕円形)	(24.5)		P900	X18-Y14 (不整楕円形)	(47.0)			
P822	X14-Y14 (円形)	18.4		P901	X18-Y14	楕円形	41.8		
P823	X14-Y14	不整楕円形	29.6		P902	X17-Y14	楕円形	18.4	
P824	X14-Y14	円形	24.8		P903	X18-Y14	円形	22.0	
P825	X15-Y15	円形	47.8		P904	X18-Y14	楕円形	33.9	
P826	X15-Y15 (円形)	40.3		P905	X18-Y13-14	不整楕円形	49.8		
P827	X15-Y14-15	円形	55.4		P906	X18-Y13	不整楕円形	41.6	
P828	X15-Y14	円形	20.7		P907	X18-Y14	楕円形	59.6	
P829	X15-Y14	円形	41.8		P908	X14-Y10	不整楕円形	49.7	
P830	X15-Y14	楕円形	33.2		P909	X15-Y10	不整楕円長方形	63.4	
P831	X15-Y14	楕円形	70.2		P910	X17-Y13	不整楕円形	69.7	
P832	X15-Y14	楕円形	36.4		P911	X17-Y13 (不整楕円形)	27.4		
P833	X15-Y14	楕円形	29.5		P912	X17-Y13	不整楕円形	26.0	
P834	X15-Y15 (楕円形)	45.1		P913	X17-Y13	楕円形	25.8		
P835	X15-Y13	楕円形	47.7		P914	X13-Y13	楕円形	19.4	
P836	X15-Y13	楕円形	29.2		P915	X13-Y13	楕円形	34.6	
P837	X13-Y13	不整楕円長方形	26.3		P916	X13-Y12	楕円形	33.6	
P838	X15-Y13	楕円形	28.7		P917	X13-Y12	楕円形	44.8	
P839	X15-Y13	不整楕円長方形	64.0		P918	X18-Y13	楕円形	24.5	
P840	X15-Y13	楕円形	21.6		P919	X13-Y11 (円形)	47.6		
P841	X15-16-Y13	不整楕円形	79.4		P920	X17-Y13	楕円形	51.6	
P842	X15-Y13	楕円形	18.7		P921	X17-Y13	不整楕円形	21.3	
P843	X15-Y13 (楕円形)	50.0		P922	X18-Y13	不整楕円形	49.2		
P844	X15-Y13	楕円長方形	50.5		P923	X17-Y13	円形	34.5	
P845	X15-16-Y13	楕円形	40.9		P924	X17-Y13	楕円形	37.8	
P846	X16-Y13	円形	24.4		P925	X18-Y13	楕円形	21.8	
P847	X15-Y12	不整楕円形	49.9		P926	X18-Y13	楕円形	25.9	
P848	X16-Y12	楕円形	29.1		P927	X18-Y13	楕円形	53.3	
P849	X16-Y12	不整楕円形	35.1		P928	X18-Y13 (円形)	53.8		
P850	X16-Y12	楕円形	29.2		P929	X18-Y13	楕円形	37.3	
P851	X16-Y12	楕円形	23.2		P930	X18-Y13	不整楕円形	46.6	
P852	X16-Y12	円形	10.7		P931	X18-Y13	不整円形	38.0	
P853	X16-Y12	楕円形	30.6		P932	X18-Y13	不整楕円形	43.2	
P854	X16-Y12	楕円形	29.8		P933	X18-Y13	楕円形	28.1	
P855	X16-Y12	楕円形	51.3		P934	X18-Y13	不整楕円形	52.2	
P856	X16-Y12	楕円形	28.9		P935	X18-Y13	楕円形	53.9	柱痕あり
P857	X16-Y13	不整楕円形	37.9		P936	X17-Y13	不整方形	53.2	
P858	X16-Y13	楕円形	42.0		P937	X17-Y12 (楕円形)	10.8		
P859	X16-Y13	楕円形	36.7		P938	X18-Y12	円形	26.6	
P860	X16-Y13 (楕円形)	32.2		P939	X18-Y12	円形	23.5		
P861	X16-Y14	楕円形	32.3		P940	X18-Y12	円形	37.8	
P862	X16-Y14	楕円形	56.0		P941	X18-Y12	楕円形	20.5	
P863	X16-Y14	不整円形	27.3		P942	X18-Y12	楕円形	50.1	
P864	X16-Y14	不整楕円形	35.8		P943	X18-Y12	円形	23.3	
P865	X16-Y14	楕円形	37.6		P944	X18-Y12	不整楕円形	43.7	
P866	X16-Y15	円形	23.7		P945	X18-Y12	円形	16.0	
P867	X16-Y15	不整円形	26.1		P946	X18-Y12	不整楕円形	41.6	
P868	X16-Y14	不整楕円形	55.2		P947	X18-Y12	楕円形	34.4	
P869	X16-Y14	楕円形	22.6		P948	X18-Y12	不整楕円形	28.5	

第34表 ビット観察表(6)

道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (km)	備 考	道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (km)	備 考
P949	X18-Y13	楕円形	24.5		P1028	X18-Y9	不整形	49.3	
P950	X17-Y12	(楕円形)	10.8		P1029	X18-Y9	楕円方形	32.3	
P951	X17-Y12	楕円形	43.4		P1030	X18-Y9	不整形	23.8	
P952	X18-Y12	円形	27.9		P1031	X18-10-Y9	不規則長方形	58.2	
P953	X18-Y12	不整形円形	49.7		P1032	X10-Y12	楕円形	69.7	
P954	X17-Y12	楕円形	20.8		P1033	X13-Y11	不整形楕円形	52.8	
P955	X17-Y12	不整形円形	55.3		P1034	X17-Y8	楕円形	43.0	
P956	X17-Y11	(楕円長方形)	(50.6)		P1035	X17-Y8	楕円形	63.7	
P957	X17-Y11	楕円形	21.7		P1036	X17-Y8	不整形楕円形	41.4	
P958	X18-Y12	円形	35.8		P1037	X17-Y8	不整形	59.6	
P959	X18-Y12	楕円形	70.9		P1038	X17-Y8	楕円形	45.4	
P960	X18-Y12	(楕円形)	(51.6)		P1039	X16-Y8	不整形楕円形	33.5	
P961	X18-Y12	楕円形	68.4		P1040	X17-Y8	楕円形	31.8	
P962	X15-Y11-12	不整形楕円形	44.2		P1041	X17-Y8	(不整形楕円形)	35.3	
P963	X15-Y12	不整形楕円形	28.7		P1042	X18-Y8	楕円形	21.9	
P964	X16-17-Y11	円形	27.9		P1043	X18-Y8	円形	26.3	
P965	X17-Y11	楕円形	21.7		P1044	X18-Y8	楕円形	47.7	
P966	X17-Y12	円形	11.0		P1045	X18-Y8	楕円形	25.4	
P967	X18-Y12	楕円形	35.8		P1046	X18-Y8	楕円形	37.5	
P968	X15-Y13	不整形楕円形	54.8		P1047	X18-Y8	円形	35.2	
P969	X18-Y11	楕円形	57.6		P1048	X18-Y7	(楕円形)	36.1	
P970	X14-Y14	円形	39.7		P1049	X18-Y7-9	(楕円形)	26.1	
P971	X18-Y11	(楕円形)			P1050	X18-Y7-9	(楕円形)	(37.4)	
P972	X17-Y11	楕円形	32.7		P1051	X18-Y7	(楕円形)	56.7	
P973	X16-Y5	(楕円長方形)	43.6		P1052	X18-Y8	楕円方形	18.9	
P974	X16-Y5	(楕円形)	45.0		P1053	X17-Y8	円形	40.6	
P975	X16-Y4	楕円長方形	36.3		P1054	X17-Y8	(円形)	(42.6)	
P976	X16-Y4	楕円形	36.7		P1055	X17-Y8	楕円長方形	40.0	
P977	X17-Y11	楕円形	55.1		P1056	X17-Y7-8	楕円形	34.9	
P978	X18-Y11	楕円長方形	87.4		P1057	X17-Y7	円形	33.9	
P979	X18-Y11	楕円形	57.6		P1058	X18-Y7	楕円形	35.9	
P980	X18-Y11	(不整形楕円形)	83.3		P1059	X18-Y7	円形	47.7	
P981	X18-10-Y11	(不整形楕円形)	86.1		P1060	X18-Y7	(楕円形)	52.0	
P982	X19-Y11	(楕円形)	22.5		P1061	X18-Y7	(楕円形)	21.6	
P983	X17-Y11	円形	33.8		P1062	X17-Y7-8	不整形楕円形	45.0	
P984	X17-18-Y11	楕円形	29.6		P1063	X17-Y7	楕円形	35.6	
P985	X16-Y10	楕円形	22.3		P1064	X17-Y7	(楕円形)	30.1	
P986	X16-Y10	(不整形楕円形)	49.4		P1065	X17-Y7	(不整形楕円形)	18.4	
P987	X16-Y10	(楕円形)	28.8		P1066	X17-Y7	(楕円形)	27.6	
P988	X16-Y10	楕円形	30.6		P1067	X17-Y7	楕円形	20.1	
P989	X18-Y10	(円形)	20.0		P1068	X17-Y7	楕円形	31.5	
P990	X18-Y10	不整形楕円形	19.4		P1069	X17-Y7	楕円方形	26.6	
P991	X18-Y11	円形	33.7		P1070	X17-Y7	不整形楕円形	30.7	
P992	X17-Y10	不整形楕円形	42.4		P1071	X17-Y7	(不整形楕円形)	36.8	
P993	X17-Y10	円形	25.1		P1072	X17-Y7	楕円形	16.5	
P994	X17-Y10	不規則長方形	42.6		P1073	X17-Y7	楕円形	35.4	
P995	X17-Y10	円形	26.5		P1074	X17-Y7	(不整形楕円形)	18.4	
P996	X17-Y10	楕円形	40.0		P1075	X12-Y13	不整形	69.8	
P997	X17-Y10	不整形楕円形	42.4		P1076	X16-17-Y7	不整形楕円形	42.9	
P998	X16-Y10	(不整形楕円形)	56.2		P1077	X16-Y7	(不整形楕円形)	59.1	
P999	X16-Y10	楕円形	46.8		P1078	X16-17-Y8	楕円形	41.8	
P1000	X16-Y10	(楕円形)	40.0		P1079	X16-Y8	楕円形	30.7	
P1001	X16-17-Y10	円形	31.3		P1080	X17-Y7	楕円形	48.0	
P1002	X17-Y9	(不整形楕円形)	49.8		P1081	X18-Y7	楕円形	51.2	
P1003	X17-Y9	(楕円形)	(53.7)		P1082	X18-Y7	(不整形楕円形)	38.7	
P1004	X17-Y9	(楕円長方形)	58.2		P1083	X18-Y7	(楕円形)	53.3	
P1005	X17-Y9	不整形	65.3		P1084	X18-Y7	楕円形	31.8	
P1006	X17-Y9	不整形	53.8		P1085	X17-Y7	不整形楕円形	31.8	
P1007	X17-Y9	楕円形	34.1		P1086	X18-Y7	楕円形	22.5	
P1008	X16-Y9	楕円形	32.4		P1087	X17-Y10	(楕円形)	24.6	
P1009	X18-Y9	不整形	36.8		P1088	X17-Y7	(楕円形)	59.7	
P1010	X17-Y9	不整形楕円形	44.5		P1089	X18-Y7	不整形楕円形	40.2	
P1011	X17-Y9	不整形楕円形	36.3		P1090	X18-Y7	円形	38.1	
P1012	X17-Y9	(楕円形)	33.7		P1091	X17-18-Y7	円形	33.3	
P1013	X17-Y9	不整形楕円形	21.4		P1092	X17-18-Y7	楕円形	35.3	
P1014	X17-Y8	楕円形	34.5		P1093	X17-Y7	円形	38.6	
P1015	X17-Y8-9	不整形楕円形	50.0		P1094	X17-Y7	(楕円形)	(54.8)	
P1016	X18-Y9	円形	23.2		P1095	X17-Y7	不整形楕円形	31.8	
P1017	X17-Y9	楕円形	58.3		P1096	X13-Y10-11	楕円形	60.4	
P1018	X17-Y9	(不整形楕円形)	(39.9)		P1097	X17-Y7	不整形	38.6	
P1019	X17-Y8	楕円形	33.7		P1098	X17-Y7	楕円形	46.1	
P1020	X18-Y8	(不規則長方形)	53.6		P1099	X17-Y7	不整形楕円形	28.4	
P1021	X18-Y8	(不整形楕円形)	(52.6)		P1100	X16-17-Y8	楕円形	38.2	
P1022	X18-Y8	楕円形	19.9		P1101	X17-Y7	円形	15.2	
P1023	X18-Y8	不整形楕円形	45.7		P1102	X17-Y7	楕円形	29.6	
P1024	X18-Y9	不規則長方形	45.1		P1103	X17-Y7	楕円形	17.3	
P1025	X18-Y9	円形	30.0		P1104	X17-Y7	(楕円形)	59.7	
P1026	X18-Y9	(不整形楕円形)	61.9		P1105	X17-Y7	楕円形	36.6	
P1027	X18-Y9	不整形	36.8		P1106	X17-Y6	楕円形	37.4	

第 35 表 ビット観察表 (7)

道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考	道 橋	橋出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考
P1107	X17-Y6	(不整橋門形)	52.4		P1186	X17-Y6	(不整橋門形)	42.5	
P1108	X17-Y6-7	(橋門形)	(94.6)		P1187	X17-Y6	(不整橋門形)	22.2	
P1109	X17-Y6-7	(不整橋門形)	53.3		P1188	X14-Y14	橋門形	19.4	
P1110	X17-18-Y6-7	橋門形	39.0		P1189	X16-Y7	(橋門形)	36.8	
P1111	X15-Y10	円形	32.2		P1190	X18-Y5	(橋門形)	9.1	
P1112	X18-Y7	橋門形	32.8		P1191	X17-Y6	円形	13.7	
P1113	X15-16-Y11	楕円方形	55.7		P1192	X17-Y6	橋門形	34.2	
P1114	X15-16-Y10	(橋門形)	53.6		P1193	X17-Y5	橋門形	51.6	
P1115	X15-16-Y10	不整橋門形	55.8		P1194	X17-Y5	橋門形	(47.9)	
P1116	X16-Y10	円形	27.4		P1195	X17-Y5	(橋門形)	(35.8)	
P1117	X16-Y11	橋門形	46.3	柱橋あり	P1196	X17-Y7	(橋門形)	43.7	
P1118	X16-Y11	橋門形	46.3		P1197	X12-Y11	橋門形	51.3	
P1119	X16-Y11	橋門形	33.8		P1198	X16-17-Y8	橋門形	43.8	
P1120	X16-Y11	不整橋門形	43.7		P1199	X15-Y14	橋門形	41.9	
P1121	X16-Y11	不整門形	41.6		P1200	X9-Y11	(不整橋門形)	101.5	
P1122	X14-Y11	橋門形	50.7		P1201	X9-Y12-13	不整形	105.9	
P1123	X14-Y11	橋門形	44.8		P1202	X9-Y13	不整橋門形	75.8	
P1124	X16-Y11	円形	27.9		P1203	X10-Y13	(不整橋門形)	47.9	
P1125	X16-17-Y11	橋門形	45.9		P1204	X10-Y12	不整形	53.6	
P1126	X19-Y6	不整橋門形	58.8		P1205	X14-Y11	円形	31.2	
P1127	X18-Y7	橋門形	28.0		P1206	X14-Y11	橋門形	42.6	
P1128	X18-Y7	(橋門形)	40.7		P1207	X14-Y10	不整橋門形	47.6	
P1129	X14-Y10	不整橋門形	45.6		P1208	X14-Y10	橋門形	39.7	
P1130	X13-14-Y10	橋門形	29.6		P1209	X14-15-Y10	(円形)	63.9	
P1131	X19-Y6	(橋門形)	22.1		P1210	X15-Y14-15	円形	28.2	
P1132	X19-Y6	橋門形	29.8		P1211	X15-Y15	橋門形	28.7	
P1133	X19-Y6	橋門形	43.3		P1212	X15-Y12-13	橋門形	41.2	
P1134	X19-Y6	橋門形	41.9		P1213	X15-Y13	橋門形	16.6	
P1135	X19-Y6	橋門形	38.6		P1214	X17-Y14	橋門形	60.3	
P1136	X18-19-Y6	橋門形	29.4		P1215	X17-Y13	不整橋門形	38.8	
P1137	X19-Y6-7	橋門形	23.1		P1216	X17-Y12	(不整橋門形)	54.3	
P1138	X18-Y6-7	橋門形	23.2		P1217	X17-Y12	橋門形	40.1	
P1139	X18-Y6	橋門形	23.3		P1218	X17-Y10	橋門形	8.6	
P1140	X18-Y6	(楕円長方形)	44.7		P1219	X17-Y8	円形	17.3	
P1141	X18-Y6	橋門形	19.9		P1220	X18-Y14	橋門形	95.8	
P1142	X18-Y6	橋門形	26.1		P1221	X18-Y14	不整橋門形	64.7	
P1143	X18-Y6	橋門形	31.9		P1222	X18-Y14	不整橋門形	88.2	
P1144	X18-Y6	(不整橋門形)	37.4		P1223	X18-Y10	(不整橋門形)	42.8	
P1145	X18-Y6	橋門形	36.8		P1224	X18-Y10	(円形)	17.2	
P1146	X18-Y6	(橋門形)	31.6		P1225	X18-Y10	(橋門形)	18.1	
P1147	X18-Y6	橋門形	23.7		P1226	X18-Y5	(橋門形)	49.7	
P1148	X18-Y6	(橋門形)	23.6		P1227	X18-Y6	(橋門形)	35.5	
P1149	X18-Y6	橋門形	31.9		P1228	X17-Y6	(橋門形)	51.8	
P1150	X18-Y6	橋門形	21.6		P1229	X17-Y6	橋門形	17.3	
P1151	X18-Y6	(橋門形)	63.9		P1230	X18-Y10	(不整橋門形)	18.6	
P1152	X18-Y6	円形	51.7		P1231	X17-Y6	(円形)	27.4	
P1153	X18-Y6-7	(橋門形)	42.5		P1232	X18-Y5	(橋門形)	37.1	
P1154	X18-Y6	楕円方形	47.8		P1233	X17-Y6	(橋門形)	8.0	
P1155	X18-Y6	楕円方形	55.2		P1234	X15-Y14	円形	42.4	
P1156	X18-Y6	橋門形	44.2		P1235	X15-Y14	橋門形	54.8	
P1157	X18-Y6	(不整橋門形)	(30.0)		P1236	X15-Y13	橋門形	63.4	
P1158	X18-19-Y6	(不整楕円長方形)	(44.6)		P1237	X17-Y6	橋門形	23.6	
P1159	X19-Y6	橋門形	26.5		P1238	X12-Y10	不整橋門形	25.9	
P1160	X19-Y6	(不整橋門形)	(22.3)		P1239	X12-Y10	不整形	31.8	
P1161	X19-Y6	(橋門形)	(21.4)		P1240	X19-Y15	円形	37.3	
P1162	X19-Y5	(橋門形)	59.0		P1241	X19-Y14	円形	35.0	柱橋あり
P1163	X13-Y10	橋門形	45.0		P1242	X19-Y14	橋門形	(47.0)	柱橋あり
P1164	X14-Y13	橋門形	20.7		P1243	X19-Y14	橋門形	45.3	柱橋あり
P1165	X16-17-Y7	橋門形	36.4		P1244	X19-Y15	円形	26.7	
P1166	X17-Y6-7	橋門形	31.7		P1245	X19-20-Y14	橋門形	28.1	
P1167	X17-Y6	(橋門形)	18.4		P1246	X20-Y14	円形	28.9	
P1168	X17-Y6	橋門形	48.4		P1247	X20-Y14	橋門形	33.0	
P1169	X17-Y6	円形	35.1		P1248	X19-20-Y15	橋門形	21.0	
P1170	X17-Y6	不整橋門形	51.6		P1249	X19-Y14	(橋門形)	32.9	
P1171	X17-Y6	(円形)	43.1		P1250	X19-Y14	円形	45.0	
P1172	X17-Y6	(不整橋門形)	35.2		P1251	X19-Y14	橋門形	57.1	
P1173	X17-Y6	橋門形	34.5		P1252	X19-Y14	不整橋門形	62.4	
P1174	X17-Y6	(橋門形)	20.4		P1253	X20-Y14	不整門形	64.3	
P1175	X17-Y6	(円形)	18.8		P1254	X19-Y14	(不整橋門形)	38.1	
P1176	X17-Y6	橋門形	21.6		P1255	X19-Y14	(橋門形)	39.5	
P1177	X17-Y6	(不整橋門形)	26.5		P1256	X19-Y14	橋門形	68.6	
P1178	X17-Y6	(橋門形)	20.0		P1257	X19-Y14	円形	23.7	
P1179	X17-Y6	(橋門形)	24.6		P1258	X19-Y14	橋門形	29.0	
P1180	X17-Y6	(不整橋門形)	(28.0)		P1259	X19-Y14	円形	23.6	
P1181	X17-Y6	橋門形	34.2		P1260	X19-Y14	(橋門形)	(34.1)	
P1182	X17-Y6	橋門形	20.4		P1261	X19-Y14	(楕円長方形)	(35.8)	
P1183	X17-Y6	円形	13.7		P1262	X20-Y14	(橋門形)	(32.8)	
P1184	X17-Y6	橋門形	17.3		P1263	X19-Y13	橋門形	44.6	
P1185	X17-Y6	(不整橋門形)	58.2		P1264	X19-Y13	(橋門形)	(32.8)	

第 36 表 ビット観察表 (8)

道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (km)	備 考	道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (km)	備 考
P1265	X20-Y14	円形	20.4		P1344	X22-Y12	(楕円形)	(44.9)	
P1266	X20-Y13	(不整形円形)	30.0		P1345	X22-Y12	(不整形円形)	66.8	
P1267	X20-Y13	円形	37.2		P1346	X22-Y12	円形	29.0	
P1268	X20-Y13	(楕円形)	82.0		P1347	X22-Y12	円形	33.6	
P1269	X20-Y13	(楕円形)	37.0		P1348	X22-Y12	円形	32.6	
P1270	X19-Y13	楕円形	61.4		P1349	X22-Y12	(楕円形)	(41.3)	
P1271	X20-Y13	円形	43.4		P1350	X22-Y12	円形	29.0	
P1272	X20-Y13	楕円形	38.2		P1351	X20-Y10-11	楕円形	(61.0)	
P1273	X20-Y13	円形	23.8		P1352	X20-Y11	円形	60.6	
P1274	X19-Y12	楕円形	50.7		P1353	X21-Y11	円形	36.7	
P1275	X19-Y12-13	(不整形円形)	65.3		P1354	X21-Y11	楕円形	(53.3)	
P1276	X19-Y12	楕円形	45.6		P1355	X21-Y11	円形	34.2	
P1277	X19-Y12	(楕丸方形)	(78.3)		P1356	X21-Y11	(楕円形)	(51.4)	
P1278	X19-Y12	(楕丸方形)	46.4		P1357	X21-Y11	円形	39.0	
P1279	X20-Y12-13	楕円形	40.2		P1358	X21-Y12	(楕円形)	(29.3)	
P1280	X20-Y13	楕円形	63.2		P1359	X21-Y11-12	円形	56.9	
P1281	X20-Y13	(不整形円形)	(49.3)		P1360	X22-Y11	(不整形円形)	50.5	
P1282	X20-Y13	円形	28.1		P1361	X22-Y11-12	楕円形	78.7	
P1283	X19-20-Y12	楕円形	87.1		P1362	X22-Y12	(楕円形)	31.0	
P1284	X21-Y15	不整形方形	46.6		P1363	X22-Y12	方形	44.7	
P1285	X22-Y15	(不整形円形)	47.0		P1364	X21-Y11	円形	37.8	
P1286	X22-Y15	円形	17.2		P1365	X22-Y11	(円形)	(35.3)	
P1287	X22-Y15	円形	27.6		P1366	X22-Y11	円形	28.7	
P1288	X22-Y15	楕円形	36.0		P1367	X22-Y10	(円形)	30.0	
P1289	X22-Y15	円形	31.0		P1368	X22-Y10	楕円形	51.6	
P1290	X22-Y15	楕円形	46.3		P1369	X22-Y10	円形	36.2	
P1291	X22-Y15	(楕丸長方形)	(28.7)		P1370	X22-Y10	(不整形円形)	61.9	
P1292	X21-Y15	円形	16.9		P1371	X22-Y10	円形	55.7	
P1293	X21-Y15	楕円形	54.9		P1372	X22-Y10	(不整形楕円形)	57.4	
P1294	X21-Y15	(楕円形)	31.3		P1373	X22-Y10	楕円形	(42.5)	
P1295	X21-Y15	(不整形円形)	57.9		P1374	X22-Y10	楕円形	57.7	
P1296	X21-Y15	(楕円形)	62.0		P1375	X22-23-Y10	円形	33.5	
P1297	X20-Y14	楕丸方形	(31.6)		P1376	X21-22-Y10	楕円形	49.1	
P1298	X21-Y15	不整形方形	39.0		P1377	X21-22-Y10	(不整形楕円形)	52.2	
P1299	X20-Y14	(不整形楕円形)	71.1		P1378	X22-Y10	(楕円形)	(22.5)	
P1300	X20-Y14	楕円形	40.5		P1379	X21-Y10	(不整形楕円形)	65.4	
P1301	X20-Y14	楕丸方形	39.0		P1380	X21-Y10	楕円形	44.2	
P1302	X21-Y14	(楕円形)	(20.0)		P1381	X21-Y10	円形	23.8	
P1303	X21-Y14	楕円形	50.3		P1382	X23-Y10	楕円形	41.9	
P1304	X21-Y14	(不整形楕円形)	58.1		P1383	X21-Y10	(円形)	33.0	
P1305	X21-Y14	楕円形	27.0		P1384	X22-Y9-10	(円形)	(29.0)	
P1306	X22-Y15	円形	19.0		P1385	X22-Y9	楕円形	71.6	
P1307	X20-Y14	楕円形	34.8		P1386	X22-Y10	(円形)	42.0	
P1308	X20-Y14	(不整形円形)	42.7		P1387	X22-Y10	円形	29.7	
P1309	X20-Y14	円形	22.0		P1388	X22-Y10	(不整形楕円形)	67.0	
P1310	X20-Y14	円形	13.9		P1389	X21-Y10	円形	29.0	
P1311	X20-21-Y14	(不整形楕円形)	107.8		P1390	X22-Y10	楕円形	56.0	
P1312	X21-Y14	円形	14.9		P1391	X22-Y9-10	(円形)	39.5	
P1313	X21-Y14	円形	31.7		P1392	X22-Y10	(円形)	23.2	
P1314	X21-22-Y14	円形	28.0		P1393	X19-Y10	円形	28.0	
P1315	X22-Y14	(楕円形)	40.9		P1394	X19-Y10	円形	47.8	
P1316	X21-Y14	(楕円形)	(34.0)		P1395	X20-Y10	(円形)	45.1	
P1317	X20-21-Y13-14	(楕円形)	49.2		P1396	X19-Y10	(円形)	39.0	
P1318	X21-Y13	楕円形	47.9		P1397	X19-20-Y10	(不整形楕円形)	62.0	
P1319	X21-Y13-14	(楕丸方形)	47.0		P1398	X20-Y10	(不整形楕丸方形)	41.3	
P1320	X21-Y13	(楕円形)	(26.0)		P1399	X19-Y10	円形	15.6	
P1321	X21-Y13	(不整形楕円形)	42.2		P1400	X20-Y10	円形	39.4	
P1322	X21-Y13	円形	52.9		P1401	X19-Y10	楕円形	30.2	
P1323	X22-Y14	円形	22.4		P1402	X19-Y9-10	楕円形	40.5	
P1324	X22-Y14	円形	32.0		P1403	X19-Y10	円形	27.6	
P1325	X21-Y14	円形	25.7		P1405	X19-Y10	(楕丸方形)	(20.7)	
P1326	X21-Y13	(不整形円形)	103.0		P1406	X20-Y10	円形	32.7	
P1327	X19-Y12	(不整形楕円形)	(102.0)		P1407	X20-Y10	楕円形	58.9	
P1328	X19-Y12	円形	32.8		P1408	X20-Y10	(円形)	29.0	
P1329	X19-Y12	楕円形	76.5		P1409	X20-Y10	(円形)	(47.7)	
P1330	X20-Y12	楕円形	81.3		P1410	X20-Y10	円形	13.3	
P1331	X20-Y12	(不整形楕円形)	82.6		P1411	X20-Y9-10	(楕円形)	(51.5)	
P1332	X20-Y12	楕円形	(51.0)		P1412	X20-Y9	(円形)	(35.0)	
P1333	X19-20-Y12	(円形)	20.3		P1413	X20-Y9-10	(円形)	(36.3)	
P1334	X20-Y12	円形	26.7		P1414	X19-Y9	(楕円形)	49.4	
P1335	X20-21-Y13	(不整形円形)	51.4		P1415	X19-Y9	楕丸方形	(53.6)	
P1336	X22-Y13	楕円形	38.3		P1416	X19-Y9	(不整形楕円形)	(33.5)	
P1337	X21-Y12	(不整形楕円形)	42.8		P1418	X20-Y9	(円形)	(35.2)	
P1338	X22-Y12	(不整形楕円形)	67.9		P1419	X19-Y9	円形	27.6	
P1339	X22-Y12	(不整形楕円形)	81.5		P1421	X20-Y9	(楕丸方形)	(33.9)	
P1340	X22-Y12-13	円形	40.3		P1422	X20-Y9	円形	22.9	
P1341	X22-Y12	楕円形	60.0		P1423	X20-Y9	(不整形楕円形)	43.5	
P1342	X22-Y13	円形	28.5		P1424	X19-Y9	方形	28.3	
P1343	X22-Y12	楕円形	60.1		P1425	X19-Y9	円形	27.5	

第 37 表 ビット観察表 (9)

道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考	道 橋	輸出地区	平面形状	最大径 (cm)	備 考
P1426	X20-Y9	円形	25.0		P1511	X21-Y6	楕円形	37.0	
P1427	X20-Y9	(円形)	23.9		P1512	X23-Y6	不整形円形	31.0	
P1428	X19-Y9	楕円形	51.4		P1513	X23-Y6	楕円形	50.4	
P1429	X19-20-Y9	(楕円形)	46.8		P1514	X23-Y6-6	円形	24.6	
P1430	X19-Y9	(円形)	52.0		P1515	X19-Y6-7	円形	24.6	
P1431	X19-Y9	(楕円形)	53.2		P1516	X19-Y6	円形	24.1	
P1432	X20-Y9	楕円形	38.2		P1517	X19-Y6	楕円形	25.8	
P1433	X20-Y9	(円形)	51.5		P1518	X19-Y6	(円形)	30.2	
P1434	X20-Y9	円形	30.5		P1519	X19-Y6	円形	21.9	
P1435	X20-Y9	円形	32.0		P1520	X19-Y6	(楕円形)	29.4	
P1436	X20-Y9	不整形楕円形	37.3		P1521	X19-Y6	不整形円形	54.8	
P1437	X19-Y9	(円形)	49.3		P1522	X19-Y5	楕円形	56.2	
P1438	X19-Y9	円形	32.2		P1523	X19-Y6	(円形)	22.0	
P1439	X20-Y9	円形	18.6		P1524	X20-Y6-7	(楕円形)	17.5	
P1440	X20-Y9	方形	25.4		P1525	X20-Y6	(楕円形)	41.7	
P1441	X20-Y9	不整形円形	44.7		P1526	X20-Y7	不整形楕円形	63.8	
P1442	X19-Y9	円形	31.8		P1527	X20-Y7	(楕円形)	56.2	
P1443	X19-Y9	円形	23.6		P1528	X21-Y9	楕円形	57.6	
P1444	X19-Y8	楕円形	38.7		P1529	X19-Y10	(楕円形)	61.8	
P1445	X19-Y8	楕円形	60.1		P1530	X21-Y6	(円形)	150.7	
P1446	X19-Y8	方形	28.7		P1531	X20-Y8	不整形円形	49.8	
P1447	X19-Y8	円形	41.5		P1532	X19-Y9	(円形)	35.0	
P1448	X20-Y8	—	(40.8)		P1533	X23-Y10	円形	21.9	
P1449	X20-Y8	円形	30.5		P1534	X23-Y10	(楕円形)	44.4	
P1450	X20-Y8	不整形円形	48.9		P1535	X23-Y10	(円形)	28.3	
P1451	X18-Y8-9	不整形円形	68.5		P1536	X21-Y8	楕円形	42.5	柱幅あり
P1453	X20-Y8	(円形)	35.0		P1537	X22-23-Y7	(円形)	45.7	
P1454	X20-Y8	楕円形	75.6		P1538	X22-Y7	(円形)	41.5	
P1456	X19-Y8	円形	21.0		P1539	X22-Y7	円形	50.0	
P1457	X20-Y9	円形	23.3		P1540	X19-Y6	円形	35.6	
P1458	X19-Y7	不整形円形	42.9		P1541	X21-Y7	円形	23.7	
P1459	X20-Y7	楕円形	58.3		P1544	X20-Y4	楕円形	32.5	
P1460	X20-Y7-8	楕円形	64.2		P1546	X20-Y5	(方形)	32.5	
P1461	X20-Y7	(円形)	51.0		P1547	X20-Y5	(台形)	135.0	
P1463	X20-Y7	楕円形	40.8		P1548	X19-Y4	(楕円形)	33.3	
P1464	X20-21-Y8	円形	23.7		P1550	X19-Y4	(楕円形)	26.0	
P1465	X21-Y7	—	(27.0)		P1553	X19-Y4	楕円形	46.8	
P1466	X21-Y7	円形	22.2		P1554	X18-Y4	円形	13.5	
P1467	X21-Y7	—	(47.5)		P1556	X20-Y4	楕円形	20.0	
P1468	X21-Y8	円形	51.3		P1558	X19-Y9	楕円形	48.2	
P1469	X21-Y7	円形	37.5		P1559	X22-Y7	円形	30.0	
P1470	X20-Y8	円形	25.2		P1560	X20-Y12	不整形楕円形	121.4	
P1471	X21-Y9	楕円形	18.6		P1561	X20-Y12	不整形円形	82.8	
P1472	X21-Y9	不整形楕円形	48.4		P1562	X18-Y4	円形	19.9	
P1473	X21-Y9	楕円形	38.0		P1563	X18-Y4	楕円形	38.1	
P1474	X21-Y9	(円形)	39.3		P1564	X19-Y4	不整形円形	52.9	
P1475	X21-Y9	楕円形	82.3		P1565	X19-Y4	円形	28.9	
P1476	X21-Y8	円形	36.4		P1566	X19-Y4	(不整形楕円形)	147.8	
P1477	X21-Y8	(円形)	23.4		P1567	X19-Y4	(不整形楕円形)	144.5	
P1478	X21-Y8	(円形)	(24.0)		P1568	X19-Y4	楕円形	35.9	
P1479	X21-Y8	方形	26.5		P1569	X19-Y4	(円形)	18.0	
P1480	X21-Y8	楕円形	38.5		P1570	X19-Y4	楕円形	14.0	
P1481	X21-Y9	円形	46.3		P1571	X19-Y4	円形	17.2	
P1482	X20-Y8	楕円形	32.8		P1572	X19-Y4	不整形楕円形	41.6	
P1483	X21-Y8	不整形楕円形	42.2		P1573	X19-20-Y4	(楕円形)	48.3	
P1484	X22-Y8	楕円形	71.2		P1574	X20-Y4	方形	25.0	
P1487	X22-Y9	(円形)	39.6		P1575	X20-Y4	円形	21.1	
P1488	X22-Y9	不整形円形	30.5		P1576	X20-Y4	楕円形	42.4	
P1489	X21-Y7	不整形方形	34.1		P1577	X20-Y4	円形	17.7	
P1491	X21-Y7	(円形)	62.3		P1578	X20-Y4	楕円形	34.5	
P1492	X21-Y7	円形	26.8		P1579	X20-Y4	円形	20.2	
P1493	X22-Y7	(円形)	34.0		P1580	X20-Y4	(円形)	147.9	
P1494	X22-Y7	方形	30.9		P1581	X20-Y4	円形	19.3	
P1495	X22-Y7	楕円形	34.3		P1582	X20-Y4	方形	18.3	
P1496	X22-Y7	不整形楕円形	51.4		P1583	X20-Y4	方形	24.9	
P1497	X23-Y7	円形	22.2		P1586	X20-Y8	不整形円形	30.5	
P1498	X22-23-Y7	不整形円形	43.5		P1587	X20-Y7	円形	16.8	
P1499	X22-23-Y7	楕円形	62.6		P1588	X22-Y7	楕円形	28.0	
P1500	X22-23-Y7	円形	22.3		P1589	X19-Y12	不整形楕円形	54.4	
P1501	X20-Y6-7	楕円形	43.0		P1590	X19-Y12	(円形)	38.1	
P1502	X23-Y7	円形	35.2		P1591	X20-Y7	円形	16.4	柱幅あり
P1503	X23-Y7	円形	26.7		P1592	X22-Y7	円形	33.5	
P1504	X23-Y7	円形	30.2		P1593	X20-Y4	楕円形	31.2	
P1505	X23-Y7	円形	33.4		P1594	X19-Y10	円形	—	
P1506	X22-Y7	(円形)	24.0		P1595	X19-Y8	(方形)	35.8	
P1507	X21-Y6	楕円形	52.2		P1596	X19-Y9	楕円形	40.8	
P1508	X21-Y6	楕円形	38.2		P1597	X21-Y15	楕円形	39.1	
P1509	X21-Y5	(楕円形)	(28.8)						
P1510	X21-Y6	楕円形	35.3						

第 38 表 ビット観察表 (10)

## 第4節 出土遺物

第4次調査から第6次調査までを合わせた出土遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦質土器、土師質土器、軟質施軸陶器、瓦、金属製品、木製品、石製品・石器、土製品などがある。出土遺物の総量は、遺物収納コンテナ338箱で、総点数は25,988点である。今回の調査は遺構確認が主目的であり、部分的な掘り込みに留めたため、遺物の出土数量は必ずしもその遺構等が包含する数量を示すものではない。

出土遺物の大半は総量の約80%弱を占める瓦類であり、陶磁器類や土師質土器などの出土量と比較してかなり多い。また、遺物の約40%は掘乱及びI層とII層から出土しており、前述の理由から近世遺構やIII層整地土に伴う遺物は少ないが、SE1、SE2、SK36、SK92、SK189などから比較的多くの遺物が出土している。

遺構の重複が激しく、本来の遺物の所属が明確に出来ないため、以下では出土遺物を種別ごとに概観する。

### (1) 近世の遺物

#### [陶器]

陶器は1,817点あり、総量の7%を占め、出土場所は掘乱及びI層やII層が多く、873点出土している。また、本来遺構に帰属するものだが、V層上面での遺構精査時に189点出土している。遺構別ではSK189から143点、SE1から75点、SK36から41点、SK214から40点と、他の遺構よりも多く出土している。時期を判別できるものは1,742点、時期不明は75点ある。16世紀末から17世紀代の遺物も認められるが、主体は18世紀代と19世紀代である。産地別にみると、大堀相馬が938点と最も多い。その他では瀬戸美濃(志野・織部含む)203点、唐津・肥前153点、小野相馬95点、在地95点、堤62点、岸窯系が42点と比較的多く出土している。また少量だが、京・信楽28点、丹波13点、常滑6点、志戸呂7点、備前3点、地方窯の製品が1点出土しており、産地不明は171点ある。器種別では、碗類、皿類、鉢類、搦鉢、甕類、壺類、瓶類、土瓶・急須を含む水注類、銅類、灯火具などがあり、中でも碗類が多く、全体の30%ほどを占め、次いで水注類が15%、皿類が12%ほどである。

以下、産地ごとの傾向をみてみると、瀬戸美濃は碗類と皿類が多く、その他に鉢類と搦鉢などがある。目立つのは16世紀末から17世紀前葉のもので、志野の丸皿(1572・574)や向付(1015)、抹茶碗(11333)や、赤織部の向付(1577)、青織部の皿(1578)、鉄絵の皿(1576)などがある。1578は灰皿に転用されており、口縁部に敲打痕が認められる。その他、小破片だが、仙台では出土例の少ない19世紀以降の灰釉の徳利が出土している。

唐津・肥前は碗類と皿類が多く、他には鉢類がある。これらの多くは17世紀中葉から18世紀前半代のものだが、16世紀末から17世紀初頭の絵唐津の向付(11329)、大鉢(1563)なども少量認められる。17世紀中葉以降の遺物としては、呉器手の碗(125・11357)、灰釉の皿(128・11355)や見込み蛇の目軸割ぎの銅緑釉皿(11352)などがある。また、17～18世紀代の遺物として、内面に青海波文、内外面に鉄軸が施された甕(121)などがある。

数量は多くないが、丹波、常滑、備前、志戸呂、京・信楽も認められる。丹波は搦鉢のみで、常滑は甕類と水注類があり、甕類は胴部の小破片、水注類には急須がある。備前は盤(1581)と、SK489より出土した徳利の破片がある。志戸呂は破片だが、搦鉢と瓶類が出土しており、瓶類は全て徳利である。京・信楽は碗類と鉢類がある。中には京焼も含まれており、器高の低い平碗(12487)と向付(156)と考えられるものなどがある。

大堀相馬は碗類、皿類、水注類の量が多く、その他に鉢類や甕・壺類、瓶類、銅類、灯火具がある。調査で出土した陶器碗類の63%、皿類の47%、水注類の90%を占めている。碗類には丸碗(1764)、平碗(1712)、腰折碗(11594)があり、皿類には折縁輪花皿(1658)や鉄絵皿(1742)がある。鉢類には片口鉢(1750)、水注類は外面に飛鉋が施された土瓶(11620)などがある。その他には、出土例の少ないが鯛猪口(1735)と香炉(11687)がある。

小野相馬は碗類、皿類が多く、その他に鉢類と甕類などが認められる。全体的に破片が多く、遺存状態は良くない

い。碗類には淡青色釉の丸碗（I1965）、皿類には見込み蛇の目軸割ぎの小皿（I949）などがある。甕類には小野相馬の製品と考えられる黒釉と鉄釉の掛け分け甕（I1962）がある。

岸窯系は大半が播鉢であり、その他には少量ながら鉢類と甕類が認められる。全体的に遺存状態は良くない。播鉢には岸窯系の最終段階と推定される17世紀後葉以降のもの（I53）も含まれ、鉢類には香炉（I55）がある。

堤は播鉢と甕類が多く、その他には鉢類、銅類、灯火具があるが、大型の製品は特に遺存状態が良くない。鉢類には香炉（I53）や植木鉢（I316）、甕類には海鼠釉が施されてもの（I1993）があり、灯火具として灯明皿（I978・I969）が出土している。

在地の製品は大半が播鉢である。その他には少量ながら鉢類と甕類、灯火具などが認められる。これらは堤以外で生産されたが、産地を特定できない一群である。播鉢は全面に鉄釉が施されており、中には底部の釉薬が拭き取られたもの（I2038）や、小型の製品（I2038）も出土している。鉢類は大鉢（I995）があり、内面には白化粧土でハケ目文が施されている。灯火具は灯明皿（I2020）と灯明受皿（I1011・I1020）がある。

#### 【磁器】

磁器は1,315点あり、総量の5%を占める。陶器に比べ小破片が多く、出土場所は陶器と同様に、攪乱及びI層とII層からが多く、667点出土している。またV層上面での遺構精査時に154点出土している。遺構別ではSK189から100点、SE1から44点、SK424から32点、SK383から29点と多く出土している。時期を判別できるものは1,276点、時期不明のものが36点ある。その他に中世のものも3点認められる。近世に属する磁器のうち約300点は小破片のため、明確な時期までは判別できない。時期ごとの傾向は陶器同様に、16世紀末から17世紀の遺物も認められるが、主体は18世紀代と19世紀代である。産地別では、中国、肥前、波佐見、瀬戸美濃、切込の他、産地を特定できない東北の地方窯がある。中国磁器は可能性のあるものも含め42点出土しているのに対し、国産磁器は肥前984点、瀬戸美濃155点、波佐見91点、切込9点、地方窯13点、産地不明が21点ある。器種別では碗類、皿類、鉢類、壺類、瓶類などがあり、碗類が多く、磁器全体の53%ほどを占め、次いで皿類が多く25%を占める。

産地ごとの傾向をみると、中国磁器は皿類が多く、他に碗類、瓶類がある。大半は16世紀末から17世紀前葉の明末清初の製品である。中には色絵の大皿（J754）といった良品もあり、その他には13世紀代の青白磁の梅瓶の破片（J412）や16世紀後半の青花の端反皿（J143）など、中世の製品も含まれている。また仙台では出土例の少ない18世紀後半から19世紀前半の清朝製品の青花端反碗（J424）もある。中国磁器は青花が大半であり、色絵や白磁や青白磁はわずかな出土である。国産磁器も同様であり、染付が大半を占め、色絵や白磁、青磁は少ない。

肥前は碗類、皿類、鉢類、壺類、瓶類などがあり、碗類が多く、肥前産の50%を占め、次いで皿類が多く、25%を占めている。肥前の大半は18世紀以降の製品だが、染付の小杯（J1150）や染付中皿（J545）など、少量ながら17世紀前半のいわゆる初期伊万里も認められる。J545には漆継ぎの痕跡が認められる。

波佐見は碗類と皿類などがあり、皿類と碗類の量はほぼ同等で、碗・皿類（J236・J668など）の多くは厚手のいわゆる「くらわんか手」である。

瀬戸美濃、切込、東北の地方窯の製品はいずれも碗類が多く、他に皿類などがある。地方窯の製品には白石で製産された可能性のあるもの（J357）が認められる。

#### 【瓦質土器】

瓦質土器の総点数は241点で、総量の0.9%を占める。出土場所は攪乱及びI層とII層が多く、155点出土しており、全体に遺構に伴うものは少ないが、SK189から比較的多く出土している。瓦質土器は全体的に遺存状態が悪く、器種が判別できるものは少ないが、播鉢、火鉢、風炉、焜炉、目皿、器台、蚊遣りが確認できる。図示したものは17世紀前半代と推定される播鉢（I1305）である。

## 【土師質土器】

土師質土器の総点数は968点で、総量の3.7%を占める。出土場所は攪乱及びI層とII層が多く、339点出土している。器種は皿、焼塩壺、鉢・壺類などがある。全体的に遺存状態は悪く、図示した遺物以外は大半が小破片である。皿は799点と最も多く、SK189とSK214からの出土が目立っており、特にSK214からは205点出土しており、25%を占めている。皿はロクロ成形で、口径は12cm前後のものが多い。大半の底部外面には回転糸切痕が確認できるが、ミガキが施されたもの(I1116)も僅かに認められる。また口縁部や内面などに煤の付着がみられることで、灯明皿として使用されたものも少量ある。焼塩壺は35点あり、15点は攪乱及びI層からの出土である。遺構ではSA5、SE2、SK189、SK383などから出土している。焼塩壺もロクロ成形されており、体部下端がヘラケズリにより面取りされているものと、筒状で外面に格子叩きが施されている2種類がある。また、焼塩壺の多くはその性格から内外面とも全体に被熱しており、外面が剥落しているものも多い。その他に体部の割口が再整形され、煤が付着したものがあがる(I2370)、これは使用後の壺を灯明皿に転用したものとみられる。さらに豆裏(I2261)、穿孔を有する小壺形の遺物(I2485)や、植木鉢や火消し壺がある。

## 【軟質施釉陶器】

軟質施釉陶器の総点数は69点で、総量の0.3%である。出土場所は攪乱及びI層とII層から25点と多く、遺構ではSK84、SK189からの出土がある。器種は皿類、鉢類と焙烙などがあり、中でも焙烙が多く、49点出土しているが、遺存状態は悪く、把手が欠損しているものが大半である。口径はいずれも15cm前後である。皿類はSK214より出土した貝を模した変形皿(I1066)があり、外面は無釉、内面は緑と紫の二彩である。鉢類はP966から出土した輪花鉢(I1067)などがあり、外面は透明釉、内面は鉛釉による緑・黒・紫の三彩が施されている。

## 【瓦】

瓦の総点数は20,152点、重量は2,209,496gあり、総量の77%ほどを占める。出土場所は攪乱及びI層が多く、9,031点出土している。また、本来遺構に帰属するものだが、V層上面での遺構確認時に1,161点出土している。遺構別ではSK92から2,751点、SE2から1,038点、SK36から762点、SK189から738点、SE1から666点と、他の遺構よりも多く出土している。種別は軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦、伏間瓦、熨斗瓦、輪違い、面戸瓦、鬼瓦、崩瓦、軒棧瓦、棧瓦があるが、丸瓦と平瓦が98%と突出して多く、他の瓦は点数から数十点のみの出土である。ただし軒丸瓦、軒平瓦、伏間瓦、熨斗瓦、輪違い、面戸瓦の点数が少ないのは、それぞれの小破片を丸瓦や平瓦、不明瓦として分類したことも原因の一つとみられ、実際には集計数よりは多くなることが考えられる。

軒丸瓦は80点出土している。大半は瓦当部のみ遺存しており、全長を把握できるのは図示したF7のみである。文様が判明したものは51点あり、内訳は珠文三巴文41点、九曜文10点である。珠文三巴文には右巻きと左巻きがあり、右巻きは21点、左巻きは17点、方向不明3点である。丸瓦は5,316点出土しており、いずれも玉縁を有する形状である。また丸瓦として分類したが、谷丸瓦がある。軒平瓦は47点出土しているが、遺存状態が悪く、多くは瓦当部の破片である。文様が判明したものは18点あり、中心飾りは単文のみで、全て左右に唐草文が配されており、文様の意匠には明確な違いが認められる。平瓦は14,480点出土しており、中には谷平瓦もある。また平瓦自体の点数は多いが、小口に棒状工具で刺突された「〇」の刻印がされているものがわずかに2点ある。伏間瓦は7点あり、角伏間瓦と鳥伏間瓦と推定されるものがある。図示したH5の裏面には水返しとみられる突起がある。熨斗瓦は8点あり、遺存状態は悪く全て破片である。図示したH12、H13には焼成後に半分に分割するための分割線、H1、H2には滑り止めの細かな櫛目が施されている。輪違いは19点、面戸瓦は16点あり、両者とも丸瓦を素材に分割するものである。鬼瓦は2点破片がある。崩瓦は8点あり、H18には8cmの間隔で釘穴が認められる。不明瓦は161点あり、中には隅瓦の破片の可能性のあるH29のようなものも含まれている。他には僅かではあるが軒棧瓦が5点、棧瓦が3点あり、軒棧瓦の瓦当文様は九曜文と右巻きの巴文がある。

#### 【石製品】

石製品は50点あり、このうち24点は攪乱と1層から出土している。遺構別ではSK36、SK77、SK81、SK189などから出土し、種類別では硯、碁石、砥石、石臼、石鉢、火打ち石などがある。硯が19点と多く、Kd15など出土した大半の硯には粘板岩が用いられ、雄勝産も含まれている。またKd43のみ軟質泥岩で、他と比較して小型である。次いで多いのは砥石で13点ある。石材は粘板岩、砂岩、流紋岩、緑色凝灰岩である。粘板岩の中には京都の鳴滝石と特定できるものもある。その他にSK383から出土した石鉢(Kd30)があり、石材は軽石質凝灰岩である。内面には七厘にみられるような突起があり、煤が付着し被熱した痕跡が認められることから、調理具として使用されたとみられる。火打ち石は7点出土しており、石材は石英とメノウである。Kd4は拳ほどの大きさがある。

#### 【木製品】

木製品は289点あり、このうち150点がSE1からの出土である。その他にSK383から68点、SK77から47点出土している。器種は漆器碗及び蓋、桶もしくは樽の蓋板、下駄、加工痕のある木材などが認められる。漆器は27点出土している。大半は漆膜が遺存しているのみである。図示したものは遺存状態の良い碗2点、蓋1点である。碗(L217・L218)はSK383、蓋(L220)は攪乱から出土している。L217は底部破片で、内面に黄褐色の付着物が認められる。L218は高台内に判読不明の朱書と「八」の線刻が認められる。蓋は小型なため、小型容器のものとして推定される。蓋板(L145)はSE1から出土しており、外面と推定される面には「八に十」の焼印が施されている。下駄は連歯下駄(L9)と差歯下駄(L198)がある。L9はSK77、L198はSE1から出土し、L198には釘穴が4箇所に認められる。加工痕を有する材については小型品と大型品に分けられ、全てではないが建築部材の可能性が高い。小型品はL247、L251、L266の3点を図示し、全てSK386から出土している。形状は細長い板状である。L247は表面に十字のくぼみ、裏面に一文字のくぼみが認められる。L251は2箇所に穿孔、L266はホゾ状の段差がある。大型品は3点を図示し、L181、L208はSE1、L282はSK386から出土している。L181は3面に漆が施されている。L208、L282は板状の材で、L208は角の一箇所が四角く切り落とされている。L282は二か所に釘穴があり、被熱した痕跡も認められる。

#### 【金属製品】

金属製品は331点あり、このうち128点は攪乱及び1層から出土している。遺構別ではSK189から83点と多い。材質別の内訳は鉄製品280点、銅製品40点である。その他に鍛冶関連の遺物として鉄滓11点と鍛造剥片が認められる。金属製品のうち銭貨は30点出土しており、銭貨が判読できたものは永楽通寶4点と寛永通寶7点である。また銭貨は不明だが、渡来銭が2点、材質より寛永通寶銭、仙台通寶と推定されるものが2点ずつ出土している。銭貨以外の鉄製品には釘、鏝、火箸のほか、火挟みと推定されるものがある。中でも釘が大半で、234点出土しており、うち80点はSK189から出土した。火挟みとしたもの(N31)は薄く細いU字状で、柄の部分と推定される。銅製品には煙管、火挟み推定されるものなどがある。煙管は雁首と吸口があり、雁首には管部に細かな環状の装飾が施されているもの(N75)もある。火挟み(N9)は柄の部分と推定され、細長く薄い銅版がU字状に折り曲げられている。鉄滓は攪乱以外にSE1から1点、SK214から5点出土しており、鍛造剥片はP1099から出土している。

#### 【土製品】

土製品は42点あり、このうち25点は1層及び攪乱から出土している。遺構別ではSK85、SK189、SK214、SK424などからある。種類は土人形、社型土製品、ミニチュアなどがあり、土人形が最も多く、27点出土している。形状を特定できるものとして女性立像といった人物象と、犬、猿、猪といった動物象がある。女性立像(P29)には朱が施された痕跡が認められる。社型土製品(P10)はSK214から出土しており、額縁には「天神」の文字がみとれる。ミニチュアには播鉢(P34)と蓋などが認められる。その他に土鈴(P30)、一分金の模造品がある。土鈴は完形で内部には丸が残存している。また、実用的な製品で、瓦質の硯(P37)も出土している。

#### [ 自然遺物 ]

自然遺物は 128 点出土し、内訳は貝類 47 点、動物骨 81 点である。動物骨は SK189 から 68 点とまとまって出土しており、種類として鳥類ではガン、魚類ではマダイ、ホウボウ、ヒラメなどが認められ、量的にはマダイが多い。

### (2) 中世以前の遺物

#### [ 縄文土器 ]

縄文土器は 12 点出土しており、いずれも小破片である。このうち時期・器種を判断できるもの 2 点を図示した。A6 は深鉢の胴部破片で、外面には平行沈線内に櫛歯状沈線文が施されており、時期は後期である。また A5 は浅鉢の口縁部片で、外面口縁部に 6 条の沈線が施され、内面にも沈線が 1 条認められる。全体的に摩滅しており、外面沈線下の縄文の有無は不明である。時期は晩期である。

#### [ 弥生土器 ]

弥生土器は 28 点出土しており、多くは小破片である。このうち器種が判断できるもの 2 点を図示した。B11・13 は甕の口縁部片である。B13 の口縁は直線的に開く。B11・B13 とともに時期は中期である。

#### [ 土師器 ]

非ロクロ土師器は 73 点出土しており、いずれも小破片で、器面が摩滅しているものが多い。器種は甕があり、図示したのは底部片 1 点である。C23 の外面にはヘラナデ後ヘラケズリが施され、時期は 8 世紀とみられる。ロクロ土師器は 170 点出土しており、遺存状態は悪く、器面が摩滅しているものが多い。SK272 からは細片だが 100 点とまとまって出土している。器種は環、高台付環、甕がある。図示したものは環 1 点と甕 1 点である。D7 は環で、底部切り離しは回転糸切りである。内面は摩滅しているが、ヘラミガキと黒色処理が施されていたと推定される。D1 は甕の口縁部片である。2 点とも平安時代のものである。

#### [ 須恵器 ]

須恵器は 12 点出土しており、いずれも破片である。器種は環、長頸壺、甕があり、このうち環 1 点と長頸瓶 1 点を図示した。E3 は環で、底部切り離しは回転糸切りである。底部に残存している環はいずれも回転糸切りのみで、再調整は施されていない。E14 は長頸壺の口縁部片である。甕については胴部と胴部片があり、胴部片の外面には平行タキが施されている。時期は環が平安時代、長頸瓶が 7～8 世紀と推定される。

#### [ 石器・剥片 ]

石器は SK189 より図示した Ka5 の 1 点が出土している。有茎石鏃で石材は鉄石英であるが、先端・茎部・左基部が欠損している。剥片は 6 点あり、石材には黒曜石、珪質頁岩、流紋岩、メノウがある。

### (3) 近代以降の遺物

#### [ 陶器 ]

近代以降の陶器は 73 点出土している。遺物には角形の汽(車)土瓶 (I2083) などがある。I2083 はその形態から大正時代末から昭和前半のものと考えられる。

#### [ 磁器 ]

磁器は 199 点出土している。遺物には九谷の製品や少量ながら太平洋戦争時に生産された統制食器などがある。統制食器には高台内に「岐 610」の銘のある小皿 (J734) や、軍隊で使用されたとみられるどんぶり鉢がある。

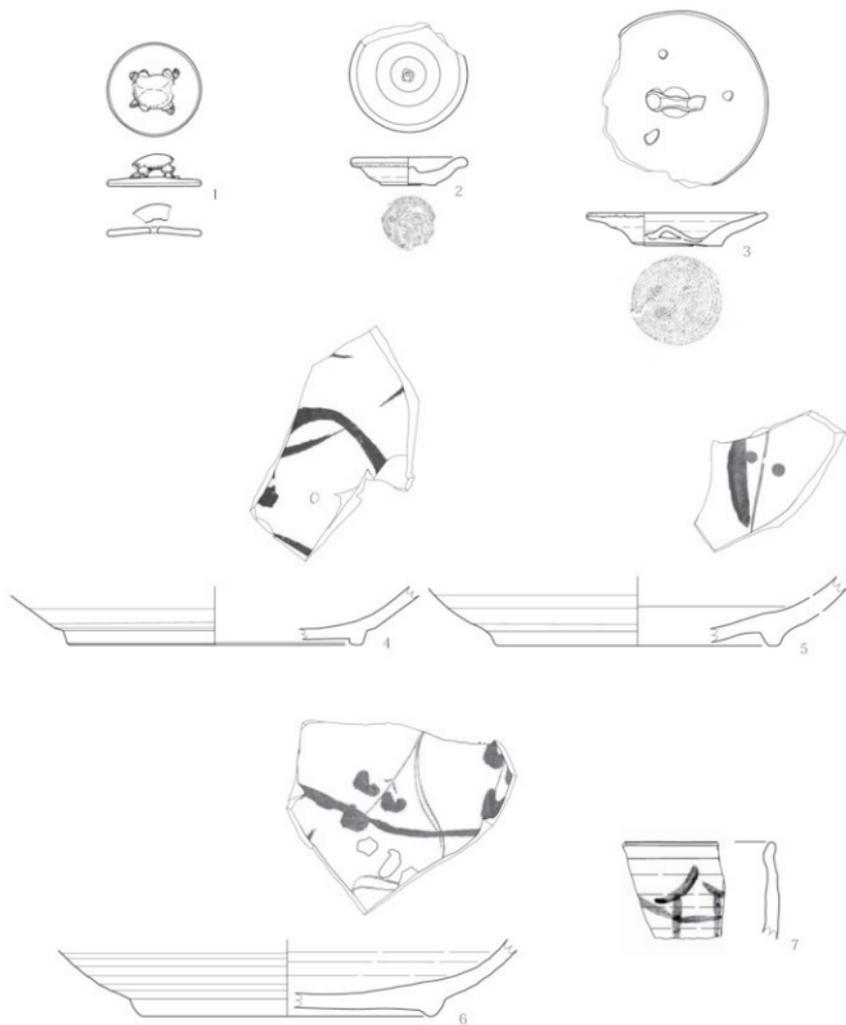
#### [ 金属製品・ガラス製品 ]

金属製品には太平洋戦争時に発行されたアルミ十銭貨幣 1 点 (N4)、使用前の未製品と推定される蹄鉄 (N74)、同一形状の弾丸 2 点がある。ガラス製品は 8 点あり、ガラス瓶、ビー玉、おはじきなどがある。



图号	登记号	种类	器形	数量、方位	位置 (cm)			质地	时期	备注	页码
1	3608	陶器	碗	腹瓦	10.60	5.20	2.8	夹泥?	17C 中期	瓦胎, 刻划纹饰	52-1
2	3620	陶器	光背茶碗	腹瓦	12.50	5.00	6.00	刷印夹泥	16C 末~17C 初	黑胎, 刻划	52-2
3	384	陶器	碗	SK1 5~6 组	13.00	—	16.20	刷印夹泥	18C 代	5の志野	52-3
4	3614	陶器	灯台七脚	SK180 5 组	8.70	3.40	5.8	刷印夹泥	18C 后期	瓦胎, 内: 内面, 外: 刻划纹饰	52-4
5	31472	陶器	小茶碗	SK428 4 组	6.3	3.4	4.1	刷印夹泥	18C ~ 19C 代	瓦胎	52-5
6	371	陶器	碗	SK81 5 组	—	5.20	2.00	夹泥	18C 前半	外: 刻划, 内: 瓦胎	52-6
7	31333	陶器	钵	钵	—	—	6.1	志野	17C 初期	瓦胎, 外: 刻划, 内: 瓦胎	52-7
8	3577	陶器	钵	钵	—	—	2.80	碗底	17C 前半	瓦胎, 内: 刻划, 外: 刻划, 内: 瓦胎	52-8
9	115	陶器	钵	1 组	—	—	3.30	志野	17C 初期	瓦胎, 外: 刻划, 内: 瓦胎	52-9
10	113	陶器	钵	SA1 2 组	—	—	2.30	志野	17C 初期	瓦胎	52-10
11	3574	陶器	钵	SK251 1 组	11.40	6.20	2.20	志野	16C 末~17C 初	瓦胎, 内: 刻划 1, 外: 刻划	52-11
12	3572	陶器	钵	1 组	12.00	7.60	2.20	志野	16C 末~17C 初	瓦胎, 内: 刻划	52-12
13	32120	陶器	钵	2与3608K 表土	10.80	5.30	2.10	夹泥	17C 初期	瓦胎	52-13
14	372	陶器	钵	SK353 埋土	10.00	6.40	2.40	夹泥	17C 初期	瓦胎, 内: 刻划, 外: 刻划	52-14
15	3604	陶器	钵	SK204 1 组	14.40	8.40	2.70	夹泥	16C 末~17C 初	瓦胎, 内: 刻划 3	52-15
16	31435	陶器	钵	SK307 埋土	11.20	6.20	3.50	夹泥	17C 初期	瓦胎, 内: 刻划, 外: 刻划	52-16
17	3576	陶器	钵	碗底	—	—	11.80	2.90	17C 后期	瓦胎, 内: 刻划, 外: 刻划, 内: 瓦胎	52-17
18	3578	陶器	钵	SA5 1 组	10.40	4.70	3.50	碗底	17C 后期	瓦胎, 内: 刻划, 外: 刻划, 内: 瓦胎	52-18

第 96 图 出土遺物 陶器 (1)



図録番号	登録番号	種類	器種	遺跡・部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	写真枚数
					1径	底径	器高				
1	11506	陶器	蓋	樽瓦	5.3	5.3	2.0	瀬川/美濃?	19C 後葉山崎	瓦輪 つまみは付 つまみは施 裏の付面にイッチン技法 土輪の辺部のみ	52-19
2	3605	陶器	唐壺?	SK196 1層	6.7	3.4	1.7	美濃	17C 代	鉄輪 裏面は石輪や骨かにつ着	52-20
3	3607	陶器	水注ぎ?	樽瓦	(11.0)	5.5	2.0	美濃	17C 代	鉄輪 鉄輪部 器の下部に 内：目録3	52-21
4	1580	陶器	大鉢	SK231 1層	—	(18.0)	(3.6)	美濃?	17C 前期	瓦石輪 内：鉄輪 文様不明 目録1	52-22
5	3622	陶器	大鉢	樽瓦	—	(17.2)	(4.2)	瀬川/美濃	17C 初～前期	瓦輪 内：鉄輪 文様不明	53-2
6	1579	陶器	大鉢?	SK21 1層	—	(17.8)	(4.7)	美濃?	17C 前期	瓦石輪 空面施輪 内：鉄輪 日文目録1 瓦内内：目録1	53-1
7	177	陶器	鉢	樽瓦	—	—	(6.0)	美濃	17C 前期	瓦石輪 瓦面：鉄輪 文様不明	53-3

第97図 出土遺物 陶器(2)

## 第4章 自然科学分析

### 仙台城跡追廻地区第4次～6次発掘調査出土木製品の樹種

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

仙台城跡追廻地区は、広瀬川右岸の青葉山麓に位置する。本報告では、第4次～6次発掘調査で出土した木製品を対象として、木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

#### 1. 試料

試料は、出土した木製品 17 点である。

木製品には、遺物No、登録No、取上Noが付されているが、本文中では登録Noで説明する。また、L181は、黒漆塗りの角棒 1 点他、明らかに別部材と分かる資料 3 点の計 4 点で構成され、遺物 L198 は差歯下駄で、台・前面・後面の 3 部材で構成されており、それぞれ枝番を付す (L181-1～4、L198-1～3)。

#### 2. 分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柎目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレバラートとする。プレバラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

登録No.	遺物名	層位	器種	部位	木取り	樹種	備考		
L217	SK383	4層	漆器板	—	順木地板目取	ブナ属	内外面とも赤漆塗り		
L218	SK383	6層	漆器板	—	順木地板目取	ブナ属	内外面とも赤漆塗り		
L220	調査区東側	掘込	漆	—	順木地	シタン類	黒漆塗り		
L145	SE1	11層	差歯	—	板目～柎目	アスナロ			
L19	SK77	埋土	差歯下駄	—	板目	スギ			
L198	SE1	11層	差歯下駄(隠印)	—	板目	スギ			
				台	板目	スギ			
				前面	板目	スギ			
				後面	板目	スギ			
L247	SK383	6層	不明(板材)	—	板目	アスナロ			
L251	SK383	6層	不明(板材)	—	板目	アスナロ	塗孔有		
L266	SK383	6層	不明(板材)	—	板目	アスナロ			
L181	SE1	11層	不明(角棒)	—	分削角棒	アスナロ	3面黒漆塗り		
				—	不明(角材)	—	マダケ属		
				—	不明(板材)	—	板目	スギ	
				—	不明(棒材)	—	分削角棒	スギ	
L209	SE1	11層	建築材?(板材)	—	板目	マツ属複雑管束亜属			
L282	SK383	6層	建築材?(板材)	—	板目	アスナロ			

第44表 樹種同定結果

#### 3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹3分類群(マツ属複雑管束亜属・スギ・アスナロ)と広葉樹2分類群(ブナ属・シタン属)、マダケ属に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複雑管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急へやや緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセルウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・アスナロ (*Thujaopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・シタン類 (*Dalbergia*) マメ科ツルサイカチ属

散孔材で、道管は単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-2細胞幅、1-20細胞高。軸方向柔組織は、帯状あるいは周囲状～連合翼状となる。

ツルサイカチ属のうち、銘木の本紫檀に含まれるケランジヤやマルバシタン等と考えられるが、組織からの区別が難しいため、シタン類とした。

・マダケ属 (*Phyllostachys*)

原生木部の小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に篩部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成するが、繊維細胞は放射方向に広く、接線方向に狭いため、全体として放射方向に長い変形となる。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

いわゆるタケ・ササ類である。組織構造から種類を細分することは困難であるが、試料の外観や節の形状から、稈鞘が伸長と共に節から脱落するタケ類と考えられる。

#### 4. 考察

出土した木製品は、伊東・山田(2012)の木器分類を参考にすると、服飾具(下駄)、容器(漆器椀、漆器椀蓋、蓋、円形板)、施設材・器具材(板、角棒、棒)、その他(タケ材)に分けられる。これらの木製品の樹種は5種類が認められた。各種類の材質についてみると、針葉樹のマツ属複雑維管束亜属は、二次林や海岸砂丘等に生育する常緑高木で、木材は針葉樹としては重硬な部類に入り、強度と保存性が高い。スギは扇状地扇端部や谷沿い等の適潤地に生育する常緑高木で、木材の木理は通直で割裂性、耐水性が比較的高い。アスナロは、山地等に生育する常緑高木で、木材の木理は通直で割裂性、耐水性が高い。広葉樹のブナ属は、山地に生育する落葉高木で、木材は比較的硬で、強度は比較的高いが、保存性は低い。シタン類は、東南アジアや中南米に分布する常緑高木である。木材は極めて重硬・緻密で強度が高い。また、銘木として珍重される。マダケ属は、里山等に生育し、稈は強靱で強度・靱性・耐水性が比較的高い。

器種別みると、服飾具ではL198-1～3とL9の下駄2点がある。L198は、台と歯を別材で作る差歯下駄で、樹種はいずれもスギである。L9は、台と歯を一木で作る連歯下駄である。

差歯下駄の台・歯、連歯下駄の全てがスギに同定され、加工性・耐水性の高い木材を利用したことが推定される。仙台城三ノ丸跡の調査で出土した下駄の樹種をみると、差歯下駄の台にはケヤキが多く、他にトネリコ属、クルミ属、クリ、キハダ?、ホオノキ等の広葉樹材や、針葉樹のヒノキアスナロが認められ、連歯下駄は大部分がヒノキアスナロで、他にハリギリ?、ホオノキ、ミズキ等が報告されている(伊東・山田,2012)。今回のスギは、差歯下駄・連歯下駄のいずれにも確認された例がなく、今回の結果は既存の結果とは異なる木材利用を示す。下駄の形態や使

用者の違いなどが関連している可能性があり、今後同様の下駄の樹種に関する資料蓄積が課題である。

容器は4点が認められた。漆器椀(L217, L218)は、いずれも横木地柁目取で、内外面とも赤漆塗りとなる。樹種は、いずれもブナ属であり、加工性の高い木材の利用が推定される。ブナ属は、近世の漆器容器の木地としては、トチノキやケヤキと共によく利用される樹種の一つである(伊東・山田,2012)。仙台城跡では、三ノ丸跡から出土した漆器椀、皿か蓋、皿?など15点が全てブナ属に同定されており、今回の結果も整合的である(伊東・山田,2012)。一方、蓋(L220)は、黒漆塗りで縦木地となり、輸入材のシタン類が利用されている。製品そのものが外国製か、輸入された木材を使って作られたことが推定される。近世におけるシタン類の出土例をみると、天竜寺跡(東京都)の江戸時代後半～明治時代とされる横櫓、行元寺跡(東京都)の江戸時代後半とされる横櫓、明石城武家屋敷跡(兵庫県)の江戸時代とされる用途不明の漆塗板の3例がある(伊東・山田,2012)。蓋(L145)は円形の板で、曲物や籔物(桶・樽)の蓋と考えられる。樹心近くを使った板目～柁目板で、木の直径を最大限利用する木取りである。アスナロが利用されており、加工性・耐水性の高い木材を利用したことが推定される。

施設材・器具材は、板や棒など、形状は分かるが器種が分からない資料を一括した(L181, L209, L247, L251, L266, L282)。このうち、L181の角棒は、3面に黒漆が塗られた棒材である。樹種はアスナロで、加工性の高い木材を利用している。また、L209は、井戸跡から出土した大型の板材である。断片のみの観察であるが、おそらく柁目取りの板材と考えられる。マツ属複雑管束亜属に同定され、強度・保存性の高い木材を利用したことが推定される。宮城県内の近世におけるマツ属複雑管束亜属の利用例をみると、富沢遺跡30次の板材、富沢遺跡88次の用途不明の板材、高田B遺跡の用途不明の板や棒等がある(伊東・山田,2012)。その他の板や棒もアスナロが中心でスギが混じる組成を示す。いずれも針葉樹であり、強度よりも加工性を考慮した用材選択がうかがえる。

その他に含めたタケ材(L2)は、節の形状からマダケ属の桿である。穿孔が認められることから、何らかの用途にマダケ属を用いたことが推定される。

今回の樹種同定の結果を更に解析するためには、発掘調査成果と合わせて遺跡の性格や生活背景を含めて検討されたい。

#### 引用文献

- 林 昭三,1991.日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31.京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32.京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33.京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34.京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35.京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012.木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006.針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫,1982.図説木材組織.地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



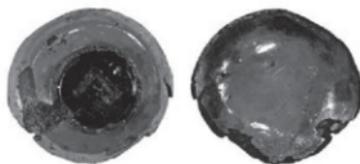
1. L9 下駄:スギ



2. L198 下駄:スギ



3. L217 椀:ブナ属



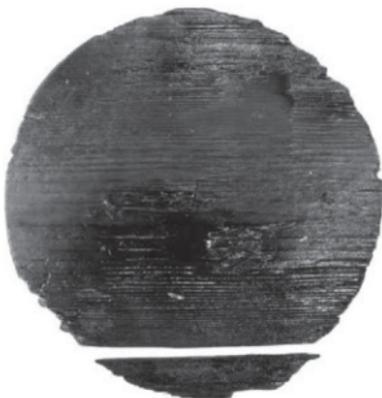
5. L218 椀:ブナ属



4. L220 蓋:シタン類



6. L145 蓋:アスナロ



10cm:1,2  
10cm:3,4,5,6

第139図 資料(1)



7. L181-1  
不明(角棒):アスナロ



11. L247  
板:アスナロ



13. L266  
板(札):アスナロ



8. L181-2  
タケ材:マダケ属



9. L181-3  
板:スギ



10. L181-4  
棒:スギ



12. L251  
板:アスナロ

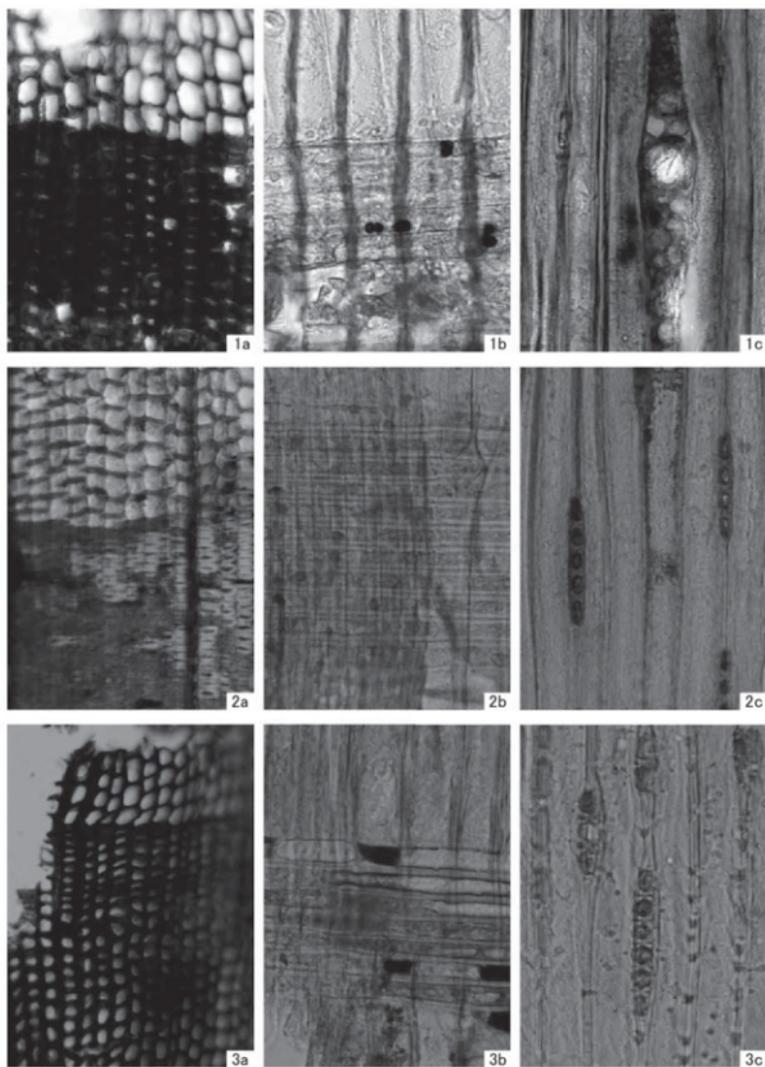


14. L209  
大形板材:マツ属複雑管束亜属



15. L282  
板:アスナロ

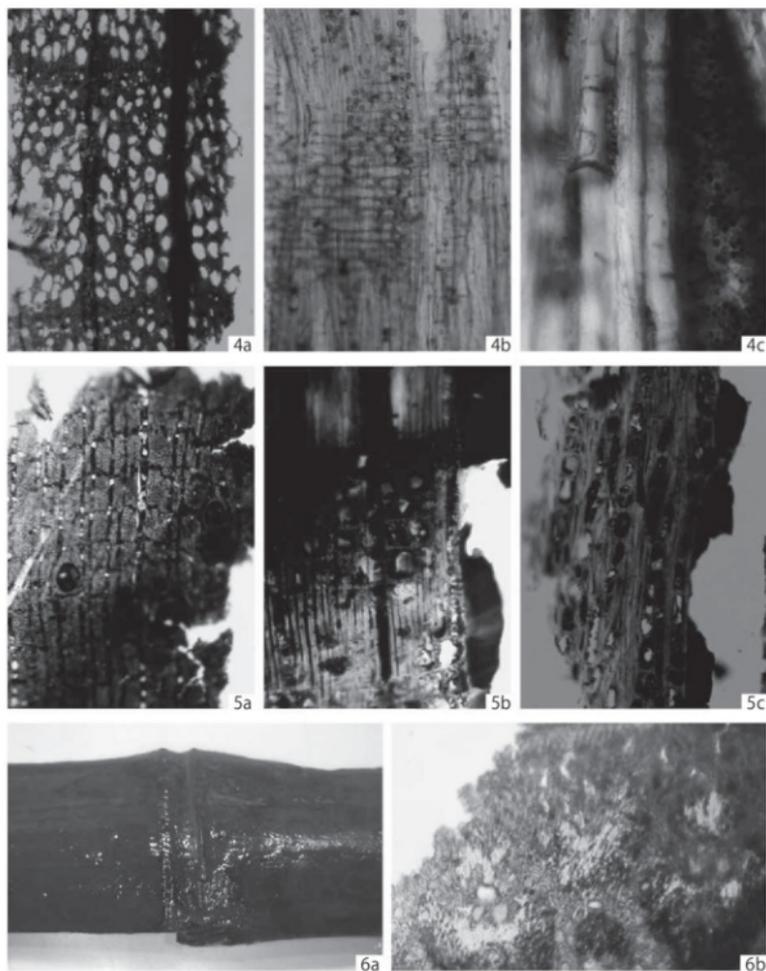




1. マツ属複雑管束亜属(L-209)  
 2. スギ(L-198-2)  
 3. アスナロ(L-247)  
 a: 木口, b: 柱目, c: 板目

100  $\mu$  m a  
 100  $\mu$  m b, c

第 141 図 顕微鏡写真 (1)



4. ブナ属(L218) a:木口, b:径目, c:板目  
 5. シタン類(L220) a:木口, b:径目, c:板目  
 6. マダケ属(L181-2) a:節の外観, b:横断面の組織

■ 100  $\mu$ m:4-5a  
 ■ 100  $\mu$ m:4-5b,c  
 ■ 100  $\mu$ m:6b  
 ■ 1cm:6a

第142図 顕微鏡写真(2)



## 第5章 絵図・文献からみた仙台片倉屋敷

### 第1節 仙台片倉屋敷と屋敷地について

#### (1) 仙台片倉屋敷について

かつて追廻地区北端の仙台城大手前には、白石城主で一家格の片倉家の仙台屋敷が存在した。片倉家は幕末の知行高が1万8,000石の大身で、仙台藩の中にあつて仙台城とは別に城を拝領した譜代の家臣である。

屋敷が記録に初めて見られるのは『伊達治家記録』の延宝5年(1677)5月18日のことで、その内容は、「・・・片倉小十郎大手津田玄蕃屋敷、・・・津田豊前廣小路片倉小十郎屋敷、各屋敷替ヲ命セラル。」というものである。また片倉景綱から10代景貞までの記録を継いだ『片倉代々記』には、「片倉小十郎大手、津田玄蕃上ヶ屋敷江屋敷替被 仰付候、・・・」とあり、片倉家3代当主であつた片倉小十郎景長は、これまでの広小路にあつた屋敷を大手の津田玄蕃(景康)の屋敷地に屋敷替えを命じられている。津田玄蕃は佐沼領主で、伊達綱宗の隠居に端を発したいわゆる伊達騒動にかかわり、寛文11年(1671)に逼塞を命じられた人物である。仙台城の一部とされる追廻へのこのような片倉家の屋敷替は、藩内での片倉家の地位の高さを表しているものといえる。また屋敷の作事が完了した延宝7年(1679)11月3日には徒移の儀を執り行い、さらに延宝8年(1680)3月3日には当時の仙台藩主伊達綱村を屋敷で饗応している。これ以降、屋敷では祝賀や能、観板などで藩主の御成りなどがあつたことが双方の記事にみられる以外、しばらく屋敷に大きな出来事は無かつたが、幕末近い10代当主片倉宗景の代弘化3年(1846)9月9日に追廻を火元とする火災があり、この時、屋敷は延焼したとされている。この火災による被害の程度は明らかでないが、記事や屋敷絵図にみられる状況から、屋敷の施設の殆どが焼失したと考えられている。そして火災から2年半が経過した嘉永3年(1849)3月3日には、13代藩主の伊達慶邦が新造成った屋敷に立ち寄り、29日には普請成就の祝儀が催されている。

『治家記録』や『片倉代々記』の屋敷に関する記事には、御成りなどにかかわり建物・部屋や諸施設の名称が幾つか確認できる。しかしそれらの記事からは屋敷の全容は読み取れず、詳細な建物配置や間取り、規模等については、仙台市博物館が所蔵する二つの絵図や屏風図にその姿を残すのみである。これらの史料は仙台藩の家臣屋敷の絵図がほとんど残らない中、大身の屋敷の様子をうかがうことができる資料として貴重といえる。その中の一つの、『仙台御屋敷御作事之御絵図』には裏に屋敷の規模が記載されており、絵図によると、屋敷の東辺が九十間(165m)、西辺と南辺が七十五間(136m)、北辺が四十八間(87m)、西側にあつた長屋の長さが五十二間(96m)とある。ここからは、屋敷は北が大手通り、東が広瀬川、西が長沼と接する広大な敷地で、大手通りに面して表門を配し、追廻の北端全体を占めていたことがわかる。この規模については、同じく仙台城の一部とされる川内にあり、大手通りを挟んだ北側に位置した一門の登米伊達家と水沢伊達家の仙台屋敷と並び、家臣の中でも最大級の規模を有していたことがわかる。

片倉屋敷については、明治元年(1868)の『明治元年現状仙台城市之図』に俯瞰した形で描かれている他、『片倉代々記』同様に片倉家の記録を年表にまとめた『年代重要記』の慶応4年(1868)2月1日に、藩主の御成りがあつたとされており、少なくとも明治の初めまではその姿を維持していたことがわかる。しかし明治8・9年頃の撮影とされる大橋から大手門付近の写真には、屋敷の門らしきものは確認できず、広間や大書院とは棟方向の異なる建物が確認できることから、この頃までには屋敷の建物は解体されたとみられる。

#### (2) 屋敷地の変遷について

屋敷のある追廻は仙台城の一部とされ、屋敷地や周辺の様子は数多く残る「仙台下絵図」にも描かれている。現在残る仙台城を描いた絵図の中で最も古いとされる『奥州仙台城絵図』(正保絵図)(1645)には、屋敷地は「侍屋敷」

と記されており、また大手通りを挟んだ北側の登米・水沢両伊達家の屋敷も同様に侍屋敷とある。仙台城が築城された17世紀初頭から絵図が描かれた中頃までの間に、これらの場所にどのような屋敷や施設が存在していたのかは明らかではないが、片倉屋敷地については、近世初期の段階から幕末まで、ほぼ同じ区画であったことがわかる。

寛文4年(1664)の城下絵図には、屋敷地南側に「白津七郎衛門」とあり、個人が特定できるのに対し、屋敷地は空白で、誰が拝領していたのかはわからない。これが寛文8・9年(1668・1669)の城下絵図には、「津田玄蕃」の名前がみえるようになり、また北側の屋敷地は「御目付衆」とある2つの区画となるが、これは幕府が派遣した御目付の屋敷とみられている。

絵図に「片倉」の名前が見られるのは、延宝5年(1677)の屋敷替を経た、延宝6年～8年(1678～1680)と、同6年～9年(1678～1681)製作とされる『仙台北城下大絵図』である。ここには「片倉小十郎」とあり、小十郎とは屋敷替えを申し渡された3代景長とみられる。続く延宝9年・天和元年(1681)の城下絵図には「三之助」の名がみえる。三之助は4代村長の幼名で、父の景長が病弱であったことから、村長は父に代わり、藩主の御成りを受けることもあったとされる。景長が死去したのは延宝9年5月であることから、絵図は景長の死去直後のものとみられる。その後、村長が家督を継ぎ、小十郎と改名するのは天和3年(1683)のことである。これ以後に製作された絵図には、本屋敷地が侍屋敷とあったり、名の記載されていないものもあるが、この地は代々、片倉家の仙台北屋敷として幕末まで存続する。

明治8年(1875)の『宮城県仙臺町地引図』では、屋敷が南側に9区画あった屋敷地を取り込んだ範囲となっている。屋敷地には「五ノ十七」と、川内地区全体と同じ番号が表記されており、この時期には屋敷の建物が既に解体されている可能性がある。また周辺には近世から続くかつての屋敷間の道路が描かれているが、明治13年(1880)の『宮城県仙臺区全図』を見ると、当時屋敷の西側で長沼に面した通りが「川内追廻通」、南側が「川内追廻九軒丁」という名称であったことがわかる。さらに明治15年(1882)の『仙臺区及近傍村落之図』を見ると、近世段階で9つの屋敷が存在した屋敷南側の区画に小規模な建物らしきものが数軒描かれている。これに対し片倉屋敷の部分には、大手通りに沿い、小規模な2つの建物が認められるほか、中央には幾条もの破線が見られ、これは畑を表している可能性がある。また南側の屋敷境には林のような表記が確認できる。その後、明治20年(1887)の『仙臺測図』では、屋敷地を含め追廻地区全体が陸軍の練兵場となっている。

以上の絵図から屋敷全体の規模や形状を比較してみると、基本的には屋敷は南側が広がる台形で、周辺の屋敷や道路との境界にもあまり違いが認められないことから、近世を通して屋敷地に大きな変化は無かったと考えられる。屋敷地の北側を見ると、大手通りは西側で幅が広がるのに対し、屋敷が通りに張り出すことで通りが狭くなっている。西側の長沼に面した通りは、現在、車道幅6m程度の道路となっているが、戦前に撮影された写真から、当時は現在より通りの幅が広がった可能性がある。また東側では大手通りから広瀬川沿いに南へ延びる通路があり、川岸に構築された「護岸石垣」の途切れた部分から河原に出ることが可能な配置を見せている。護岸石垣については、今も北半部が現存している。石垣の詳細を伝える記録は残っていないが、現在、屋敷北半部が大橋側から延びる石積みの石垣で、南半部が通路から追廻地区の南側へ延びる野面積みの石垣が残っており、石垣の存在は『奥州仙台北城絵図』にも確認できることから、その姿は江戸時代初期より変わらず、屋敷東側の景観であったとみられる。



1『奥州仙台北絵図』正保2年(1645)



2『仙台北下絵図』寛文4年(1664)



3『仙台北下絵図』寛文8・9年(1668・1669)



4『仙台北下絵図』寛文9年(1669)



5『仙台北下絵図』延宝～天和年間(1673～1683)



6『仙台北下大絵図』延宝6～8年(1678～1680)



7『仙台北下大絵図』延宝6～9年(1678～1681)



8『奥州仙台北井城下絵図』天和2年(1682)

第143図 絵図に見る近世の追廻(1)



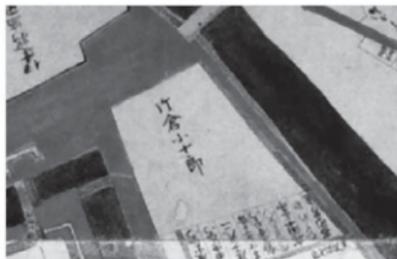
9 『仙臺城下五厘掛絵図』元禄4・5年(1691・1692)



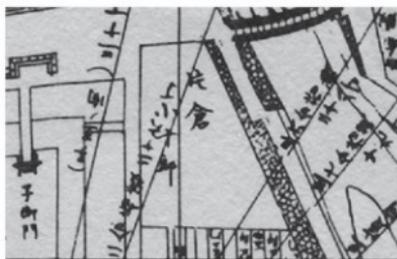
10 『仙臺城下絵図』享保9年(1724)



11 『仙臺城下絵図』宝暦～明和年間(1751～1771)



12 『仙臺城下絵図』寛政元年(1789)



13 『安政補正改革仙府絵図』安政2・3年(1855・1856)



14 『現状仙臺城市之図』明治元年(1868)

- 1、9、11、12、14 仙台市博物館所蔵
- 2、4、6、7、8 宮城県図書館所蔵
- 5 仙台市歴史民俗資料館所蔵
- 10 東北歴史博物館所蔵
- 3 所在不明
- 13 戦災で焼失

第144図 絵図に見る近世の追廻(2)

## 第2節 屋敷絵図について

(仮称)公園センターにかかわる発掘調査を実施するにあたっては、これと並行して『仙台御屋敷御作事之御絵図』や仮称『御成絵図』などに関する資料調査を行った。主な作業としては絵図内容の解説と模式図等の作成であるが、これは実際に発掘調査で確認される屋敷の遺構を想定し、絵図内容との照合を行うことで、屋敷の実態を明らかにすることを目的としたものである。

### (1) 『仙台御屋敷御作事之御絵図』について

#### 1. 絵図の概要

絵図は仙台市博物館所蔵で、裏には『仙台御屋敷御作事之御絵図』(以下、「屋敷絵図」という絵図の名称が記されている(第145図))。この絵図に関してはこれまで製作年代が幕末とされているが、詳しい時期は不明である。大きさは縦146.8cm、横98.9cmで、体裁は「描絵図」である。台紙となる料紙にはヘラにより1間幅の方眼が絵図全体に切られており、柱位置など各建物を描く基準としている。またヘラ目を出すためか、製作当初から2枚の紙を貼り重ね、後に裏打ちのために1枚を貼り重ねている。さらに絵図は大きさの異なる3枚を貼り合わせており、これにより「広間」の南北の柱筋が大きくずれている。これは何らかの理由で絵図を分割した後、再度貼り合わせる際の双方の歪みによるものとみられる。

絵図は墨線に加え、赤色・浅黄色・黄色の線が使用されている。裏書にある「凡例」によると、これらは赤色が「襖」、浅黄色が「板戸」、黄色が「壁」を表しており、ここから建物内がどのような建具で仕切られていたかをうかがうことができる。但し裏書には白色が「障子」とあるが、それに該当する箇所は確認できず、その理由は不明である。

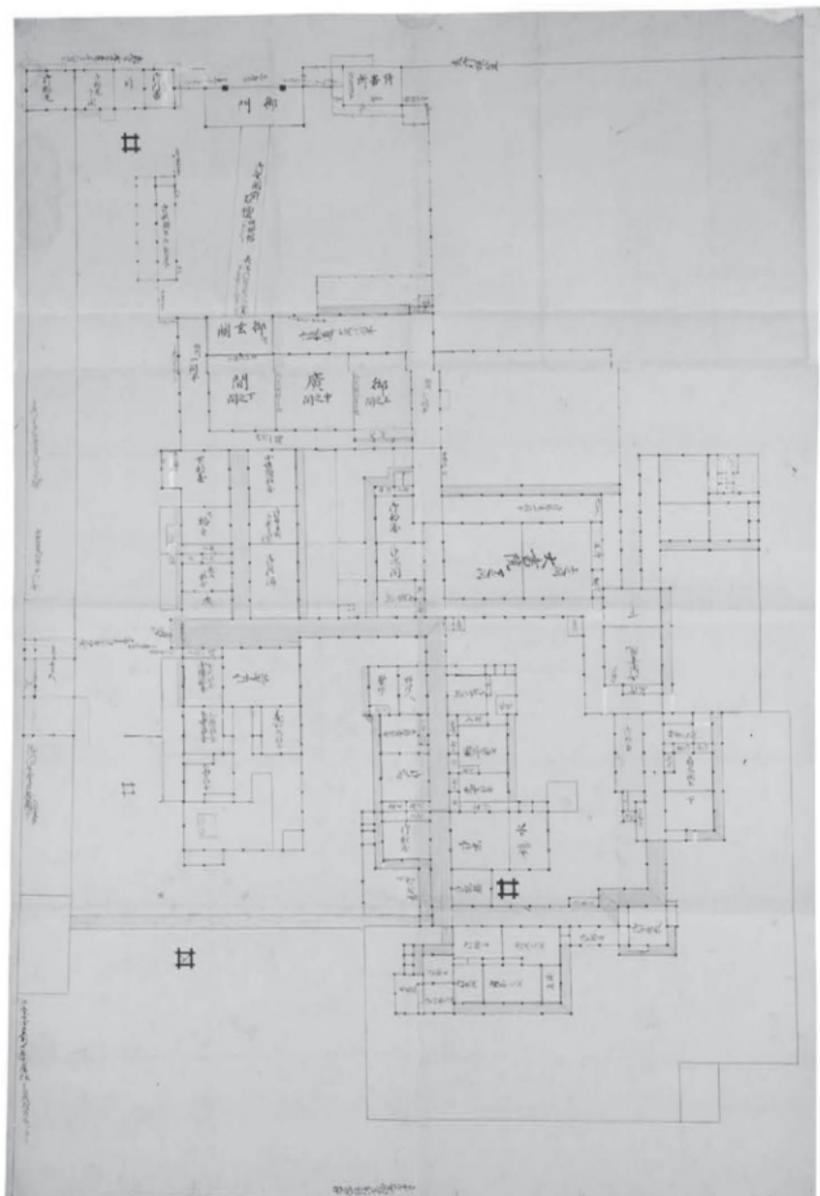
絵図に描かれた建物や各施設にはそれぞれの名称が記されており、またこれらとは別に、主に施設間の距離を記したとみられる小さな崩し字が各所にみられる。このことから崩し字による表記は当初からのものではなく、後に加筆された可能性がある。さらに絵図中には部屋名が書き換えられた箇所や、数か所で建具部分が白線で抹消された部分がある。特に南西部に配置された建物中にある、「小頭部屋」が「本<sup>メ</sup>部屋」に、「下男部屋」が「小頭部屋」へと消された上で、隣に書き直されているのが目を引く。これは部屋の使い方や建具を変える度に絵図上でも修正が加えられた結果とみられ、以上のことから、絵図は長期間にわたり使用されたものと考えられる。

この絵図について正確な建物配置や寸法割り出すことを目的として模式図を作成したところ、各建物の柱位置や柱筋が非常に正確に描かれていることが判明した(第146図)。但し長屋や塀は建物から距離があるため、相互の位置関係については距離や角度が正確に描かれているか疑問が残る。

#### 2. 建物の配置状況

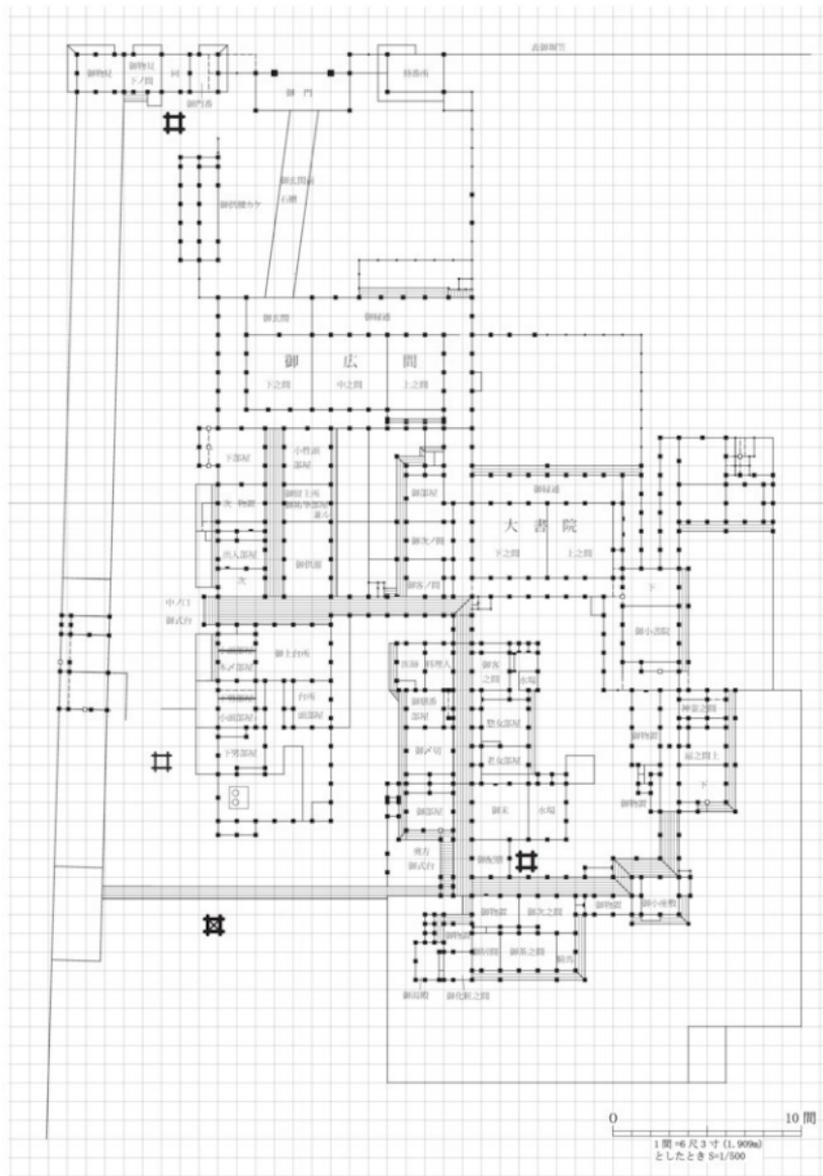
屋敷の正面は北側の大手通りで、まず屋敷の外回りを見ると、北西側に寄った位置に両側に番番を作った幅5間の表門を配置し、西側はほぼ全体を長屋、北側は「塀笠」を廻しているが、東側と南側の記載は無い。長屋部分にはほぼ中央に幅2間の裏門を配し、門は柱の配置から北側が1間半の二枚扉で、南側に脇戸が取付く形態とみられる。長屋の幅は全体を通して2間半程度とみられ、内部は全体を通して様々な部屋が存在していたとみられるが、部屋割りの線は描かれていない。主要な建物は表門を入った正面に配置された「広間」から、その南東側へ続く「大書院」、「小書院」で、これらの建物が雁行形に配置される典型的な書院建築と言える。このような屋敷の規模や建物の様子に、藩内における片倉家の格の高さをうかがうことができる。

広間は東西13間半、南北7間の東西棟で、屋敷の建物の中では最大規模で、部屋は幅4間の「上之間」、「中之間」、「下之間」の連続する3室で構成されている。北面西端に玄関、上之間正面から折れた南側に「床」を備え、部屋の北側に幅2間、東側と西側に幅1間半の幅広の「縁通り」や「廊下」を配置している。この建物は広間と



第 145 図 『仙台御屋敷御事之御絵図』

仙台市博物館所蔵



第 146 図 『仙台御屋敷御作事之御絵図』 模式図

いう名称ではあるが、仙台城本丸や二の丸にみる「大広間」や「小広間」、あるいは他の城郭等にみる「書院」などの主殿とは異なり、規模は大きい、最前面に配置され、玄関が取付くかつての遠侍の建物である。

大書院は東西12間半、南北6間半の東西棟で、部屋は東側に東西に並ぶ幅4間の「上之間」、「下之間」と、間の廊下を挟み西側に南北に並ぶ3室からなる。上之間の正面には北側の庭に寄った位置に幅2間半の大床と1間半の棚を備え、上下の間の北側に幅1間半、他の三方に1間の縁通りや廊下を配置している。4間の座敷幅は仙台城本丸大広間の主室である「上段の間」と同じ規模を有しており、建物の性格としては、屋敷内で行われる様々な儀式や接客の場となる屋敷の中心建物である。

小書院は東西4間、南北6間半の大書院から鉤型に折れた南北棟で、部屋は幅3間の「上之間」と「下之間」の2室からなる。上之間正面には幅2間の床を備え、南側と西側に廊下、東の庭側のみに縁が配置されている。大書院に対し内向的な性格の建物と言われている。

以上の3棟が片倉屋敷の表側の建物の中でも公の性格を有するものとみられるが、他に広間の南側に曲屋のように取付く二つの建物がある。広間南側の廊下から直接繋がる北側の建物は、東西6間、南北9間の南北棟で、中央に南北に通る幅1間の廊下を境に東西の部屋列に分かれ、東側には「小性頭部屋」、「御留守所」、「御供溜」の各部屋が南北に並ぶ。幅1間半の東西廊下を挟んだ南側の建物は東西6間、南北11間半の南北棟で、内部は「御上台所」、「本々部屋」、「下男部屋」などの複数の部屋に分かれ、南側にはカマドや土間を伴った別の台所とみられる空間が確認できる。これら南北二つの建物の西側には扉で仕切られた幾つかの屋外空間が存在し、建物間の東西廊下の西端には、裏口で奥側への出入口ともなる「中ノ口御式台」が備えられている。このような部屋の性格や配置状況から、二つの建物は表の位置にありながらも家政に関わる諸作業や控室に使用されるなど、実務的な作業を行う中奥的な性格の建物と考えられる。

さらに大書院の東側には名称の不明な建物が存在する。東西5間、南北4間半の規模で、詳細は不明だが、内部は床を備えた複数の部屋で構成される建物である。この建物は表の位置にありながらも、「雁行」の並びからは外れ、小書院からのみ廊下で渡る独立した配置を見せている。もう一つの屋敷図である『御成絵図』にはこの建物が「御休所」とあり、『治家記録』の記事から見ても、建物は藩主の御成りの際などに使用された、藩主専用のいわゆる「御成御殿」とみられる。

以上の表の建物群に対し、南側には奥側の建物群が配置されている。小書院の南側に接続する「扇之間」は、物置を含む東西5間半、南北6間半の南北棟で、部屋は幅2間半の上之間と下之間に分かれ、小書院とは反対に上之間が北側にあり、床が備えられている。また建物内北側には「神霊之間」という部屋が存在し、これは神事や仏事を行う部屋とみられる。

扇之間と幅1間の廊下で繋がれた南側には「小座敷」という東西3間、南北2間の小規模な東西建物がある。部屋は1室のみで、床のほか、南側の縁に張り出したものは付書院の可能性もある。

小座敷の西側には建物の名称は確認できないが、東西9間、南北4間半の複数の部屋で構成される建物がある。南側に「居間」、「茶之間」といった部屋列、北側に「物置」と「次之間」が配置され、配置状況から南側の部屋列を主室とした建物とみられる。また建物内西側には「化粧之間」、「湯殿」があることから、この建物は奥向きの中でも中心的建物である「御守殿」の建物として、当主やその身内などが過ごしたと考えられる。

北側の大書院と南側の御守殿の建物が挟まれた位置には、中央を南北に通る1間幅の廊下の両脇に複数の部屋が並ぶ建物がみられる。東西9間、南北12間半の大型建物で、東側の並びには「客之間」、「老女部屋」、「御末」の各部屋があり、西側には「医師」、「料理人」、「御膳番」などの部屋が存在する。この他にも「配膳」や複数の「水場」があることから、この建物は奥向きでの生活を支える作業全般を担うものであったことがわかる。

奥側の建物配置を見てみると、表側の建物相互が直接繋がる配置なのに対し、「扇之間」、「小座敷」、「茶之間」、

建物名	建物規模	主な部屋名	部屋規模				柱・壁		床・欄干・押入など	縁造・廊下・縁	その他		
			長さ	面積	壁	柱間	障子の種類						
御広間	東西13.5間 (25.79m) 南北7間 (13.37m) φ6尺3寸	御点間	東西 3.5間	14	東 2間	板戸	障子の種類	襖・格子内障子		縁造・廊下 東1.5間 西1.5間 南1間 北2間 [欄] 南0.5間 ほかあり	「下之間」の 東西幅が 御広間と 異なる。		
			南北 2間		西 2間	板戸							
			東西 3間		南 3.5間二つ割	襖							
		上之間	東西 3間	24	東 4間四つ割	板戸・(次間間戸二張)	南縁造・南行和室						
			南北 4間		西 4間	襖							
		中之間	東西 4間	32	東 3間三つ割	襖	南縁造・南行和室						
			南北 4間		西 4間	板戸・(次間間戸二張)							
		下之間	東西 3.5間	28	東 4間	板戸・(次間間戸二張)							
			南北 4間		南 4間四つ割	板戸・障							
			東西 3.5間		西 4間四つ割	板戸・障							
		大書院	東西12.5間 (23.88m) 南北6.5間 (12.42m) φ6尺3寸	上之間	東西 3.5間	28	東 2.5間・1.5間	板戸	障子の種類	襖・格子内障子		縁造・廊下 東1間 西1間 南1.5間(東に柱戸) [欄] 東0.5間 [欄] 西・北0.5間 [廊下] 南1間	
					南北 4間		南 1.5間・1間・1間	障・？					
下之間	東西 4間			32	東 4間	襖・？	襖・障						
	南北 4間				西 4間四つ割	板戸・障							
御座所	東西 2.5間			11	東 1.5間・1間	板戸・障	襖・障						
	南北 2.5間				西 2.5間二つ割	襖							
御次ノ間	東西 2.5間			10	東 2間二つ割	板戸・障	床1間、押入1間						
	南北 2間				南 0.5間・2間	板戸・障							
御客ノ間	東西 2間			8	東 2間二つ割	板戸	床1間、押入1間						
	南北 2間				西 2間二つ割	襖							
御小書院	東西4間 (7.64m) 南北2.65間 (12.42m) φ6尺3寸			上之間	東西 3間	18	東 3間三つ割	襖	障子の種類	襖・格子内障子	縁造・廊下 西1間 南1.5間・1間 [欄] 東0.5間		
					南北 3間		西 3間三つ割	板戸・障					
		東西 3間	南 2間・1間		板戸・格子内障子								
		下	東西 3間	12	東 2間二つ割	襖	床2間						
			南北 2間		西 2間四つ割	障							
			東西 3間		南 3間	板戸							
		(御休所) ※南東の部屋	東西5間 (9.09m) 南北4.5間 (8.13m) φ6尺	御休所	東西 2間	8	東 2間二つ割	？	障子の種類	(和)1間、(唐)1間	[廊下] 西1間 [欄] 南0.5間		御休所の北 に東西2.5間、 南北0.5間の 廊下？あり
					南北 2間		西 2間二つ割	板戸					
				御次	東西 2.5間	10	東 1間・1間・0.5間	？	板戸・障				
					南北 2間		南 2.5間	板戸					
				御物置	東西 2.5間	12.5	東 2間二つ割	板戸・障	板戸・障				
					南北 2.5間		西 2間二つ割	板戸・障					
(?) ※北東の一角	東西 2.5間			(10)	東 ー	？	？						
	南北 2間				西 ー	板戸・障							
奥	東西5間 (9.10m) 南北2.5間 (11.83m) φ6尺			扇之間 上	東西 2.5間	9	東 2間二つ割	襖	障子の種類	襖・？	押入1間	[廊下] 西1間 [欄] 東0.5間 南0.5間	
					南北 2間		西 2間二つ割	板戸					
				下	東西 2.5間	10	東 2.5間	？	襖・障				
					南北 2間		南 0.5間・1間・1間	床1間、欄1間					
		神楽之間 ほか	東西 2.5間	5	東 2間二つ割	襖	押入？1間						
			南北 1間		西 2間二つ割	板戸・障							
		御物置	東西 1.5間	12	東 1間・0.5間	襖・障							
			南北 4間		西 1間・0.5間	障							
		御小座敷	東西 2間	8	東 1間・1間・0.5間	障	(押入か)床1.5間						
			南北 2間		南 1間・0.5間	障							
		御小座敷	東西 2間	8	東 4間四つ割	板戸・障	[廊下] 東1間						
			南北 2間		西 4間四つ割	障							
御小座敷	東西 2間	8	東 2間二つ割	？	[?]1間								
	南北 2間		西 2間二つ割	？									
御小座敷	東西 2間	8	東 2間二つ割	？	[?]1間、[欄?]1間 [付書院?]1間								
	南北 2間		西 2間二つ割	板戸・障									

第45表 建物・部屋 一覧(1)

建物名	建物規模	主な部屋名	部屋規模				柱・壁	床・畳・押入など	縁造・廊下・柱	その他	
			長さ	深さ	柱間						
					間	梁の種別					
御茶之間 ほか	東西9間 (16.36m) 南北4.5間 (8.19m) 巾6尺	御厨殿	東西	1.5間	5	東	0.5間・1間	板戸・壁		[附] 物置の西・北に 0.5間	
			西	2間・2つ割		壁					
			南	1間1尺5寸・0.5間		壁					
		御化装之間	東西	1.5間	4.5	東	1間・0.5間	板戸・？		(押入?)1.5間	
			西	1.5間		板戸					
			北	1間・0.5間・1尺5寸		襦・壁					
		御物置	東西	1.5間	4.5	東	1間・0.5間	壁			
			西	1間・0.5間		？					
			南	1間・0.5間		板戸・壁					
		御居間	東西	1.5間	6	東	2間	板戸			
			西	2間・2つ割		板戸・壁					
			南	1間・0.5間		襦・？					
		御茶之間	東西	3間	12	東	2間	板戸		[附] 南0.5間、「御 庫」の東0.5間	
			西	2間		板戸					
			南	3間・2つ割		襦					
		騎馬	東西	1間	4	東	2間・2つ割	襦・？		(床か押入)2間	
			西	2間・2つ割		襦					
			南	1間		襦					
御物置	東西	2.5間	8.5	東	1間4尺5寸	板戸・壁					
	西	1間・0.5間・1尺5寸		襦・壁							
	南	1間・1.5間		壁・？							
御次之間	東西	3間	11.5	東	2間・2つ割	襦・板戸					
	西	1間4尺5寸・1尺5寸		板戸・壁							
	南	3間・2つ割		板戸・壁							
奥	東西9間 (16.36m) 南北12.5間 (22.75m) 巾6尺	御客之間	東西	2間	8	東	2間・2つ割	壁・？	床1間	[部]1 「客之間」～ 「配膳」までの 西1間、「配膳」 の南1間	
			西	2間・2つ割		板戸・壁					
		聖女部屋	東西	2.5間	(12)	東	1.5間・0.5間	壁		[?]12間	[部]1 「聖女部屋」～ 「老女部屋」ま での東
			西	0.5間・1間・1間		襦・壁					
			南	1間・1.5間		板戸					
		老女部屋	東西	2.5間	7.5	東	1間・0.5間	襦・壁		押入2間	
			西	1間・0.5間		？					
			南	2.5間		板戸					
		御末	東西	3間	18	東	3間	なし？		押入1間	
			西	3間・2つ割		板戸・壁					
			南	1間・2間		板戸・？					
		水場	東西	2間	12	東	3間・1間・0.5間・0.5間	襦・壁		なし？	
			西	3間		襦・板戸					
			南	2間・2つ割		壁・？					
		？	東西	1.5間	4.5	東	なし	壁		[?]12間	
			西	なし		壁					
			北	なし		壁					
		御配膳	東西	2間	8	東	2間・2つ割	壁			
西	2間・2つ割		壁								
南	2間・2つ割		板戸								
氏部	東西	1.5間	6.5	東	0.5間・1間・1間	壁		押入1間	[部]1 「氏部」～「御 部屋」の西0.5 間南、「御部屋」 の南0.5間		
	西	0.5間・2間・2つ割		襦・壁							
	北	0.5間・1間		襦・壁							
料理人	東西	1.5間	7.5	東	0.5間・1間・1間	板戸					
	西	0.5間・1間・1間		壁							
	南	1間・1.5尺・1.5尺		板戸							
御膳番部屋	東西	2間	8	東	2間・2つ割	襦・？		押入1.5間？			
	西	2間・2つ割		襦							
	北	0.5間・0.5間・1間		板戸・壁							
御丁切	東西	2.5間	12.5	東	2.5間・2つ割	板戸		押入2.5間			
	西	2.5間・2つ割		襦・壁							
	南	2.5間・2つ割		板戸・？							
御部屋	東西	2.5間	10	東	2間・2つ割	襦・壁					
	西	2間・2つ割		襦・壁							
	南	1間・1.5間・2つ割		襦・壁							

第46表 建物・部屋 一覧(2)

建物名	建物規模	土名部屋名	部屋規模			柱・梁		床・欄・押入など	縁造・廊下・縁	その他
			長さ	面積	壁	柱間	梁等の種類			
表	小性頭部屋 ほか	小性頭部屋	東西 2.5間	15	東 3間二つ割	襖	格子内障子	[廊下] [西] [縁] 東2尺?	「次物置」の西に「水場」あり	
			西 3間二つ割		板付・壁					
			南 2.5間		壁・ク					
			北 2.5間二つ割		板付・壁					
			東 2間二つ割		襖					
			西 2間二つ割		板付・壁					
		御膳上座 御茶事部屋 兼水	東西 2.5間	10	東 2間二つ割	襖	壁・ク			
			西 2間二つ割		壁					
			南 2.5間		壁					
		御供出	東西 2.5間	20	東 4間四つ割	襖	壁			
			西 4間四つ割		板付・壁					
			南 2.5間		壁					
		下部屋	東西 3.5間	19	東 3間二つ割	板付・壁	襖・壁			
			西 3間二つ割		襖・壁					
			南 2.5間二つ割		板付・壁					
		次物置	東西 2.5間	10	北 0.5間・0.5間・2.5間二つ割	板付・壁	壁	押入2.5間	[廊下] 東1尺 [西]2尺?	
			東 2間二つ割		板付・壁					
			西 2間二つ割		板付・壁					
	出入部屋	東西 2.5間	7.5	東 0.5間・1間	板付・壁	襖	床1間・押入1.5間			
		南 0.5間・1間・1間		板付・壁						
		北 1間・1.5間		板付						
	次	東西 2.5間	7.5	東 0.5間・1間	板付・壁	襖・壁				
		西 1.5間		壁						
		南 2.5間		壁						
御上台所 ほか	東西約8間 (14.56m) 南北11.5間 (21.38m) 9.6尺	御上台所	東西 4間	24	東 3間二つ割	襖	[廊下] 「上台所」の北1.5間 [縁] 「本下部屋」の西	南側に土間?とコマダあり		
			西 1間・1間・0.5間・0.5間		板付・壁					
			南 1間・1間・0.5間・0.5間		板付・壁					
		台所部屋	東西 2間	10	東 4間四つ割	板付・壁	襖・壁	(押入?)2.5間		
			西 1間・1間・0.5間		襖・壁					
			南 2間二つ割		板付・壁					
		(台所?)	東西 6間	(49)	東 5間五つ割	壁	壁・板付	[物置?]2間		
			西 2間二つ割・0.5間・1間・1間		壁・板付					
			南 6間六つ割		板付・壁					
		本下部屋 小部屋	東西 2間	10	東 0.5間・1間・1間	板付・壁	襖・板付			
			西 0.5間・1間・1間		襖・板付					
			南 2間二つ割		壁					
		小部屋 下男部屋	東西 2間	10	北 2間	壁	壁・ク	(押入?)2.5間		
			東 1.5間・1間		壁・ク					
			西 1間・1間・0.5間		襖・板付					
		下男部屋	東西 2.5間	9	東 1間・1間・0.5間	板付・壁	襖	(押入?)1.5間		
西 1間・1間・0.5間	襖									
南 1間・1.5間	板付・壁									
			北 1.5間・0.5間・0.5間	板付・壁	(押入?)1.5間					

第 47 表 建物・部屋 一覧 (3)

「御木」の大小4棟は、幅1間の板敷の渡り廊下で繋がることで、個々の建物が独立した配置を見ている。またこれら4棟は周囲を塙で囲まれ、さらに「茶之間」と「御木」の間には奥向き専用の玄関である式台と門を備えることで、表の建物とは明確に区別されているのがわかる。

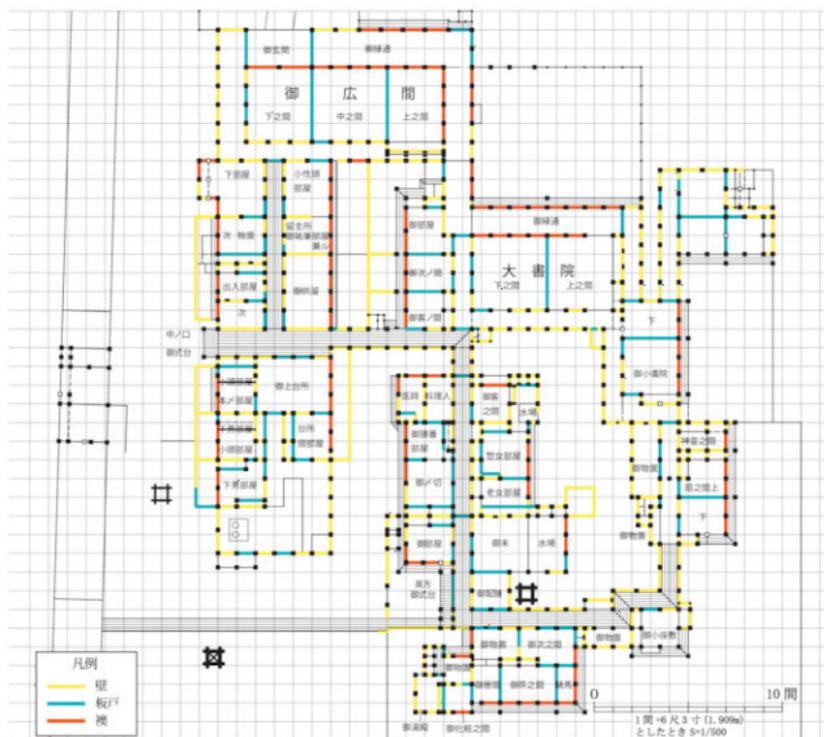
主要建物以外の施設を概観すると、表門から広間玄関にかけて「石櫃」があり、玄関前には来客の御供の待合所である「腰掛」がある。また建物群の南半部には台所棟や水場に隣接した位置に3基の井戸が確認でき、これらは描く太さに違いがある他、そのうちの一つには「×」印が記されているが、それらの理由は不明である。さらに絵図では屋敷の北東部が空白となっているが、『慶応元年仙台城下図屏風』(1865)からは、この場所に多くの木が植えられていたことがわかる。

### 3. 建具について

絵図中の色分けと「裏書」からは、建物の外周や部屋を仕切る建具の種類がわかる。但し絵図中には障子の表現が確認できず、数か所において建具表記の修正も行われているが、概ね当時の建物内の様子をうかがうことができる(第147図)。

表の建物を中心に見てみると、まず初めに大書院以下3棟は基本的には北および東側に庭などの空間が配置されることで、その部分には主に開閉可能で採光に適した障子を多用していることがわかる。障子は縁通りの廻る広間や大書院では建物外周と部屋廻りに二重に使用されており、これは部屋への採光と同時に部屋からの眺望を考慮してのこととみられる。しかし建物西側や南側においては、一定の採光が見込まれる位置にも関わらず、裏や内庭に面する理由からか、外周のみならず、部屋の面も壁となっている。特に大書院に関してはほとんど北側へのみ開口している状況である。壁に連子窓などを取り付けていたかは不明だが、この状況からは、特に北側にある広間や大書院の室内はあまり明るいものではなかったことがうかがえる。また3棟の部屋間の仕切りを見ると、建物全ての上之間と下之間との間の建具は「板戸」であり、この点からも採光面での不利さが見て取れる。さらに建物外周が襖部分の箇所については、周囲に3尺程度の濡縁が取付くとはいえ、これらが直接風雨にさらされることも容易に想像できる。

一概には比較できないが、仙台城本丸大広間を例に見ると、大広間は数多くの部屋の周囲に縁と落縁という二重の縁通りや廊下を配置している。『御本丸大広間地絵図』からは大広間の各部屋の仕切りはほとんどが襖や障子であることがわかる。また落縁の外側については開閉可能な「板戸」（雨戸）がはめられ、風雨や寒冷な気候への対策がとられている。但し片倉屋敷の奥向き建物では、上台所とある台所棟のような火を扱う場所は別として、建



第 147 図 『仙台御屋敷御作事之御絵図』に見られる建具

物外周に関しては壁が少なく、襖を多用している状況がうかがえる。このような表と奥の建物の別による建具の差が何に起因しているのかは明らかでない。

#### 4. 裏書について

絵図の裏側には絵図自体には直接書き込まず、別紙を貼り付けた「裏書」があり(第148図)、ここには絵図の名称や表記内容の凡例などが記されている。絵図名は本来ならそれを収めた袋や包紙の表に書かれているものだが、この裏書は何か別の紙に書かれていたものを切り取り、裏側に貼り付けたものと考えられる。

書き込みは幾つかの内容に分かれている。初めにある絵図の名称の、『仙臺御屋敷御家作之御絵図』からは、この屋敷が片倉家の「仙台屋敷」と呼ばれていたことがわかる。問題となるのは次の「但シ御広間并大書院小書院二限り六尺三寸間其他一字並間也」という記載である。この意味については、「広間」、「大書院」、「小書院」という表の中心建物については建物の柱間を6尺3寸(191cm)の基準で造っているが、その他全ての建物については「並間」としているとのことである。並間の解釈については、書き込みの時期を幕末と想定すると、1間が6尺(182cm)とみることができ、この裏書通りとした場合、屋敷の建物は柱間の異なる二通りの建物が混在していたこととなる。

仙台における近世初頭の建物の柱間を見ると、慶長15年(1610)に完成した仙台城本丸大広間や、寛永5年(1628)に造営された若林城の建物群は6尺5寸(197cm)で造られたことが判明している。これが寛永15年(1638)の仙台城二の丸御殿の造営以降は、6尺3寸が新たな基準として広く使用されたと考えられている。したがって延宝7年(1679)に完成した本屋敷については、当初は6尺3寸で造られたことが考えられる。

一般に屋敷の主要な建物については、その当時の基準となる柱間で全体が造られるものであり、もし延宝7年に絵図にあるような複数の建物を同時に建築した場合、以上のような建物の別により柱間を造ることは無かったとみられる。このことから、裏書の柱間の記述については、いつかの時点で建物の柱間を変える建替えが行われた可能性があることを示唆するものと言える。

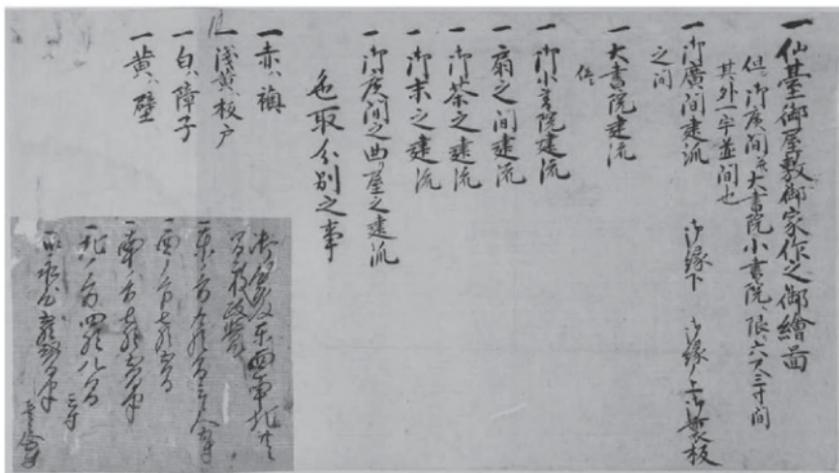
続いて記載されている、「一 御広間建流 御縁下 御縁ノ上御裏板之間」以下、「大書院建流」、「御小書院建流」、「扇之間建流」、「御茶之建流」、「御末之建流」、「御広間之曲り屋之建流」には、絵図中に描かれる建物名や代表する部屋名が記されているが、この中の「建流」の意味するものは不明である。また「御縁下 御縁ノ上御裏板之間」の「縁下」「縁ノ上」については、広間に伴う縁通りにかかわる記述とみられるが、「裏板之間」についてはどの部分かは判然としない。「広間之曲り屋」については、東西棟である広間の南に接続する「小性頭部屋」を含む南北二棟のこととみられるが、これらの建物が広間とは棟を別にする曲屋部分として扱われていたとみられる。

さらに裏書の左下には、「御屋敷東西南北共二間数改覚」と表題らしきものが書かれた貼り紙がある。そこには屋敷地の各辺や長屋の長さが記され、屋敷の規模を数値的にうかがい知ることができる。但しこの間数の基準が建物同様に6尺3寸か6尺の何れかによるものかは定かではなく、現地の状況や絵図に描かれた長さからこれを特定することはできない。実際に、二つの絵図を模式化したもので各辺や長屋の距離を計測し、これを絵図の内容と照合してみても合致はしない。また表題にある「間数改覚」の意味については、当初の屋敷地の範囲に変更があったのか、或いはある段階での1間の長さを変更することによる再計測の結果を示すものなど、不明な点が多い。

##### 御屋敷東西南北共二

##### 間数改覚

一 東ノ方 九拾間三尺五寸	(172.96 m・164.68 m)
一 西ノ方 七拾五間	(143.25 m・136.35 m)
一 南ノ方 七拾五間半	(144.21 m・137.26 m)
一 北ノ方 四拾八間三寸	(92.59 m・87.17 m)
一 御永屋 五拾二間半一尺五寸	(100.73 m・95.90 m) ※カッコ内の左は6尺3寸、右は6尺とした長さ



第 148 図 『仙台御屋敷御家作之御繪図』裏書

仙台市博物館所蔵

## (2) 仮称『御成繪図』について

### 1. 繪圖の概要

仮称『御成繪図』(以下『御成図』)は前図と同じく仙台市博物館所蔵で、表・裏共に繪図名は見られない(第 149 図)。大きさは縦 89.6cm、横 78.0cmで、体裁は「描繪図」で、料紙の貼り合わせは認められない 1 枚の繪図である。方眼は引かれず、基軸部分に限らず複数箇所にて定規を用いたとみられる直線が見て取れるが、殆んどの部分は使用せず、その結果、全体に粗雑な感じを受ける。おそらくは何らかの目的で別の繪圖を写したものとみられる。しかしながら繪圖の模式図を作成する過程において、「屋敷繪圖」ほどではないが、この繪圖もまた柱位置や柱筋がわりと正確に描かれていることが判明した(第 149 図)。

繪圖は基本的に墨で描かれているが、一部に朱書きで加筆した印や線が多数確認できる。またこの繪圖の最大の特徴は、繪圖中に建物や部屋、施設の名称が確認できる一方で、門外に「殿様」や「若殿様」とある他、屋敷内にも「近習衆」や「目付衆」などの身分や役職の書き込みや、「マク」「大提灯」などの道具類といった「屋敷繪圖」とは内容を異にする書き込みがみられることである。これらについては字体や大きさの違いが見られないことから、建物名などと共に繪圖の製作段階で書き込まれたものとみられる。

繪圖に描かれた範囲を見ると、「屋敷繪圖」では建物群や長屋のみが描かれているのに対し、「御成図」では加えて屋敷全体の外郭施設のほか、南側には池や馬屋が描かれており、正確さはともかく、より屋敷全体の様子がうかがえる繪圖となっている。

### 2. 建物の配置状況と『片倉屋敷繪圖』との相違点

第 150 図の模式図は、「御成図」に描かれた建物や部屋、諸施設の名称を抜き出したもので、「屋敷繪圖」との比較のため、人名や役名、幕などの道具類の一を省略している。両繪圖は長屋や諸々の建物の配置については概ね一致しているが、個々の建物規模や細部の位置関係などにおいて多くの相違点が確認できる。

はじめに部屋名の違いを見ていくと、外回りは西側に長屋があり、その他に塙が廻されるのは同様であるが、「屋



くが、この門は部屋への出入り口とみられる。

表の建物群を見てみると、広間は東西に並ぶ3室や縁通りの状況に変わりはないが、「御式台」とある玄関の両脇には階段があり、正面の下ノ間には直接上がらなかったと考えられている。東側の廊下には「御成式台」、その北側に「御成門」といった藩主の御成りの際のみ使用する門や式台があったことがわかる。大書院と小書院もまた大きな違いはないが、「屋敷絵図」の「下之間」が「御成図」では「中ノ間」となっている。広間南側の2棟については、幾つかの部屋で名称の違いが確認できる。特に北側棟では「屋敷絵図」で「出入部屋」とあったものが、「御成図」では「保二郎様御部屋」となり、ここが片倉家の身内の者の居室となっていたことがわかる。また南側棟では「上台所」が「中台所」となることで、上・中・下の各台所が存在することとなり、其々の役割が問われるところである。「屋敷絵図」では抹消線が消され、部屋名の変更があった2室については、変更後の名称で記されている。「御成御殿」とみられる「御休所」は、主室の他に「御次」、「物置」から構成される建物であることがわかり、おそらくは「兩殿」も備えていたとみられる。

奥の建物群を見てみると、「扇之間」は「梅之間」という名称に変わり、「小座敷」はそのままだが、建物の描き方が西側の「茶之間」と共に、部屋割り線のない簡略化したものとなる。さらに「御末」もまた同様の部屋が認められる一方で、部屋名の無い部屋もある。

次に両絵図での建物配置等の相違点を表したのが第151図の合成図である。これは広間北東角を基点として両絵図の模式図を合成したもので、細部の違いは多数認められるが、大きくずれている箇所が複数みられる。一つは広間の東西規模が異なることで、南側の2棟の建物全体が東西方向に半割されていることである。この理由は、より正確と考えられる「屋敷絵図」では「広間下之間」の東西奥行きが3間半なのに対し、「御成図」ではこれを3間として描いていることに起因するもので、おそらくは別図からの写し間違いと考えられるものである。また「御休所」や「御成御門」と塀の配置に違いがみられるが、塀については造り替えによる可能性もある。

双方の違いで最も大きく目立つ箇所は、奥側の4棟の位置が「御成図」では全体に北に寄って描かれていることである。これは「梅之間」や「御末」が「御成図」では小さく描かれ、さらに「梅之間」「小座敷」を繋ぐ南北の廊下が描かれないことが原因とみられ、これにより奥側の建物群の配置が全く異なった印象を与えている。この理由については、双方の絵図が正確に描かれていると仮定すれば、建替えがあったこととなるが、一方で「御成図」の簡略化した描き方からは、この絵図が建物自体の描き方にあまり重点を置いていないことを示すものと言える。

### 3. その他の施設状況

表門から広間玄関にかけて「石タン」という敷石の通路があり、「コシカケ」が設置されているのは「屋敷絵図」と同様であるが、「御成図」には建物と長屋の間の露地に、表門から中ノ口に廻り込む、通路状の別の「石タン」がみられる。また最も目立つものとして挙げられるのが、「中島」を伴った「池」の存在である。この池は小書院東側の門を出た屋敷南東部の庭園にあったものとみられる。絵図からみた池の形状は北西側に張出を持った隅丸方形で、絵図からみた規模は30m近くあったことがわかる。西岸には池に張り出した「茶屋」が存在していた。池と川側の塀との間には「弓場」があり、さらに塀際には「物見」や「イナリ（稲荷）」があった。屋敷の南辺も塀により区画され、塀の内側には東西に長い「ほぼ（馬場）」が存在し、馬場の長さはほぼ屋敷幅と同じく100m以上はあったと推定される。また馬場の北側には「馬や」が置かれ、さらに馬場と池の間には「馬見所」という、乗馬の鍛錬や馬を鑑賞する専用の場所が置かれていた。馬屋や池の南側にみられる二重線は、馬場との境に配置されていた土手を表現している可能性もある。井戸は「屋敷絵図」では建物周辺に4基が確認できるのに対し、「御成図」では表門の脇と中廊下の南側にある2基のみである。屋敷外では三方の角に「番所」が置かれていたことがわかる。



#### 4. 施設以外の記載内容について

「御成図」には通常は屋敷絵図には描かれない人物や道具類がみえる。まず気づくのが、門外に見られる「殿様」以下の存在である。表門の北側には「殿様」、「若殿様」、「三之助様」の3名が東の大橋方向を向き縦に並び、その西側には、「保二郎様」と二名の「御家老」が並んでいることがわかる。これらの人物を考えるにあたっては、長屋に一室を構える「真壽院様」の存在が鍵となる。真壽院は片倉家9代当主 景貞の正室となった中村日向の女の専断のことで、出家後の名前である。景貞が没したのは天保11年(1840)9月11日であることから、絵図はその後に製作されたものであり、したがってここに見える殿様は10代当主の宗景となり、若殿様はその子で11代当主の邦慶、そして三之助様は孫の景範とみられる。また離れて控える「保二郎様」は、景貞の十五男で、後に兄宗景の養子となった景彰とみられ、藩主の御成りの際には、このように片倉家当主をはじめ、身内や家老が屋敷の外で出迎えたことがわかる。

その他に御成りの様子を見てみると、表門を入ると大提灯を立て、幕が張られると共に、「不断」や「武頭」などの人物が配置され、平重門や御成門の脇には「長柄」、「烏毛」、「手槍」など槍や指物が立てられている。主な部屋にも人が配置され、広間の上之間や中之間、縁通りには「近習衆」、「徒目付」、「定御供衆」、「目付衆」、「徒組衆」や、大書院には「小性頭衆」、「近習衆」、「小性」、「右筆」の諸役が居並ぶ。さらに小書院では上之間の奥に藩主が着座し、「奉行衆」、「番頭」、などが下之間に着座する状況が示されている。このように藩主の御成りに際しては、概ね小書院では当主やその身内らと対面し、大書院では囃子が行われ、広間では片倉家の親戚や家臣の拝謁が行われたとみられる。また池や茶屋の周辺にも幕が張られ、片倉家の奉行衆の家臣が居並ぶ様子が描かれることから、こゝでも御茶や馬の鑑賞などの饗応が行われたことがわかる。

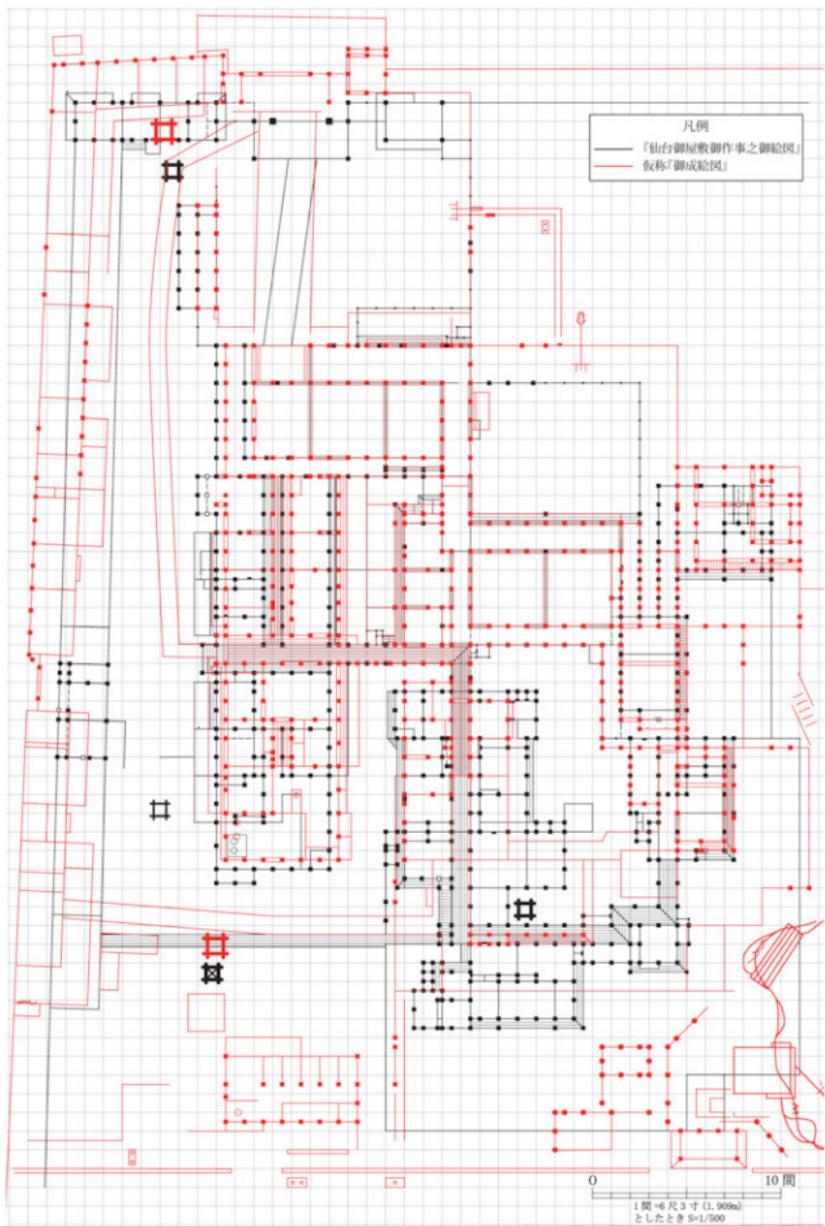
### (3) 二つの屋敷絵図の製作年代と性格について

#### 1. 仮称『御成絵図』の製作年代と性格について

「御成図」については、前述の通り「真壽院様御部屋」の存在から、絵図内での登場人物が特定できることが判明した。つまりこの絵図は、片倉景貞が没した天保11年(1840)から真壽院が没する嘉永3年(1850)までの間に製作されたことになり、この間に行われた藩主の御成りに関わり製作された絵図であることがわかる。

『治家記録』や『片倉代々記』には藩主の片倉屋敷への御成りの記事が幾つか確認できる。しかしそれは6代藩主 宗村の代までで、7代 重村から12代 斉邦の代には確認できない。但し景貞の代以降、編集されなかった『片倉代々記』に代わる史料として伝わる『年代重要記』には、嘉永2年(1849)3月3日に、「太守慶邦公仙台御屋敷御立寄」とあり、13代藩主 伊達慶邦の片倉屋敷への御成り記事がみられる。その後の御成りは、同じく慶邦による安政6年(1859)が見られるが、この時は既に真壽院は没しており、したがって「御成図」は嘉永2年の御成りに関わり、その直前に製作されたものであることがわかる。また年代重要記にも弘化3年(1846)の屋敷火災の記事が見られると共に、その2年半後の嘉永2年(1849)3月29日には、「仙台御屋敷御普請御成御祝儀」とあることで、火災後に屋敷が新造されたことがわかる。以上のことから、「御成図」にみる屋敷はこの火災の後に再建された姿を描いたものであり、嘉永2年の御成りは、同月に執り行われる予定だった普請成就の祝儀の前に執り行われたものであることがわかる。

「御成図」は全体に描き方が粗雑で、特に南側の建物内容を省略している。これについては御成りという一大行事を前にして、人や物の配置を事前に定めたいわば「儀式図」の類の性格のものとの考えに立つと、建物や部屋の描き方にはあまり重点を置かず、行事に直接関わりがない部分は多くを省略する意図が見て取れる。このことは逆に描かれた建物や部屋の在り方が当時の屋敷の姿を正確に伝えていない可能性が高いことを示すものと言える。さらに「屋敷絵図」では建物から長屋までの屋敷の一部が描かれるのに対し、この絵図では屋敷全体を対象としてい



第 151 図 『仙台御屋敷御作事之御絵図』・仮称『御成絵図』合成図

る。これは行事が屋内のみならず、屋外でも催されることから必要とされたことが推定される。

## 2. 『仙台御屋敷御作事之御絵図』の製作年代と性格について

絵図には方眼上に屋敷の建物や部屋割り、諸施設の規模や寸法を正確に記載している他、建具の種類までを色分けて描いており、典型的な屋敷絵図と言える。絵図の製作年代を考えるにあたっては、記載内容にそれを推察できるものは認められず、逆にそれが長く伝えるべき屋敷図としての性格を表している。「御成図」との関係を考えて場合、台所棟の「小頭部屋」と「下男部屋」がそれぞれ「本メ部屋」と「小頭部屋」に変更され、変更後の名称が「御成図」に記載されていることは、「屋敷絵図」が「御成図」に先行して製作されたことを示している。しかしこの絵図が弘化3年の屋敷火災の前後どちらかに製作されたかは不明であり、また屋敷絵図が江戸時代初期には「貼絵図」だったものが、後に「描絵図」へと移行する中、描絵図の始まりを屋敷造営当初の延宝年間まで遡らせるのは難しいとの意見もある。

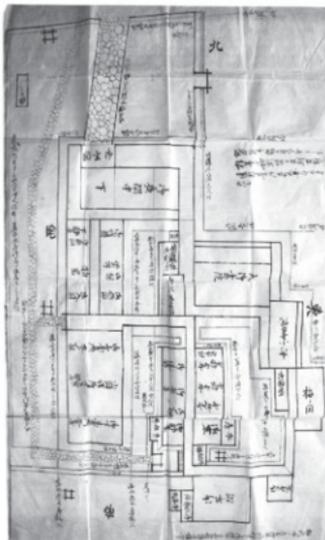
そこで問題となるのが、「裏書」の冒頭に記された柱間の記述である。前述の通り建物は広間以下3棟の主要建物を6尺3寸間とする以外、他は並間としている。3棟が延宝年間以降の建築であることは理解できるが、並間は仙台地域においては幕末以降に一般化するとされている。大型建物が建ち並び、かつ格式を重んじる屋敷の中で、当初から柱間を変えた二つの建物を建築することには違和感があり、そこには建築年代に違いのある建物が屋敷内に混在した可能性を示すものと考えられる。

幕末の弘化3年の火災では、延宝7年に建てられたであろう屋敷の建物はほとんどが焼失したと考えられる。その後建物は建て直されるが、再建にあたっては、以前のものとほぼ同じに造る方が幕府や藩の許可を得やすく、財政的負担も軽いと考えられ、一部の建物は火災前とほぼ同様の規模や部屋割りで再建されたことも十分考えられる。この考えに立てば、屋敷の主要建物である「広間」、「大書院」、「小書院」については、早急な再建の必要性から建築当初の姿で再建されたが、一方で他の建物は何らかの理由で当時主流となっていた6尺間で再建された可能性もある。したがって「屋敷絵図」の製作年代としては、延宝年間までは遡らないにしても、絵図中に残る多くの修正や、後に貼られた裏書内容にみられる時間幅から、火災のあった19世紀中頃を大きく遡る可能性もあり、描かれた建物は当初の姿をほぼ伝えていることも十分考えられる。さらに言及すれば、屋敷図はそう多く製作するものではないため、この「屋敷絵図」が「御成図」製作の際の元図となったことも考えられる。

## (4) 個人所蔵の屋敷絵図について

片倉屋敷に関しては、個人が所蔵するもう一枚の絵図が残されている(第152図)。絵図の名称は不明の描絵図である。実見はしていないが、描かれた範囲は建物部分のほか、表門や長屋の内側を線のみで表し、南側の池や馬場の記載は無く、「休所」も描かれていない。特徴としては、各建物とほぼ相似形で周囲を取り囲む朱線が引かれており、これは位置的に軒下の雨落ち溝に相当している。

これまで見てきた二つの絵図と比較すると、建物はより簡略化され、部屋名の記載はあるが、部屋割りの線が省略されている。しかし建物配置を見ると、建物相互の位置関係が「屋敷絵図」に類似し、概ね正しく描かれていることがわかる。また部屋名を見



第152図 個人所蔵の片倉屋敷絵図

ると、先の二つの絵図で部屋名称に変化があった「小性頭部屋」棟では、「屋敷絵図」とほぼ同じ部屋名が確認でき、「本メ部屋」など修正後の部屋名があることで「屋敷絵図」より新しいものと判断できるが、「扇之間」が「御成図」と同じ「梅ノ間」とある一方で、「屋敷絵図」と同じく「上台所」がみられることから、本絵図が「屋敷絵図」と「御成図」の間の時期に製作されたものであることがわかる。また大書院西側の部分には「若殿様御部屋」とあるが、人物が特定できない一方、他の絵図にはここが「御部屋」としか記載されておらず、この部屋は代々身内の物が居住した部屋であったこともうかがわせる内容である。

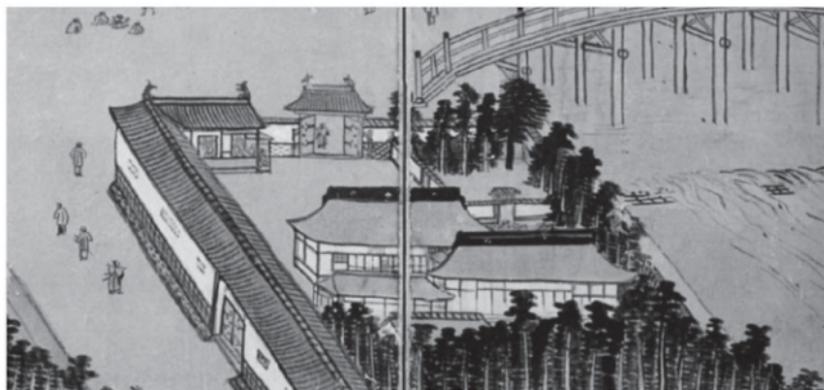
一方、朱線の脇には、長さや深さの寸法のほか、「雨水」、「悪水」、「溝」、「樋」といった文字が書き込まれている。このことから、朱線や文字は雨水や屋敷内での生活排水を軒下の雨落ち溝などを通して屋敷外へ流すための溝や樋に関する配置や長さ、深さを記したもので、この絵図は所謂、「水祝図」と考えられる。同様の絵図は仙台城二の丸の絵図にもみられ、特定の目的のために製作された絵図といえる。絵図からは屋敷での生活を維持していく上で、雨水や生活排水などの水処理が大きな問題であったことがうかがえる。

### (5) 『慶応元年仙台城下図屏風』に描かれた片倉屋敷について

仙台市博物館所蔵のこの屏風は、弘化3年の屋敷火災から約20年後の慶応元年(1865)に吉成東温により描かれたもので、その一部に屋敷の主要な建物の他、門や長屋を南側から俯瞰した幕末の屋敷の姿をみることができる(第153図)。

中央には東西棟の大型建物が2棟あり、これは広間と大書院とみられる。しかし南西側にある別の2棟に関しては、「屋敷絵図」や「御成図」にみる南北棟の「広間曲屋」とは棟方向が異なる東西棟の建物が描かれている。広間と大書院の屋根は棟部分と色が異なることで板葺きと考えられるが、他の2棟については定かではない。また広間西面や大書院南面の壁が白く描かれており、「屋敷絵図」の記載通りの土壁と考えられる。表門の東側や屋敷の東面、さらに平重門や御成門に取付く内堀も土壁とみられ、特に表門周辺の腰壁にはなまこ壁のような表現がみられる。

長屋の配置は他の絵図と同様で、外側の状況を見ると、長屋際の土盛りや裏門前の階段の存在から、屋敷は周囲の道路よりも一段高かったと推定される。長屋の壁は下部に板を貼った腰壁で、部屋の上には大小の連子窓を設け、屋根は広間などとの彩色の違いから瓦葺きと考えられる。また屋敷の北東側や隣接する南側の屋敷との間には背の高い多くの樹木が植えられていたことがわかる。



第153図 『仙台城下図屏風』 慶応元年(1865)片倉屋敷部分

仙台市博物館所蔵

### 第3節 『片倉代々記』・『治家記録』にみる片倉屋敷

片倉屋敷に関する記録に関して、片倉家側の『片倉代々記』・『年代重要記』や藩側の『治家記録』についての主な記事をまとめたのが第48表である。以下では発掘調査成果に関わる記事のみならず、屋敷への理解から、藩主の御成りや、それに伴い記述された屋敷内の部屋名や諸施設について取り上げてみた。

#### (1) 「御成」記事について

藩主の片倉家仙台屋敷への御成りに関しては、「立寄」とされるものを含めると、片倉家3代景長から11代邦憲までの間に計20回上行われている。藩主の中でも最も回数が多いのが4代綱村と13代慶邦で、綱村の時は片倉家4代村長の代の天和2年(1682)から貞享4年(1687)の間に5回行われている。御成りの目的としては、延宝8年(1680)や嘉永2年(1849)のこれまで見てきたような屋敷の普請成就に関わるものがある。嘉永2年の御成りに際しては、屋敷の普請成就が3月29日なのに対し、御成りはその前の3月3日に行われている。『栗山公治家記録』には、伊達慶邦が3月22日に江戸へ向けて出府したとの記録があり、その前の御成りとみられる。その他には4代村長、5代村休、6代村定、7代村廉の代替りの際にも御成りを受けている。また、村休の代に綱村を迎え、能を催したり、「桜花御覧」とあるように、庭にあった桜を見物することもあった。さらに村廉の室が6代藩主宗村の妹であったことから、「宗村公仙台屋敷奥方へ被為入」とある他、11代邦憲の時には「槍刀試合御覧」や「初御節御覧」のための御成りがあったことがわかる。これらの記事については、片倉家側の記録には屋敷への「御成」や「立寄」という言葉で記されているが、『治家記録』では、「入セラル」、「御出」、「出駕」と記されている。「御成図」に描かれた嘉永2年の御成りに関して、『代々記』には「立寄」とあり、これら双方の内容にどのような違いがあるのかは定かではない。

#### (2) 記事にみる屋敷の「部屋」について

御成りに関する記事からは、屋敷内で催した様々な儀式や行事が何処で行われたかがわかり、中でも多くみられるのが「広間」、「大書院」、「小書院」、「茶亭」などである。各々の記事からはこれらの部屋が行事の中心であったことがわかるが、『治家記録』では「大書院」と「小書院」の区別が無く、「書院」としている。また「九曜之間」で「御目見」を行ったことや、「松之間」で膳をとったことが確認できるが、これらの部屋名は両絵図にはみられず、「松之間」については別に「御休所松之間」との名称があることから、この部屋は「御休所」である御成御殿を指している可能性がある。

そのような中で記事には見られるが、絵図中には全く描かれないものが「舞台」である。関連する施設としては「舞台之間附屋敷台」の記事がみられる。片倉家のような屋敷には舞台が存在したことは容易に想像でき、一般に舞台は多くの場合、外舞台を書院などから観覧することが想定されるが、絵図にはそれらしき施設は確認できない。この点について記録には、大書院や小書院では、「能」をはじめ、「御囃」、「狂言」、「調物」などが度々行われており、屋敷では書院がこのような催しを行う場であったことがわかる。このことから、「舞台之間」は内舞台的な場として大書院か小書院の一室に一時的に設けられた部屋であることが推定される。



## 第6章 検出遺構と出土遺物のまとめ

### 第1節 検出遺構について

3年次にわたる調査では、主に近世の屋敷跡に関わりとみられる幾つかの時代や様々な種類の遺構を多数確認した。しかし同時に、本地区は後世の大規模な削平や攪乱により、遺構の残存状況は極めて悪く、近世における本地区での様々な営みを解明するにあたっては、極めて厳しい状況であることが判明した。

以下では、確認した個々の遺構の特徴を種別ごとにみていくことにより、近世初期から幕末に至るまで本地区に存在した片倉屋敷や他の屋敷について考えることとする。

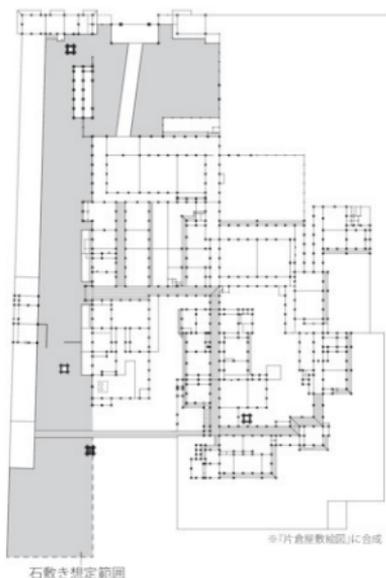
#### (1) 石敷遺構について

Ⅲ a 層石敷遺構とⅢ c 層石敷遺構は、各次の調査において南北の広範囲に確認されており、近代の練兵場に関わる整地土であるⅡ層の直下であり、両石敷きの下面に敷かれたⅢ b 層・Ⅲ d 層の整地土を含めても層中から近代の遺物は全く出土していない。当初、この石敷遺構は練兵場に関わる施設の一部や現代の所産の可能性も考えたが、近現代の本地区の地図や古写真にはそのような施設の類は全く確認できず、出土遺物からも石敷きは近世に敷設されたものであり、他の遺構との重複関係からはその最終段階にあたる遺構と判断される。

石敷遺構は二面存在することで二時期にわたる可能性があるが、上層のⅢ a 層石敷遺構は調査区北部のみでの残存であり、北側以外は完全に削平され、おそらくはⅢ c 層石敷遺構の上部も多少とも削られている可能性が高い。

広範囲に残存するⅢ c 層石敷遺構は、確認できるだけでも東西 13 m 以上、南北 70 m 以上の広がりをもち、確認遺構中では最大規模の遺構である。敷設範囲を見ると、残念ながら東側は近代の練兵場造成によるとみられる削平や現代の攪乱等により完全に失われているが、西側範囲は調査区西壁ライン部分で確認した SA2 や SB9 の南北方向の遺構とほぼ一致しており、ここがかつての石敷きの西端と判断される。但し北端や南端は調査区外のため不明だが、北が大手門へと続く追廻地区北側の道路まで、また南が調査区南側の東西道路近くまで広がる可能性がある。

他の遺構との重複関係は、石敷き上にある建物跡や溝跡等の遺構は皆無で、最大の特徴として多数の土坑をはじめ、近世段階とみられる全ての遺構を覆い隠すように敷設されていることである。土坑群の中には幕末の屋敷火災後に掘削されたものが多いとみられ、以上のことを勘案すると、石敷遺構の範囲は片倉屋敷の両絵図に確認できる屋敷建物と西側の長屋に挟まれた露地部分にほぼ相当し、その地表面に敷かれた施設と考えられる。その場合、露地の東側には屋敷建物が建ち並ぶこととなり、石敷遺構は確認範囲の東側にはあまり展開しない状況が推察される。また石敷きの西端の状況を見ると、一部で乱れたような拡散はあるが、その範囲が SA2 の掘り方上や SB9 の東側柱列でほぼ止まっている。これ



第154図 片倉屋敷西側・正面の石敷き想定範囲

らの遺構はある段階で屋敷の西側に存在した崩跡や長屋に関わる構築物と考えられることから、石敷きはこれらの際まで敷設されていたとみられる。

2面の石敷遺構については未掘のため詳細は不明だが、SK77やSK499など、おそらくは屋敷火災後に人為的に掘られた後、間も無く埋められた大型土坑の上部では、Ⅲc層石敷遺構が凹レンズ状に明瞭に窪む状況が確認できた。この状況からは、最初に敷かれたⅢc層石敷きが、土坑の埋戻し後あまり時間が経過しないうちに敷設されたことで、土坑内の埋戻し土が落ち込み、これにより再度Ⅲa層石敷きが敷き直されたことが推定され、両石敷きの敷設時期にはさほど時期差が無いことが考えられる。

## (2) 建物跡について

建物跡と崩跡などの区画施設の区別については、残存状況の悪い本調査においては難しい状況にあるが、調査では礎石跡や柱穴が面的に展開せず、柱列のみの確認であっても、礎石立ちの可能性のあるものや、柱間が近世の基準とされる6尺5寸や6尺3寸に相当するものについては建物跡として扱った。

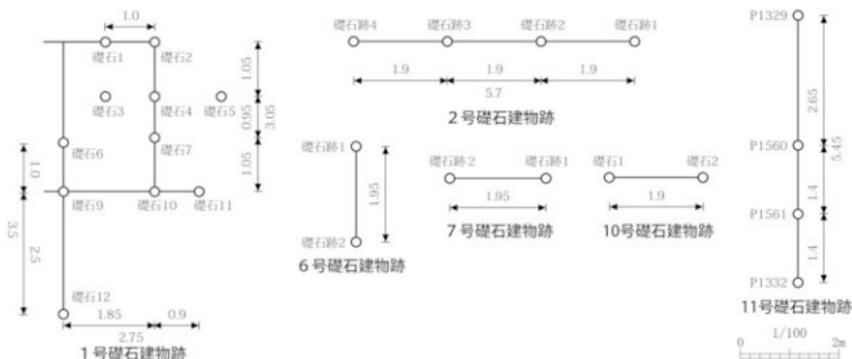
### [礎石建物跡]

礎石建物跡には小型ではあるが礎石が残存するものや、礎石は失われているが、下部構造の掘り方内に根固め石を入れた礎石跡が残存するもの他、柱穴列によるものがある。

最も残存状況が良好なのはSB1とSB10で、これらは本来、Ⅲc層石敷遺構に覆われていたが、礎石上面が石敷き面から露出していたものである。礎石は偏平な円盤で、大きさは径15cm～35cm程度と小型で、石敷きにより掘り方規模は確認できないが、礎石より一回り大きい程度で、根固め石をほとんど含まない状況が一部で確認できた。これらの柱間はSB1が6尺5寸の半分程度、SB10が6尺3寸に近いが、一部での計測のため定かではない。

もう一つのタイプはSB2、SB6、SB7、SB11で、礎石は失われているが、掘り方内に径が大きめの根固め石をまばらに入れたSB2、SB6と、小礫を密に詰めたSB7とSB11の2種類があり、SB11の在り方からは大型建物の基礎の一部である可能性もある。これらは礎石跡のみの残存のため、いずれの柱間も6尺5寸か6尺3寸かは判別できない。

以上の礎石跡については、掘り方規模からみて後者の方がより大きな負荷のかかる柱の基礎であったものとみられ、根固め石の違いも建物の規模や種類の違いを示していることが考えられる。SB7とSB11については他の建物跡より南北軸がやや西に傾き、大型土坑や石組溝跡より新しいことがわかり、これらの基礎構造の違いは時期の違いを示している可能性もある。



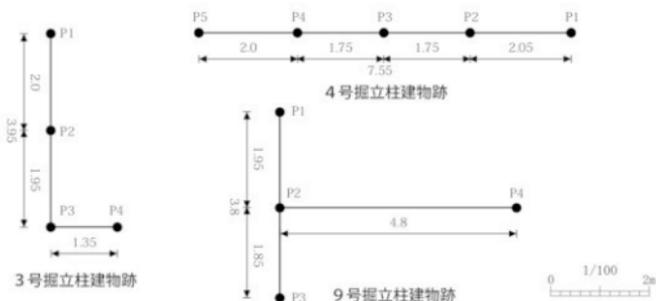
第155図 礎石建物跡模式図

### [掘立柱建物跡]

建物を構成する柱穴跡には底面に柱の沈下を防ぐための底石を設置するものとし無いものがある。SB3は掘り方底面に扁平な礎を置き、柱間は6尺5寸に近く、SB5は柱痕跡は認められるが、底石は無く、柱間にはばらつきがあり、南北軸はやや西に傾いている。

調査区西側に配置されるSB9では4基の柱穴を確認しており、掘り方底面に底石は無い。柱穴自体は小型で、細めの柱痕跡とその抜き取り穴を確認した。柱間は南北列が二間とも6尺3寸で、東西も6尺3寸の2間半分の長さで判断できる。この建物跡は調査区及び長沼と平行関係にあり、SA2とはほぼ同位置で南北に重複している。隣接して雨落ち溝跡などは確認できなかったが、この建物は位置的に片倉屋敷の西辺を区画する長屋の推定位置に近く、長屋に関係する一部の可能性が高い。

幕末に描かれた「仙台城下図屏風」には片倉屋敷の西辺に長屋が描かれているが、そこからは長屋が礎石立ちか掘立柱かは判断できない。周辺での削平状況を考慮した場合、SB9建物跡が幕末期の長屋本体の基礎なのか、或いは間柱的な補助柱なのか、さらには長屋に先行する古い施設の基礎なのかなど、判断が難しい。



第156図 掘立柱建物跡模式図

### (3) 堀跡について

堀跡とみられる遺構は基礎構造の違いにより2つの種類に分けられる。一つはSA1・2・3・5にみる基礎の掘り方が溝状となるもので、もう一つは個々の柱穴列によるものである。前者の長さは調査区を東西に横断するSA2以外は途中で途切れるやや短いもので、SA5が幅が広く深いのに対し、SA3は残存状況を差し引いても本来幅が狭く浅い掘り方である。確認した柱痕跡の太さはSA5が15cm程度とやや太いのに対し、他は10cm程度ある。これら柱痕跡の間隔は、SA5が1.4mとなる以外はSA1とSA2が60cm程度と狭く、これは堀の規模や構造上の理由によるものと考えられる。またSA1とSA5では柱痕跡の位置が北側の掘り方壁面に沿っており、控柱は確認できなかったが、若林城跡での調査例から、この地区では堀を境に南側が屋敷内でも内側的な場所とみることができる。

これに対し、柱穴列によるものは、SA6が礎石立ちの可能性がある以外は掘立柱構造で、削平状況により掘り方の規模や形状は異なるが、何れも柱痕跡が明瞭で、掘り方底面に底石を設置している。柱痕跡の太さは12cm～17cmと溝状の基礎と比較して太く、柱間も4基全てが1.23mから1.28mとほぼ同一であり、規格性の強い構造であることがわかる。

両構造の堀跡については、前者が石敷遺構や多くの土坑と重複し、それらより古い傾向がみられるのに対し、後者は重複遺構が殆んど無い状況ではあるが、これは東側の削平度合いが高い地区にあることで、土坑が密集する地

区から外れていることが大きな理由と考えられる。また各方向性については、前者が西側に位置する長沼や道路とは全て平行関係にあるのに対し、後者の南北軸は全て西に偏るのが大きな特徴である。

そのような中、SA2は長屋の一部の可能性の高いSB9と殆んど重複し古いことで、時期は不明だが、屋敷の西辺を区画したかつての外郭施設と考えられる。ここには最終的に2間半幅の部屋を伴う長屋が配置されるが、それ以前は屋敷の西辺を塙で区画していたと考えられる。

#### (4) 井戸跡について

井戸跡としたものはSE1～SE5の5基があり、他にも可能性のあるものとしてSK36とSK183の土坑がある。相互の配置に規則性は無いが、SE2とSE3が北側に位置し、SE4とSE5が南側で近接するほか、SE1のみが石敷遺構の敷設範囲内にある。これらを構造面からみると、SE1以外の4基は石組みの井戸跡で、石組み背面には裏込め石を充填するなど、頑丈な造りとなっている。石組みはSE2とSE3がやや大きめの割石や円礫で積むのに対し、SE4とSE5は円礫主体で、特にSE4では小さめの石を使用している。また後者では一部で縦長の石材の小口を打ち欠き、内側の面を作っているのが特徴的である。これに対しSE1は平面規模こそ他と同様で、壁には石組みや木製の井戸枠などを設置していた可能性は高いが、浅いのが特徴である。

各井戸跡の確認状況はSE2とSE3が東側に位置することもあってか、確認面が地山V層、又はⅢd層やⅢe層であり、構築年代が特定しにくいのに対し、SE4とSE5は瓦礫や多量の炭化物を廃棄した大型の土坑上に構築されている。またSE1は一部で埋土上部がⅢc層石敷遺構に覆われる状況が確認されたことから、石敷きの敷設以前に存在していた井戸と推定される。全ての井戸内には瓦や礫など多量の廃棄物が入られ、廃絶時期は不明だが、全てが人為的に埋められている。

以上の特徴をまとめると、SE4とSE5は大型の土坑より新しく、また壁石の加工から、幕末の屋敷火災直後に構築された井戸と想定されるのに対し、SE2とSE3は他遺構との重複関係が無く、出土遺物にも頼る状況にも無いが、仙台城の築城当初から石垣の石材に使用される玄武岩の割石を壁石の一部に使用することもあり、SE4やSE5よりは古い時期の井戸とみられる。SE1もまた、出土遺物からの所属時期の特定は難しいが、石敷遺構との関係からは屋敷火災以前、若しくは直後に廃絶した井戸と考えられる。

#### (5) 溝跡について

調査では確認長や幅の他、構造や方向の違いにより様々な種類の溝跡を確認した。これらの溝跡は幾つかの異なる性格を持つとみられ、以下では主に掘り込みを行った溝跡について、個々の特徴や他遺構との関係をみでみる。

溝跡には主に建物の周囲を取り囲むものの他、屋敷内全体での排水を目的としたもの、さらには屋敷内や外郭地区での区画を目的としたものなどがある。建物周囲の排水を目的として建物に隣接する、雨落ち溝を兼ねた溝跡としてはSD1、SD21、SD22等がある。SD1はSB1の北辺に平行して位置し、建物同様にⅢc層石敷遺構に被覆される。壁面や底面構造は明らかでないが、建物の柱筋との距離は40cm程度と狭く、ここからは建物と軒との距離が推定でき、溝は建物の裏側か、若しくは小規模な建物の桁側に位置したとみられる。SD21は今回の調査では唯一、石組みの壁面が残存する溝跡で、掘り方幅の割には割石による壁石は小振りだが、整って並ぶ状況が見られ、底面には小礫ではなく、平瓦が敷かれている。この溝跡は延長方向で全く残存しない状況から、この地区での削平度合いが激しいことがわかる。またSD57も両側壁石の抜き取り痕跡が明瞭なことから、本来は石組みの溝と考えられる。SD22は三辺に巡る溝跡である。このような配置は明らかに溝跡の内側か周囲に存在した建物等の施設配置に関係しており、以上の溝跡については確認長が短いことから、建物周囲に配置された溝と考えられる。

また掘り込みは行わなかったが、同様の性格を有するとみられる溝跡として、調査区西半部の北側から中央には

SD3～SD5、SD10、SD11、SD13～SD15など、幅が50cmにも満たない南北方向の素掘りの小溝が存在する。これらの中にはSD3～SD5のように近接し平行するものがあり、特にSD5にはピット状のプランが繋がって連続する状況が確認できる。これら3条の溝跡は本来一つの溝跡であり、両端では壁石が抜き取られ、中央は敷石などが外された痕跡とみられる。これらの小溝は石敷遺構の東端に位置することで、屋敷建物の西側に近い位置とみられることもでき、建物に沿って配置された雨落ち溝の可能性もある。

これに対しSD2は調査区を横断する長い溝跡で、またSD37は幅や深さがある割には西側で急に止まるものである。これらは石組みの壁を伴わない素掘りの溝の可能性が高く、SD2はその長さから屋敷内での排水を目的とした溝と考えられると同時に、SD37のように屋敷内の一部、若しくは屋敷境を区画する溝の可能性もある。

SD47は他の溝跡のみならず、建物跡や堀跡などの遺構群とは方向性が大きく異なり、最大の特徴は重複する全ての遺構より古く、埋土が自然堆積によることである。出土遺物が皆無いため時期の特定はできないが、調査で確認した数多くの近世遺構に先行する古い遺構と考えられる。SD48もまた主軸方向が大きく異なる溝跡で、ピットを除外すれば重複する大型の土坑群より新しいほぼ唯一の溝跡であり、時期は近代以降の可能性もある。

## (6) 土坑群について

土坑の状況でまず注目されるのが分布であり、調査区の北西隅と南東隅を結んだ対角線より南西側にほとんどが集中して掘られ、特に南西部とその北側に大きく二つの集中範囲がみられる。土坑の掘り込みは一部に止まり、それに伴い出土遺物も限定的なため、個々の性格の解明や時期決定を行うには極めて厳しい状況にある。そのような中、土坑の平面観察を交えた調査では、殆どどの土坑は掘削後、時間差なく人為的に埋め戻されており、これが最大の特徴といえる。土坑の規模は径が5m以上の大型ものが多数あり、中には最大で8mを超える規模の土坑も存在するのに加え、小型の土坑のほぼ全てにも同様の埋戻し状況が確認できる。形状は井戸や池など、別の性格も想定される一部を除くすると全て不整形で、掘り込むにあたっては規格性など無縁のものと言える。また土坑の重複状況からは、埋め戻した後、隣接地に別な土坑を重複しながら再度掘るといった作業の様子が認められる。

そこで土坑の性格解明の鍵となるのが、幕末にあった片倉屋敷の火災である。多くの土坑内部には多量の炭化物や焼土の他、何かしらの木材や焼けた近世瓦の破片が数多く埋められている。特に瓦はその数量の多さから火災により被熱したことはほぼ間違いなく、以上の点からは、火災が原因で生じた瓦礫や汚れた土壌を屋敷外には搬出せず、これらを廃棄するための多数の土坑を掘ることにより屋敷内で処理した状況が推察される。また火災後の屋敷の再建にあたっては、屋敷地内に新たに敷く大量の整地用の土が必要であったことが推察され、このことから数多くの土坑は、廃材を処理する目的のみに止まらず、新たに敷き均す土を確保する一石二鳥の役割を持っていたことが理解できる。

また土坑の中には人為的に埋められてはいるが、SK489やSK214のように多量の炭化物、焼土、瓦礫などを殆んど含まないものや、土師質土器などの生活具や食物残渣などがまとまって廃棄されているものも僅かではあるが存在する。このような土坑内の混入物や重複状況からは、土坑は幕末の火災直後に掘られたものばかりではなく、この地に屋敷が営まれた江戸時代初期から火災の間までに掘られたものも一定数存在するとみられる。これらの土坑は通常時の廃棄土坑、つまり屋敷内における日常のゴミ穴として使用されたとみられ、今回の調査区南西側を中心とした地区は、近世を通して奥側の居住域や裏庭のエリアであったことが推測される。また見方を変えるならば、火災の前や火災直後に再建された屋敷の主要な建物については、このような場所を避けて再建されたとみられる。

## (7) 石組遺構について

石組遺構は方形の掘り方内に壁石が組まれた特徴的な遺構で、調査では計6基を確認した。形状が方形である

以外に規模は様々で、壁石には円礫や割石を使用し、削平状況を考慮すると本来壁石は3段程度組まれたものと推定される。底面に敷石や小礫などは敷設されず、これらの中には底面に自然堆積層がみられるものもあるが、最終的には全て人為的に埋められており、他の遺構同様に何かしら屋敷の変化に伴い、廃絶されたと考えられる。

中でも最大規模のSX3は底面がほぼ平坦面で、明瞭な自然堆積層は確認できないが、内部では地山造り出しにより一部が鳥状に高まっている。このような造り出しは、構造上は特殊なものであり、このことから本遺構は内部に水を導水し、貯水や水洗を目的とした水利施設か、若しくは鳥状の高まりを「中島」に見立てた石組みの池の可能性もある。削平が著しいこともあり、これに接続する溝跡は確認できなかった。その他の石組遺構に関しては、SX3のような特徴は確認できなかったが、SX1は規模や形状がSX3に類似しており、これら石組遺構の中にも水に関わる施設が存在すると考えられる。

## (8) その他の遺構について

### [10 号性格不明遺構]

SX10は掘り込みを伴う遺構としては最大規模である。西側には瓦礫等を廃棄した数多くの土坑が存在し、SX10はその東端に位置している。埋土中には量的には少ないが、全層を通して瓦片や木片などが混入しており、埋戻しの最終段階には、最上面に厚さ30cm以上の混入物の無い砂が入られている。砂を入れた意図は明らかでなく、特に掘り方の形状にも特徴は認められないが、他の土坑とは何かしら性格の異なるものであり、根拠は無いが、一つの可能性として、古い池跡とみることもできる。

### [9 号掘立柱建物跡に伴う段差]

西側の拡張トレンチ5で確認した段差遺構は、長屋の一部の可能性のあるSB9の東辺列とほぼ並びを同じにして南北に延びるもので、西側の確認面はSB9-P4に切られるSA2埋土で、P4を境に東側のSA2埋土が削られ、東側が低い段差を形成している。この段差は位置的にSB9の東辺ラインに沿って南北に延びる状況から、長屋若しくはその位置に存在した関連する遺構の際に沿って段を削り出すことにより施設部分を当時の地表面より高く残していた可能性が高い。

### [1号鍛冶炉跡ほか]

1号鍛冶炉跡は西側に広がる石敷遺構との重複も無く時期は不明だが、炉内に残された鉄滓や、周辺で採取した鍛造剥片の存在から、屋敷ではこの炉により鉄製の道具類を成形加工する鍛冶作業が行われていたと考えられる。炉の周辺に建物として組むような柱跡は確認できなかったが、屋内での作業が行われていたと考えられる。

また鍛冶炉跡周辺には複数の焼面が確認されたが、焼面はわりと大きなもので、その形状や規模から炉の底面に形成されたものとは異なる。周囲での遺構残存状況から上面はかなり削平されており、焼面はカマド内の燃焼部分が辛うじて残存したものとみられる。また焼面の分布範囲が南北6mの幅に密集する状況から、これらは全てが同時存在していたものではなく、長期間の中で造り替えが行われたと考えられる。

### [礎石跡・ピット]

調査区内では時期差のある複数の礎石建物跡や掘立柱建物の存在が想定されるのにも関わらず、その全容が把握できるものは皆無と言って良く、それは単独で存在する根固めを持つ礎石跡や柱痕跡が認められる柱穴、さらには無数のピットの存在に表れている。これらは地区を選ばず、調査区全体に分布し、石敷遺構をはじめ、様々な遺構との重複関係を持つことにより、幾つかの所属時期に分別できることは容易に理解できる。しかしながら、個々の構造や規模は柱基礎としての基準を十分満たしながらも、これらが並ぶことはほとんど無く、結果的に建物跡として認定できない状況である。

礎石跡、柱穴、ピットについて調査区西部の残存状況を見ると、地表遺構である石敷遺構の下部にSB1が確認

できる状況等から、後世の削平度合いは比較的小さいことが考えられる。これに対し東側では本来、深さが数十cmあったとみられる柱穴の底石が完全に露出する状況が各所でみられ、相当の厚さが削られていることがわかる。そのような東部地区において残存する柱穴列による崩跡や礎を充填した礎石跡については、本来は掘り方が深く、堅固な構造により建てられた建造物の基礎だったことが推定される。

#### [Ⅲe層・Ⅲf層・Ⅳ層整地土]

Ⅲb層とⅢd層はそれぞれⅢa層石敷遺構とⅢc層石敷遺構の基礎地業として敷設された整地土で、その分布範囲は当然のことながら石敷遺構とほぼ同一の調査区西側にある。これに対しⅢe層・Ⅲf層・Ⅳ層の各整地土は、石敷遺構下には全く存在せず、またそれは土坑群の分布する範囲にも全く確認できず、土坑の集中範囲から外れ、かつ削平の著しい調査区北東部にほぼ限られている。石敷遺構下には存在しない状況から、これら整地土の残存範囲は、当初の敷設範囲と大きく異なるものではないことが推定される。

各層の分布をみると、石敷遺構を除外した整地土の中では最も上位に位置するⅢe層整地土は北東部の狭い範囲に存在する。しかし東部全体の削平状況を考慮すると整地土はより南側まで広がっていた可能性もある。また数少ない遺構と整地土との重複関係として、SX2石組遺構の東側がこの整地土により被覆されている状況から石組遺構が古く、おそらくは火災前に機能していた遺構であることがわかる。Ⅲf層整地土は東南部の北から南へ至る広範囲に確認されており、整地土の中では最も広範囲に敷設された整地土と言える。最も下位にあるⅣ層整地土は、Ⅲe層の分布に加えより西側へ広がり、さらに削平を免れた南東側のⅢf層下部には全く確認できず、ほぼ北部に限定された整地土と言える。

各層の特徴をみると、Ⅲe層には人的に入れられたブロック土の中に炭化物や焼土が部分的に多く含まれ、全体に汚れたような印象を受ける層で、これに対しⅢf層はⅢe層と比較して、混入は認められるが少ない。そしてⅣ層は人的混入物をほとんど含まず、やや大きめの凝灰岩を含む礫や粗砂を多く包含しており、主に地山として洪水起源のV層が窪む場所に厚く堆積する傾向が認められる。

以上のことから、Ⅲe層はその混入物の量や状況から、幕末の屋敷火災後に敷かれた土壌と考えられ、この層の上下面双方で土坑が確認できるのは、限られた範囲の近接する場所において、多くの土坑を繰り返し掘った結果と判断される。火災後に敷き均した汚れた整地土上には、新たな掘削により採取した地山土が敷かれたものと推定されるが、それらは後世の度重なる削平により既に失われたと考えられる。またⅢf層の混入物は、それが火災処理に関わる状況とまでは断言できず、火災前の整地土の可能性もある。Ⅳ層は層中から遺物は出土せず、自然堆積層の可能性も否定できないが、この地に何かしらの屋敷や施設が造られた近世初期に、河岸段丘上の起伏のある地表を平坦地化することを目的とした整地土の可能性もある。

#### [試掘区で検出した遺構]

本調査区で検出した遺構群についての南側への広がりを確認することを目的に設定した二つの試掘区では、同一の石敷遺構や整地土など、本調査区で広域に展開した遺構は確認できなかった。試掘区での遺構密度は低くは無いが、小規模な溝跡の他、土坑やピットが重複する状況で、特徴的な遺構は認められない。

この地区は寛文4年(1664)の城下絵図によると、片倉屋敷の南側に隣接した「白津七郎衛門」の屋敷地に該当するとみられ、その後の延宝6年～9年(1678～1681)の「仙台城下大絵図」では、この地が10区画の小規模な屋敷地に分割されたことがわかる。しかしながら試掘区ではこのような片倉屋敷以外の屋敷地の状況を連想させるような建物跡や崩跡等は確認できず、確認した2条の溝跡についてもその規模からは屋敷境の区画等とは考えられない小規模なものといえる。

## 第2節 遺構の変遷について

これまで見てきたように、確認した全ての遺構は残存状況が極めて悪く、全体形や規模の詳細が把握できないことに加え、遺構の掘り込みも限定的なことから、個々の遺構について出土遺物による所属時期や構造の観察による性格を断定することはかなり困難な状況にある。また遺構間の重複は広範囲に渡る石敷遺構や大型の土坑との関係が殆んどのため、土坑を特定の目的に限定し、一括して扱うことに関しては、他の遺構との新旧関係のみにより個々の時期を判別するのは危うい状況といえる。そのような中、各時期における屋敷の規格性を示す一つの特徴として注目できるのが遺構の方向性であり、今回確認した遺構は幾つかの方向性に従い造られたとみられる。

確認した遺構は基本的にその殆どが近世段階にこの地区に営まれた片倉屋敷をはじめとする施設の一部と考えられる。この地区は多くの城下絵図にも描かれており、これらによると、設置された建物等の施設はみな北側の大手通りや西側の長沼や道路に沿い、同様の方向性により造られるのが特徴と言える。それを示すものが二つの片倉屋敷絵図であり、北側の表門の並びと西側の長屋の配置に屋敷の方向性が表れている。片倉屋敷は屋敷絵図に限らず多くの城下絵図にもその屋敷地の形状が確認でき、それによると屋敷外郭の北辺と西辺は直角ではなく、やや開く形で双方が配置されるのが特徴と言える。つまり屋敷の施設は大手通りと長沼という二つの方向性に規制され造られており、調査当初はこの方向性を基準として屋敷の建物が展開すると想定している。

遺構の中で方向がほぼ特定できるものをその角度の違いにより分類したものが第157図である。ここでは方向を持つ建物跡、堀跡、溝跡、石組遺構、そして一部の井戸跡について、北方向を基準に傾きの違いにより分類したもので、掘り込みを行っていないため土坑などは除外している。これをみると、遺構群には①のように調査区とほぼ同じ方向、つまり南北軸方向が長沼と同じ方向性により構築されている施設が一定数存在し、また②のように、それらよりやや西に傾くことで、東西軸が当時の大手通りとほぼ平行して構築されている遺構も一定数存在することがわかる。また③はこの両者とも異なる方向性を持つものである。全ての図中には方向性は不明だが遺構配置の目安のために井戸跡を入れている。

①をみると、SB1、SB10、SA2、SE1など、基本的に石敷遺構に被覆される古い遺構が含まれるのと共に、SB2やSX1・SX3のように屋敷火災後に掘られた可能性のある大型の土坑に壊される遺構が多く存在するのがわかる。これらの内、SB1とSB10は離れているが、確認状況や礎石の状況は同様であり、おそらくは同時期に存在した建物群と考えられる。但しSB1についてはSA2と重複する可能性が高く、同じ方向性をもつ遺構の中にも時期差が存在するとみられる。またSX3やSX11の石組遺構に関しては、その規模や構造を考慮すると何れも屋外施設と考えられる。

これに対し②では、本来方向の異なる長屋に関わるとみられるSB9は別として、数的には少ないが、大型の土坑が埋められた後にSE4やSB11が構築される状況がうかがえる。また調査区東半部をみると、SB5、SA4・SA8などについては石敷遺構や土坑群の残存範囲から外れる状況から、これらとの重複関係を示すことはできないが、北東側のSB7は①の方向のSD21石組溝跡を切っており、方向の判明する遺構同志の数少ない重複例である。但し、調査区を東西に横断するSD2については、西側で大型土坑や石敷遺構に切れ、同じ方向性を持つ遺構でも時期差が認められる。

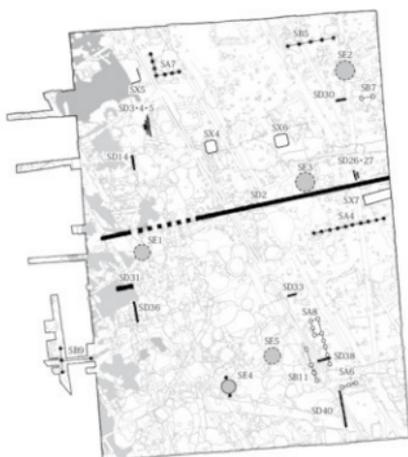
③に含めたSD23はその南北軸がより西に傾いた方向性をもつ溝跡であるが、図示はしていないが同様の方向性のものに南西部に位置するSK489がある。この土坑は廃棄土坑とは明らかに異なるもので、周辺土坑の中では最も新しい状況を検討すると、二つの遺構に関しては、幕末以降の新しい時期を想定することも可能である。

以上のように、数少ない遺構により遺構間の時期差を判断することは難しいが、少なくともこれらの一部には石敷遺構や大型土坑との関係により時期差が存在することは明らかである。そこには概して①のように長沼と平行す

①長沼と同じ方向性を持つ遺構 (N-2~9°-W)



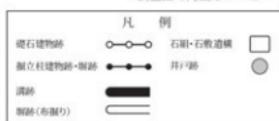
②大手通りと同じ方向性を持つ遺構 (N-10~20°-W)



③長沼や大手通りとは異なる方向性を持つ遺構



0 1/800 20m  
 ※調査区の角度はN-4.5°-W



グループ	遺構番号	方向
①	SB1	N-2°-W
	SB2	N-4°-W
	SB3	N-4°-W
	SB6	N-8°-W
	SB9	N-5°-W
	SB10	N-3°-W
	SA1	N-8°-W
	SA2	N-4°-W
	SA5	N-8°-W
	SD1	N-3°-W
	SD7	N-5°-W
	SD8	N-8°-W
	SD10	N-5°-W
	SD11	N-5°-W
	SD13	N-2°-W
	SD15	N-4°-W
	SD21	N-3°-W
	SD24	N-5°-W
	SD25	N-5°-W
	SD28	N-4°-W
SD29	N-4°-W	
SD35	N-3°-W	
SD37	N-9°-W	
SD39	N-4°-W	
SD40	N-8°-W	
SD51	N-5°-W	
SD52	N-4°-W	
SD53	N-8°-W	
SD57	N-9°-W	
SD58	N-8°-W	
SX2	N-5°-W	
SX3	N-7°-W	
SX8	N-5°-W	

グループ	遺構番号	方向
②	SB5	N-10°-W
	SB7	N-10°-W
	SB11	N-20°-W
	SA4	N-12°-W
	SA6	N-17°-W
	SA7(南北)	N-15°-W
	SA8	N-15°-W
	SE4	N-12°-W
	SD2	N-12°-W
	SD3	N-12°-W
	SD4	N-12°-W
	SD5	N-12°-W
	SD14	N-11°-W
	SD26	N-17°-W
	SD27	N-17°-W
	SD30	N-10°-W
	SD31	N-11°-W
SD33	N-15°-W	
SD36	N-12°-W	
SD38	N-17°-W	
SD40	N-10°-W	
SX4	N-12°-W	
SX5	N-19°-W	
SX6	N-12°-W	
SX7	N-16°-W	
③	SA3(内側)	N-21°-W
	SD9	N-3°-E
	SD12	N-6°-E
	SD23(東西)	N-25°-W
	SD34	N-25°-W
	SD45	N-30°-W
SD46	N-30°-W	
SD47	N-9°-E	
SD48	N-29°-E	

第157図 検出遺構方向別分類図

る遺構群が古く、②のように大手通りと平行する遺構群が新しい傾向が認められる。両片倉屋敷絵図の内容からは、長屋を除く建物群の方向性は②のように大手通りと平行する建物群とみられ、長沼方向を基準とした遺構群に関しては、それらとは異なる基準によりこの地に建設された何らかの古い施設と考えられる。また、仮に屋敷絵図がこの地に屋敷替えされた17世紀後半の屋敷の姿を示しているのであれば、古い様相をみせる遺構群は片倉屋敷以前にこの地に屋敷を構えていたとされ、絵図にもその名が確認できる津田玄蕃の屋敷や、さらには仙台城築城期から17世紀中頃にかけて存在した「侍屋敷」とされる何らかの屋敷や施設に関わる遺構とみることでもできる。

### 第3節 「屋敷絵図」との関係について

ここでは絵図が描く姿を幕末の屋敷火災の前後と仮定した上で、調査から判明した遺構の構造や、そこから想定される性格を基に、Ⅲ層石敷遺構や西辺を区画すると考えられる外郭施設、さらに土坑群の配置状況を含めた位置関係を考える。

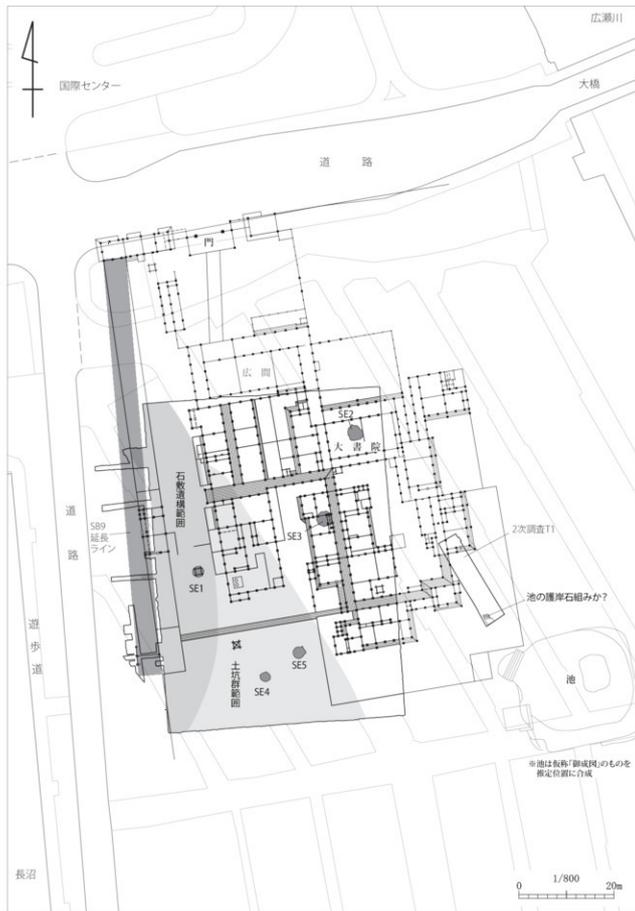
前述のように、石敷遺構は屋敷と長屋の間の露地に敷かれた石敷きであり、9号建物跡と2号塀跡は長屋に関わる建物の一部と、それ以前にほぼ同位置に存在した塀跡の可能性が高い。この配置状況と、「片倉屋敷絵図」内容との関係を探るにあたっては、まず絵図側の問題が存在する。それは絵図の縮尺であり、実際に柱間一間を何尺とみるかということに加え、建物間の位置関係の問題である。前者については主要建物が6尺3寸間であるとの裏書の記述から、仮に絵図全体も同縮尺で描いたものと想定することとした。また建物は方眼基準でほぼ正確に配置されているが、複数の城下絵図や現在の状況からは、屋敷北辺の並びと西辺の長屋の取付き角度はやや相違している。このため屋敷と直接繋がらない長屋をはじめとする外郭施設に関しては、建物との距離や接続などの位置関係に疑問が残り、本来、長屋は屋敷絵図の姿よりもより開く配置であった可能性があることを考慮する必要がある。

以上のことも含め、主に②の方向性で分けた遺構との位置関係を見てみると、鍵となるのが絵図中にも記載され、削平を免れた井戸の存在である。調査で確認した9号建物跡が長屋に関わる遺構とすると、これにより屋敷の西辺位置がほぼ特定できることになり、石敷遺構もまたその性格と敷設範囲が定まることになるが、問題は屋敷の南辺位置が定まらないことである。「片倉屋敷絵図」には4基の井戸が描かれているが、調査では計5基の井戸跡を確認しており、その他にも井戸跡の可能性のある土坑が存在する。しかし諸状況から調査で確認した井戸のうち、絵図に確認できるのは台所棟西側と南側の二つの井戸にほぼ限定されると考えられる。絵図では西側の井戸は露地の中央にあり、理由は不明だが線が細く描かれている。これに対し南側の井戸は東西廊下の南側に位置し、太く描かれるが、中央には「×」印がみられ、井戸は後に廃絶された可能性もある。これらの井戸については調査区内に位置し、確認している可能性が高く、これらを屋敷絵図と照合させたのが第158図の屋敷位置を推定した二例である。

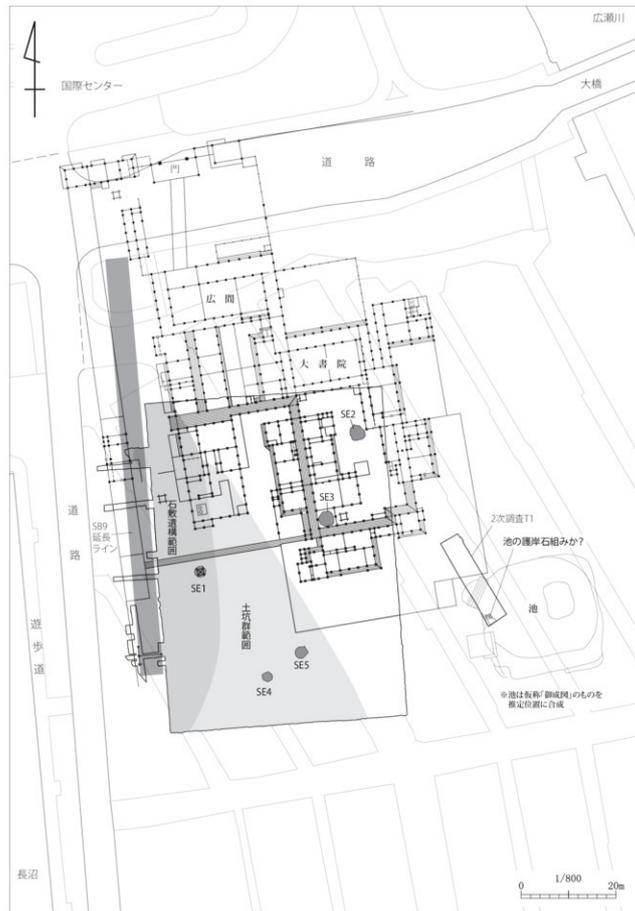
第158図の左図は台所棟西側の井戸と1号井戸跡を合わせた図である。1号井戸跡は他と比較すると浅く、絵図の井戸同様に石敷遺構内にある。またこの井戸は埋め戻され、最終的にはⅢc層石敷遺構に被覆されることで廃絶されており、「御成図」中で薄く描かれている理由が、その異なる構造や、火災を契機に使用されなかったことに起因するとみることでもできる。

この場合の主な合致点としては、長屋の位置については前術の通り、より開くと仮定した場合、9号建物跡の位置とほぼ重なり、石敷遺構の範囲も概ね合致する。この場合、屋敷西辺と長沼との距離が現在より離れ、道路の幅が現在より広がったことが仮定される。当時の道路幅については幾つかの城下絵図中でもこの傾向がうかがえる。また2号井戸跡と3号井戸跡は構造上、その時期が幕末よりは遡ると考えられることから、絵図中の大書院ほかの建物と重複していても問題は無いと考えられる。

相違点としては、石敷遺構との関係や構造上、新しい特徴を見せる4号井戸跡や5号井戸跡が東西廊下の南側



『片倉屋敷絵図』台所棟西側の井戸とSE1を重ねた想定図



『片倉屋敷絵図』台所棟南側の井戸とSE1を重ねた想定図

第 158 図 片倉屋敷の想定位置

に位置することとなるが、絵図上はその位置に井戸は無い。特に4号井戸跡については台所南側の井戸に比定するにしてもずれが生じ、絵図上の二つの井戸と調査で確認した二つの井戸跡との関係を同一のものとするには問題が残る。また別な問題点として挙げられるのが池の位置である、図中の池は両屋敷絵図の関係から推定し合成したもののだが、2次調査1トレンチで確認した護岸石垣とされる遺構の位置が「御成園」にみる池の推定位置からは外れることがわかる。

次に、第158図の右図は台所棟南側の井戸と1号井戸跡を合わせた図である。南側の井戸にみられる「×」印から、この井戸は再建後は使用されなかった可能性もあり、廃絶に伴い後に書き加えられた可能性もある。

この場合の合致点としては、護岸石垣とされる遺構位置が絵図と近くなることや、3号井戸跡が「御茶之間」棟や「御末」棟との間に描かれた井戸とほぼ同じ位置となることである。「片倉屋敷絵図」の製作年代が特定できず、また古い様相を持つ3号井戸跡が幕末まで使用され続けた可能性も考慮すると、この位置関係もまた注目に値する。

相違点としては、調査では台所棟西側の井戸の位置に井戸跡が確認されていないことがある。石敷きに被覆され確認できなかった可能性は完全に否定できないが、多くの断面観察でもその存在は認められなかった。また同時に長屋の位置が現在の西側道路に接し、これに伴い石敷き範囲は台所棟と重複することとなり、先の合成内容とは様相が大きく異なってくる。さらに4号井戸跡と5号井戸跡が「御茶之間」棟より大きく南へ離れることとなり、別地区に配置された井戸としての性格を考える必要がある。

以上の二つの合成例をみると、双方ともに遺構の様々な在り方により屋敷絵図内容との照合を合理的に行うことは難しい状況にあると言わざるを得ない。確認した遺構群と二つの屋敷絵図の内容の十分な検討の上での両者の比較検討が重要なことは当然であるが、他にも複数の城下絵図などから見た屋敷の範囲や形状などの観察により、推定される表門や長屋の位置、さらには池の護岸石垣とされる石組みの性格についても重ねて検討する必要がある。

今回の調査を通してみた場合、遺構の残存が極めて悪い状況が判明したが、石敷遺構や2号跡跡や9号掘立柱建物跡など、特徴的で削平を免れた調査区西側の遺構群の状況から、屋敷西側の位置がほぼ判明したと言えることができる。また火災の前後に掘られたとみられる数多くの土坑が屋敷の南西側に集中する背景には、この地がかねてより屋敷の裏庭的な場所であったと同時に、火災により生じた瓦礫や廃材をあくまで屋敷内部で処理するにあたり、再建する建物に支障が無い最適な場所であったことが考えられる。調査ではこの地区が近世初期より幾つかの屋敷の変遷を経ながら片倉屋敷へと移っていたことが多少なりとも明らかとなったと同時に、屋敷火災という幕末に起きた未曾有の出来事を乗り越えながらも、この追廻の地に200年近くも存在し続けた片倉屋敷の一端をみる事ができた。

## 第4節 出土遺物について

今回の調査では、近世以降の陶器、磁器、瓦質土器、土師質土器、軟質施釉陶器、瓦、金属製品、木製品、石製品、土製品のほか、中世以前の縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器類が出土している。調査はあくまでも遺構確認が主目的であり、部分的な掘り込みに留めたため、遺物の出土数量は必ずしもその遺構等が包含する数量を示すものではない。また、遺物の約40%は攪乱と近代以降の整地土から出土しているのに加え、遺構間の重複が著しいため、遺物の本来の帰属を明確に出来ないものが多く、遺構自体の時期決定が難しい状況にある。そのような理由から、ここでは主に出土量の多い陶磁器、土師質土器、瓦について取り上げ、陶磁器は出土傾向を中心に、また土師質土器や瓦については個々の特徴を中心にみていく。

### (1) 陶磁器について

陶磁器は16世紀末から20世紀代までの時期のものが出土している。出土点数は陶器1,890点、磁器1,514点の合計3,404点である。そのうち時期判別が可能な陶磁器は2,854点ある。以下では陶磁器の時期を、16世紀末から17世紀前葉、17世紀中葉から後葉、18世紀代、19世紀前葉、19世紀中葉から後葉、近代以降の6つに区分した。16世紀末から17世紀前葉は片倉家が追廻の地を拝領する前、17世紀中葉から後葉は拝領前後である。18世紀代は陶器の産地に大堀相馬が加わる時期である。この時期は時代判定が難しい遺物が多いため、時期幅の広い区分になっている。19世紀前葉は弘化年間に片倉屋敷が火事で被災する前の段階である。遺物では瀬戸美濃などで磁器の生産が始まる段階である。19世紀中葉から後葉は火災前後から幕末までである。近代以降は概ね軍用地となる段階である。なお、出土陶磁器の時期別の産地や器種割合については第159・160図に示した。

#### [16世紀末から17世紀前葉]

仙台城築城直前から追廻に片倉屋敷以外の屋敷が存在した時代である。この時期に該当する遺物は陶器75点、磁器34点で、陶器と磁器の割合はおおよそ7:3である。陶器の産地は瀬戸美濃、唐津・肥前、丹波、備前があり、磁器の産地は中国と肥前が認められる。陶器では瀬戸美濃の占める割合が非常に高く、出土量の80%を占めている。磁器については中国製品の割合が高く、88%を占めている。器種は碗類と皿類、鉢類、盤や搦鉢、壺で構成されている。この時期の特徴としては皿類が非常に多く、全体の51%を占めている。碗類の割合は24%、鉢類は17%ほどで、いずれの器種においても陶器の方が多い。また、碗、皿、鉢類といった主要器種については瀬戸美濃の製品が主体であり、碗類は瀬戸美濃の天目茶碗や志野の抹茶碗、初期伊万里の小杯、皿は志野の丸皿や青織部の皿、漳州窯の色絵皿などがある。鉢類は大鉢が多く、絵唐津の製品などがある。盤は備前、搦鉢は丹波の製品である。壺は中国磁器で、破片が認められるのみである。

主要な産地別の傾向として、瀬戸美濃は碗、皿、鉢類の食膳具を主体とし、特に皿類の割合が高い。また、志野や織部の製品が多数含まれている。数量は少ないが、唐津・肥前も皿類の多い傾向が窺える。中国磁器についても碗類も認められるが、割合が高いのは皿類である。

#### [17世紀中葉から後葉]

概ね片倉屋敷が屋敷替えにより追廻に移った頃を中心とした時代である。この時期に該当する遺物は、陶器153点、磁器99点であるが、一部に17世紀代としか判断できない遺物を含んでいる。陶器と磁器の割合はおおよそ6:4である。陶器の産地は前時期からの瀬戸美濃、唐津・肥前、丹波、備前に加え、この時期では京・信楽と岸窯系がみられるようになる。陶器における産地の割合は、瀬戸美濃24%、唐津・肥前41%、岸窯系が24%となり、丹波、京・信楽、備前の占める割合は低い。磁器は肥前の製品が出土量の90%と大部分を占めているほか、波佐見7%、中国は3%と割合は低い。前時期に比べ陶器は、瀬戸美濃が減少し、唐津・肥前が大幅に増えることが窺える。ま

た磁器は中国製品より国産製品が主体となる。

器種は碗と皿類、鉢類や壺・甕類、瓶類、水注類、播鉢などで構成される。前時期より割合は下がっているが、皿類が多く、36%を占め、碗類は25%、鉢類は9%である。また播鉢の割合が高く21%を占めているが、これは破片が多いためである。その他、壺・甕類、瓶類と水注類の出土量は少ない。碗、皿類については陶器と磁器の割合が4:6ほどで、磁器が多くなる。陶器では唐津・肥前の製品が80%を占めており、瀬戸美濃の製品は少ない。碗類は肥前陶器の呉手碗などがある。皿類は肥前陶器の銅線軸皿などが認められる。鉢類は陶器の占める割合が高く、産地は瀬戸美濃と肥前がほぼ同等の割合で認められる。また、前時期と同様に鉢が多い。播鉢は60%ほどが岸窯系の製品で、その他に20%ずつの割合で瀬戸美濃と丹波の製品が認められる。壺類は肥前磁器や瀬戸美濃、信楽、肥前、甕類は岸窯系の製品が出土している。信楽のものは茶壺の可能性もある。瓶類は破片だが、肥前磁器と備前の製品がある。水注類は瀬戸美濃の製品が出土している。その他には唐津と岸窯系の香炉も認められる。

主要な産地別の傾向としては、瀬戸美濃は碗、皿類の小型製品よりも鉢類や播鉢などの中大型品が多い。逆に唐津・肥前では中大型品が少なく、碗、皿類が多い。磁器は碗類と皿類の割合がほぼ同等である。

#### [18世紀代]

この時期に該当する遺物は陶器675点、磁器456点で、陶器と磁器の割合は前時期と同様の6:4ほどである。陶器の産地は前時期からの瀬戸美濃、肥前、京・信楽に加え、大塚相馬、小野相馬、志戸呂、在地がみられるようになる。産地の割合は大塚相馬48%、小野相馬13%、在地12%、瀬戸美濃9%、肥前は9%ほどであり、京・信楽、志戸呂の割合は低い。磁器は肥前84%、波佐見が16%ほどである。前時期と比べ、陶器は瀬戸美濃と肥前の割合が大幅に減少し、その代わりに大塚相馬が陶器の約半数を占めるようになる。また小野相馬や在地の割合も比較的高く、仙台近隣の産地が陶器の約80%を占めるようになる。磁器は前時期同様、肥前が主体で、波佐見が少量認められる。

器種は前時期でみられた器種に加え、銅類と灯火具がみられるようになる。本時期では碗類の占める割合が増え、54%を占めるようになる。皿類は20%と大幅に減少する。また播鉢が減少し、瓶類が増加する傾向が認められるが、その他の器種について大きな増減はない。碗類は陶器と磁器の割合が6:4となり、陶器が多くなる。産地は大塚相馬と肥前磁器で二分され、割合は両者とも35%である。その他、瀬戸美濃と肥前、小野相馬の陶器碗、波佐見の磁器碗は各7%ほど含まれている。また数は少ないが、京・信楽の製品も認められる。皿類は磁器が多く、割合は4:6ほどとなり、肥前磁器が50%を占めている。その他、大塚相馬の製品と波佐見の磁器が各20%、小野相馬が7%ほど含まれているほか、瀬戸美濃と肥前陶器は少ない。鉢類はやや磁器の割合が高い。陶器の鉢類は片口などの比較的大型品が多く、磁器は猪口や蓋物といった小型品が多い。播鉢は在地の製品が80%ほどを占め、瀬戸美濃や小野相馬、信楽の製品もみられるが、割合は低い。甕は陶器の小野相馬が多くみられる。瓶類は肥前磁器や志戸呂の徳利、大塚相馬、瀬戸美濃の製品が出土している。少量だが、水注類では土瓶、銅類では鉄軸の製品みられるようになり、いずれも大塚相馬の製品である。灯火具は大塚相馬と在地の乗燭と灯明皿がある。その他には少量だが、陶器では大塚相馬の香炉、火入れ、甕壺があり、磁器では肥前の香炉や紅猪口も認められる。

主要な産地別の傾向としては、瀬戸美濃と肥前陶器、京・信楽は器種がほぼ碗類に限られ、他の器種は少ない。大塚相馬は碗類が多く、出土量の66%を占めている。在地の製品は85%が播鉢である。肥前磁器についても碗類の比率が高く、出土量の56%を占め、皿類は26%である。波佐見は碗類の比率は高くなく、皿類と同程度である。

#### [19世紀前葉]

この時期に該当する遺物は陶器664点、磁器320点であるが、一部に19世紀前葉から中葉の広い時期幅でしか判断できない遺物を含んでいる。陶器と磁器の割合は6.5:3.5である。陶器の産地はほぼ大塚相馬で占められるようになり、その割合は83%と高い。次いで高いのは本時期からみられる頃の7%である。瀬戸美濃、肥前、京・

信楽、小野相馬、在地は占める割合が低く、大堀相馬や堤といった仙台市内や近隣の産地が陶器の95%を占めるようになる。磁器は前時期からの肥前、波佐見に加え、瀬戸美濃や切込といった東北の地方窯がみられるようになる。また数は少ないが、中国の清朝磁器もみられる。割合は肥前が57%、瀬戸美濃が35%と多く、波佐見が2%、切込が3%で、その他の地方窯、中国磁器は1%弱と少ない。

器種は前時期に比べ、碗類が38%、皿類10%、播鉢が2%と割合が大幅に減少している。器種の割合が大幅に増加したものが水注類で、23%とほぼ4分の1を占めている。また瓶類も8%、銅類4%、灯火具2%ほどと割合は前時期よりも増えている。鉢類など、その他の器種に大きな増減はない。碗類は陶器と磁器の比率が4:6となり、再び磁器の割合が高くなる。産地は大堀相馬、肥前磁器、瀬戸美濃磁器で三分されており、割合は各30%ほどである。その他に陶器では瀬戸美濃、肥前、磁器では波佐見、切込、地方窯、中国の製品がみられるが数は少ない。器形として広東形や端反形のみがみられるようになる。皿類は陶器が多くなり、割合はおおよそ8:2である。このうち大堀相馬の製品が皿類の45%を占めており、肥前磁器は20%ほどである。その他にも陶器で瀬戸美濃、肥前、在地や堤の製品もみられるが量は少ない。鉢類は陶器が80%を占めており、磁器の割合は低下する。産地では大堀相馬が49%とほぼ半数を占めている。播鉢は在地の製品の中でも、産地が特定できる堤が多くなる。甕・壺類はほぼ陶器で占められ、堤の製品が多くみられる。瓶類も陶器が多く、割合は6:4ほどである。瓶類の大半は徳利であり、陶器には油徳利、磁器には鶴首徳利や燗徳利、御神酒徳利が認められる。産地では大堀相馬が多く56%を占めるほか、肥前磁器が33%を占め、その他に陶器では瀬戸美濃と堤、磁器では波佐見がみられるが数は少ない。また瀬戸美濃の製品には仙台では出土例の少ない灰釉の徳利がある。水注類は全て陶器の土瓶で、産地はほぼ大堀相馬に限られる。銅類は土鍋と行平鍋などがあり、産地は大堀相馬が90%を占めているほか、数は少ないが堤の製品も認められる。灯火具は乗燭、灯明皿と灯明受皿があり、全て陶器で占められており、大堀相馬の製品が多く、その他に瀬戸美濃、堤、在地が認められる。その他として、陶器では大堀相馬の香がやや餅猪口、瀬戸美濃や堤の植木鉢、磁器では肥前の香がやや紅猪口が認められる。

主要な産地別の傾向としては、大堀相馬は水注類が40%を占めており、瓶類と銅類も増加する傾向がある。肥前磁器については碗類が定量認められるが、皿は割合が10%にまで低下するが、瓶類については増加する傾向がある。瀬戸美濃磁器については器種がほぼ碗類に限られ、その割合は95%である。

#### [19世紀中葉から後葉]

片倉屋敷の火災前後から幕末にかけての時代である。この時期に該当する遺物は陶器68点、磁器36点であるが、遺物点数が少ないため、傾向をうかがうことのできる器種は限られる。陶器と磁器の割合は前時期とほぼ同様である。陶器の産地は大堀相馬が72%、堤が7%ほどを占め、その他に瀬戸美濃、常滑、在地が認められるが数は少ない。また、産地を特定できないものが8%ほどある。磁器は瀬戸美濃が主体となり、63%を占め、これに対して肥前は14%に低下する。また、地方窯とみられるものが17%ほど含まれている。

器種は碗と皿類、鉢類、播鉢、甕・壺類、瓶類、水注類がある。碗類が30%、瓶類が3%と割合はやや低下する反面、皿類が13.5%、壺・甕類が8%、水注類が33%と増加する。碗類は磁器の割合が高い。産地は大堀相馬と瀬戸美濃磁器で二分されており、その割合は各33%である。器形は端反形に加え、筒形のものもみられるようになる。皿類は磁器を主体とし、産地はほぼ瀬戸美濃に限られる。鉢類も磁器の割合が高く、陶器の産地は堤、磁器は瀬戸美濃と地方窯が認められる。割合の高くなる水注類には土瓶と急須があり、大半は大堀相馬の製品だが、急須に常滑の製品が含まれている。瓶類では大堀相馬と在地、壺・甕類では堤、播鉢では在地の製品が認められる。

#### [近代以降]

明治初めまで残ったとされる片倉屋敷以降の時代である。この時期に該当する遺物は陶器73点、磁器199点である。磁器が多くなり、陶器との割合は3:7ほどになる。産地は陶器の54%、磁器の26%が特定できない。

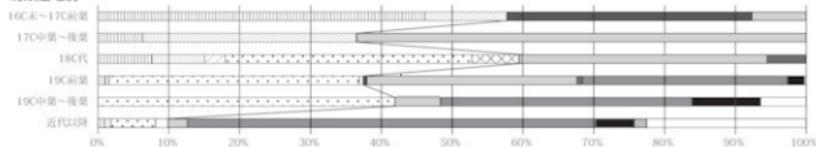


時期	陶器								磁器								計	
	瀬戸 美濃	肥前 美津	京・ 尾張	大瀬 相馬	小野 相馬	右衛 門	不明	中国	肥前	美濃	瀬戸 美濃	切込・ 地方	九段	不明	陶器	磁器		
16C末～17C前葉	12	3	0	0	0	0	0	9	2	0	0	0	0	15	11			
17C中葉～後葉	4	19	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	23	40			
18C代	47	46	18	215	41	1	2	0	214	34	0	0	0	370	248			
19C前葉	4	2	0	133	0	0	2	2	112	3	109	9	0	141	236			
19C中葉～後葉	0	0	0	13	0	0	0	0	2	0	11	3	0	2	13			
近代以降	1	1	0	7	0	0	2	0	3	0	64	6	2	25	11			
計	68	71	18	368	41	1	6	11	373	37	184	18	2	573	653			

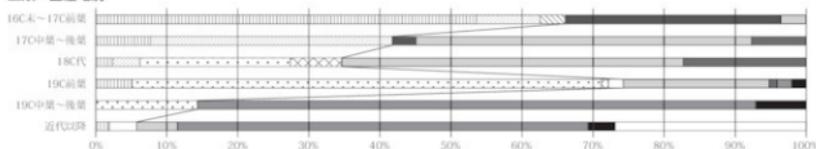
皿類・盤	陶器								磁器								計	
	瀬戸 美濃	肥前 美津	京・ 尾張	大瀬 相馬	小野 相馬	不明	中国	肥前	美濃	瀬戸 美濃	切込・ 地方	不明	陶器	磁器				
16C末～17C前葉	30	5	2	0	0	0	17	2	0	0	0	0	37	19				
17C中葉～後葉	7	31	0	0	0	0	3	43	7	0	0	0	38	53				
18C代	5	8	0	44	15	0	0	100	36	0	0	0	72	136				
19C前葉	5	0	0	64	1	2	0	20	1	2	2	0	72	25				
19C中葉～後葉	0	0	0	2	0	0	0	0	0	11	1	0	2	12				
近代以降	1	0	0	0	0	2	0	3	0	30	2	14	3	49				
計	48	44	2	110	16	4	20	168	44	43	5	14	224	294				

鉢類（食膳具）	陶器								磁器								計	
	瀬戸 美濃	肥前 美津	京・ 尾張	大瀬 相馬	小野 相馬	序室系	理	右衛 門	中国	肥前	美濃	瀬戸 美濃	切込・ 地方	不明	陶器	磁器		
16C末～17C前葉	14	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	17	2			
17C中葉～後葉	11	8	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	20	2			
18C代	3	4	2	14	9	2	0	6	0	43	0	0	0	40	43			
19C前葉	2	1	0	28	1	0	4	4	3	0	18	0	0	43	18			
19C中葉～後葉	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	2	1	2	0	4			
近代以降	1	0	0	3	0	0	1	0	6	0	2	16	1	5	11			
計	31	16	2	45	10	3	8	10	10	2	67	17	3	5	135			

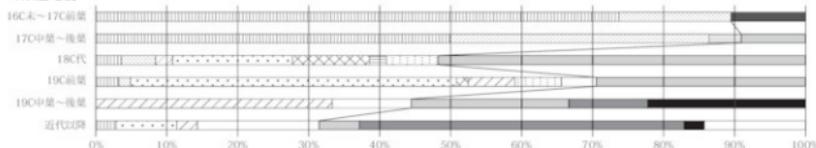
#### 碗類産地別



#### 皿類・盤産地別



#### 鉢類産地別



第 160 図 陶磁器 主要器種時期別産地比率

産地が特定できる陶器としては、大堀相馬、瀬戸美濃、埴、肥前、常滑があり、大堀相馬の割合が高い。磁器では瀬戸美濃、肥前、地方窯や九谷が認められ、瀬戸美濃が40%を占めている。器種は碗、皿類、鉢類、壺・甕類、瓶類、水注類などがあり、その他に火鉢や土管、パイプなどがある。中でも磁器の碗類が多く、40%を占めている。陶器では碗、皿類、鉢類といった食膳具よりも、火鉢や土管、植木鉢といったものが目立ち、磁器では食膳具の割合が高い。また磁器の装飾技法には、明治以降にみられる型紙摺り、銅版転写、ゴム白判があり、中でも銅版転写のものが多く、さらに太平洋戦争時に製産された統制食器も少量ながら認められ、これは軍隊で使用されたものとみられる。

#### [他遺跡との出土傾向の比較など]

本調査地点での出土陶磁器の傾向について、仙台城三ノ丸跡や二の丸跡、北方武家屋敷地区での調査と比較すると、16世紀末から17世紀前葉の産地では、陶器が瀬戸美濃、磁器が中国磁器、器種では皿類を主体とする傾向は概ね同じといえる。17世紀中葉から後葉の陶器は、唐津及び肥前が増え、瀬戸美濃が減少する傾向や、皿類が減少し碗類が増加することも概ね二の丸での傾向と一致している。二の丸のこの段階では磁器の皿類の割合が約9割を占めているが、本調査地点では6割程度とやや少ない傾向が認められる。18世紀代の陶器産地では大堀相馬、器種では碗類が主体を占める傾向も同様であるが、本調査地点では、二の丸に比べて京・信楽の比率が低い傾向がある。さらに19世紀の陶器の産地では大堀相馬が卓越し、磁器では瀬戸美濃製品が主体を占めるようになる傾向も同様であり、器種においての陶器の土胎が増加することや、磁器では碗類が主体な傾向も概ね同様である。

以上のように、同じ仙台城内での陶磁器類の時期別の産地や器種比率の傾向については、概ね一致し、大きな差異はないことがわかるが、17世紀中葉から後葉の磁器皿類や18世紀代の京・信楽製品の割合の差については、二の丸という、藩主を中心とした居住域に対し、大身ではあるが一家臣屋敷といった性格の違いや居住者階層の違いが現れていることも考えられる。

また、今回の調査で出土した18世紀から19世紀前葉の時期に位置づけられる陶磁器には、少なからず被熱したものが含まれている。これらの陶磁器は、弘化3(1846)年の屋敷火災により火を受けたものと推定される。

## (2) 土師質土器について

土師質土器は968点出土しており、器種には皿、焼塩壺、火鉢、植木鉢などがある。中でも皿が多く、799点出土している。遺物の約半数が攪乱など遺構外からの出土で、遺構ではSK189やSK214から多く出土している。どちらの土坑も遺構間の重複が激しい調査区南側に位置しており、SK214では遺物の出土状況から一括廃棄された可能性が高い。土師質土器の特に皿は、陶磁器のように長期間使用されるものとは異なり、一般的には儀式や宴会等に一時的に使用した消耗品と考えられている。そのため以下では全体の傾向の他、SK189とSK214から出土した皿について見ていくこととする。

#### [皿]

##### 全体の傾向

皿はその胎土や形状、使用状況などの理由から遺存状態が極めて悪く、図示が可能であった33点以外は大半が小破片である。調整は全てロクロ調整によるものである。全体の法量は、口径が5.3～20.5cm、底径3.4～14.3cm、器高が1.5～4.0cmとかなりの幅があり、中でも口径が10～14cm、底径が6～8cm、器高が2～3cm程度のものが主体的である。形状は底部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がり内湾するものと、角度に差はあるが、直線的に立ち上がるものがあり、後者がほとんどである。

全ての底部外面には回転糸切りの痕跡が残るものだが、一部のものの底部外周にナデ調整が施されているものもある。その他にも体部と底部外面にミガキ調整が施されているもの(1116・12380など)も少量だが認められる。

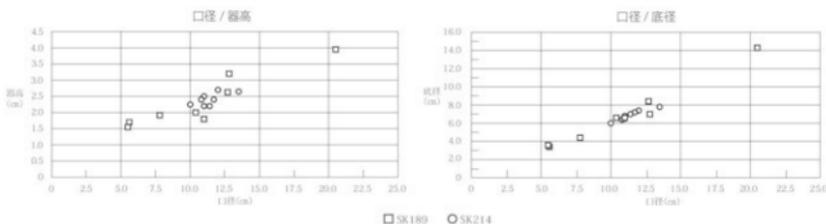
また、口縁部付近の内外面や内面底部に煤が付着しているものが49点あり、これらは灯明皿として利用されたと考えられ、中には口縁部の一部が故意に打ち欠かれ、割口に煤が付着するもの（II123）もある。

SK189とSK214から出土した皿について

SK189から72点、SK214から205点の皿が出土している。煤の付着率は低く、2つの土坑合計でもわずか4点のみである。この内、法量を計測できたものはSK189が10点、SK214が9点ある。東北大学による仙台城二の丸跡の調査では、皿の口径が10cm以下を小型、10～15cm程度の中型、15cm以上を大型と分類しており、ここではその分類基準に準じて観察した。その結果、口径が5.5cm前後と7.5cm前後の小型、10～11cm前後と12～13cm前後の中型、20cm前後の大型に分類することとした。各点数は小型が3点、中型が12点、大型が1点のみである。数の多い中型では口径が10～11cm前後のものが多い傾向がある。各器高をみると、小型の口径5.5cm前後のものは1.6cmほど、7.5cm前後のものは1.9cmほどで、中型の10～11cm前後のものは2.2cmほど、11～12cm前後のものは2.7cmほどのものが多い。また大型のものは4cmの器高があるが、全体に浅い形状といえる。（第161図）。

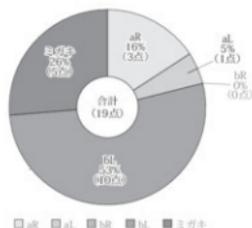
底部調整について観察できたものは、SK189が10点、SK214が9点ある。底部の糸切り技法の観察についても仙台城二の丸跡調査の分類に従って行った。底部の糸切り技法は、a：糸切り痕跡の中心が底部縁辺にあるもの、b：糸切り痕跡の中心が底部の中央にあるものに分類し、さらに左（L）と右（R）の回転方向の違いと組み合わせでaR、aL、bR、bLの4種類に分類した。また、底部にミガキ調整が施されているものについても合わせて集計した（第162図）。その結果、b技法が10点（53%）、ミガキが5点（26%）、a技法が4点（21%）である。回転方向を組み合わせるとbLが10点、aRが3点、aLが1点となる。調整はb技法の左回転の割合が高く、次いでミガキの施されたものが多い傾向が窺える。b技法の右回転は認められず、a技法については右回転の割合が高い。

仙台城二の丸跡調査の報告では、口径は18世紀末から19世紀初頭では中型のものは口径10～13cm、19世



第161図 土師質土器皿の法量分布

	SK189	SK214	計	技法別計
aR	2	1	3	4
aL	1	0	1	
bR	0	0	0	
bL	4	6	10	
ミガキ	3	2	5	5
計	10	9	19	19



第162図 底部調整の類型比率

紀中葉は10cm前後に集中し、13cm前後にもまとまりがあり、器高については18世紀末から19世紀初頭以降、全体的にやや浅くなる傾向があるとされている。また底部調整の技法については、a技法が18世紀末から19世紀初頭以降に右回転が多くなり、b技法は18世紀後葉以降左回転が多数を占めるとされている。これに対し、近世初期とされる若林城跡のSX14 廃棄土坑出土の皿は、今回の出土品と比較して全体に口径や器高が大きく、a技法が圧倒的に多い傾向がうかがえる。SK189とSK214から出土した土師質皿については、中型の口径が10～13cmが中心で、底部の調整技法はb技法の左回転を主体し、a技法については数が少ない傾向がうかがえる。この傾向は二の丸第9地区16号土坑や1号池3c層・3b層、2号池3c層・3b層の内容とも大きな違いは無く、SK189とSK214出土の土師質土器の皿の時期は、18世紀から19世紀代と考えられる。

#### [ 焼塩壺 ]

焼塩壺は35点出土している。皿同様の理由から遺存状態は悪く、多くは小破片であり、口縁部から底部まで遺存しているものは1点のみである（I2371）。焼塩壺の分類については、東北大学による仙台城二の丸跡の調査で、形状や加工・調整内容からA類からD類に分類されている。今回の調査で出土した焼塩壺の大半が外面に格子叩き目を有するタイプ（D類）であり、31点出土している。これらには底の薄いものと浅いものがあり、また外面の格子の叩き目の形状がやや縦長で菱形のものと正方形に近いものが認められるが、前者がほとんどを占めている。二の丸で出土している正方形の叩き目を有するものは、底が厚く、叩き目が底部に対して斜めに施されているが、今回の調査で出土したI477は底が薄く、叩き目が底部に対して平行に施されているなど差異が認められる。

また僅かではあるが、格子叩きのみならず、体部下端に横位のヘラケズリが施されるものもみられる。これらは仙台城跡三の丸跡の調査では焼塩壺2a類・2b類とし、慶長から元和の時期が与えられ、また若林城跡では1類とし、寛永期の時期が与えられた焼塩壺であり、本調査でも近世初期に属するものと考えられる。

### (3) 瓦について

瓦は出土遺物中、最も多い20.152点が出土している。瓦の種別には、軒丸瓦、丸瓦、軒丸瓦、平瓦、伏間瓦、爨斗瓦、輪違い瓦、面戸瓦、鬼瓦、軒棧瓦、棧瓦があり、これらは全て近世瓦であるが、時間的には近世初期から幕末に至るまでの長期間に使用されたものが混在するとみられる。全体的に遺存状態は悪く、出土量の割には全体形や法量を把握できるものは非常に少ない。出土瓦は丸瓦と平瓦が出土量の98%を占めている。以下では種別ごとにその特徴を概観する。

#### [ 軒丸瓦 ]

軒丸瓦は80点出土している。大半は瓦当部のみ遺存したものを分類しており、全体を把握できるものは、図示したF7のみである。F7の全長は29.8cmで、玉縁部を除いた長さは27.0cmである。瓦当部文様が判明したものは51点あり、その内訳は珠文三巴文が41点、九曜文が10点である。瓦当部の径は16～17cm前後のものが多く、周縁幅はいずれも2cmほどである。

瓦当文様をみると、珠文三巴文の巴文が右巻きなのが21点、左巻きは17点、方向不明のものは3点ある。巴文の形態は、頭の形状が玉状のもの（F23・F25など）とそうではないもの（F8・F24）があり、玉状のものが大半を占める。珠の径は5～10mmほどで、中でも7～8mm程度のものが多い。珠の数については16個、20個、21個があり、20個のものが大半を占める。九曜文は破片のみであり、文様の全容がわかるものは無い。中央の珠径は35～45mmとばらつきがみられる。外周の珠径は全て23mm程度である。

#### [ 丸瓦 ]

丸瓦は5.316点出土しているが、中には軒丸瓦、輪違い、面戸瓦の破片が含まれているとみられる。尻部は玉縁を有する形状で、輪違いに見られるような尻の丸くなる無段のものは確認できない。全体を把握できるものは

少ないが、全長は 29.2～30.9cm の 30cm 程度のもの、32.5～34.4cm の 33cm 前後の 2 種類に分けられる。30cm 程のもの胸の長さは 26.0～27.3cm、33cm 前後のものは 29.8cm と大型といえる。これらを尺貫法に換算すると、前者は 9 寸程度、後者は 1 尺程度となる。幅については最小で 14.4cm、最大で 17.1cm である。

丸瓦の凸面は縦位のナデ調整が施され、凹面には全体に布目が残っている。また凹面には横方向のコビキ痕、吊り紐圧痕、棒状工具による刺突痕が確認できる。

#### [軒平瓦]

軒平瓦は 47 点出土しているが、全て遺存状態が悪く、大半が瓦当部の破片である。文様が把握できるものは 18 点ある。文様の中央飾りは笹文のみで、全て左右に唐草文が配されている。若林城跡で出土し、近世初期とみられる、三葉文、桔梗文、菊花文は全く見られない。唐草文は全て内側の唐草が下、外側が上を向いたものである。文様はその意匠の違いから a～d の 4 つに分けられる。a は笹文と唐草文が降線で表現されているもの (G5・G24 など) で、最も多い 12 点が認められる。笹文は雪持ち笹で、葉脈が独立して表現されている。唐草文は幅に差異はあるが、降線で表現されており、仙台城三の丸跡分類の B・2・3 類に該当する。b は笹文と唐草文が降帯で表現されているもの (G15・G16 など) で、4 点出土している。笹文は雪持ちではなく、唐草はそれぞれが独立して表現されている。c は笹文と唐草文が降線で表現されるが、唐草文が 1 本線で表現されており、笹文も葉脈が繋がっているもの (G20) で、1 点出土している。これは a よりも簡略的な要素をもつ。d は破片のため図示していないが、笹文を降線、唐草文を降帯で表現するもので、1 点出土している。a と b を合わせたようなものである。また唐草文のみ判別できるものが 26 点あるうち、唐草文の表現が降線によるものは 13 点、降帯によるものは 10 点あり、全体的に降線によるものが半数以上を占めている。

#### [平瓦]

平瓦は 14,480 点出土しており、瓦の中でも最も多数である。遺存状態は悪く、数量の割には全長や幅を把握できるものは極めて少ない。法量は全長が 23.5～28.5cm の幅があり、そのうち広端幅は 23.0～25.4cm、狭端幅は 21.4～24.0cm である。全長から、大きさは 27.0～27.9cm と 23.5～25.5cm 程度の 2 つの大きさに分けられる。これを尺貫法に換算すると、前者は 9 寸前後、後者は 8 寸前後となる。

凸面の調整は縦位の粗いナデ調整が施され、多くのものには離砂が確認できる。また凹面はやや強い横位のナデの後、両側に縦位のナデが施されている。また小口に「○」の刻印が押印されているのを 2 点のみ確認したが、その意味は不明である。

#### [輪違い・面戸瓦]

輪違いは 19 点、面戸瓦は 16 点出土している。これらは瓦の特徴が残る端部のみの遺存であり、この他にも多くの破片が丸瓦に分類されているとみられる。

輪違いは狭端部の差し込み部分が直線的な形状のもの (H20・H21 など) と、丸くすぼまるもの (H15 など) がある。直線的なもの法量は、長さ 10.8～12.7cm、広端幅 12.7～15.1cm、狭端幅 5.0～9.1cm、高さは 5.3～7.0cm である。丸くすぼまるものは、長さ 12.1～12.7cm、広端幅、高さについては欠損しているため不明である。狭端幅は 6.0cm のものがある。直線的なものは広端幅と狭端部の差が大きいものが多いが、中には少ないもの (H22) もある。

面戸瓦は短軸方向の凸面側が直線的なもの (H16・H17 など) と、全体に丸く湾曲するもの (H24) がある。長さは 7.3～10.3cm である。幅は計測できるものは 1 点だけで、14.7cm、高さは 6.1～7.1cm である。長さから 9.5cm 前後のもの一回り小型の 7.3cm ものに分けられる。また、器厚 1.5cm と他より薄く、凹面の面取り幅が狭いもの (H25) が認められる。

輪違いと面戸瓦については、丸瓦と比較してやや薄めで、凹面に布目は残るが、吊り紐圧痕や刺突痕はほとんど

確認できない。若林城跡で出土した寛永期の輪違いや面戸瓦については、本来玉縁が付かず、尻部が丸くなる特殊な形状の軒丸瓦の存在から、輪違いと面戸瓦はこの軒丸瓦の胴部を二分割から四分割して製作した可能性が示されている。今回出土した輪違いと面戸瓦についても同様の傾向が確認できる。また今回出土した輪違いの中でも、差し込み部分が極端に狭くなるものについては、若林城跡では出土しておらず、新しい要素を持つものと理解できる。

#### [その他の瓦]

その他には伏間瓦、熨斗瓦、鬼瓦、塀瓦、軒瓦及び棧瓦が出土しているが、塀瓦以外は破片で、法量などの検討ができないものである。伏間瓦は7点出土しており、鳥伏間瓦と角伏間瓦と推定されるものが出土している。熨斗瓦は8点のみの出土としているが、これもまた平瓦に分類しているものが多数あるとみられる。熨斗瓦は平瓦を素材に、焼成前に中央に縦の分割線を切り、焼成後にこの部分を割る焼成後分割によるものであり、焼成前に形状を仕上げたものは確認できない。凹面には幅1.3～1.5cmで4～5本の比較的細かな滑り止めを目的とした櫛目が施されているもの(H1・H2など)が認められる。鬼瓦は2点あり、全体形や文様は不明だが、瓦当部の珠文と推定されるもの(H7)がある。塀瓦は8点あり、法量のわかる(H9)は、長さ19.4cm、厚さ3.8cmあるが、幅は欠損し不明である。長さは6寸程度になる。

軒瓦は5点出土している。瓦当の小巴が遺存し、文様が判明したものは4点であり、左巻きの巴文が2点、九曜文が2点認められる。小巴の直径は9.5cm前後である。また棧瓦は3点出土している。棧瓦は全体を通して僅かな出土量であるが、近世後半の屋敷建物の一部には本瓦葺きではなく、棧瓦葺きの建物も存在していたと考えられる。

#### [瓦類の出土傾向など]

瓦は出土量の98%が丸瓦と平瓦であり、特にSK92から2,751点、SE2から1,083点、SK36から762点、SK189から738点と多く出土している。SK92とSE2では出土遺物のほぼ100%が瓦で、SK92ではその95%が平瓦と偏った出土傾向をみせている。これらは全て使用済となった瓦を人為的に廃棄したことが理由と考えられる。また瓦は全体的に小破片での出土が多く、接合・復元できるものが少ない状況である。このことから、瓦が何らかの理由により屋根から解体され、廃棄される際には、人為的に小割にされるなどの手が増えられた後、土坑に廃棄、或いは地面などに敷かれるなどしたことが想定される。

今回の調査では丸瓦は5,316点(600,796g)、平瓦は14,480点(1,546,826g)出土しているが、これを、出土した平均的な丸瓦の重量1,985g、平瓦の重量2,032gと仮定し、現地に残存した瓦の推定個体数を算出した。その結果、丸瓦は333個体、平瓦は761個体となり、両者は1.2.3ほどの割合となったが、これが実際に屋根に葺かれた両瓦の数量割合を示しているものとは言い難い。

さらに陶磁器同様、瓦にも煤が付着したり、二次的に熱を受けて変色したり、脆くなっているものが一定量確認できる。通常、このように瓦が被熱する状況は考えられず、これもまた屋敷火災が原因とみることができる。

#### (4) その他の遺物について

調査では、ほとんどを占める近世以降の遺物以外にも、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器などが出土している。3年次にわたる調査での下層調査や断面観察では、これらの時期に該当する遺構の存在は全く確認できなかった。これらが近世の整地土や石敷遺構下に存在する可能性を否定することはできないが、中世以前の遺物に関しては、調査地の西側に位置する山麓部からの流れ込みや、近世における当地区での屋敷地造成の際、採取土などに混入していた可能性もある。

## 参考・引用文献

- 江戸遺跡研究会『図説 江戸遺跡研究事典』柏書房株式会社 2001
- 江戸陶磁土器研究グループ『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』1996
- 九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会 10周年記念』2000
- 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター『江戸時代の瀬戸窯』2002
- 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター『江戸時代的美濃窯』2003
- 佐藤 巧『近世武士住宅』叢文社 1976
- 白石市史編さん委員会『白石市史 4 史料篇(上)』『片倉代々記』「年表(年代重要記)」1970
- 仙台市教育委員会『仙台城三ノ丸跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第76集 1985
- 仙台市教育委員会『仙台北丸跡1次調査—石垣修復に伴う発掘調査報告書—』仙台市文化財調査報告書282集 2005
- 仙台市教育委員会『仙台城跡—追廻地区遺構確認調査—』仙台市文化財調査報告書第350集 2009
- 仙台市教育委員会『仙台城跡10—仙台北丸大広間跡調査成果の総括—』仙台市文化財調査報告書第374集 2010
- 仙台市教育委員会『若林城跡第5次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第323集 2008
- 仙台市教育委員会『若林城跡第8次・第9次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第377集 2010
- 仙台市教育委員会『若林城跡—第11次発掘調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第383集 2011
- 仙台市史編さん委員会『仙台市史 通史編3 近世1』2001
- 仙台市史編さん委員会『仙台市史 通史編4 近世2』2003
- 仙台市史編さん委員会『仙台市史 通史編5 近世3』2004
- 仙台市史編さん委員会『仙台市史 特別編7 城館』2006
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会『仙台城二の丸跡』『東北大学埋蔵文化財調査年報1』1985
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会『仙台城二の丸跡』『東北大学埋蔵文化財調査年報6』1993
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会『仙台城二の丸跡』『東北大学埋蔵文化財調査年報7』1994
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター『仙台城二の丸跡』『東北大学埋蔵文化財調査年報8』1997
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター『仙台城二の丸跡』『東北大学埋蔵文化財調査年報9』1998
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター『仙台城二の丸跡』『東北大学埋蔵文化財調査年報13』2000
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター『仙台城跡二の丸』『東北大学埋蔵文化財調査年報18』2005
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター『仙台城二の丸北方武家屋敷地区』『東北大学埋蔵文化財調査年報19』第1分冊 2006
- 東北大学埋蔵文化財調査室『東北大学埋蔵文化財調査年報19』第2分冊 2009
- 東北大学埋蔵文化財調査室『東北大学埋蔵文化財調査年報19』第4分冊 2008
- 東北大学埋蔵文化財調査室『東北大学埋蔵文化財調査年報19』第5分冊 2010
- 平凡社『宮城県の名』日本歴史地名大系4 1987
- 八木清勝ほか『よみがえる白石城』碧水社 1995

# 写 真 图 版





仙台城跡と追廻地区(東から)

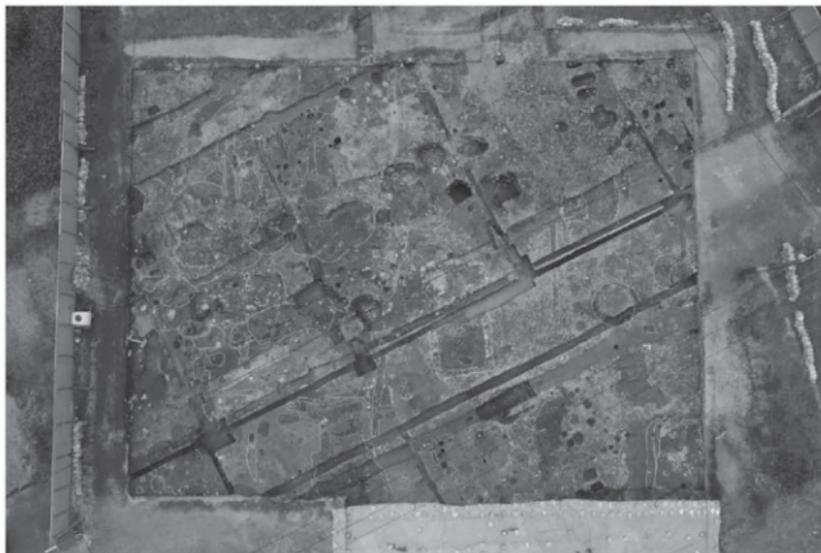
平成24年度調査時撮影



市街地と追廻地区(南西から)

平成26年度調査時撮影

写真図版1 仙台城跡と追廻地区



第4次調査 全景（西が上）



第4次調査 北側全景（北が上）

写真図版2 第4次調査 全景



第5次調査 全景（北が上）



第5次調査 西側全景（北が上）

写真図版3 第5次調査 全景



第6次調査 全景（北が上）

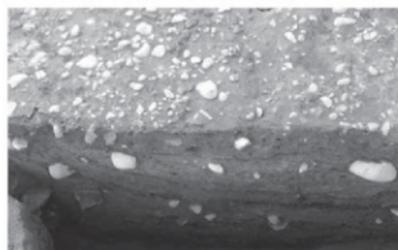


第6次調査 西側全景（北が上）

写真図版4 第6次調査 全景



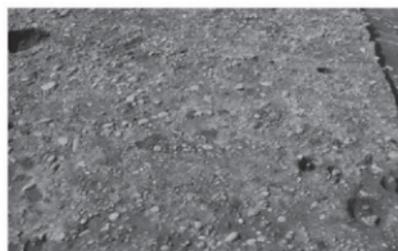
第4次調査 III a・III c層石敷遺構 検出全景(北から)



III a層石敷遺構 土層断面(東から)



III c層石敷遺構 土層断面(南から)



III a層石敷遺構 検出近景(X10-11、Y-5-6付近・南から)



III c層石敷遺構 検出近景(X12-13、Y-5-6付近・東から)

写真図版5 第4次調査 石敷遺構



第5次調査 III c層石敷遺構 検出全景(南から)

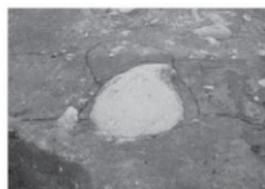


第6次調査 III c層石敷遺構 検出全景(北から)

写真図版6 第5次調査・第6次調査 石敷遺構



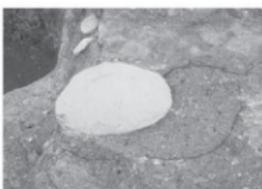
1号礎石建物跡 検出全景(西から)



礎石1 検出状況(南から)



礎石2 検出状況(西から)



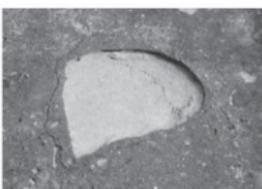
礎石3 検出状況(南から)



礎石4 検出状況(南から)



礎石6 検出状況(南から)



礎石7 検出状況(南から)



礎石8 検出状況(東から)



礎石9 検出状況(南から)

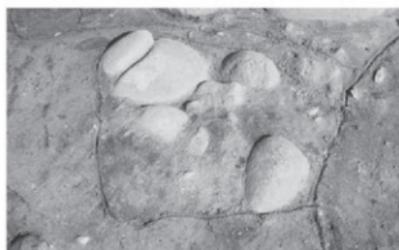


礎石10 検出状況(南から)

写真図版7 1号礎石建物跡



2号礎石建物跡 検出全景(北から)



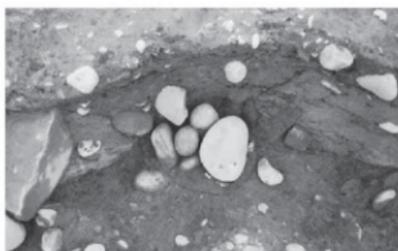
2号礎石建物跡-礎石跡1 検出状況(南から)



2号礎石建物跡-礎石跡2 検出状況(北から)



2号礎石建物跡-礎石跡3 検出状況(北から)



2号礎石建物跡-礎石跡4 検出状況(東から)

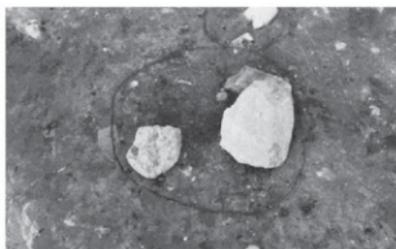
写真図版8 2号礎石建物跡・6号礎石建物跡



6号礎石建物跡 検出全景(南から)



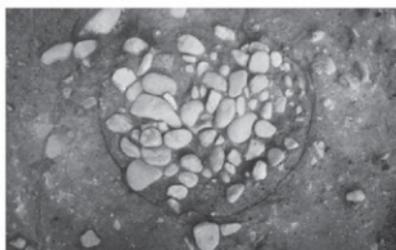
6号礎石建物跡-礎石跡1 検出状況(南から)



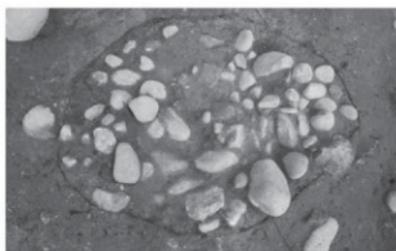
6号礎石建物跡-礎石跡2 検出状況(南から)



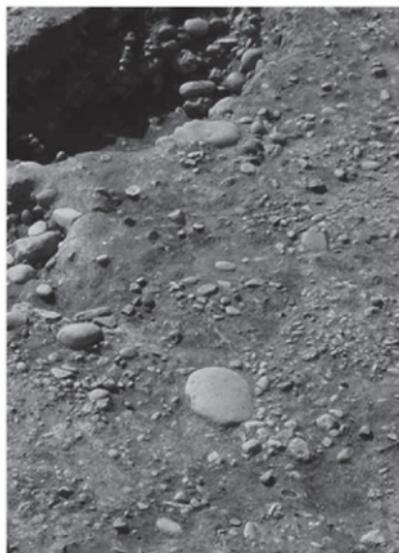
7号礎石建物跡 検出全景(東から)



7号礎石建物跡-礎石跡1 検出状況(南から)



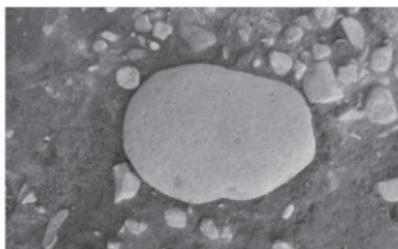
7号礎石建物跡-礎石跡2 検出状況(南から)



10号礎石建物跡 検出全景(東から)



10号礎石建物跡-礎石跡1 検出状況(東から)



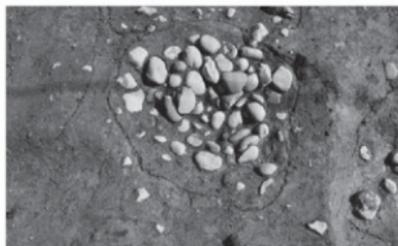
10号礎石建物跡-礎石跡2 検出状況(南東から)



11号礎石建物跡 検出全景(北が上)



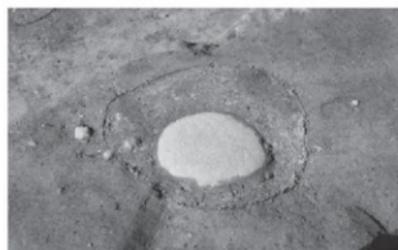
11号礎石建物跡-P1329 検出状況(南から)



11号礎石建物跡-P1561 検出状況(南西から)



3号掘立柱建物跡 検出全景(西から)



3号掘立柱建物跡 - P1 検出状況(西から)



3号掘立柱建物跡 - P2 検出状況(西から)



3号掘立柱建物跡 - P3 検出状況(西から)



3号掘立柱建物跡 - P4 検出状況(南から)

写真図版 11 3号掘立柱建物跡



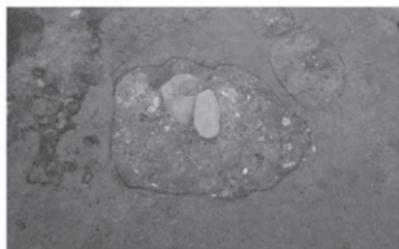
5号掘立柱建物跡 検出全景（東から）



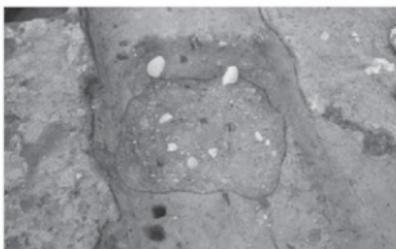
5号掘立柱建物跡 - P 1 検出全景（東から）



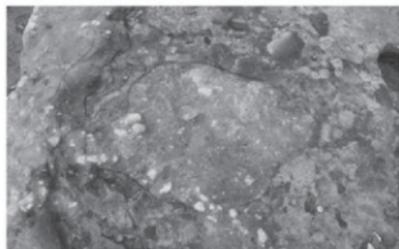
5号掘立柱建物跡 - P 2 検出状況（東から）



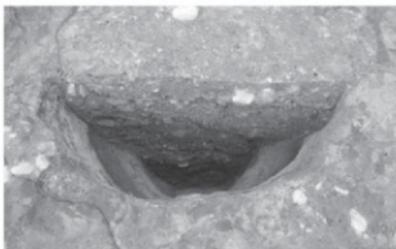
5号掘立柱建物跡 - P 3 検出状況（南から）



5号掘立柱建物跡 - P 4 検出状況（南から）



5号掘立柱建物跡 - P 5 検出状況（南から）



5号掘立柱建物跡 - P 5 断面状況（南から）

写真図版 12 5号掘立柱建物跡



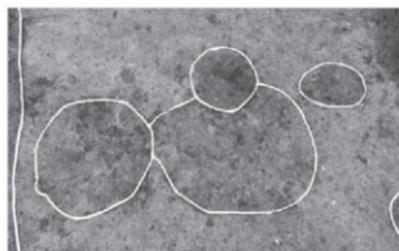
9号掘立柱建物跡 (P1～P3) 検出全景 (北から)



9号掘立柱建物跡 - P1 断面状況 (南から)



9号掘立柱建物跡 - P2 断面状況 (南から)



9号掘立柱建物跡 - P3 検出状況 (北から)

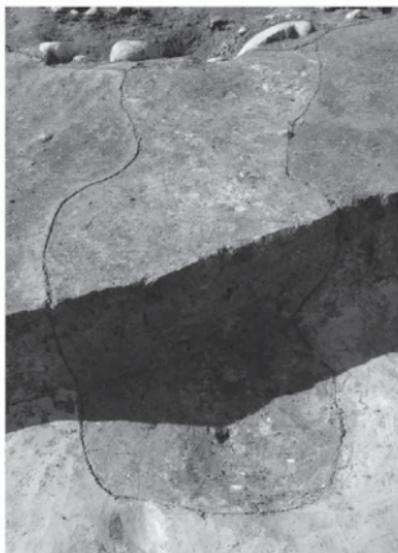


9号掘立柱建物跡 - P4 断面状況 (南から)

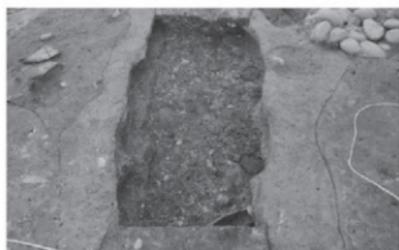
写真図版 13 9号掘立柱建物跡



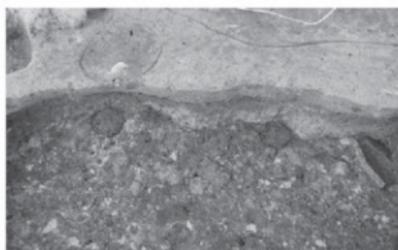
1号堀跡 検出全景 (西から)



1号堀跡 東側検出全景 (東から)



1号堀跡 柱痕跡検出状況 (東から)



1号堀跡 柱痕跡検出状況 (南から)



1号堀跡 柱痕跡断面状況 (西から)



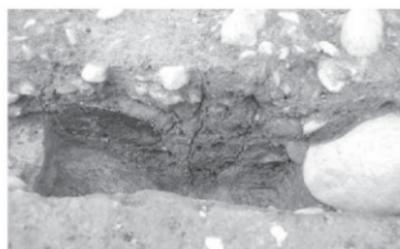
1号堀跡 断面状況 (西から)



2号堀跡 検出全景(拡張トレンチ2・南から)



2号堀跡 柱痕跡検出状況(拡張トレンチ2・南から)



2号堀跡 柱痕跡断面状況(拡張トレンチ2・南から)



2号堀跡 検出状況(拡張トレンチ3・北から)



2号堀跡 検出状況(拡張トレンチ4・東から)



2号堀跡 検出状況(拡張トレンチ5・北から)



2号堀跡 断面状況(拡張トレンチ5・北から)



2号堀跡 検出状況(拡張トレンチ6・南から)



3号堀跡 検出全景 (東から)



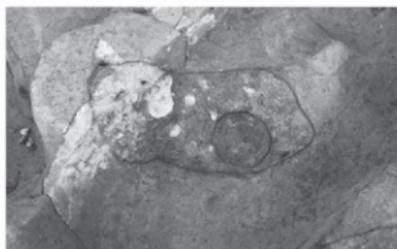
3号堀跡 柱痕跡検出状況 (南東から)



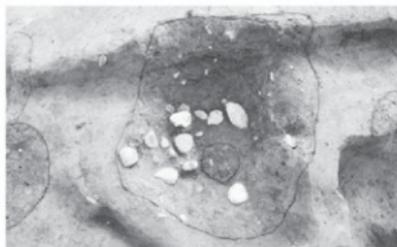
3号堀跡 柱痕跡断面状況 (西から)



4号堀跡 検出全景 (東から)



4号堀跡 - P 1 検出状況 (南から)



4号堀跡 - P 2 検出状況 (北から)



4号堀跡 - P3 検出状況 (北から)



4号堀跡 - P7 断面状況 (西から)



5号堀跡 検出全景 (西から)



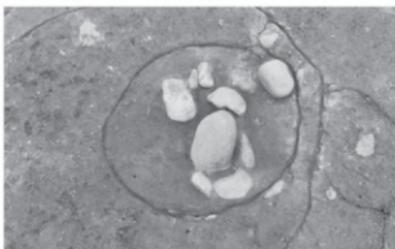
5号堀跡 柱痕跡検出状況 (南から)



5号堀跡 断面状況 (東から)



6号堀跡 検出全景(南東から)



6号堀跡-礎石跡1 検出状況(南東から)



6号堀跡-礎石跡2 検出状況(南東から)



6号堀跡-礎石跡3 検出状況(南東から)



7号堀跡 検出全景(北から)



7号堀跡 検出全景(南から)



7号堀跡 - P1 断面状況(西から)



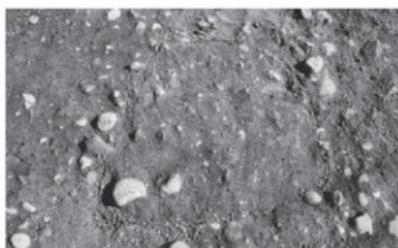
7号堀跡 - P2 断面状況(西から)



7号堀跡 - P3 断面状況(西から)



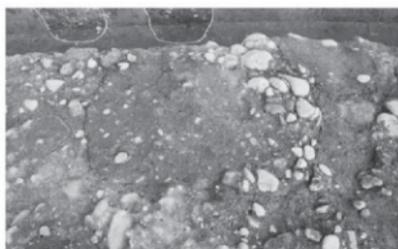
7号堀跡 - P4 断面状況(西から)



7号堀跡 - P5 検出状況(西から)



7号堀跡 - P6 検出状況(西から)



7号堀跡 - P7 検出状況(西から)



8号堀跡 検出全景(北西から)



8号堀跡 - P1 検出状況(南東から)



8号堀跡 - P2 検出状況(南東から)



8号堀跡 - P3 検出状況(南東から)



8号堀跡 - P4 断面状況(北東から)



8号堀跡 - P5 検出状況(南東から)



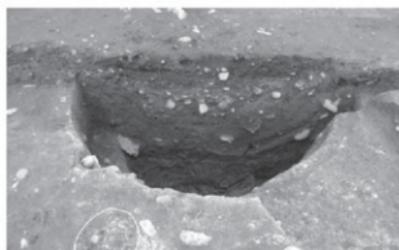
8号堀跡 - P6 検出状況(東から)



1号井戸跡 完掘状況 (南から)



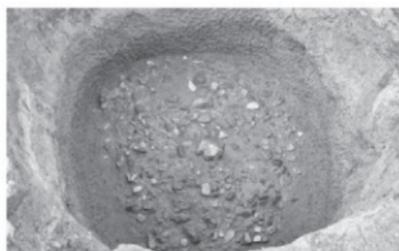
1号井戸跡 検出状況 (北から)



1号井戸跡 断面状況 (北から)



1号井戸跡 底部断面状況 (北から)



1号井戸跡 底部状況 (南から)

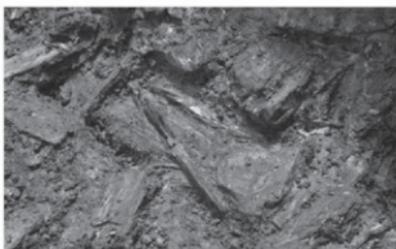
写真図版 21 1号井戸跡 (1)



1号井戸跡 木材出土状況（南から）



1号井戸跡 木製品出土状況1（東から）



1号井戸跡 木製品出土状況2（南から）



1号井戸跡 板材出土状況（南から）

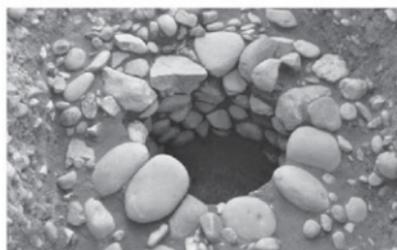


1号井戸跡 丸瓦出土状況（北から）

写真図版 22 1号井戸跡（2）



2号井戸跡 検出状況 (北から)



2号井戸跡 石組み検出状況 (北から)



2号井戸跡 石組み状況 (北から)



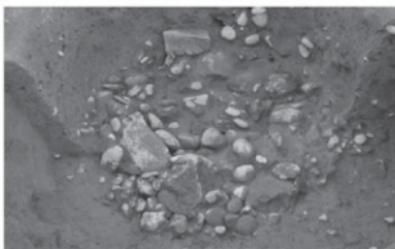
2号井戸跡 断面状況 (南から)



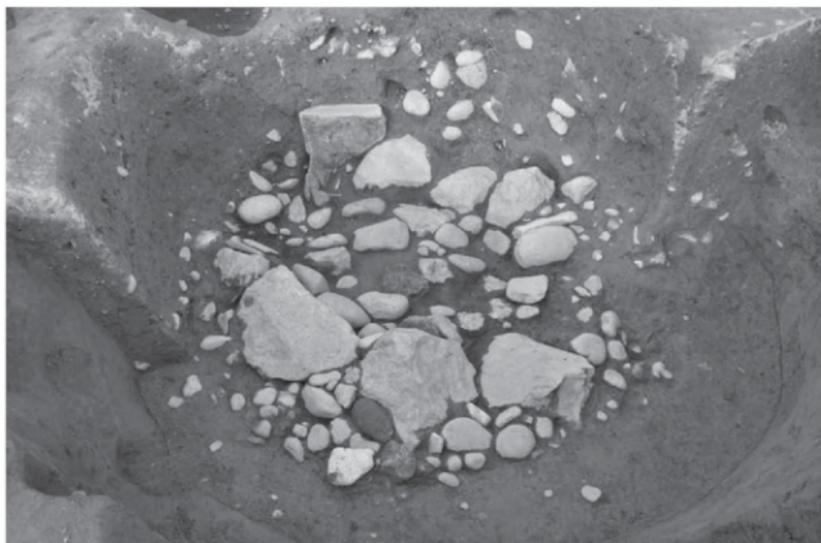
2号井戸跡 瓦出土状況 (南から)



3号井戸跡 掘り方検出全景（北から）



3号井戸跡 検出状況（南西から）



3号井戸跡 石組み検出状況（南西から）



4号井戸跡 断面状況（西から）



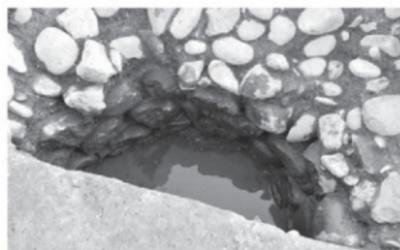
4号井戸跡 裏込め石検出状況（東から）



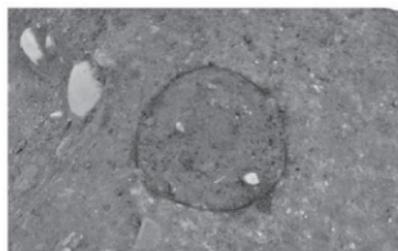
4号井戸跡 検出状況（西から）



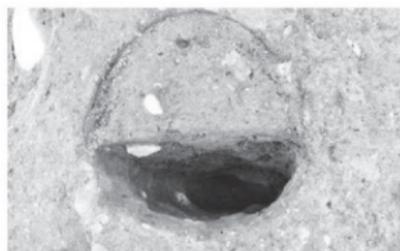
4号井戸跡 断面状況（西から）



2号井戸跡 石組み検出状況（北東から）



4号井戸跡 - P1 検出状況（東から）



4号井戸跡 - P1 断面状況（東から）



4号井戸跡 - P2 検出状況 (東から)



4号井戸跡 - P2 断面状況 (東から)



5号井戸跡 石組み検出状況 (東から)



5号井戸跡 掘り込み状況 (南東から)



5号井戸跡 断面状況 (南東から)



1号溝跡 検出全景 (西から)



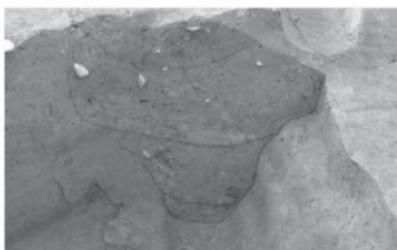
1号溝跡 断面状況 (西から)



2号溝跡 検出全景 (西から)



2号溝跡 断面状況 a-a' (東から)



2号溝跡 断面状況 c-c' (西から)



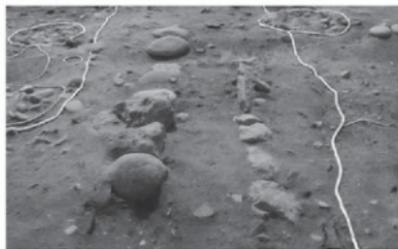
9号溝跡 検出全景 (東から)



9号溝跡 断面状況 (西から)



21号溝跡 検出全景(南から)



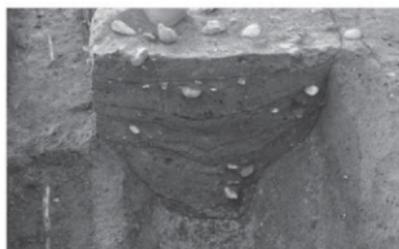
21号溝跡 石組み検出状況(北から)



21号溝跡底面 瓦出土状況(北から)



22号溝跡 検出全景(東から)



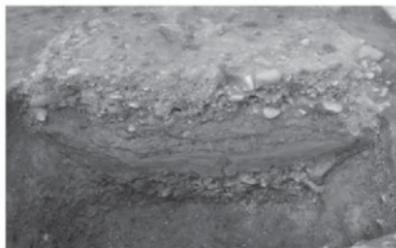
37号溝跡 断面状況(東から)



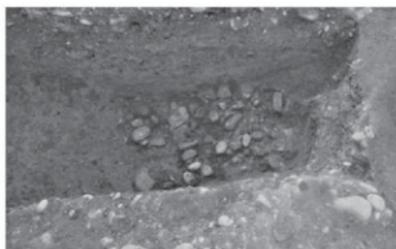
37号溝跡 検出全景(東から)



47号溝跡 検出全景(東から)



47号溝跡 断面状況(東から)



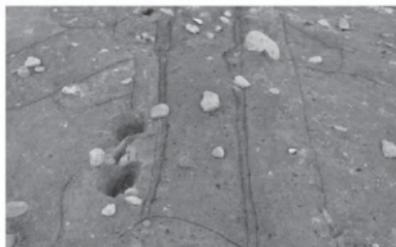
47号溝跡 底面状況(東から)



48号溝跡 検出全景(南西から)



48号溝跡 断面状況(南西から)



48号溝跡 壁面痕跡検出状況(南西から)



51号溝跡 検出全景(南から)



51号溝跡 北側検出状況(北から)



51号溝跡 断面状況(南から)



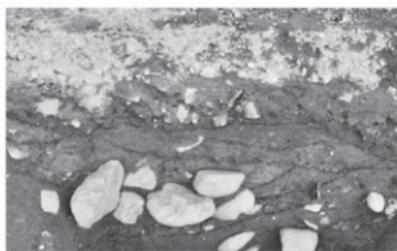
52号溝跡 検出状況(南から)



52号溝跡 断面状況(南から)



57号溝跡 検出全景(東から)



57号溝跡 断面状況(西から)



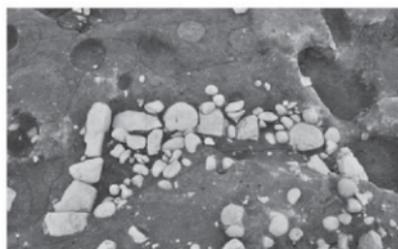
1号石組遺構 検出全景(南から)



1号石組遺構 石組み検出状況(南から)



1号石組遺構 石組み検出状況(東から)



1号石組遺構 石組み検出状況(西から)



1号石組遺構 石組み検出状況(北から)

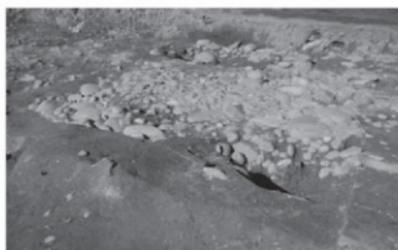
写真図版 31 1号性格不明遺構(石組遺構)



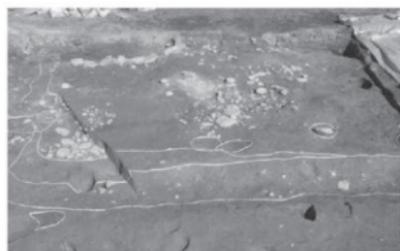
2号石敷遺構 石敷き検出状況(東から)



2号石敷遺構 石敷き検出状況(西から)



2号石敷遺構 石敷き検出状況(西から)



2号石敷遺構 溝跡検出全景(南から)



2号石敷遺構 断面状況C-C'溝部分(東から)

写真図版 32 2号性格不明遺構(石敷遺構)



3号石組遺構 検出全景(南から)



3号石組遺構 断面状況A-A'東側(北から)



3号石組遺構 断面状況A-A'西側(北から)



3号石組遺構 石組み状況 北西側(東から)



3号石組遺構 石組み状況 北東側(南東から)

写真図版 33 3号性格不明遺構(石組遺構)



4号石組遺構 検出全景(南から)



5号石組遺構 検出全景(南から)

写真図版 34 4号性格不明遺構(石組遺構)・5号性格不明遺構(石組遺構)



5号石組遺構 断面状況(南から)



5号石組遺構 石組み状況(北から)



6号石組遺構 石組み検出状況(南から)



6号石組遺構 検出状況(東から)



6号石組遺構 断面状況(南から)

写真図版 35 5号性格不明遺構(石組遺構)・6号性格不明遺構(石組遺構)



7号性格不明遺構 検出全景(東から)



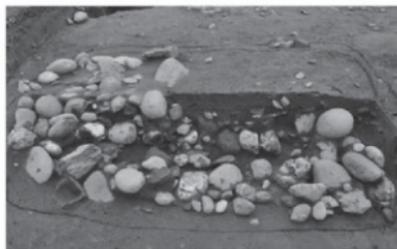
7号性格不明遺構 礎検出状況(西から)



8号石組遺構 石組検出状況(東から)



8号石組遺構 検出状況(東から)



8号石組遺構 断面状況(東から)

写真図版 36 7号性格不明遺構・8号性格不明遺構(石組遺構)



9号性格不明遺構 検出状況(東から)



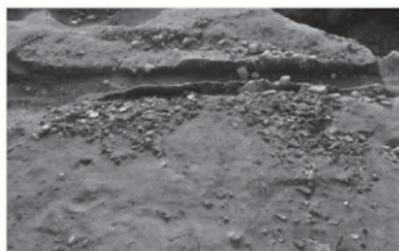
9号性格不明遺構 検出状況(南から)



10号性格不明遺構 検出全景(南から)



10号性格不明遺構 断面状況(東から)

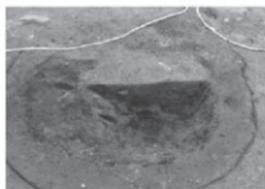


10号性格不明遺構 瓦出土状況(東から)

写真図版 37 9号性格不明遺構・10号性格不明遺構



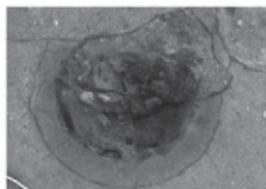
1号鍛冶炉跡・焼面7 検出全景(南から)



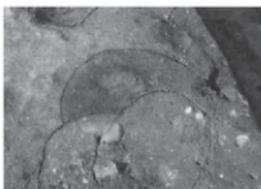
1号鍛冶炉跡 断面状況-上部(北から)



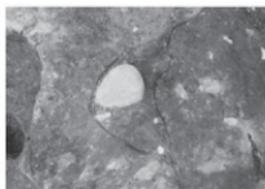
1号鍛冶炉跡 断面状況-下部(北から)



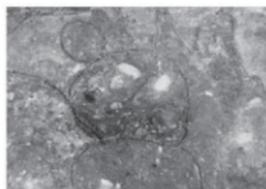
1号鍛冶炉跡 鉄滓出土状況(北から)



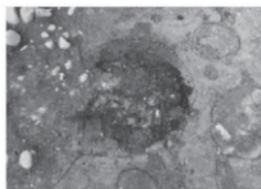
焼面8 検出状況(南から)



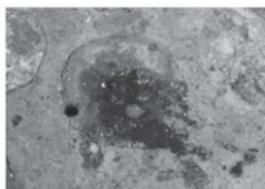
焼面9 検出状況(南西から)



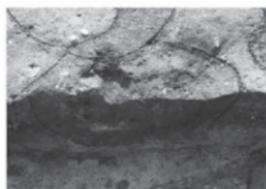
焼面10 検出状況(南西から)



焼面11 検出状況(南西から)



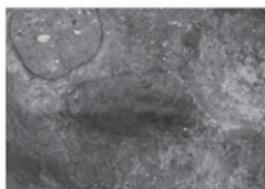
焼面12 検出状況(南西から)



焼面14 検出状況(東から)



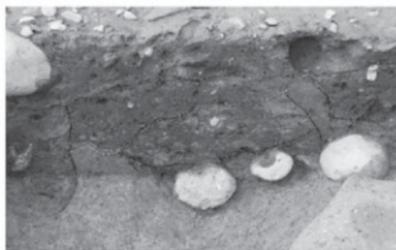
焼面15 検出状況(東から)



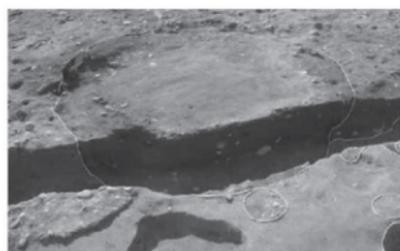
焼面16 検出状況(西から)



25号土坑 検出全景(南から)



25号土坑 断面状況(東から)



36号土坑 検出全景(南東から)



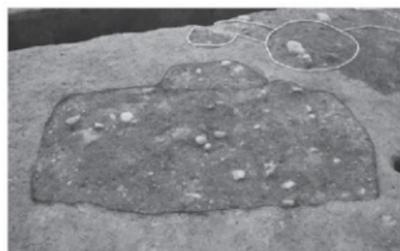
36号土坑 断面状況(東から)



36号土坑 下層瓦出土状況(東から)



36号土坑 南壁瓦出土状況(北から)



54号土坑 検出状況(東から)



54号土坑 断面状況(東から)



74号土坑 検出全景(南から)



74号土坑 断面状況(東から)



77号土坑 瓦出土状況(東から)



77号土坑 断面状況(北東から)



77号土坑 断面状況-西側(南から)



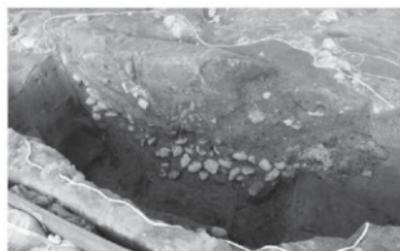
77号土坑 断面状況—中央部(南から)



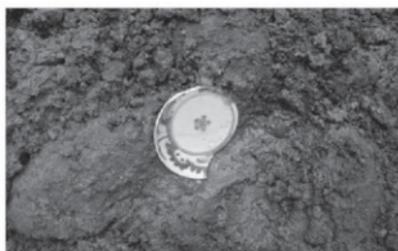
77号土坑 断面状況—東側(南から)



81号土坑 検出全景(東から)



81号土坑 断面状況(北東から)



81号土坑 遺物出土状況(北から)



83号土坑 検出全景(南から)



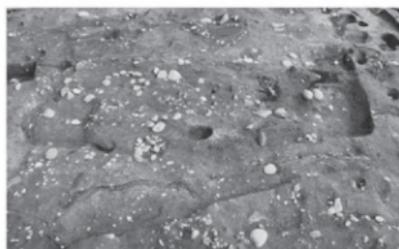
83号土坑 断面状況b-c(南から)



84号土坑 断面状況(北西から)



84号土坑 遺物出土状況(北東から)



85号土坑 検出全景(西から)



92号土坑 検出全景(南から)



92号土坑 断面状況a-a'(北から)



92号土坑 断面状況b-b'(南から)

写真図版 42 83号土坑・84号土坑・85号土坑・92号土坑



113号土坑 検出全景(東から)



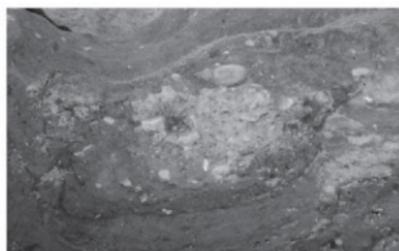
113号土坑 断面状況(北西から)



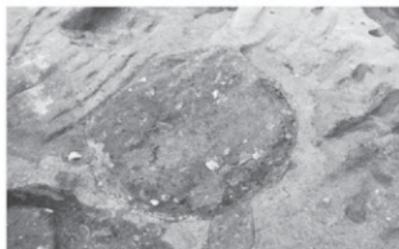
113号土坑 断面状況-北側(西から)



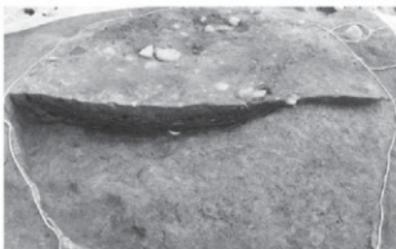
163号土坑 検出全景(南から)



163号土坑 断面状況(南から)



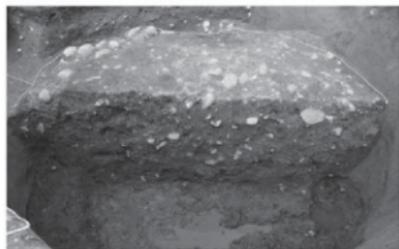
178号土坑 検出全景(南から)



178号土坑 断面状況(南から)



183号土坑 掘り込み状況(南西から)



183号土坑 断面状況(南西から)



186号土坑 検出全景(西から)

写真図版 44 178号土坑・183号土坑・186号土坑



189号土坑 検出全景(北から)



189号土坑 断面状況a - a' (南から)



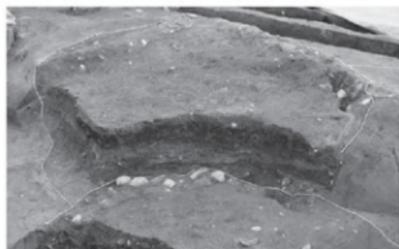
189号土坑 断面状況c - c' 南側(東から)



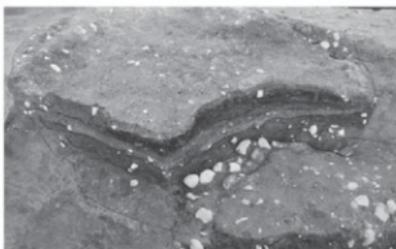
189号土坑 遺物出土状況(北西から)



189号土坑 遺物出土状況(北東から)



199号土坑 検出全景(南西から)



199号土坑 断面状況(西から)



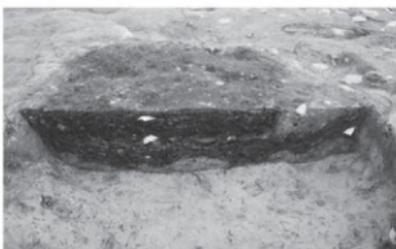
200号土坑 検出全景(西から)



200号土坑 断面状況(東から)



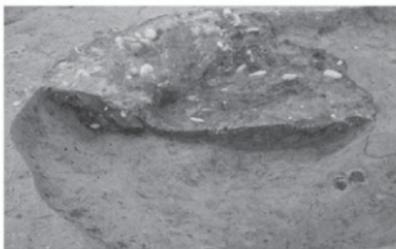
214号土坑 検出全景(南から)



214号土坑 断面状況(北西から)



214号土坑 遺物出土状況(北西から)



228号土坑 断面状況(西から)

写真図版 46 199号土坑・200号土坑・214号土坑・228号土坑



383号土坑 検出全景(北から)



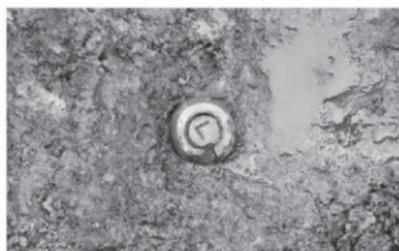
383号土坑 断面状況a-a'(東から)



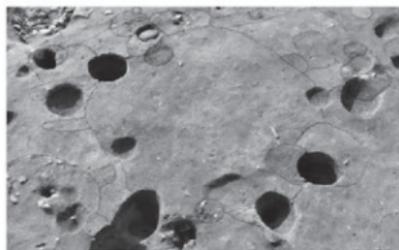
383号土坑 断面状況b-b'(南から)



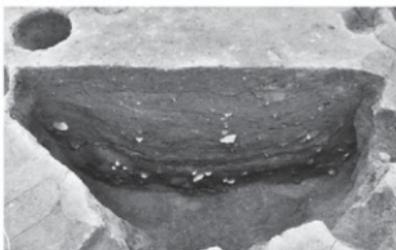
383号土坑 軒丸瓦出土状況(南東から)



383号土坑 漆器出土状況(南東から)



424号土坑 検出全景(北から)



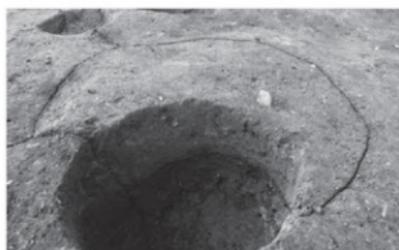
424号土坑 断面状況(北東から)



426号土坑 検出全景(南東から)



426号土坑 断面状況(南東から)



428号土坑 検出全景(北東から)



428号土坑 断面状況(北東から)



489号土坑 検出全景(北東から)

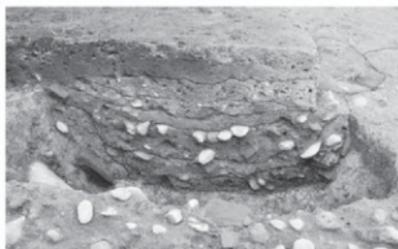


489号土坑 断面状況(北西から)

写真図版 48 424号土坑・426号土坑・428号土坑・489号土坑



543号土坑 検出状況(南東から)



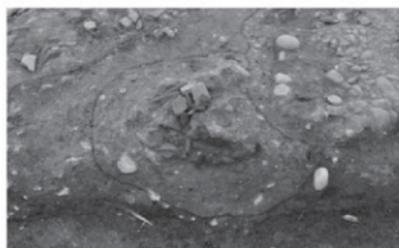
543号土坑 断面状況(南から)



543号土坑 検出状況(南から)



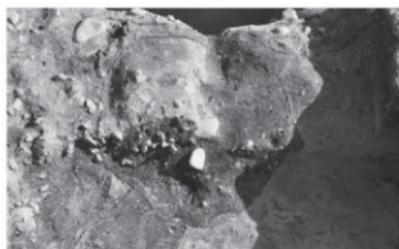
P 1484・P 1485 検出全景(南から)



P1584 検出全景(北東から)



P1584 断面状況(北東から)



P1585 検出全景(北から)



P1585 断面状況(北から)



1号試掘区 遺構検出全景（西から）



1号試掘区 断面状況-南壁（北から）



1号試掘区 断面状況-東壁（西から）



1号試掘区 SK1検出状況（東から）



1号試掘区 SX1掘り込み状況（南から）



2号試掘区 遺構検出全景 (西から)



2号試掘区 断面状況-南壁 (北から)



2号試掘区 断面状況-東壁 (西から)



2号試掘区 SK 7・8、P 16検出状況 (北から)



2号試掘区 P 6検出状況 (北から)



1608 (96图1)



1620 (96图2)



184 (96图3)



1614 (96图4)



11472 (96图5)



171 (96图6)



11333 (96图7)



1577 (96图8)



115 (96图9)



113 (96图10)



1574 (96图11)



1572 (96图12)



12120 (96图13)



11435 (96图16)



1578 (96图18)



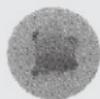
172 (96图14)



1576 (96图17)



1604 (96图15)



11506 (97图1)



1605 (97图2)



1607 (97图3)



1580 (97图4)



S- 約 1/3



1579 (97 图6)



1



1622 (97 图5)



2



177 (97 图7)

3



195 (98 图1)

4



5

1615 (98 图2)

S=約 1/3



11357 (99图1)



125 (99图2)



12112 (99图3)



11329 (99图4)



11355 (99图5)



128 (99图6)



11352 (99图7)



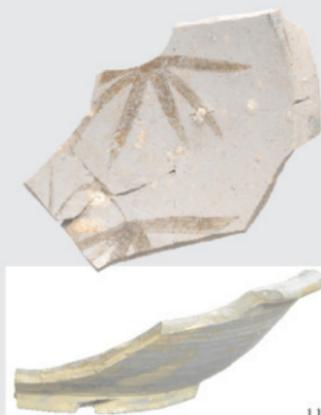
146 (99图8)



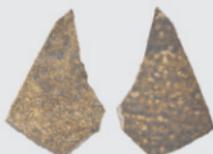
18 (99图9)



1563 (99图10)



19 (99图11)



121 (100图1)



13 (100图2)



14 (100图3)



12487 (100图4)



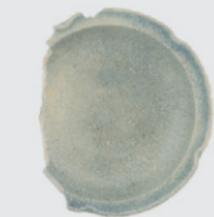
156 (100图5)



1601 (100图6)



S=约 1/3



1

1187 (102 图6)



2

1842 (102 图7)



3

1663 (102 图8)



4

1273 (103 图1)



5

1816 (102 图9)



6

1770 (103 图2)



7

11582 (103 图3)



8

1750 (103 图4)

S- 约 1/3



1  
I239 (103 图5)



2  
I1687 (103 图6)



3  
I1735 (103 图7)



4  
I787 (103 图8)



1795 (104 图1)



5



6  
I788 (104 图2)



7  
I1620 - 1 (104 图3)



9  
I901 (104 图5)



10  
I1653 (104 图6)



11  
I186 (104 图7)



8  
I1620 - 2 (104 图4)



12  
I773 (104 图8)



13  
I1668 (104 图9)



14  
I179 (104 图10)



15  
I928 (104 图11)



16  
I854 (104 图12)



17  
I826 (104 图13)

S=約 1/3



1786 (104 图 14)



11965 (105 图 1)



1290 (105 图 2)



1287 (105 图 3)



11966 (105 图 4)



1949 (105 图 5)



11977 (105 图 6)



1282 (105 图 7)



11962 (105 图 8)



155 (105 图 9)



150 (105 图 10)



153 (106 图 1)



1316 (106 图 2)



11993 (106 图 3)



1313 (106 图 4)

S= 約 1/3



1978 (106图5)



1969 (106图6)



1995 (107图1)



12031 (107图2)

S=約 1/3



I2038 (108 图1)



I322 (109 图1)



I2034 (108 图2)



I998 (109 图2)



I996 (109 图3)



I1011 (109 图4)



I2020 (109 图5)



I1043 (109 图6)



I2083 (109 图7)

S= 约 1/3



J424 (110图1)



J421 (110图4)



J 2 (110图2)



J413 (110图3)



J 4 (110图5)



J12 (110图6)



J16 (110图7)



J754 (110图8)



J417 (110图9)



J412 (110图10)



J1415 (111图1)



J476 (111图2)



J1398 (111图3)



J1397 (111图4)



J442 (111图5)



12



13



14



15

S=約 1/3



J441 (111 图6)



J962 (111 图7)



J463 (111 图8)



J1150 (111 图9)



J1122 (111 图10)



J606 (111 图11)



J440 (111 图12)



J807 (112 图4)



J1427 (112 图1)



J829 (112 图5)



J69 (112 图6)



J508 (112 图7)



J833 (112 图3)



J595 (112 图2)



J560 (112 图8)



J1429 (112 图9)



1

J132 (112 图10)



2

J219 (113 图1)



3

J557 (113 图2)



4

J1430 (113 图3)



5

J1130 (113 图4)



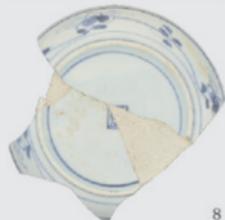
6

J800 (113 图5)



7

J84 (113 图6)



8

J814 (113 图7)

S=約 1/3



J534 (114图1)

1



J1124 (114图4)

2



J632 (114图5)

3



J102 (114图6)

4



J196 (114图7)

5



J940 (114图2)

6



J83 (114图8)

8



J545 (114图3)

7



J575 (115图1)

9



J1155 (115图2)

10



J1070 (115 図4)



J533 (115 図3)



J1428 (115 図5)



J535 (115 図6)



J572 (115 図7)



J554 (115 図8)



J589 (116 図1)



J574 (116 図2)



J1089 (116 図3)



J653 (116 図5)



J236 (116 図4)



J668 (116 図8)



J1239 (116 図7)



J1215 (116 図6)

1 ~ 8, 10 ~ 14 は S=約 1/3  
9 は S=約 1/1



J1214 (116 图9)



J1259 (117 图1)



J1468 (117 图2)



J344 (117 图3)



J1209 (116 图10)



J1376 (117 图7)



J357 (117 图8)



J1379 (117 图9)



J734 (117 图10)



J1374 (117 图6)



H1305 (118 图1)



13

S- 约 1/3



S=約 1/3

写真図版 67 土師質土器 (1)



S=約 1/3

写真図版 68 土師質土器 (2)・軟質施釉陶器

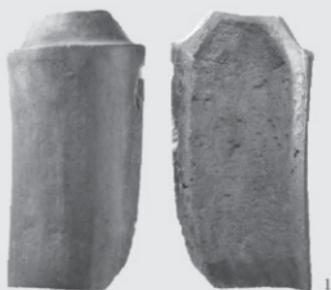


S=約 1/5



S=約 1/5

写真図版 70 軒丸瓦 (2)・丸瓦 (1)



F27 (125图3)

1



F13 (125图4)

2



F28 (125图5)

3



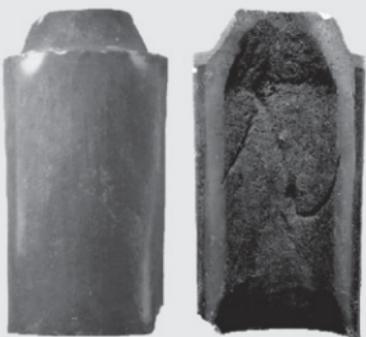
F15 (125图6)

4



F22 (126图1)

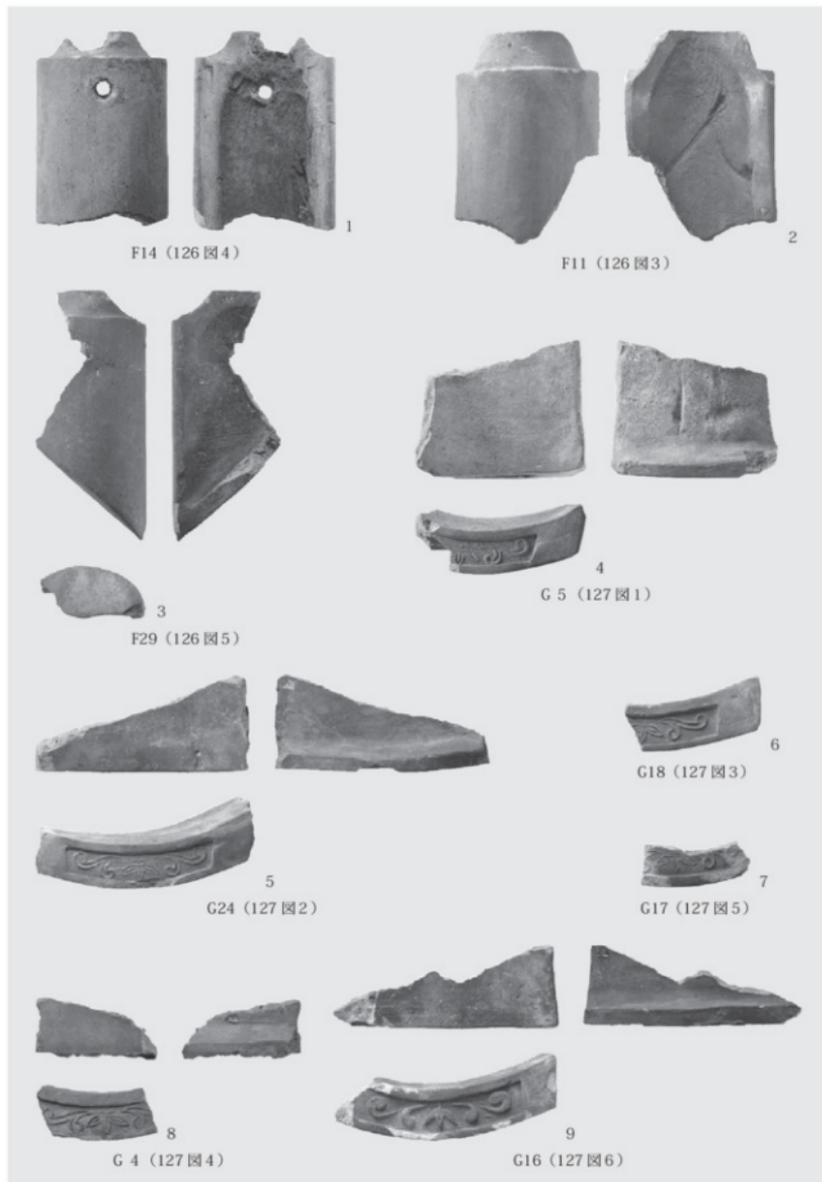
5



F12 (126图2)

6

S=約 1/5



S=約 1/5

写真図版 72 丸瓦 (3)・軒平瓦 (1)



G15 (127图7)

1



G20 (127图9)

2



G 2 (127图8)

3



G 1 (127图10)

4



G 3 (127图11)

5



G19 (127图12)

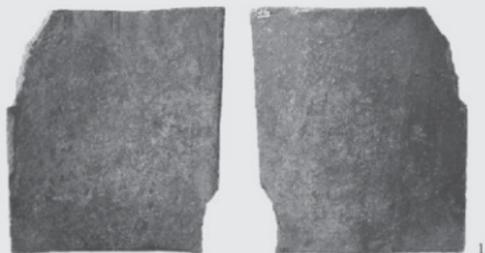
6



G21 (128图1)

7

S=約1/5



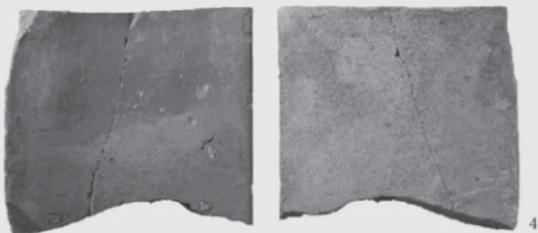
C 6 (128 图 2)



G14 (128 图 3)



G13 (128 图 4)



C 7 (128 图 5)

S= 约 1/5



G10 (128图6)

1



G12 (129图1)

2



G 8 (129图2)

3

S=約 1/5



G11 (129 図3)

1



G 9 (129 図4)

2



G25 (130 図1)

3



4



G23 (130 図2)

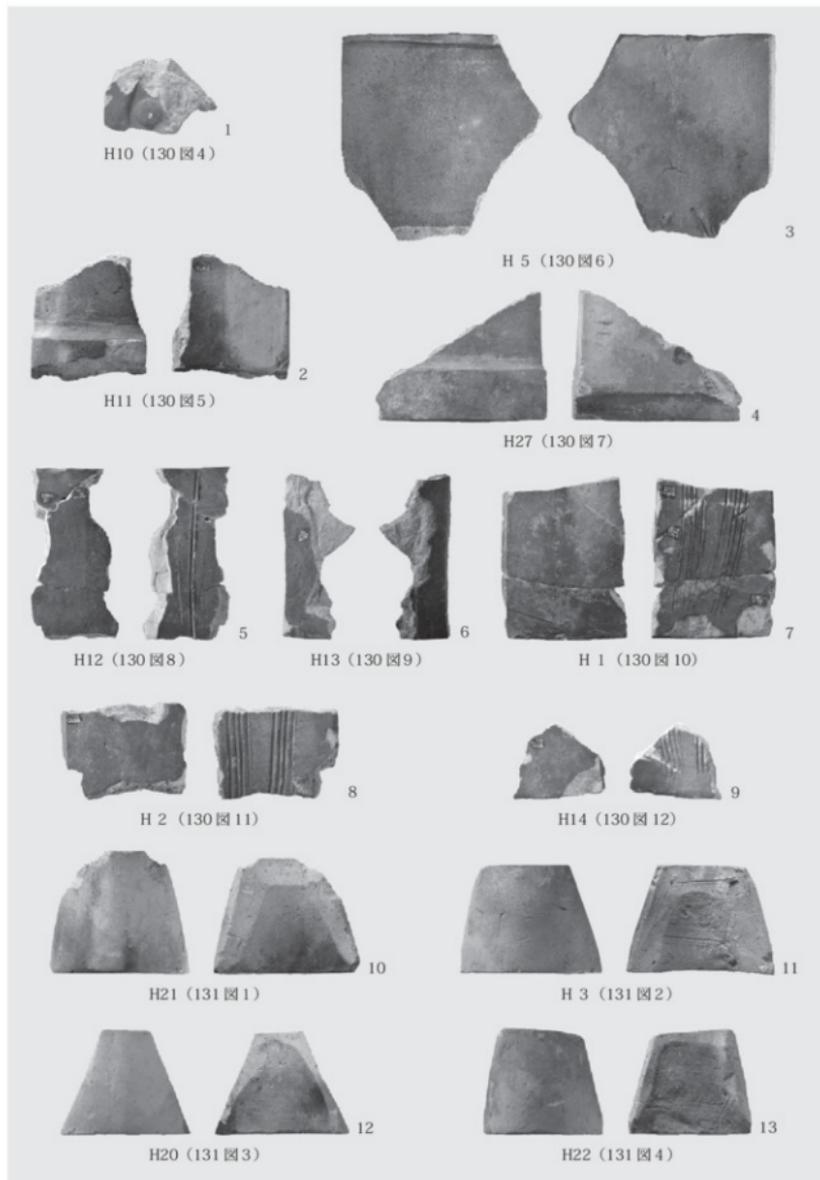


5

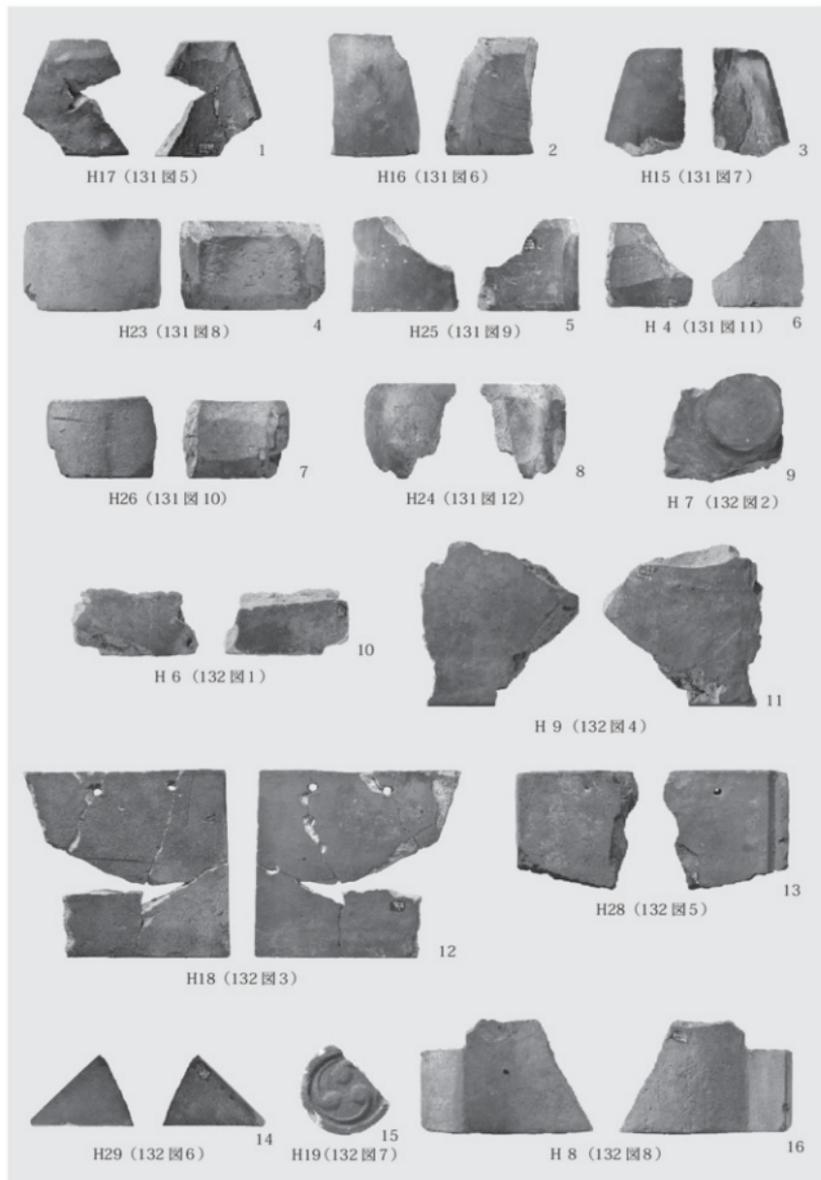


G22 (130 図3)

S= 約 1/5  
刻印は S= 約 1/2

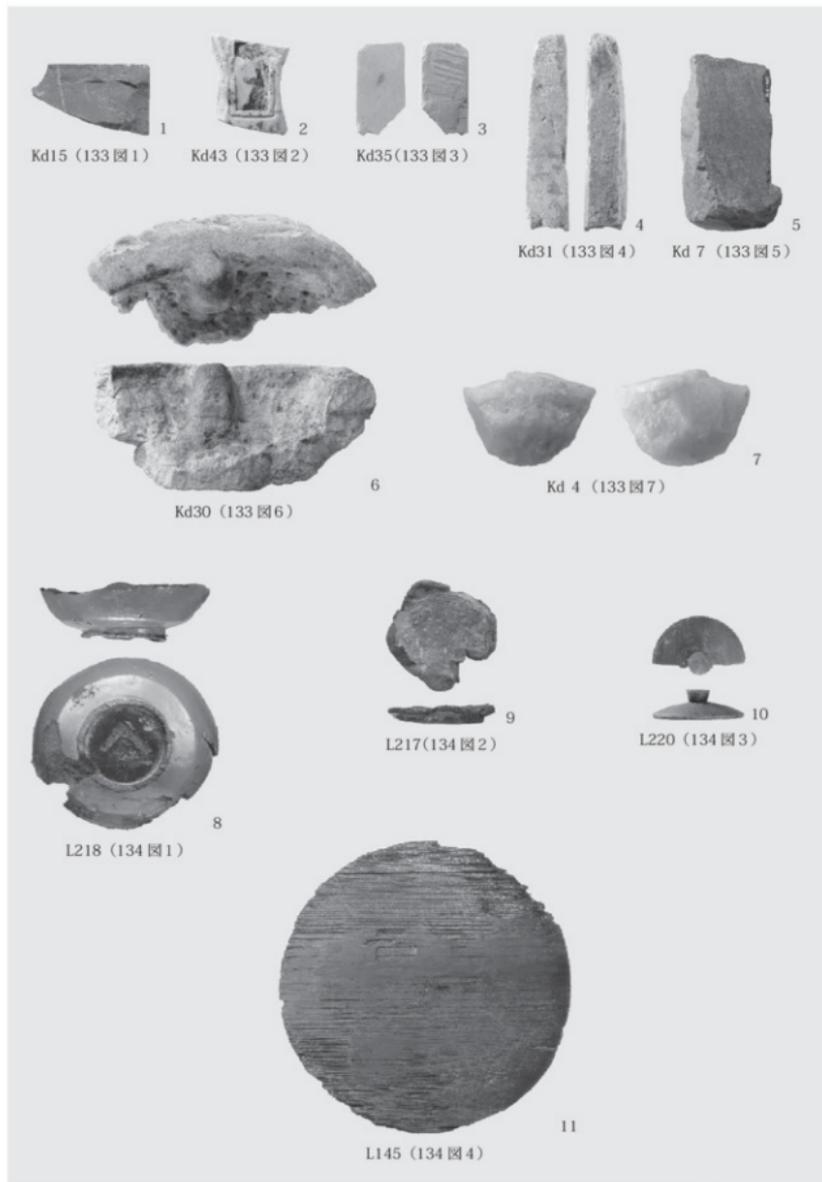


S=約 1/5



S=約 1/5

写真図版 78 輪違い(2)・面戸瓦・鬼瓦・棟瓦・堀瓦・その他



1～10はS=約1/3  
11はS=約1/5



L009 (134 図5)



L198 (134 図6)



L251 (135 図1)



L266 (135 図2)



L181 (135 図4)



L247 (135 図3)



L282 (135 図5)

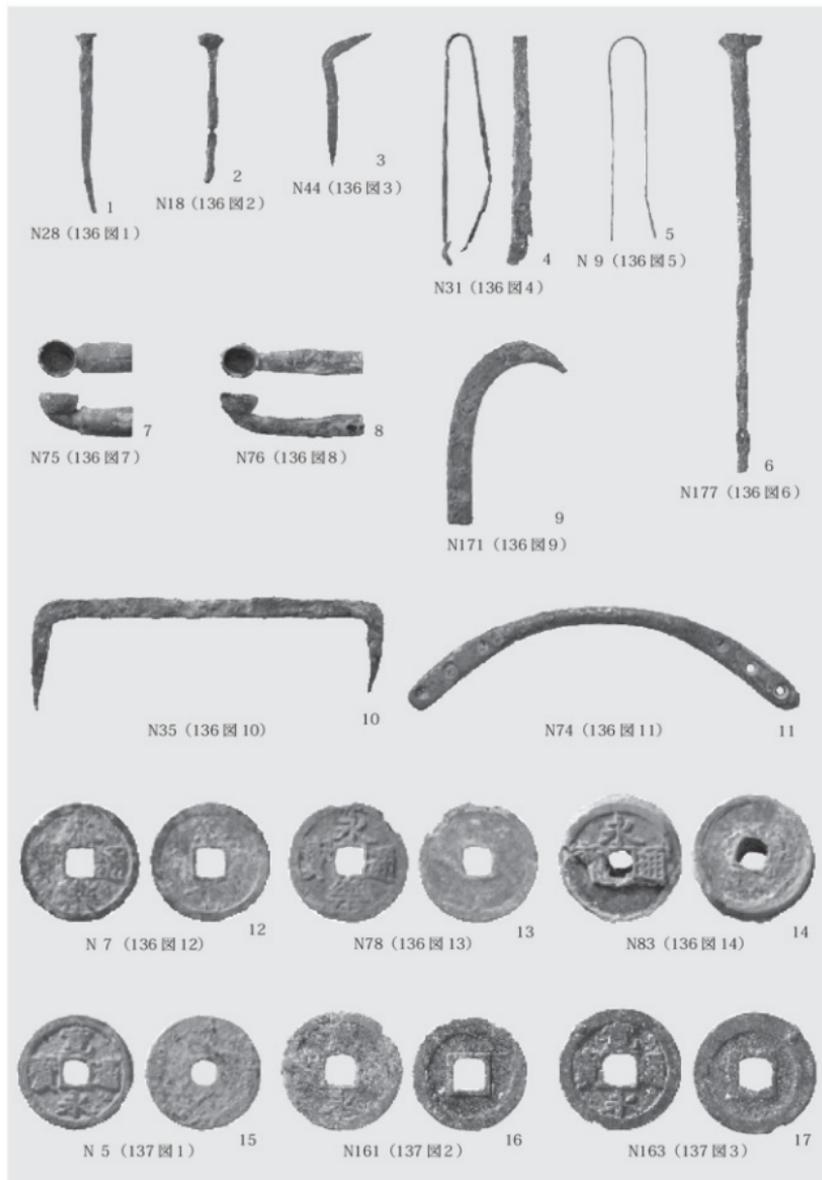


L209 (135 図6)



8

1, 2, 6, 7はS=約1/5  
 3~5はS=約1/3  
 8はS=約1/10



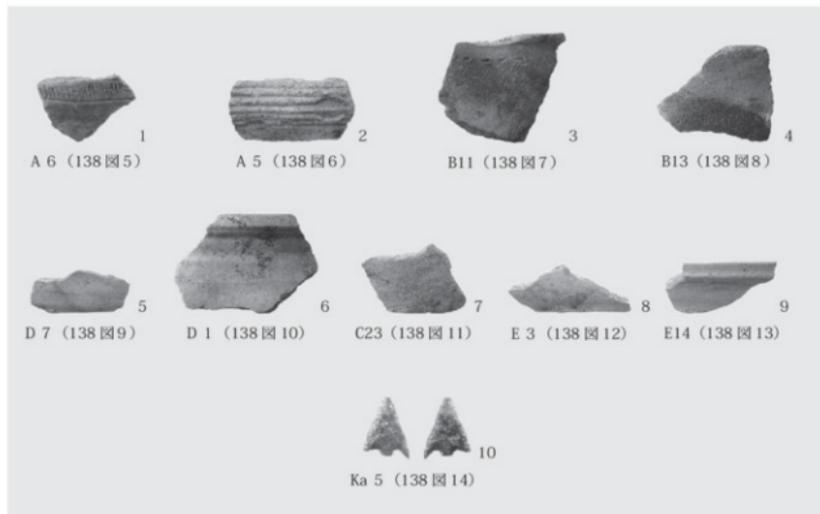
写真図版 81 金属製品 (1)

1～9はS=約1/2  
 10, 11はS=約1/3  
 12～17はS=約1/1



1～5、14はS-約1/1  
6～13はS-約1/2  
15はS-約1/3

写真図版 82 金属製品 (2)・土製品



1～9はS=約1/3  
10はS=約2/3

写真図版 83 その他の遺物



# 報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと(かしょう)こうえんせんたーけんせつにかかわるおいまわしちくだい4じーだい6じはっくつちょうさほうこくしょ								
書名	仙台北城跡								
副書名	(仮称)公園センター建設に係る追廻地区第4次～第6次発掘調査報告書								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第444集								
編集者名	佐藤淳 森元彦 奥富雅之 大口和樹								
編集機関	仙台市教育委員会								
所在地	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目5番12号 TEL 022(214)8899								
発行年月	2016年 3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
		市区町村	遺跡番号						
せんだいじょうあと 仙台北城跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおぼくがわうち 青葉区川内 おいまわしちない 追廻地内	04100	宮城県 01033	38°15'25"	140°51'30"	第4次	2012.06.18 / 2013.01.08	1080	(仮称)公園 センター建設
						第5次	2013.06.24 / 2013.12.10		
						第6次	2014.06.25 / 2014.11.19		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
仙台北城跡	城館跡 屋敷跡	近世	石敷遺構 礎石建物跡 掘立柱建物跡 堀跡 井戸跡 溝跡 鍛冶跡 土坑 整地層	瓦 陶磁器 土師質土器 石製品 木製品 土製品	屋敷火災後に瓦 礫等を廃棄処理 するために掘った 大型の土坑を多 数確認した。				
ようやく 要約	<p>仙台北城の一部とされた追廻地区は、仙台北城跡の東方にあり、近世を通して武家屋敷や馬車関連の施設があった地域である。今回の調査地点は地区北端に位置し、伊達家の重臣で、白石城主であった片倉家の仙台北城敷地にあたる。片倉屋敷は弘化3年の火災により焼失し、3年後の嘉永2年に再建されたことが記録にある。</p> <p>調査ではこの火災の後に、廃材などを埋めたとみられる大型の廃棄土坑を多数確認し、またその後に再建された屋敷に伴う石敷きや長屋の一部とみられる施設を確認した。さらに調査区の全域で礎石建物跡や掘立柱建物跡、堀跡、井戸跡、石組遺構、溝跡の他、時期の異なる複数の整地土を確認したが、これらの遺構は火災前の片倉屋敷の施設の他、近世初期にこの地にあった片倉家以外の屋敷に伴う遺構の可能性もある。</p> <p>出土遺物では、土坑群や井戸跡を中心に、陶磁器、瓦、土師質土器等が多数出土した。</p>								

---

仙台市文化財報告書第444集

## 仙 台 城 跡

(仮称)公園センター建設に係る追廻地区第4次～第6次発掘調査報告書

2016年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会  
宮城県仙台市青葉区上杉一丁目5番12号  
文化財課 ☎ 022(21)08899

印刷 株 式 会 社 東 北 プ リ ン ト  
仙台市青葉区立町24-24

☎ 022 (263) 1166

---